

地域のちからの向上に向けた
区民の意識調査及び関係団体等に関する調査
報告書

平成 24 年 6 月



足立区

目 次

序．調査の概要	1
1．区民への調査の概要	2
2．関係団体等への調査の概要	4
I．区民へのアンケート調査	7
1．アンケート調査の要件	7
2．アンケート調査の結果	8
．グループ・インタビュー	43
1．グループ・インタビューの要件	43
2．グループ・インタビューの結果	44
．関係団体等へのアンケート調査	78
－ 1．町会・自治会アンケート調査	78
1．アンケート調査の要件	78
2．アンケート調査の結果	79
－ 2．NPO・任意団体等アンケート調査	99
1．アンケート調査の要件	99
2．アンケート調査の結果	100
．関係団体等へのヒアリング調査	118
1．ヒアリングの要件	118
2．ヒアリング調査の結果	119
．調査結果の分析・報告	139
1．区民への調査結果の分析・報告	139
2．関係団体等への調査結果の分析・報告	150
．地域のちからの向上に向けた施策の方向性の提案	155
1．提案の仕方	155
2．施策方向性の提案	156
3．まとめ	158

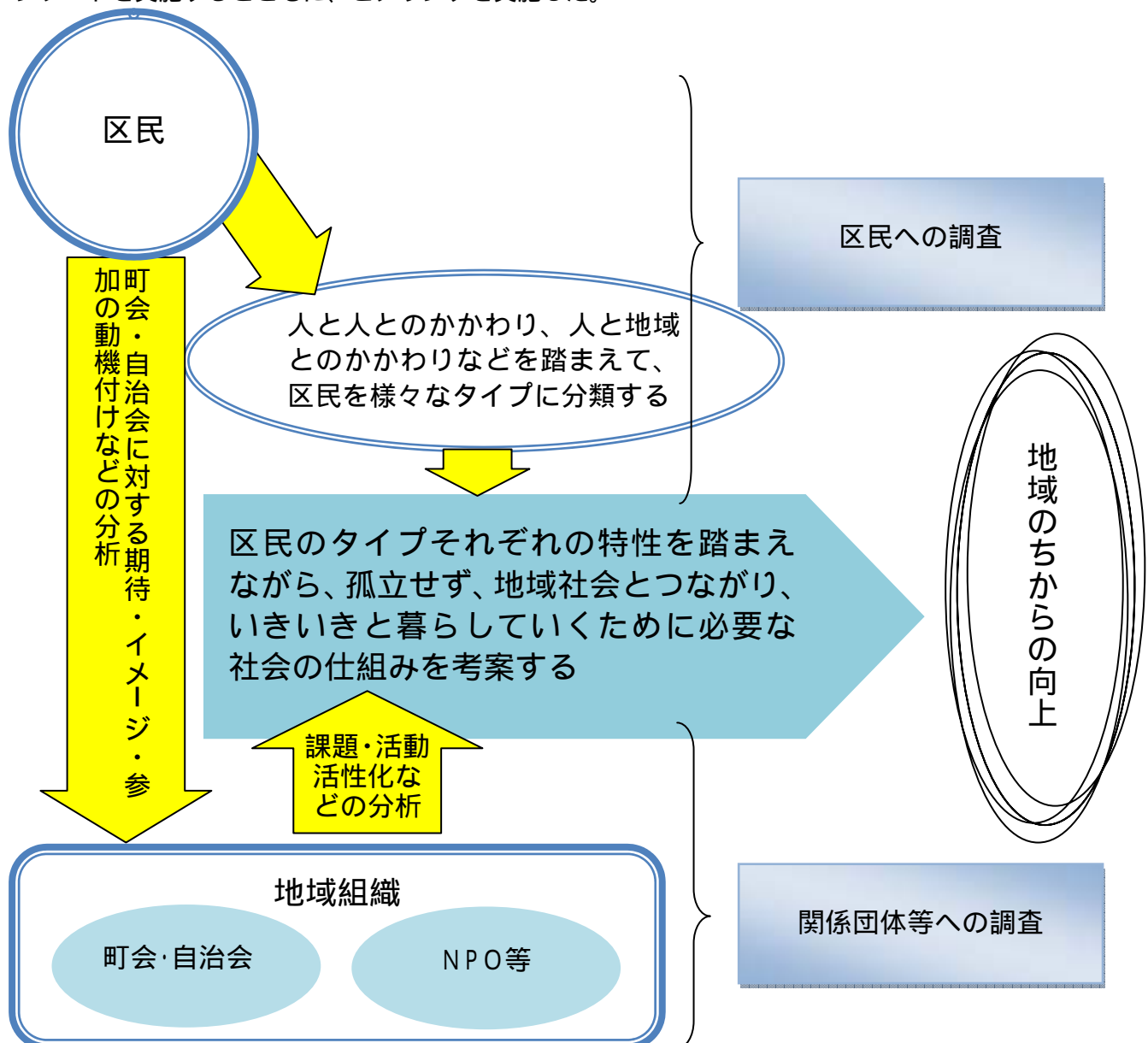
序．調査の概要

東日本大震災ののち、改めて「自助」「共助」「公助」の視点が重視されるようになったが、「自助」「公助」には限りがあることを前提として考えるならば、今後、緊急時・災害時に、いかに、地域で協力し合いながら、自分たちの地域を自分たちで守っていくのか、つまり「共助」が重要になると考えられる。

この「共助」機能を支えるのが「縁・絆」であり、これらを高めていくことが、「地域のちから」を高めていくことに寄与するものと思われる

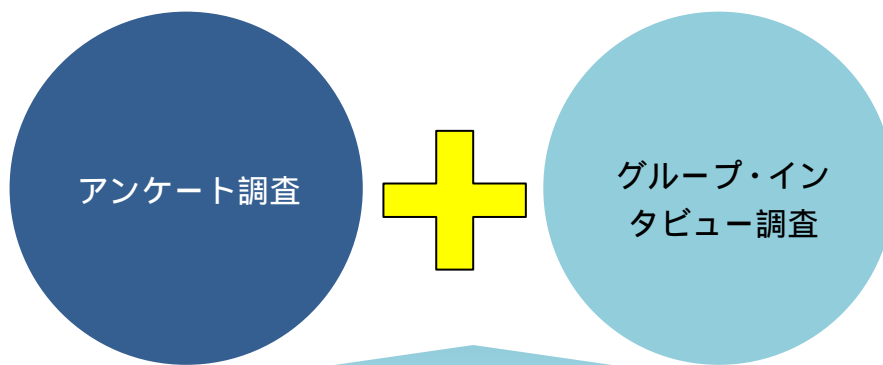
本調査では、地域のちからの向上にあたって、「縁・絆」は、人とのつながり、地域とのつながりによって形成されるものであるとの認識から、地域とのかかわり、人とのかかわりなどに関する分析を通じて、区民を様々なタイプに分け、タイプそれぞれの特性を踏まえながら、孤立せず、地域社会とうまく付き合い、いきいきと暮らしゆくために必要な社会の仕組みを提案する。そのために、区民3,000名を対象にアンケート調査を実施するとともに、より深く区民の意識を把握するために、グループ・インタビューを実施した。

この仕組みを構築していくためには、地域の一翼を担う町会やNPO・任意団体等の現状と課題を明らかにし、地域のちから向上にあたっての今後の進むべき方向の提言を行う。そのために、町会やNPO等の任意団体にアンケートを実施するとともに、ヒアリングを実施した。



1. 区民への調査の概要

区民へは、アンケート調査とグループ・インタビュー調査を実施した。アンケート調査の結果を踏まえ、より深く内容を分析するために、グループ・インタビューを行っている。



調査で把握したいこと

この調査は、どんな縁や絆（人や地域とのつながり）があるのか、また、その縁や絆（人や地域とのつながり）を強めるための課題や取組は一体どのようなものなのかを把握することを目的に、以下の点に着目して実施した。

区民がどのような人とつながりを持っているのか？

家族との縁、地域との縁、目的縁のどれを重視しているのか？

区民が地域とのつながりをどのように捉えているのか？

地域活動への参加状況は？

地域活動へ求めるものは何か？

町会・自治会への加入状況は？（非加入の場合、その理由は？）

孤独死や高齢者の見守りについて、どのような意識を持っているか？

地域とのつながり・かかわりを深めるためには、何が必要か？

人と地域とのつながりの拠点（＝地域との接点）となり得る場所とはどこか？

住区センターなのか、地域学習センターなのか、スポーツ施設なのか？

普段よく行く場所なのか？

地域活動へ参加するための条件とは？（地域活動へ求めるものは何か？）

人づきあい、地域とのつながりを踏まえた区民のタイプとは？

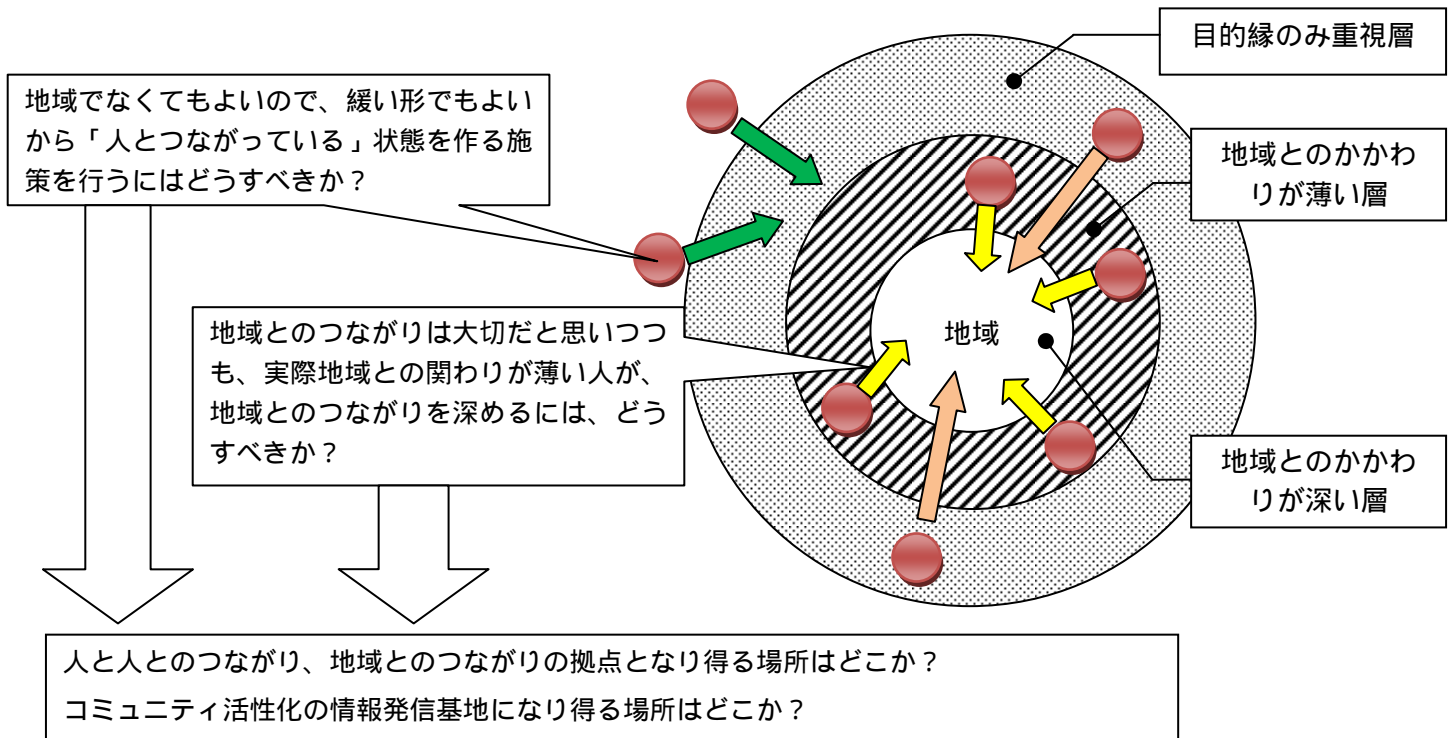
人づきあいや地域とのつながりを踏まえると、どのようなタイプの区民がいるのか？

様々なタイプの区民ごとに、効果的な「地域のちからを高めるための施策」はどうあるべきか？

地域とのかかわりが薄い人が、地域とのかかわりを持つためには、どうすべきか？

たとえば、仕事・子育て中心で、地域との関わりが薄い、20～30代のファミリー層をどのように地域とのかかわりを持たせるのか？

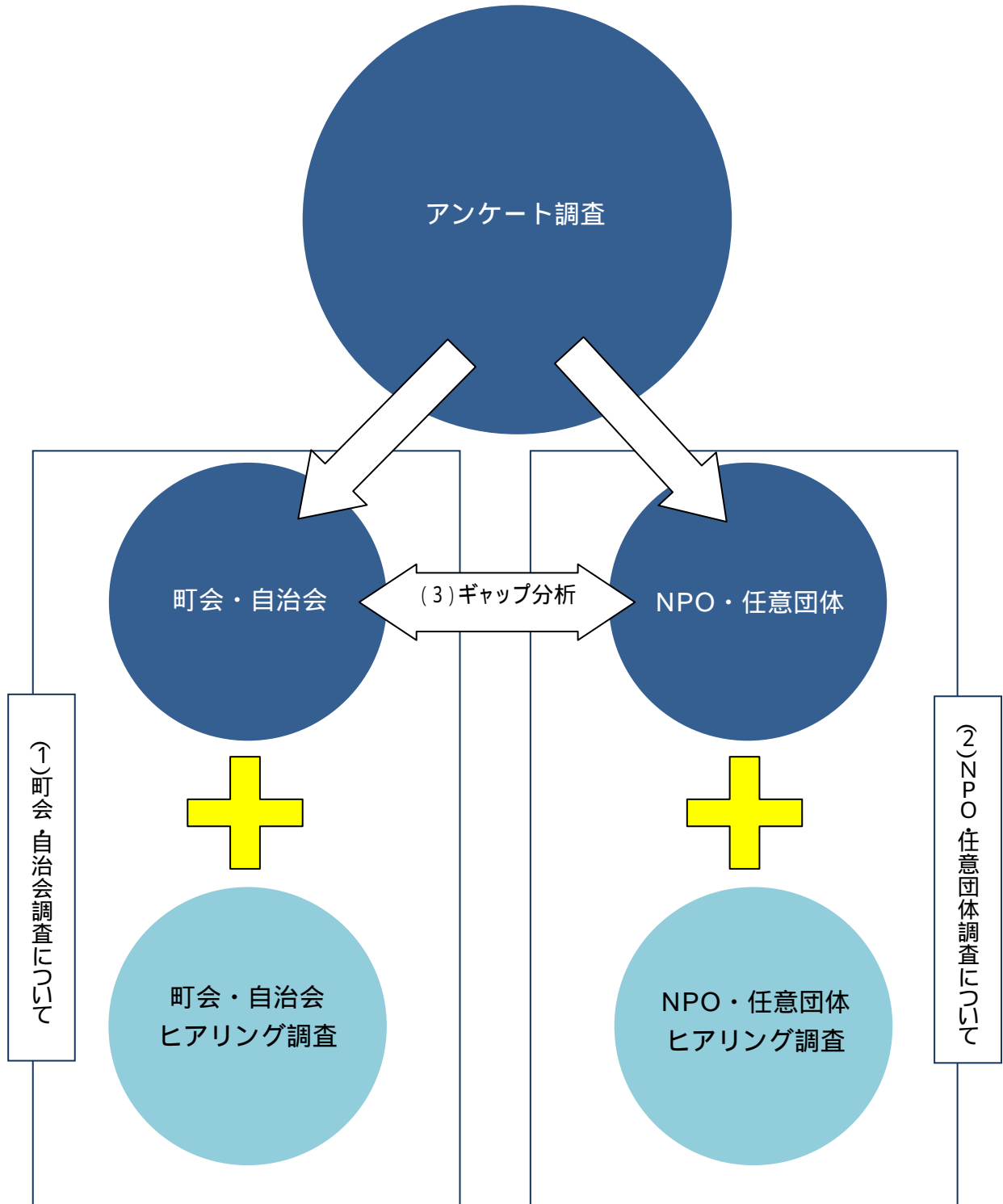
様々なタイプの区民と地域との関わりに関するイメージ図



2. 関係団体等への調査の概要

関係団体等へは、アンケート調査とヒアリング調査を実施した。アンケート調査の結果を踏まえ、より深く内容を分析するために、ヒアリングを行っている。

また、町会・自治会調査とNPO・任意団体調査からわかってきたことを比較することで、町会・自治会とNPO・任意団体とのギャップの有無も把握している。



(1) 町会・自治会調査について

調査で把握したいこと

この調査は、縁や絆を取り持つ組織の代表である町会・自治会の抱えている課題は何か、また、どんな支援が求められているのかなどの把握を通じて、町会・自治会の維持・強化の方向性、及び地域のちからの向上の方向性を探ることを目的に、以下の点に着目して実施した。

地域の縁や絆を取り持つ町会・自治会で抱えている課題は何か？

町会・自治会でどのような課題を抱えているのか？

町会・自治会の大きさや構成される世帯の特徴に応じて、抱えている課題に違いがあるのか？

町会・自治会がどんな活動に力を入れ、どんな活動に負担を感じているのか？

町会・自治会でどのような活動に力を入れようとしているのか？

町会・自治会でどんな活動に負担を感じているのか？

町会・自治会が求める支援策は何か？

特に、防災関連や独居高齢者の見守りなどの活動を進めるにあたり、どんな支援策が求められているのか？

あんしんネットワークについての認知・参加状況、非参加理由、参加条件はどのようなものか？

どれほどの町会・自治会があんしんネットワークを認知し、参加しているのか？

あんしんネットワークに参加しない町会・自治会は、なぜ参加しないのか？

どんな条件があれば、参加するのか？

地域の団体が他の団体に協力してほしいと思う活動・協力してほしい団体は何か？

地域のちからを強めるために、町会・自治会だけでは難しい、他の団体に協力してほしい活動は何か？

どのような団体に協力してほしいか？

(2) NPO・任意団体等アンケートについて

調査で把握したいこと

この調査は、NPO や任意団体等、各テーマについて専門的な知識をもった組織・団体が、地域の団体と協力し合い、地域の課題に取り組むことで、地域の縁や絆を取り持ち、地域のちからを向上させることができるのではないかという視点から、以下の点に着目して実施した。

これまでに、町会・自治会などと協力して何らかの活動を行ってきたのか？

町会・自治会などと協力して何らかの活動を行ってきたのか？

どんな活動を行ってきたのか？

実施した効果はどうだったのか？

そもそも NPO や任意団体等に地域の団体との協力意向があるのか？

町会・自治会が抱える課題の解決・改善への協力意向があるか？

どんな活動であれば、協力できるのか？

協力できないのは、どんな理由か？

今後、地域の団体との協力を進めていくためには、どんなことが必要か？

町会・自治会と協力していくために必要なことは何か？

(3) ギャップ分析

・ NPO・任意団体が地域団体の課題等の解決・改善に協力できる活動分野と町会・自治会が、他の団体等の協力を得たいと考えている活動分野との比較をする。

区民へのアンケート調査

1. アンケート調査の要件

調査対象

- ・足立区民 3,100 人（平成 23 年 11 月 1 日現在、足立区内在住の 20 歳以上の男女）

調査地域

- ・足立区全域

調査期間

- ・2012 年 1 月 26 日～2012 年 2 月 14 日

標本数

- ・送付数 3,100 票、有効回答数 1,696 票（回収率 56.5%：3,000 票として算定・歩留を考慮）
（1,704 票回収のうちの有効回答数）

調査票（調査票は別紙参照）

- ・設問数 49 問（設問内個別設問数総計 88 問、内フェイスシート 9 問）

抽出方法

- ・単純無作為抽出法（住民基本台帳・外国人登録原票）

調査方法

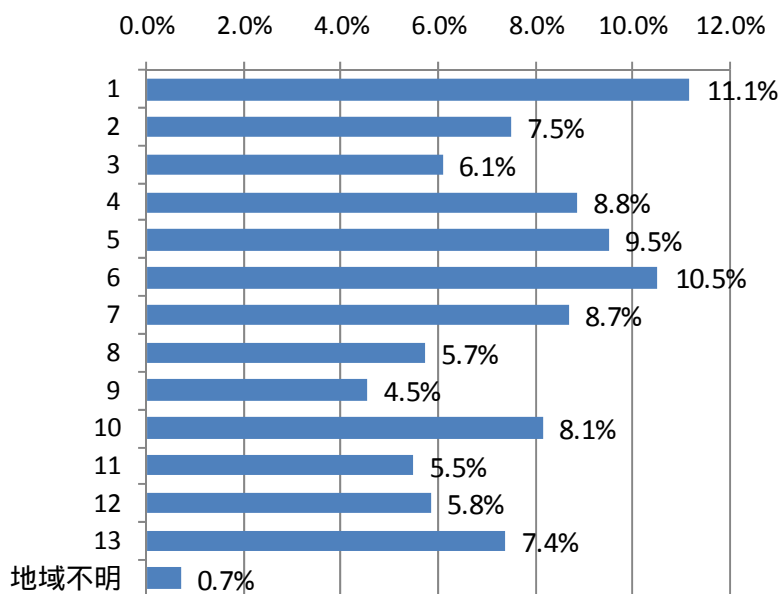
- ・郵送による配付、郵送による回収
- ・発送 2 週間後に督促状の配付

2. アンケート調査の結果

< 単純集計結果 >

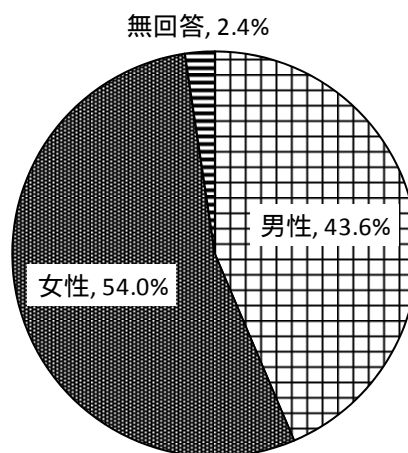
ブロックごとの有効回答状況

ブロック	件数	割合
1	189	11.1%
2	127	7.5%
3	103	6.1%
4	150	8.8%
5	161	9.5%
6	178	10.5%
7	147	8.7%
8	97	5.7%
9	77	4.5%
10	138	8.1%
11	93	5.5%
12	99	5.8%
13	125	7.4%
地域不明	12	0.7%
合計	1696	100.0%



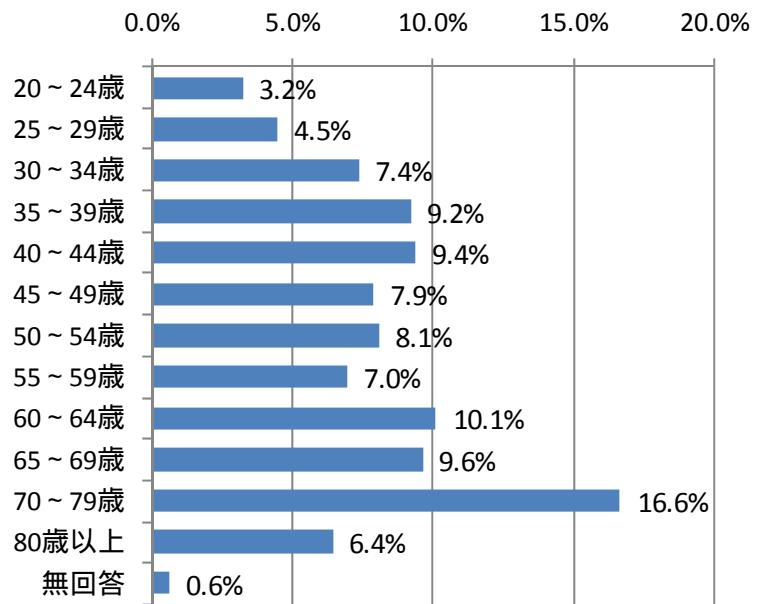
F 1 あなたの性別は次のうちどちらですか。(は1つだけ)(n=1696)

	件数	割合	
1	男性	740	43.6%
2	女性	916	54.0%
	無回答	40	2.4%
	合計	1696	100.0%



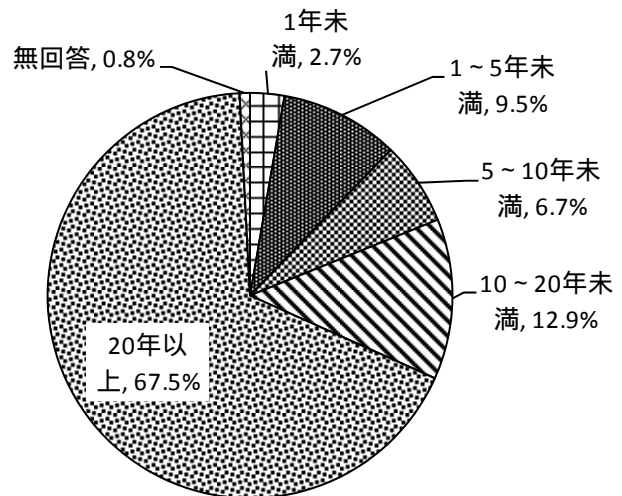
F 2 あなたは何歳ですか。(は1つだけ)(n=1696)

		件数	割合
1	20～24歳	55	3.2%
2	25～29歳	76	4.5%
3	30～34歳	125	7.4%
4	35～39歳	156	9.2%
5	40～44歳	159	9.4%
6	45～49歳	134	7.9%
7	50～54歳	137	8.1%
8	55～59歳	118	7.0%
9	60～64歳	171	10.1%
10	65～69歳	163	9.6%
11	70～79歳	282	16.6%
12	80歳以上	109	6.4%
	無回答	11	0.6%
	合計	1696	100.0%



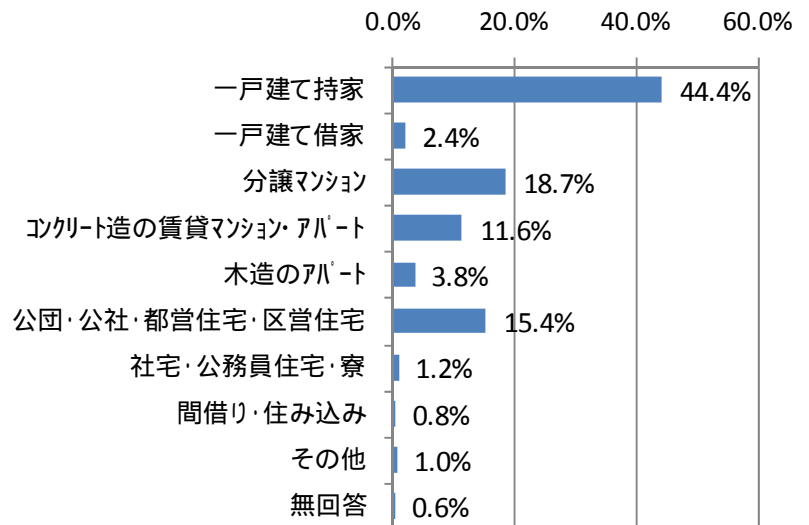
F 3 あなたは足立区に住んで何年になりますか。(は1つだけ)(n=1696)

		件数	割合
1	1年未満	46	2.7%
2	1～5年未満	161	9.5%
3	5～10年未満	113	6.7%
4	10～20年未満	218	12.9%
5	20年以上	1144	67.5%
	無回答	14	0.8%
	合計	1696	100.0%



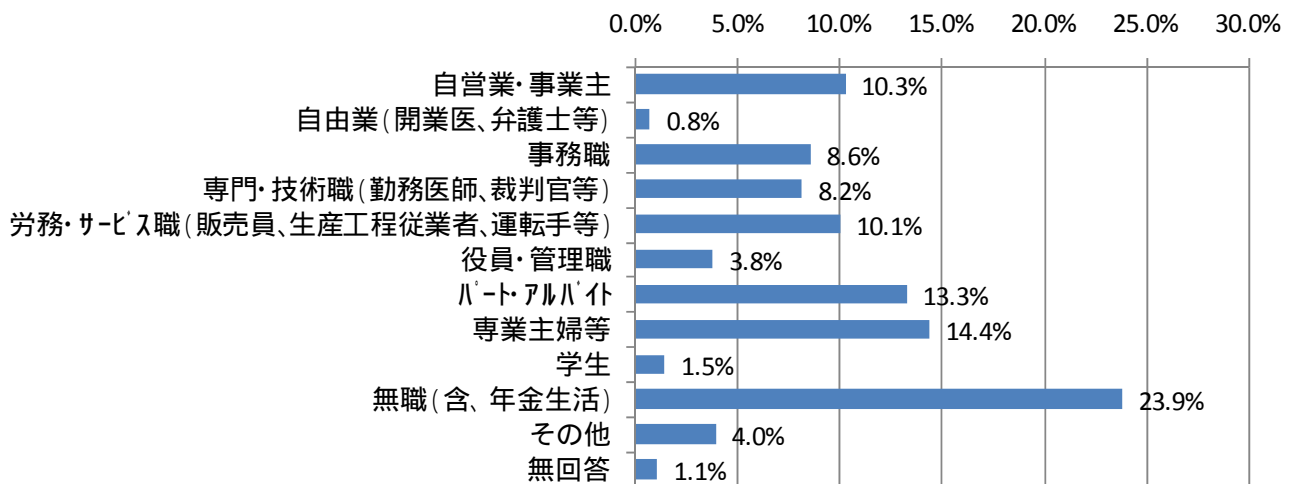
F 4 あなたのお住まい（住居）は次のどれにあたりますか。（ は1つだけ）(n=1696)

		件数	割合
1	一戸建て持家	753	44.4%
2	一戸建て借家	40	2.4%
3	分譲マンション	317	18.7%
4	コンクリート造の賃貸マンション・アパート	197	11.6%
5	木造のアパート	65	3.8%
6	公団・公社・都営住宅・区営住宅	262	15.4%
7	社宅・公務員住宅・寮	21	1.2%
8	間借り・住み込み	13	0.8%
9	その他	17	1.0%
	無回答	11	0.6%
	合計	1696	100.0%



F 5 あなたの職業は次のどれにあたりますか。（ は1つだけ）(n=1696)

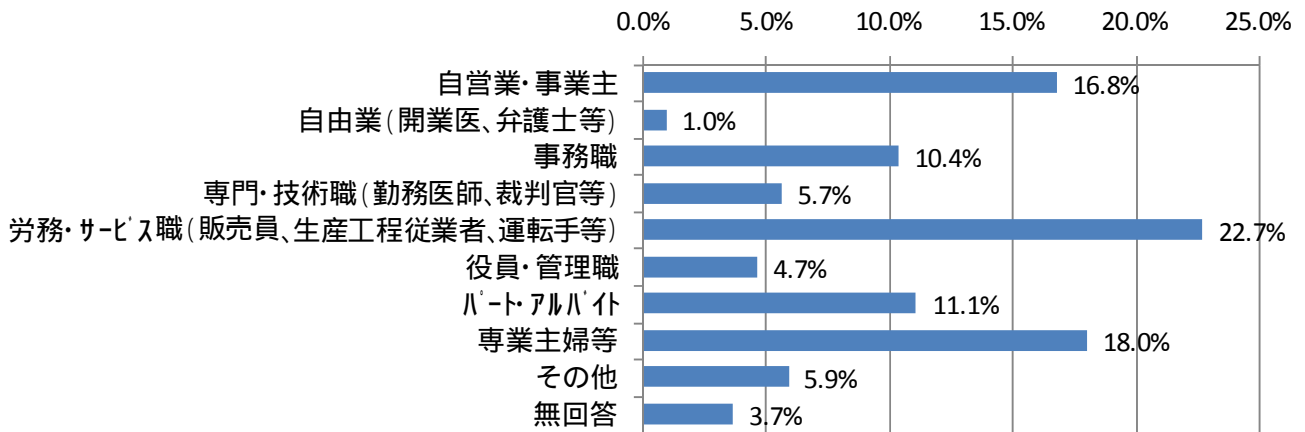
		件数	割合
1	自営業・事業主	175	10.3%
2	自由業（開業医、弁護士等）	13	0.8%
3	事務職	146	8.6%
4	専門・技術職（勤務医師、裁判官等）	139	8.2%
5	労務・サービス職（販売員、生産工程従業者、運転手等）	171	10.1%
6	役員・管理職	65	3.8%
7	パート・アルバイト	226	13.3%
8	専業主婦等	245	14.4%
9	学生	25	1.5%
10	無職（含、年金生活）	405	23.9%
11	その他	67	4.0%
	無回答	19	1.1%
	合計	1696	100.0%



(F 5 で「10 無 職 (年金生活を含む)」とお答えの方に)

F 5 1 今までに一番長く従事された職業はどれにあたりますか。(n=405)

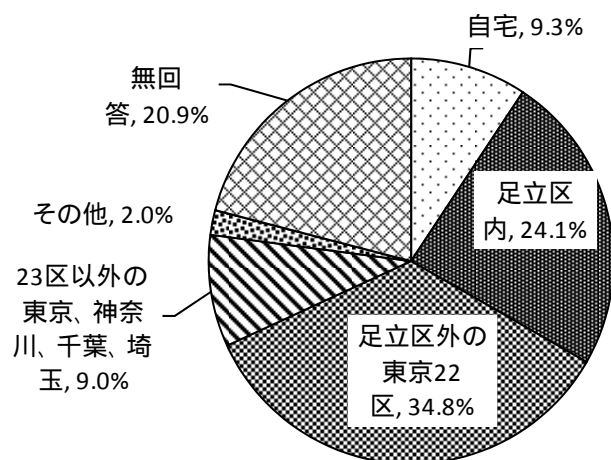
	件数	割合
1 自営業・事業主	68	16.8%
2 自由業 (開業医、弁護士等)	4	1.0%
3 事務職	42	10.4%
4 専門・技術職 (勤務医師、裁判官等)	23	5.7%
5 労務・サービス職 (販売員、生産工程従業者、運転手等)	92	22.7%
6 役員・管理職	19	4.7%
7 パート・アルバイト	45	11.1%
8 専業主婦等	73	18.0%
9 その他	24	5.9%
無回答	15	3.7%
合計	405	100.0%



(F 5 「1 自営業」から「9 学生」につけた方に)(専業主婦は除く)

F 6 あなたの就労場所 (就学場所) は次のどれにあたりますか。(は1つだけ)(n=960)

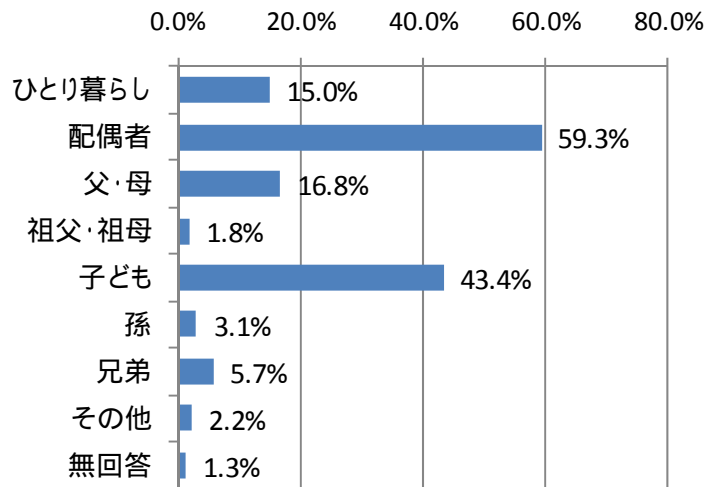
	件数	割合
1 自宅	89	9.3%
2 足立区内	231	24.1%
3 足立区外の東京22区	334	34.8%
4 23区以外の東京、神奈川、千葉、埼玉	86	9.0%
5 その他	19	2.0%
無回答	201	20.9%
合計	960	100.0%



全員の方に

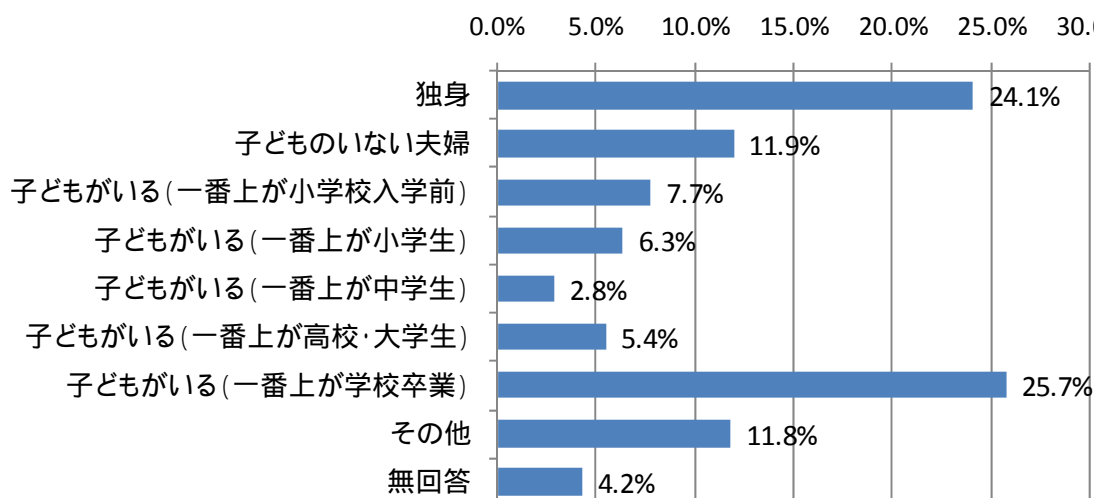
F 7 現在、あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか。(はあてはまるものすべて)(n=1696)

		件数	割合
1	ひとり暮らし	255	15.0%
2	配偶者	1006	59.3%
3	父・母	285	16.8%
4	祖父・祖母	31	1.8%
5	子ども	736	43.4%
6	孫	52	3.1%
7	兄弟	97	5.7%
8	その他	38	2.2%
9	無回答	22	1.3%
	合計	1696	100.0%



F 8 あなたご自身は、この中のどれにあたりますか。「子ども」は同居・別居を問いません (は1つだけ)(n=1696)

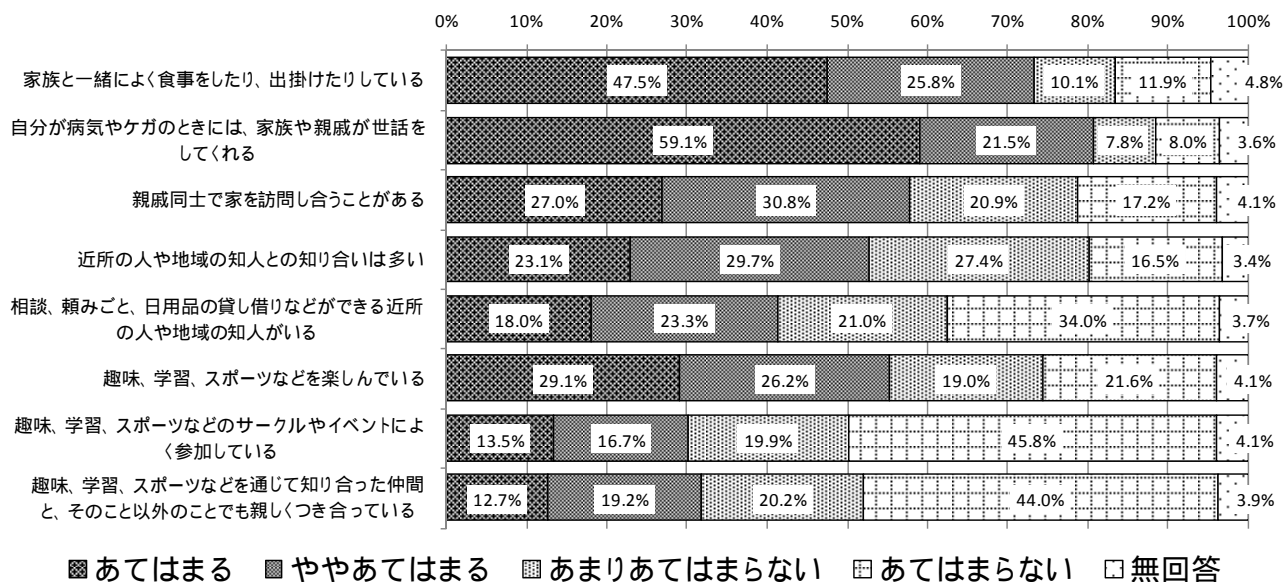
		件数	割合
1	独身	408	24.1%
2	子どものいない夫婦	202	11.9%
3	子どもがいる(一番上が小学校入学前)	131	7.7%
4	子どもがいる(一番上が小学生)	107	6.3%
5	子どもがいる(一番上が中学生)	48	2.8%
6	子どもがいる(一番上が高校・大学生)	92	5.4%
7	子どもがいる(一番上が学校卒業)	436	25.7%
8	その他	200	11.8%
	無回答	72	4.2%
	合計	1696	100.0%



問1 ご家族や親戚の方、近所の方や趣味などの知人とのつき合いなどについて、おうかがいします。

(は各項目とも1つだけ)(n=1696)

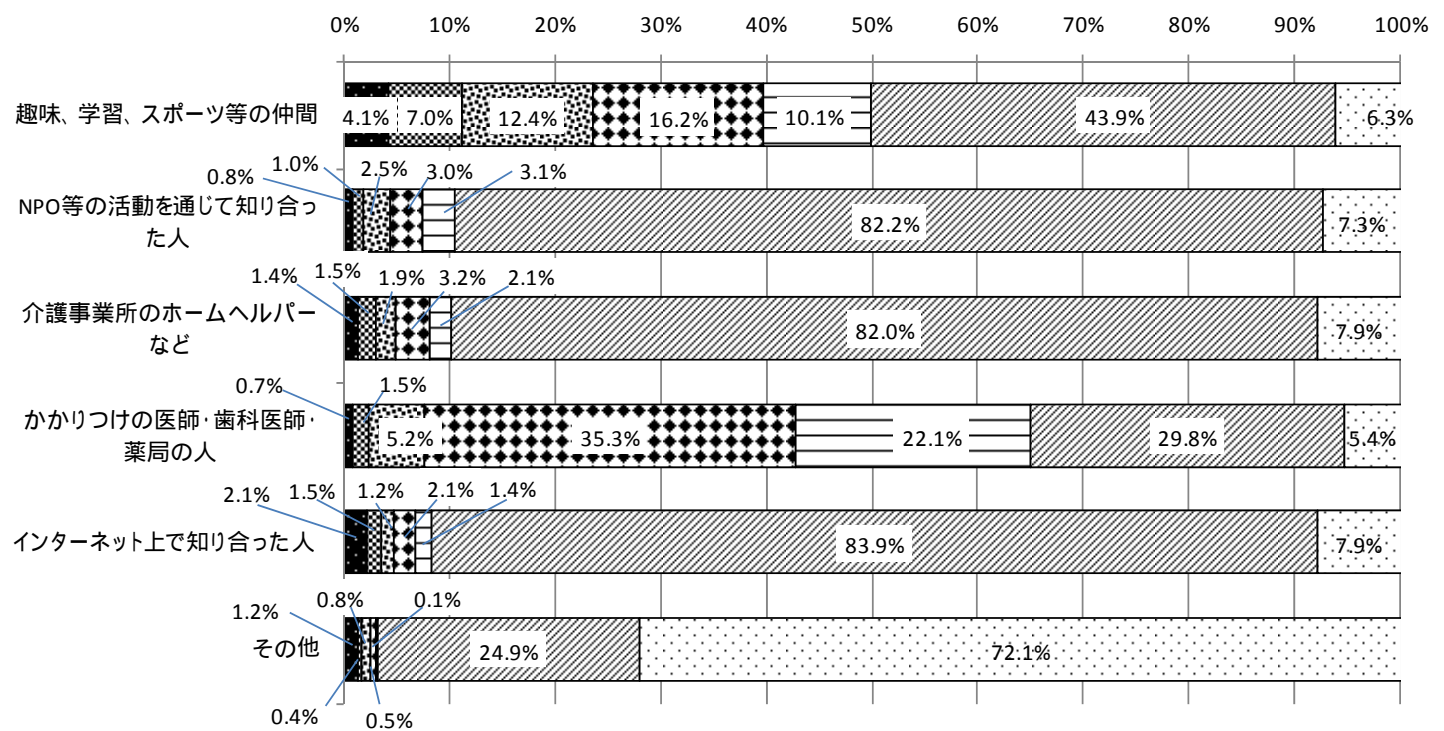
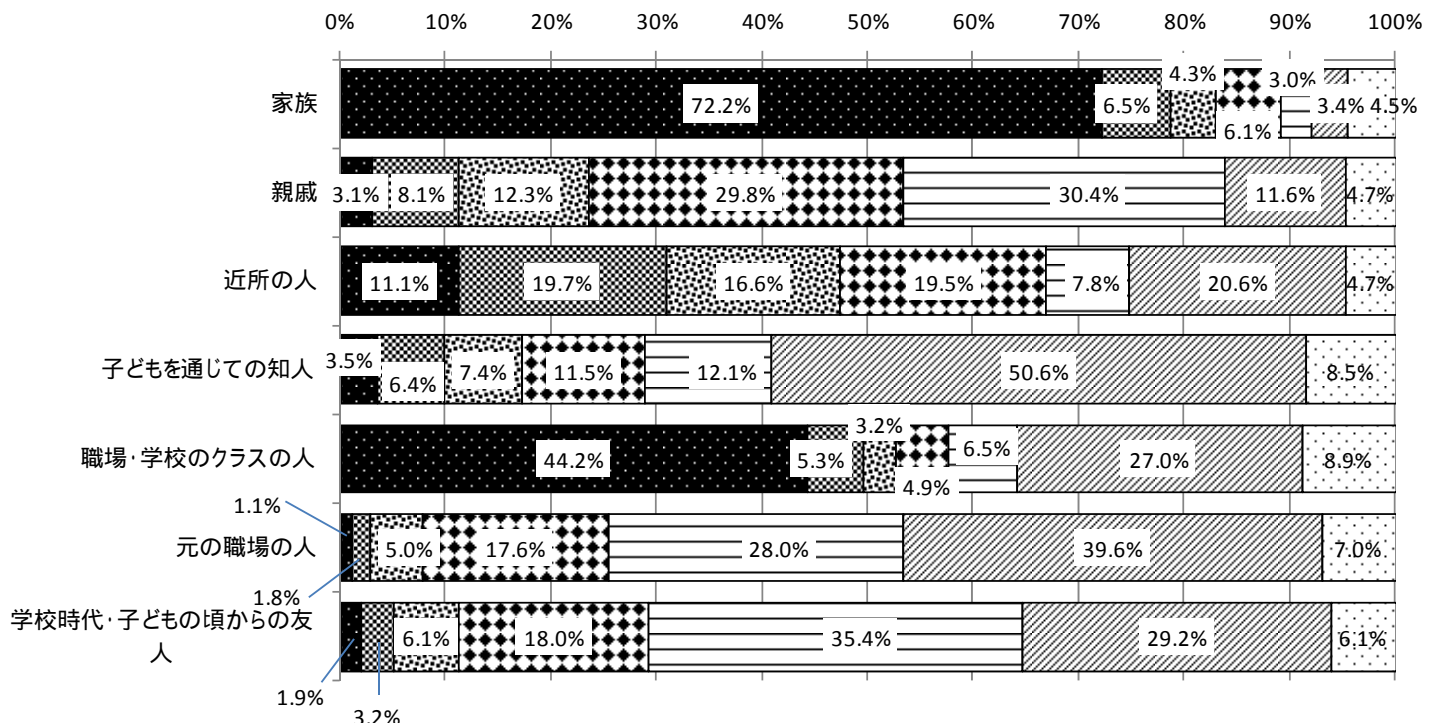
件数		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答	合計
1	家族と一緒によく食事をしたり、出掛けたりしている	806	437	171	201	81	1696
2	自分が病気やケガのときには、家族や親戚が世話をしてくれる	1002	365	132	136	61	1696
3	親戚同士で家を訪問し合うことがある	458	523	354	292	69	1696
4	近所の人や地域の知人との知り合いは多い	391	503	465	280	57	1696
5	相談、頼みごと、日用品の貸し借りなどができる近所の人や地域の知人がいる	306	395	357	576	62	1696
6	趣味、学習、スポーツなどを楽しんでいる	494	444	323	366	69	1696
7	趣味、学習、スポーツなどのサークルやイベントによく参加している	229	283	338	777	69	1696
8	趣味、学習、スポーツなどを通じて知り合った仲間と、そのこと以外のことでも親しくつき合っている	215	326	342	747	66	1696
割合		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答	合計
1	家族と一緒によく食事をしたり、出掛けたりしている	47.5%	25.8%	10.1%	11.9%	4.8%	100.0%
2	自分が病気やケガのときには、家族や親戚が世話をしてくれる	59.1%	21.5%	7.8%	8.0%	3.6%	100.0%
3	親戚同士で家を訪問し合うことがある	27.0%	30.8%	20.9%	17.2%	4.1%	100.0%
4	近所の人や地域の知人との知り合いは多い	23.1%	29.7%	27.4%	16.5%	3.4%	100.0%
5	相談、頼みごと、日用品の貸し借りなどができる近所の人や地域の知人がいる	18.0%	23.3%	21.0%	34.0%	3.7%	100.0%
6	趣味、学習、スポーツなどを楽しんでいる	29.1%	26.2%	19.0%	21.6%	4.1%	100.0%
7	趣味、学習、スポーツなどのサークルやイベントによく参加している	13.5%	16.7%	19.9%	45.8%	4.1%	100.0%
8	趣味、学習、スポーツなどを通じて知り合った仲間と、そのこと以外のことでも親しくつき合っている	12.7%	19.2%	20.2%	44.0%	3.9%	100.0%



問2 あなたは、ふだん、どの程度、人と話しをしますか。電話やEメールも含めてお答えください。

(は各項目とも1つだけ)(n=1696)

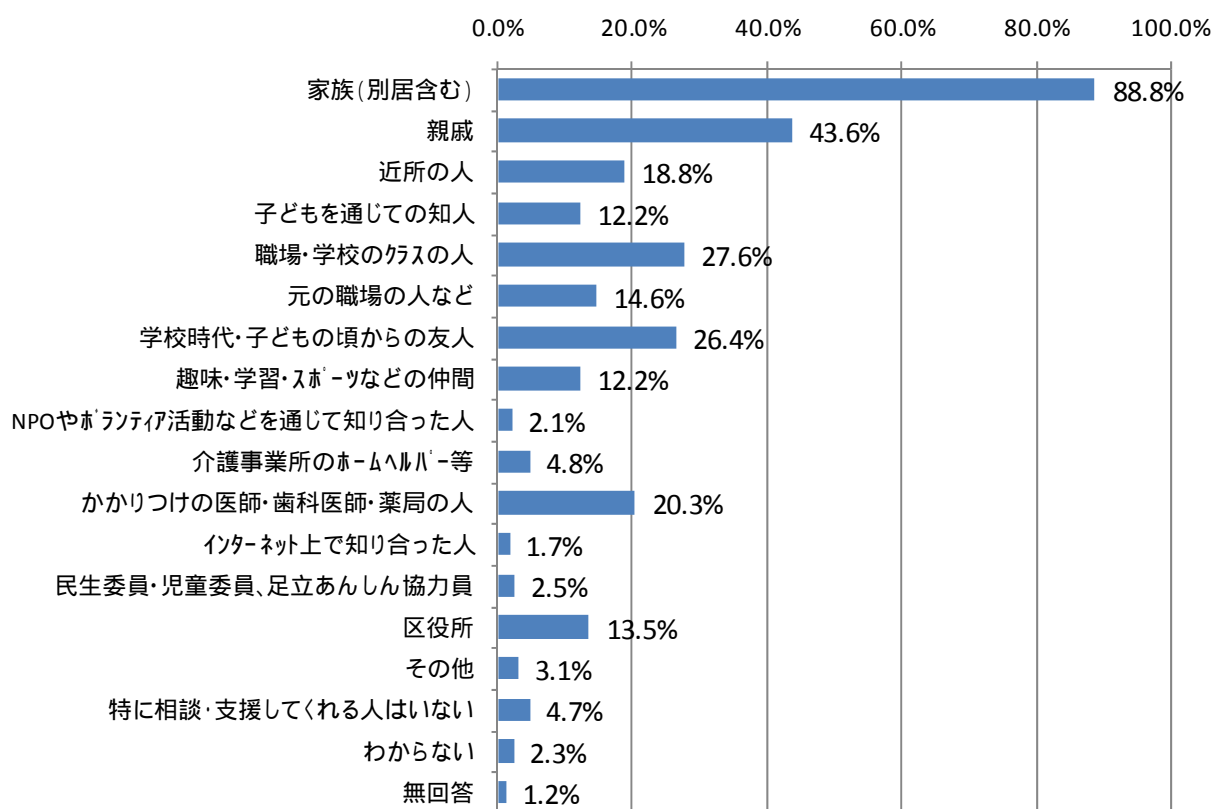
件数		ほぼ毎日	2～3日に1回程度	1週間に1回程度	月に1回～2回程度	年に1回～数回程度	いない・ほとんどない	無回答	合計
1	家族（別居の家族を含む）	1224	111	73	103	51	58	76	1696
2	親戚の人	52	137	209	506	516	196	80	1696
3	近所の人	189	334	281	331	132	350	79	1696
4	子どもを通じての知人	60	108	125	195	205	859	144	1696
5	職場の人・学校のクラスの人	750	90	54	83	110	458	151	1696
6	元の職場の人	18	30	84	298	475	672	119	1696
7	学校時代・子どもの頃からの友人	33	54	104	305	601	495	104	1696
8	趣味、学習、スポーツなどの仲間	70	118	210	275	172	745	106	1696
9	NPOやボランティア活動などを通じて知り合った人	14	17	43	51	53	1394	124	1696
10	介護事業所のホームヘルパーなど	23	26	32	55	36	1390	134	1696
11	かかりつけの医師・歯科医師・薬局の人	12	26	89	598	375	505	91	1696
12	インターネット上で知り合った人	35	25	20	35	24	1423	134	1696
13	その他	21	6	14	9	2	422	1222	1696
割合		ほぼ毎日	2～3日に1回程度	1週間に1回程度	月に1回～2回程度	年に1回～数回程度	いない・ほとんどない	無回答	合計
1	家族（別居の家族を含む）	72.2%	6.5%	4.3%	6.1%	3.0%	3.4%	4.5%	100.0%
2	親戚の人	3.1%	8.1%	12.3%	29.8%	30.4%	11.6%	4.7%	100.0%
3	近所の人	11.1%	19.7%	16.6%	19.5%	7.8%	20.6%	4.7%	100.0%
4	子どもを通じての知人	3.5%	6.4%	7.4%	11.5%	12.1%	50.6%	8.5%	100.0%
5	職場の人・学校のクラスの人	44.2%	5.3%	3.2%	4.9%	6.5%	27.0%	8.9%	100.0%
6	元の職場の人	1.1%	1.8%	5.0%	17.6%	28.0%	39.6%	7.0%	100.0%
7	学校時代・子どもの頃からの友人	1.9%	3.2%	6.1%	18.0%	35.4%	29.2%	6.1%	100.0%
8	趣味、学習、スポーツなどの仲間	4.1%	7.0%	12.4%	16.2%	10.1%	43.9%	6.3%	100.0%
9	NPOやボランティア活動などを通じて知り合った人	0.8%	1.0%	2.5%	3.0%	3.1%	82.2%	7.3%	100.0%
10	介護事業所のホームヘルパーなど	1.4%	1.5%	1.9%	3.2%	2.1%	82.0%	7.9%	100.0%
11	かかりつけの医師・歯科医師・薬局の人	0.7%	1.5%	5.2%	35.3%	22.1%	29.8%	5.4%	100.0%
12	インターネット上で知り合った人	2.1%	1.5%	1.2%	2.1%	1.4%	83.9%	7.9%	100.0%
13	その他	1.2%	0.4%	0.8%	0.5%	0.1%	24.9%	72.1%	100.0%



- ほぼ毎日
- ▣ 月に1回~2回程度
- 無回答
- ▤ 2~3日に1回程度
- ▥ 年に1回~数回程度
- ▦ 1週間に1回程度
- ▧ いない・ほとんどない

問3 あなたが困った時には、誰に相談し、支援を求めますか。(はあてはまるものすべて)(n=1696)

		件数	割合
1	家族(別居含む)	1506	88.8%
2	親戚	740	43.6%
3	近所の人	318	18.8%
4	子どもを通じての知人	207	12.2%
5	職場・学校のクラスの人	468	27.6%
6	元の職場の人など	247	14.6%
7	学校時代・子どもの頃からの友人	447	26.4%
8	趣味・学習・スポーツなどの仲間	207	12.2%
9	NPOやボランティア活動などを通じて知り合った人	35	2.1%
10	介護事業所のホームヘルパー等	81	4.8%
11	かかりつけの医師・歯科医師・薬局の人	345	20.3%
12	インターネット上で知り合った人	29	1.7%
13	民生委員・児童委員、足立あんしん協力員	42	2.5%
14	区役所	229	13.5%
15	その他	52	3.1%
16	特に相談・支援してくれる人はいない	80	4.7%
17	わからない	39	2.3%
	無回答	21	1.2%
	合計	1696	100.0%



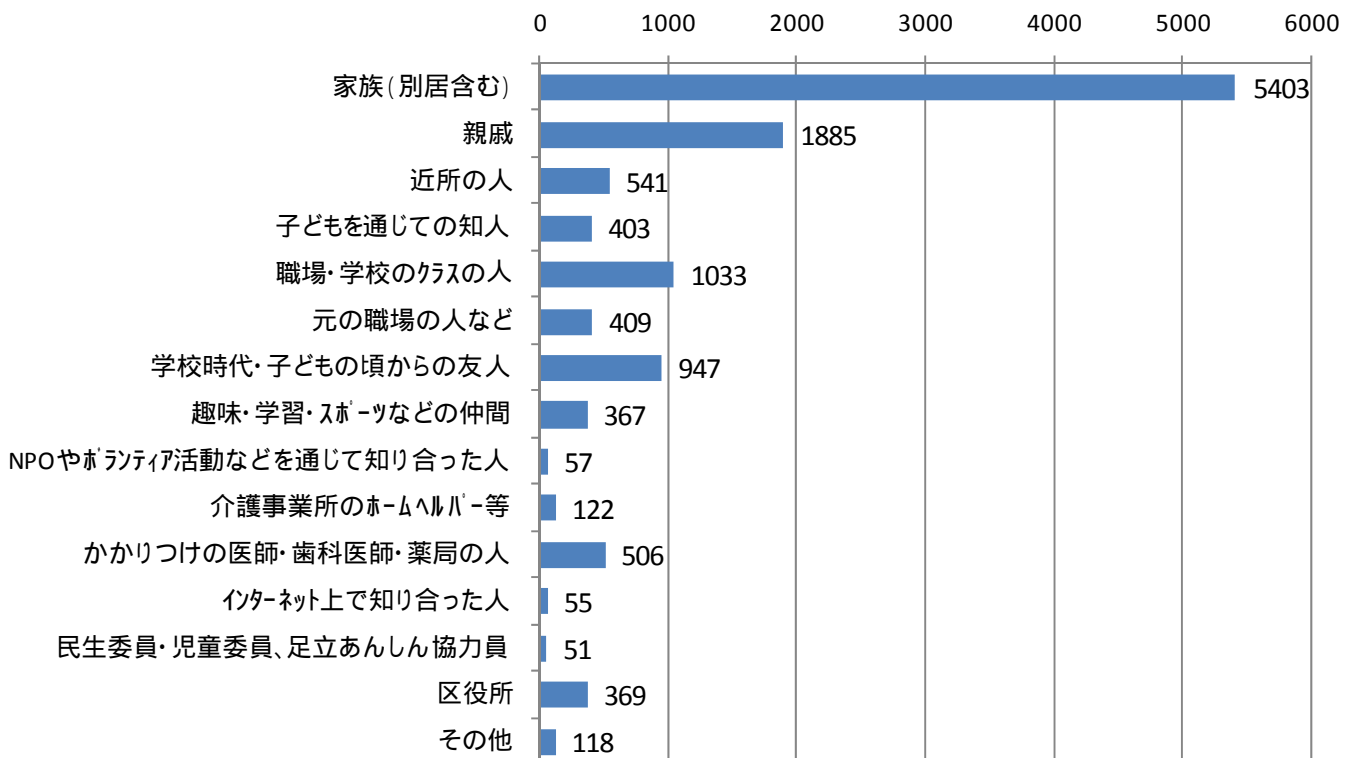
問3で「1 家族（別居の家族を含む）」から「15 その他」までのいずれかの番号に をつけた方に

問3 - 1 をつけた項目の中から相談する順番に最大4つまで項目の番号を記入してください。

（項目番号の記入は各順位1つだけ）（n=1627）

点数化は、1位を4点、2位を3点、3位を2点、4位を1点として足し上げたもの

		件数				点数化
		1位	2位	3位	4位	
1	家族（別居含む）	1280	70	32	9	5403
2	親戚	42	499	87	46	1885
3	近所の人	14	70	110	55	541
4	子どもを通じての知人	2	72	68	43	403
5	職場・学校のクラスの人	44	171	139	66	1033
6	元の職場の人など	11	57	68	58	409
7	学校時代・子どもの頃からの友人	41	142	147	63	947
8	趣味・学習・スポーツなどの仲間	9	52	68	39	367
9	NPO やボランティア活動などを通じて知り合った人	5	7	6	4	57
10	介護事業所のホームヘルパー等	2	13	30	15	122
11	かかりつけの医師・歯科医師・薬局の人	5	63	104	89	506
12	インターネット上で知り合った人	0	8	12	7	55
13	民生委員・児童委員、足立あんしん協力員	1	7	7	12	51
14	区役所	12	41	66	66	369
15	その他	13	16	5	8	118
	無回答	146	339	678	1047	
	合計	1627	1627	1627	1627	



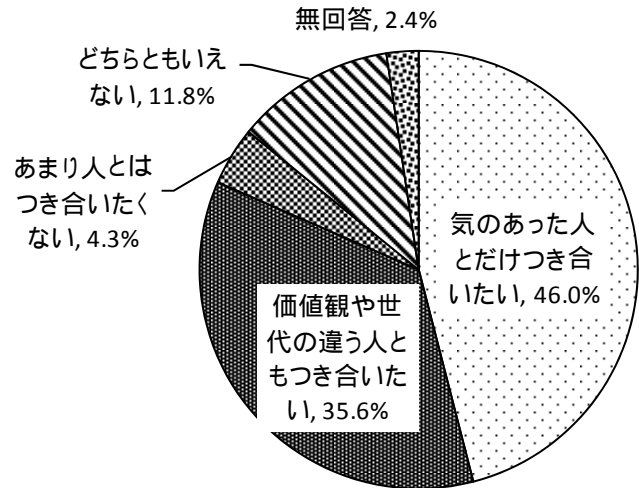
全員の方に

問4 あなたは、人とのつき合い方や人への信頼について、どのようにお考えですか。

(は各項目とも1つだけ)(n=1696)

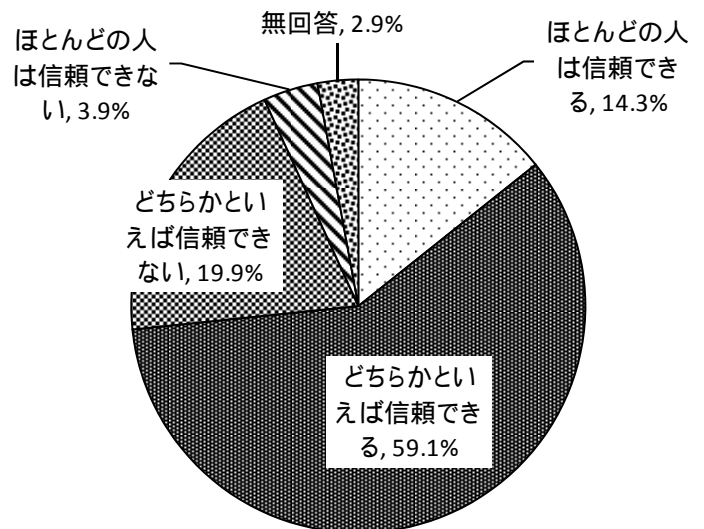
(1) 人とのつき合い方

		件数	割合
1	気のあった人とだけつき合いたい	780	46.0%
2	価値観や世代の違う人ともつき合いたい	603	35.6%
3	あまり人とはつき合いたくない	73	4.3%
4	どちらともいえない	200	11.8%
	無回答	40	2.4%
	合計	1696	100.0%



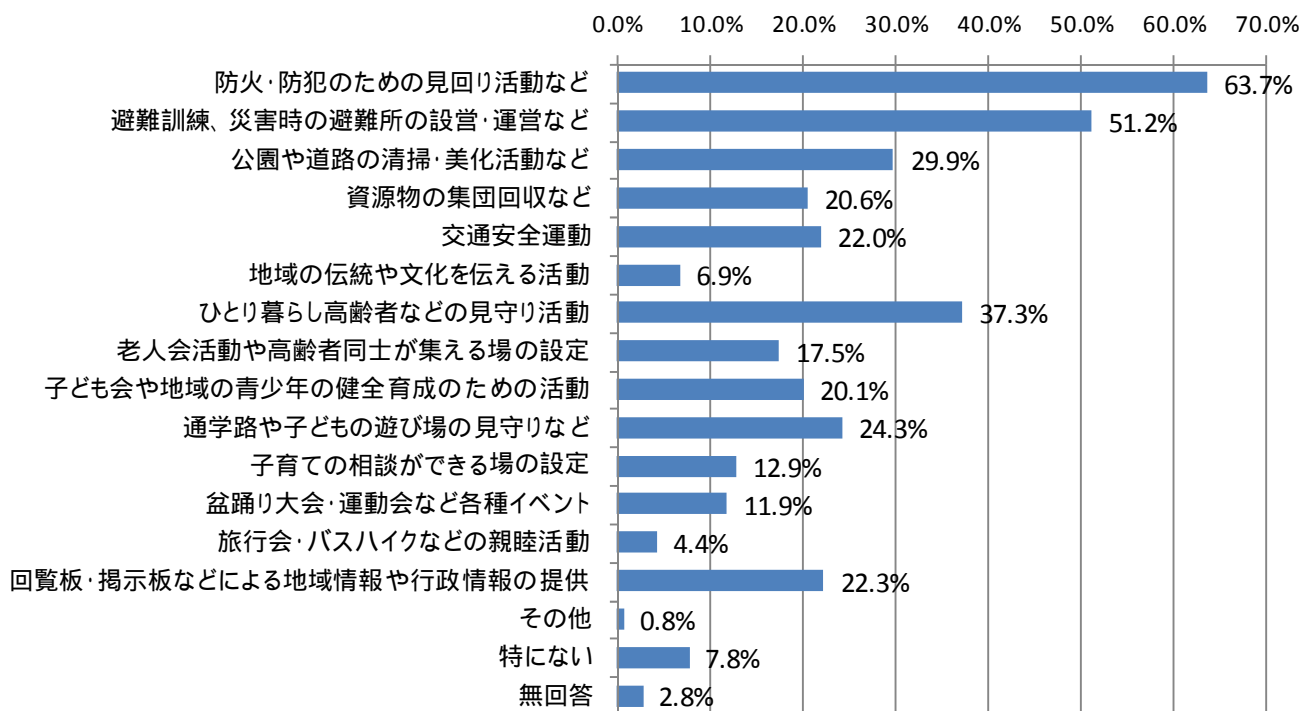
(2) 周囲の人、近所の人への信頼感

		件数	割合
1	ほとんどの人は信頼できる	242	14.3%
2	どちらかといえば信頼できる	1002	59.1%
3	どちらかといえば信頼できない	337	19.9%
4	ほとんどの人は信頼できない	66	3.9%
	無回答	49	2.9%
	合計	1696	100.0%



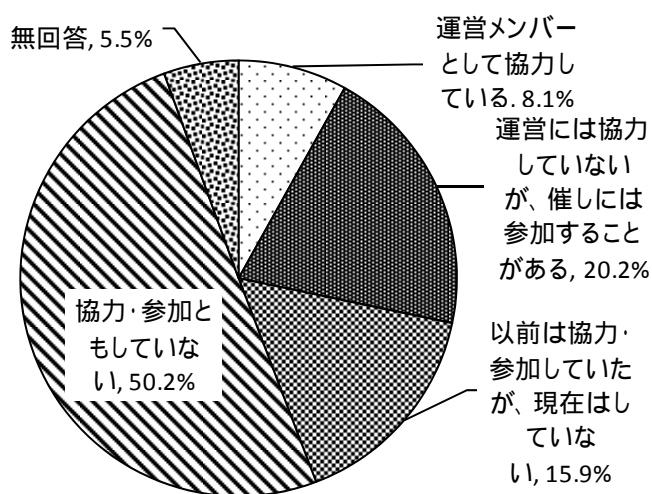
問5 あなたがお住まいの地域で特に大切と思う地域活動は何ですか。(は最大5 つまで)(n=1696)

	件数	割合
1 防火・防犯のための見回り活動など	1080	63.7%
2 避難訓練、災害時の避難所の設営・運営など	869	51.2%
3 公園や道路の清掃・美化活動など	507	29.9%
4 資源物の集団回収など	349	20.6%
5 交通安全運動	373	22.0%
6 地域の伝統や文化を伝える活動	117	6.9%
7 ひとり暮らし高齢者などの見守り活動	632	37.3%
8 老人会活動や高齢者同士が集える場の設定	297	17.5%
9 子ども会や地域の青少年の健全育成のための活動	341	20.1%
10 通学路や子どもの遊び場の見守りなど	412	24.3%
11 子育ての相談ができる場の設定	218	12.9%
12 盆踊り大会・運動会など各種イベント	201	11.9%
13 旅行会・バスハイクなどの親睦活動	75	4.4%
14 回覧板・掲示板などによる地域情報や行政情報の提供	379	22.3%
15 その他	14	0.8%
16 特にない	133	7.8%
無回答	48	2.8%
合計	1696	100.0%



問6 あなたは、何らかの地域活動に協力または参加していますか。(は1つだけ)(n=1696)

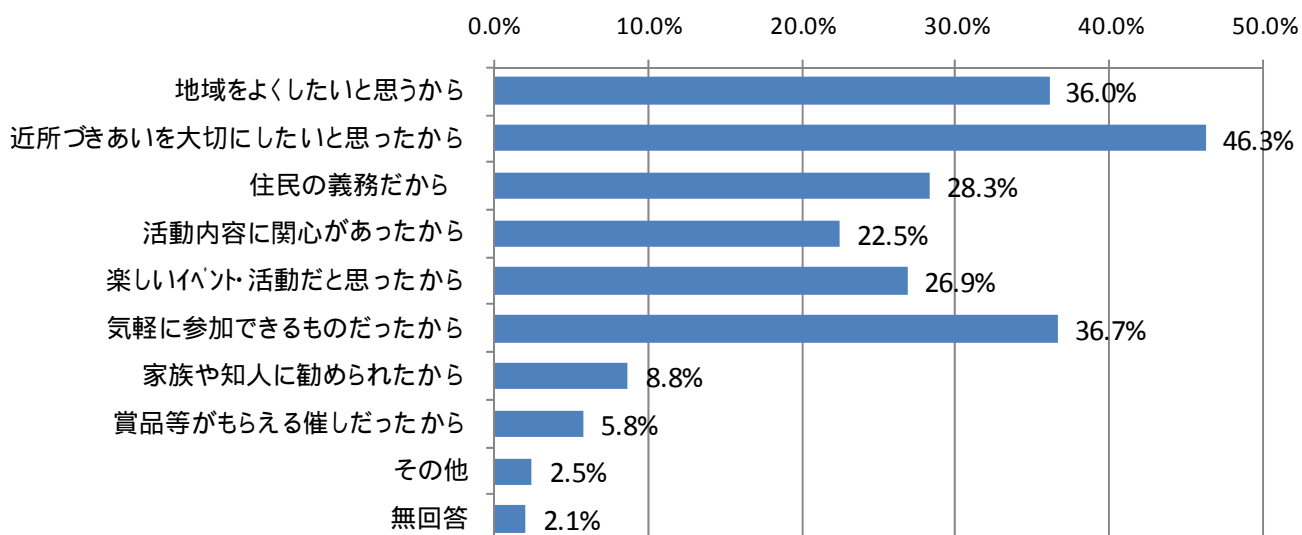
		件数	割合
1	運営メンバーとして協力している	137	8.1%
2	運営には協力していないが、催しには参加することがある	343	20.2%
3	以前は協力・参加していたが、現在はしていない	270	15.9%
4	協力・参加ともしていない	852	50.2%
	無回答	94	5.5%
	合計	1696	100.0%



(問6で「1 運営メンバーとして協力している」「2 運営には協力していないが、催しに参加することがある」とお答えの方に)

問6-1 地域活動に協力または参加した理由は何ですか。(はあてはまるものすべて)(n=480)

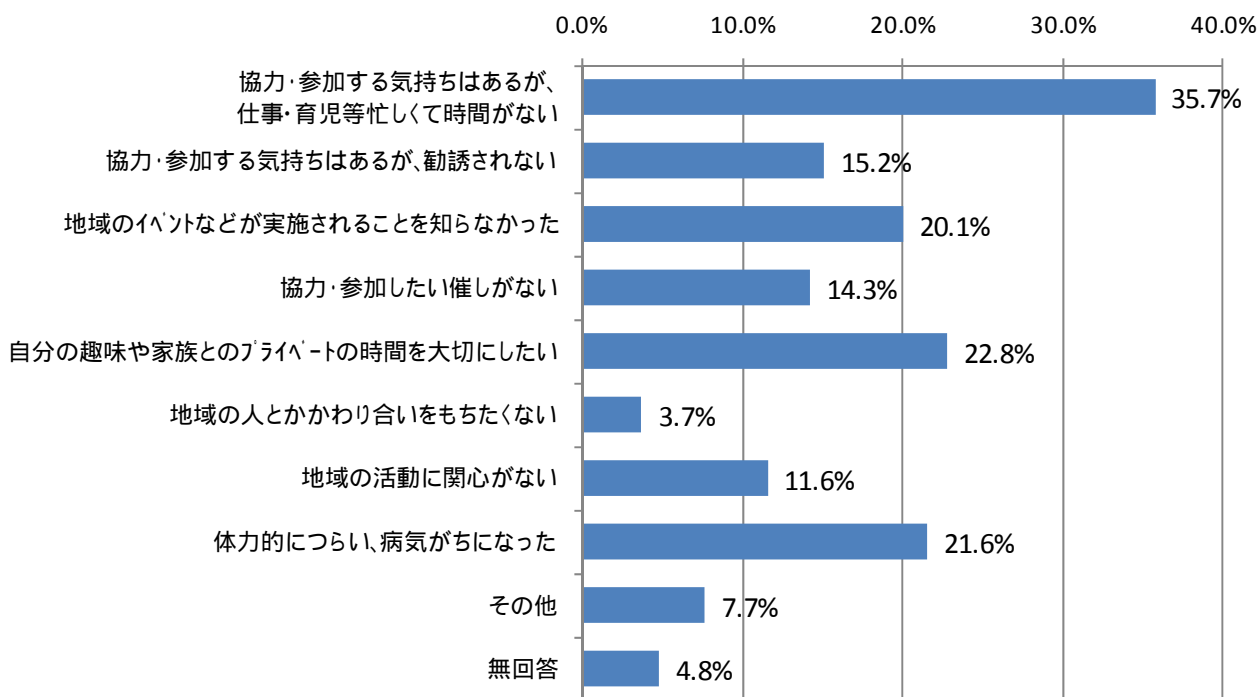
		件数	割合
1	地域をよくしたいと思うから	173	36.0%
2	近所づきあいを大切にしたいと思ったから	222	46.3%
3	住民の義務だから	136	28.3%
4	活動内容に関心があったから	108	22.5%
5	楽しいイベント・活動だと思ったから	129	26.9%
6	気軽に参加できるものだったから	176	36.7%
7	家族や知人に勧められたから	42	8.8%
8	賞品等がもらえる催しだったから	28	5.8%
9	その他	12	2.5%
	無回答	10	2.1%
	合計	480	100.0%



(問6で「3 以前は協力・参加していたが、現在はしていない」「4 協力・参加ともしていない」とお答えの方に)

問6 - 2 地域活動に協力または参加していない理由は何ですか。(は最大3つまで)(n=1122)

		件数	割合
1	協力・参加する気持ちはあるが、仕事・育児等忙しくて時間がない	401	35.7%
2	協力・参加する気持ちはあるが、勧誘されない	170	15.2%
3	地域のイベントなどが実施されることを知らなかった	225	20.1%
4	協力・参加したい催しがない	160	14.3%
5	自分の趣味や家族とのプライベートの時間を大切にしたい	256	22.8%
6	地域の人とかかわり合いをもちたくない	42	3.7%
7	地域の活動に関心がない	130	11.6%
8	体力的につらい、病気がちになった	242	21.6%
9	その他	86	7.7%
	無回答	54	4.8%
	合計	1122	100.0%

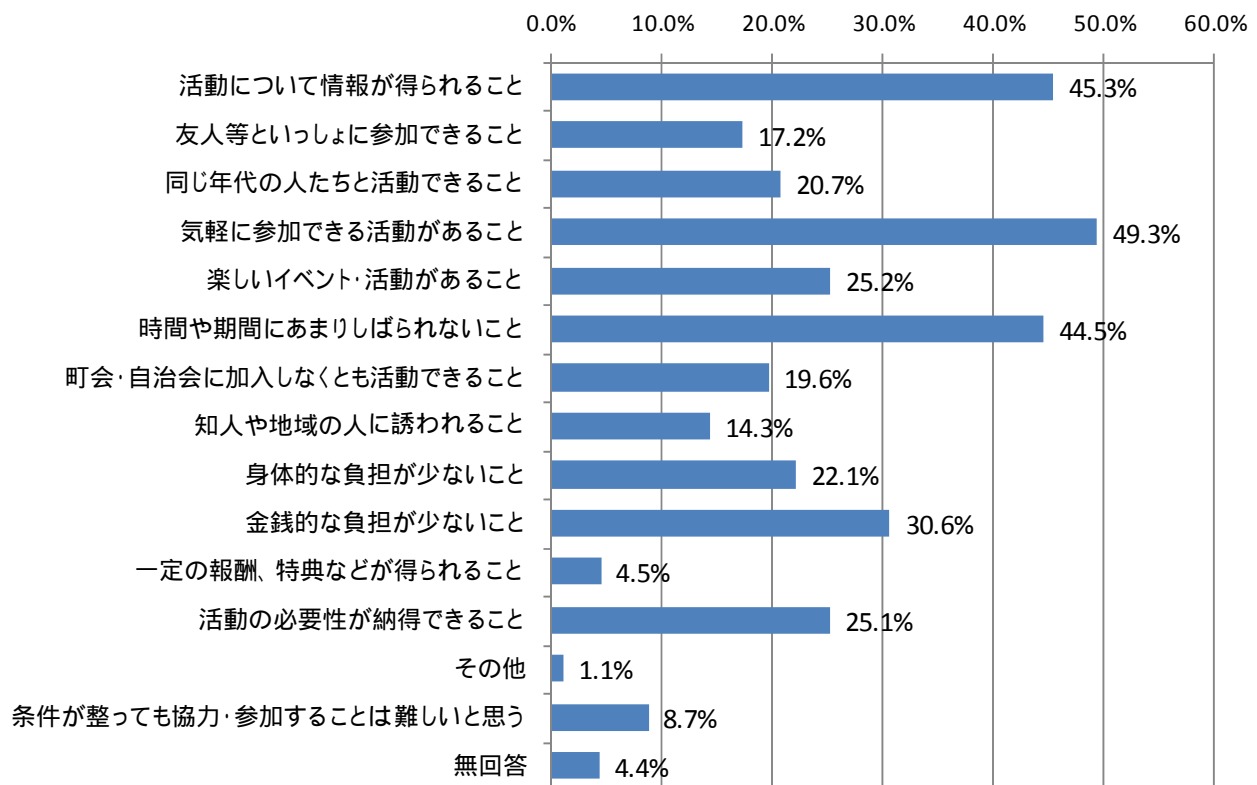


全員の方に

問7 地域活動への協力または参加を増やすには、どのような条件・きっかけが必要だと考えますか。

(は最大5つまで)(n=1696)

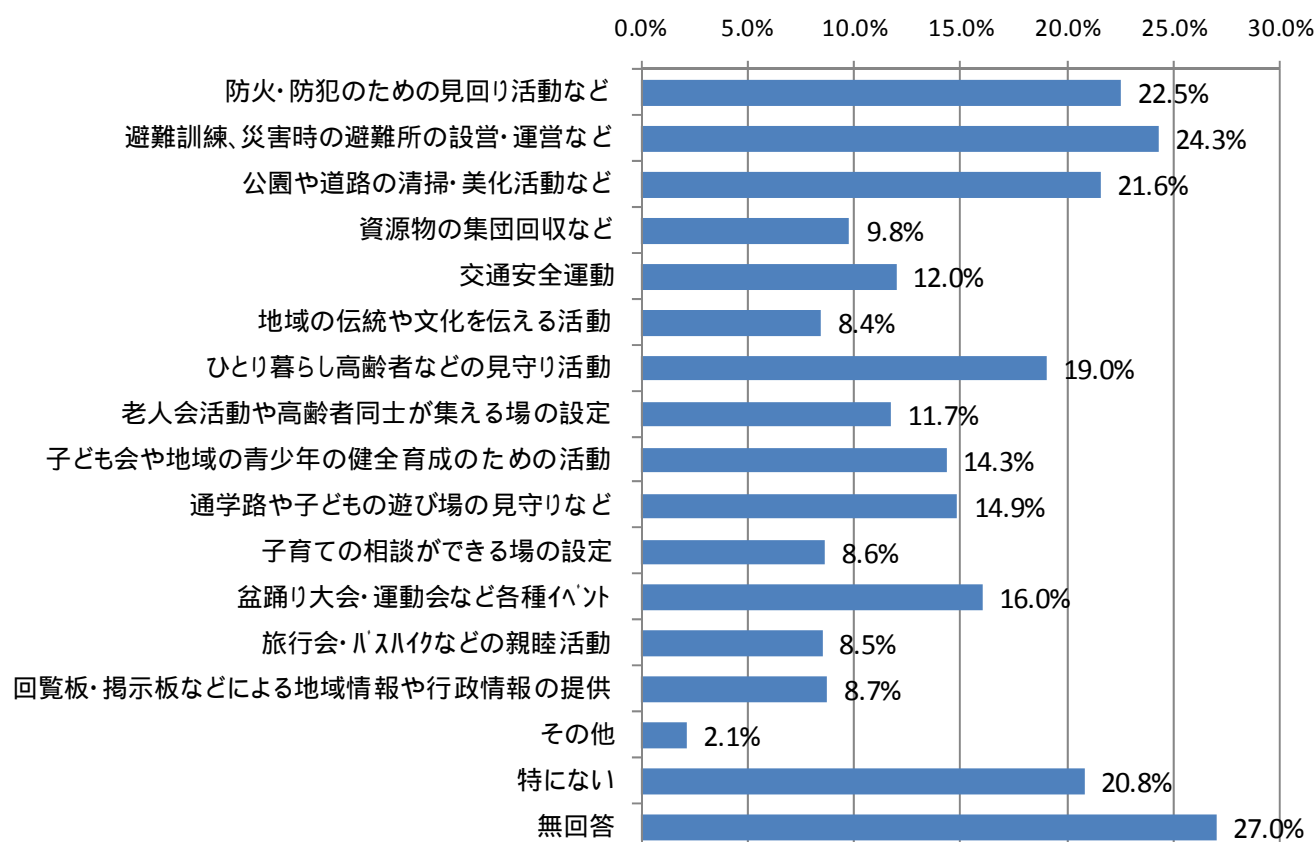
	件数	割合
1 活動について情報が得られること	769	45.3%
2 友人等といっしょに参加できること	292	17.2%
3 同じ年代の人たちと活動できること	351	20.7%
4 気軽に参加できる活動があること	836	49.3%
5 楽しいイベント・活動があること	427	25.2%
6 時間や期間にあまりしぼられないこと	754	44.5%
7 町会・自治会に加入しなくとも活動できること	332	19.6%
8 知人や地域の人に誘われること	242	14.3%
9 身体的な負担が少ないこと	374	22.1%
10 金銭的な負担が少ないこと	519	30.6%
11 一定の報酬、特典などが得られること	76	4.5%
12 活動の必要性が納得できること	426	25.1%
13 その他	19	1.1%
14 条件が整っても協力・参加することは難しいと思う	148	8.7%
無回答	74	4.4%
合計	1696	100.0%



問8 あなたが協力または参加したいと思う地域活動は何ですか。(はあてはまるものすべて)

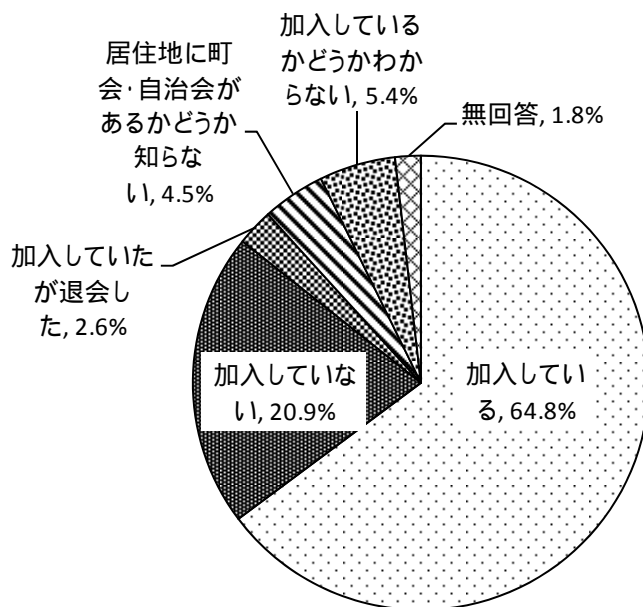
(n=1696)

		件数	割合
1	防火・防犯のための見回り活動など	382	22.5%
2	避難訓練、災害時の避難所の設営・運営など	412	24.3%
3	公園や道路の清掃・美化活動など	366	21.6%
4	資源物の集団回収など	166	9.8%
5	交通安全運動	203	12.0%
6	地域の伝統や文化を伝える活動	143	8.4%
7	ひとり暮らし高齢者などの見守り活動	323	19.0%
8	老人会活動や高齢者同士が集える場の設定	199	11.7%
9	子ども会や地域の青少年の健全育成のための活動	243	14.3%
10	通学路や子どもの遊び場の見守りなど	252	14.9%
11	子育ての相談ができる場の設定	146	8.6%
12	盆踊り大会・運動会など各種イベント	272	16.0%
13	旅行会・バスイクなどの親睦活動	144	8.5%
14	回覧板・掲示板などによる地域情報や行政情報の提供	148	8.7%
15	その他	36	2.1%
16	特にない	353	20.8%
	無回答	458	27.0%
	合計	1696	100.0%



問9 あなた(またはあなたのご家族)は、町会・自治会に加入していますか。(は1つだけ)(n=1696)

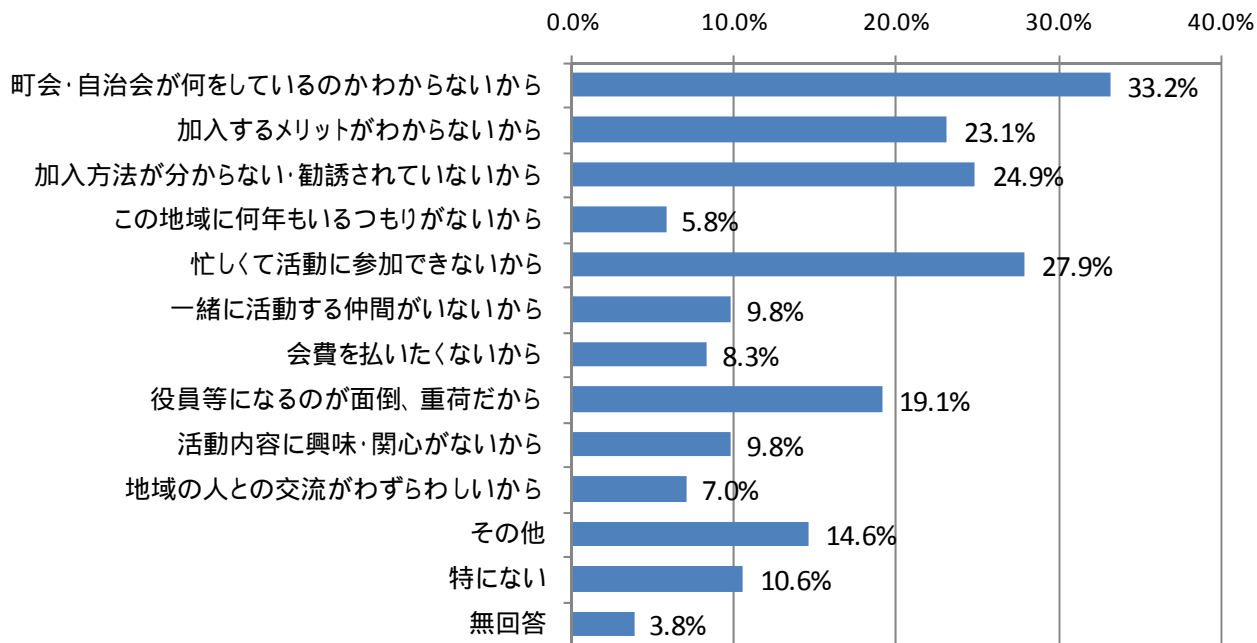
		件数	割合
1	加入している	1099	64.8%
2	加入していない	354	20.9%
3	加入していたが退会した	44	2.6%
4	居住地に町会・自治会があるかどうか知らない	76	4.5%
5	加入しているかどうかわからない	92	5.4%
	無回答	31	1.8%
	合計	1696	100.0%



(問9で「2 加入していない」「3 加入していたが、退会した」とお答えの方に)

問9-1 なぜ加入していないのですか。(または、なぜ退会したのですか)(はあてはまるものすべて)(n=398)

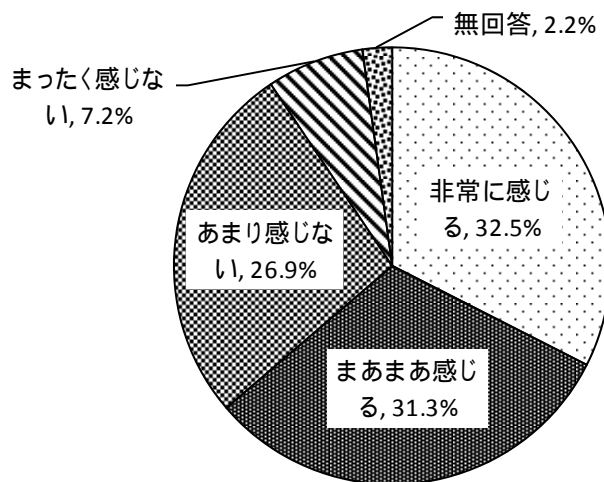
		件数	割合
1	町会・自治会が何をしているのかわからないから	132	33.2%
2	加入するメリットがわからないから	92	23.1%
3	加入方法が分からない・勧誘されていないから	99	24.9%
4	この地域に何年もいるつもりがないから	23	5.8%
5	忙しくて活動に参加できないから	111	27.9%
6	一緒に活動する仲間がいないから	39	9.8%
7	会費を払いたくないから	33	8.3%
8	役員等になるのが面倒、重荷だから	76	19.1%
9	活動内容に興味・関心がないから	39	9.8%
10	地域の人との交流がわずらわしいから	28	7.0%
11	その他	58	14.6%
12	特にない	42	10.6%
	無回答	15	3.8%
	合計	398	100.0%



全員の方に

問 10 あなたは孤独死や孤立死について、身近な問題だと感じますか。(は1つだけ)(n=1696)

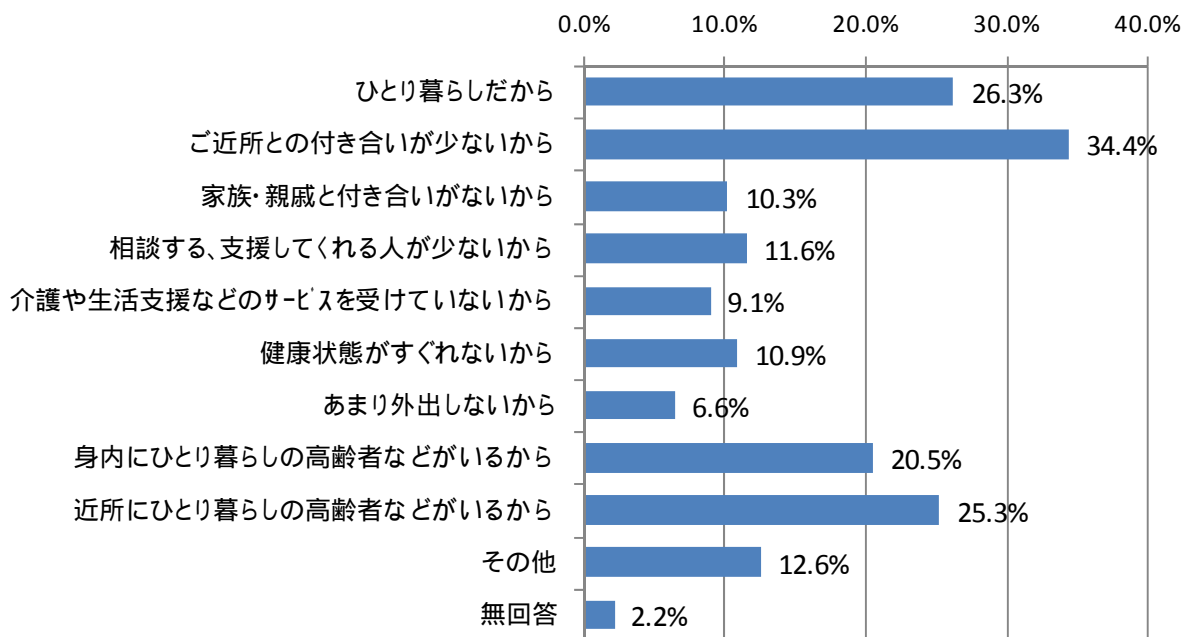
	件数	割合
1 非常に感じる	551	32.5%
2 まあまあ感じる	530	31.3%
3 あまり感じない	456	26.9%
4 まったく感じない	122	7.2%
無回答	37	2.2%
合計	1696	100.0%



(問10で「1 非常に感じる」「2 まあまあ感じる」と答えた方におたずねします。)

問10-1 主な理由は何ですか。(はあてはまるものすべて)(n=1081)

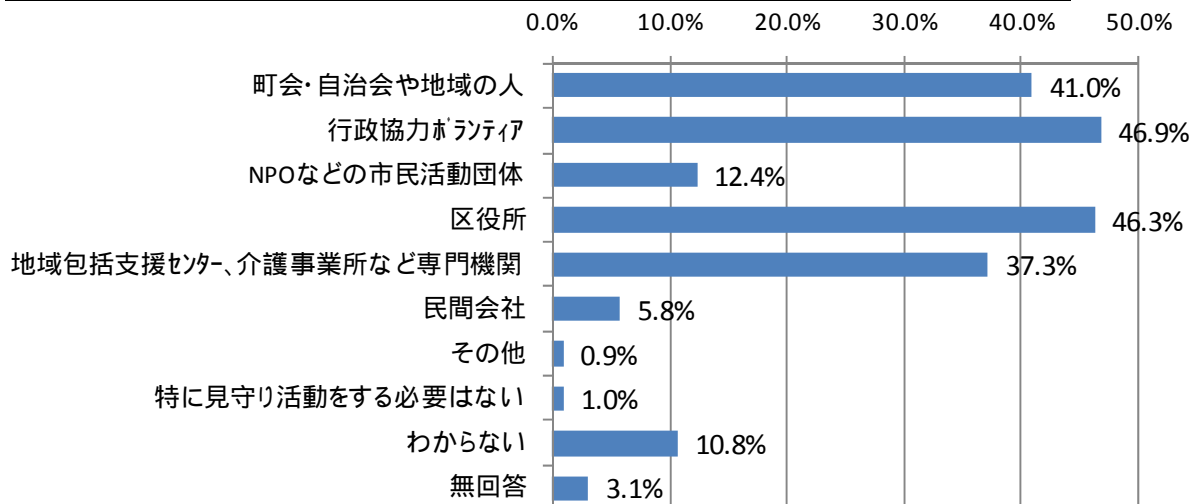
	件数	割合
1 ひとり暮らしだから	284	26.3%
2 ご近所との付き合いが少ないから	372	34.4%
3 家族・親戚と付き合いがないから	111	10.3%
4 相談する、支援してくれる人が少ないから	125	11.6%
5 介護や生活支援などのサービスを受けていないから	98	9.1%
6 健康状態がすぐれないから	118	10.9%
7 あまり外出しないから	71	6.6%
8 身内にひとり暮らしの高齢者などがいるから	222	20.5%
9 近所にひとり暮らしの高齢者などがいるから	273	25.3%
10 その他	136	12.6%
無回答	24	2.2%
合計	1081	100.0%



全員の方に

問 11 現在、ひとり暮らしの高齢者の見守りなどの活動が行なわれていますが、あなたは、お住まいの地域で、どの団体が見守り活動を担うべきと、または担ってほしいと思いますか。（ は最大3つまで）（n=1696）

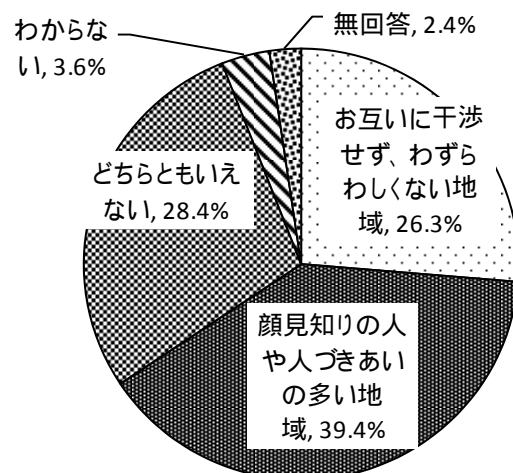
	件数	割合
1 町会・自治会や地域の人	696	41.0%
2 行政協力ボランティア	795	46.9%
3 NPOなどの市民活動団体	210	12.4%
4 区役所	786	46.3%
5 地域包括支援センター、介護事業所など専門機関	632	37.3%
6 民間会社	99	5.8%
7 その他	16	0.9%
8 特に見守り活動をする必要はない	17	1.0%
9 わからない	183	10.8%
無回答	53	3.1%
合計	1696	100.0%



問 12 あなたは、地域について、どのようにお考えですか。（ は各項目とも1つだけ）（n=1696）

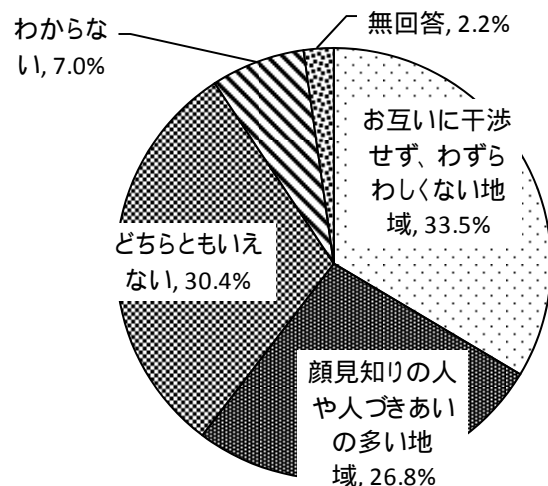
（1）あなたが住みやすいと思う地域

	件数	割合
1 お互いに干渉せず、わずらわしくない地域	446	26.3%
2 顔見知りの人や人づきあいの多い地域	668	39.4%
3 どちらともいえない	481	28.4%
4 わからない	61	3.6%
無回答	40	2.4%
合計	1696	100.0%



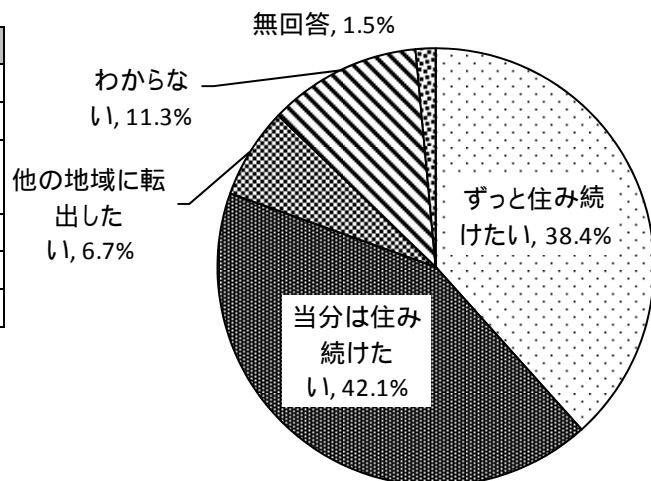
(2) あなたが現在住んでいる地域の印象

		件数	割合
1	お互いに干渉せず、わずらわしくない地域	569	33.5%
2	顔見知りの人や人づきあいの多い地域	455	26.8%
3	どちらともいえない	515	30.4%
4	わからない	119	7.0%
	無回答	38	2.2%
	合計	1696	100.0%



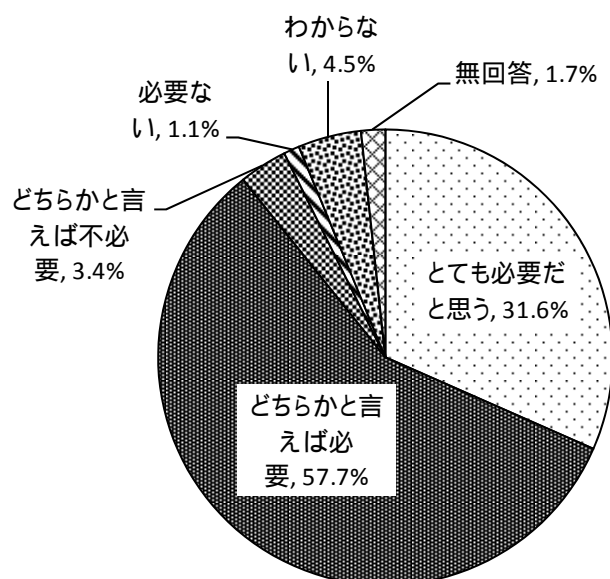
(3) あなたは今後も今住んでいる地域に居住し続けたいと思いますか。

		件数	割合
1	ずっと住み続けたい	651	38.4%
2	当分は住み続けたい	714	42.1%
3	他の地域に転出したい	114	6.7%
4	わからない	192	11.3%
	無回答	25	1.5%
	合計	1696	100.0%



(4) あなたにとって、暮らしの中で地域のつながりは必要だと思いますか。

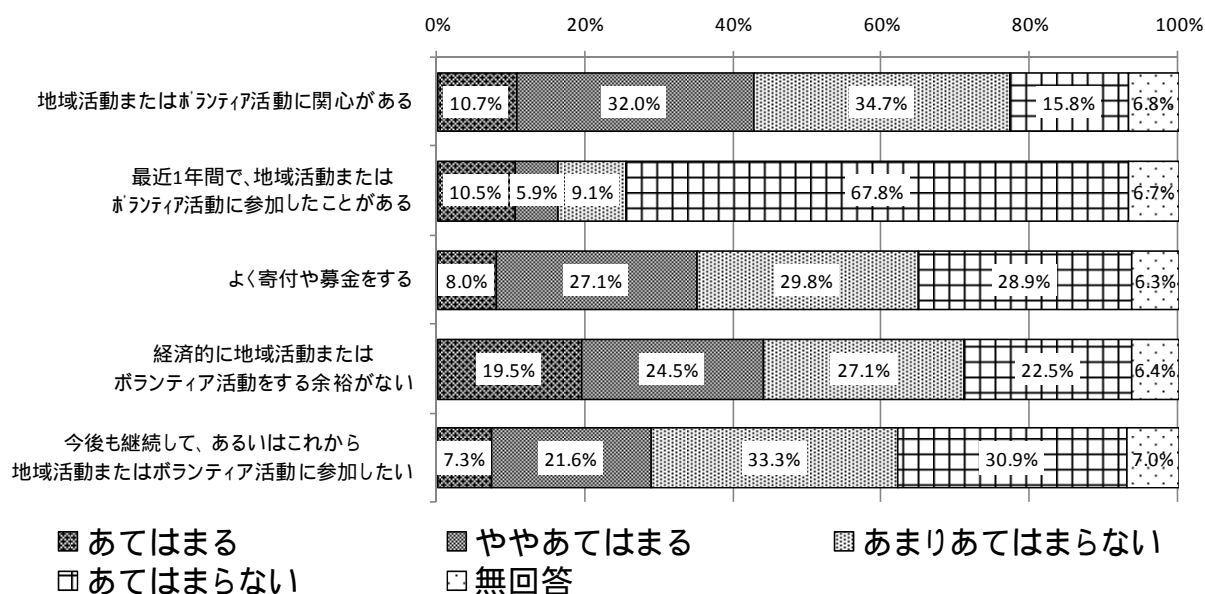
		件数	割合
1	とても必要だと思う	536	31.6%
2	どちらかと言えば必要	978	57.7%
3	どちらかと言えば不必要	58	3.4%
4	必要ない	19	1.1%
5	わからない	76	4.5%
	無回答	29	1.7%
	合計	1696	100.0%



問 13 現在のあなたの地域活動またはボランティア活動に対する考え方について、おうかがいします。

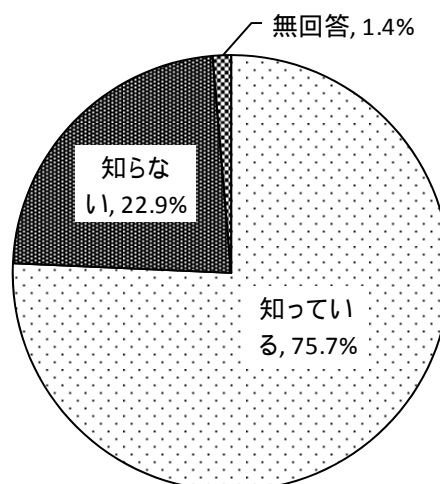
(は各項目とも1つだけ)(n=1696)

件数		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答	合計
1	地域活動またはボランティア活動に関心がある	181	542	589	268	116	1696
2	最近1年間で、地域活動またはボランティア活動に参加したことがある	178	100	155	1150	113	1696
3	よく寄付や募金をする	135	459	505	490	107	1696
4	経済的に地域活動またはボランティア活動をする余裕がない	331	416	460	381	108	1696
5	今後も継続して、あるいはこれから地域活動またはボランティア活動に参加したい	124	366	564	524	118	1696
割合		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答	合計
1	地域活動またはボランティア活動に関心がある	10.7%	32.0%	34.7%	15.8%	6.8%	100.0%
2	最近1年間で、地域活動またはボランティア活動に参加したことがある	10.5%	5.9%	9.1%	67.8%	6.7%	100.0%
3	よく寄付や募金をする	8.0%	27.1%	29.8%	28.9%	6.3%	100.0%
4	経済的に地域活動またはボランティア活動をする余裕がない	19.5%	24.5%	27.1%	22.5%	6.4%	100.0%
5	今後も継続して、あるいはこれから地域活動またはボランティア活動に参加したい	7.3%	21.6%	33.3%	30.9%	7.0%	100.0%



問 14 あなたは住区（コミュニティ）センターをご存知ですか。（ は1つだけ）(n=1696)

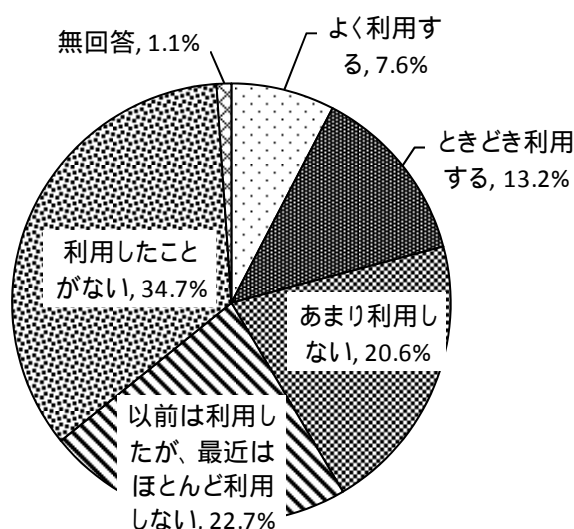
		件数	割合
1	知っている	1284	75.7%
2	知らない	389	22.9%
	無回答	23	1.4%
	合計	1696	100.0%



（問 14 で「1 知っている」とお答えの方に）

問 15 あなたは住区（コミュニティ）センターを利用したことはありますか。（ は1つだけ）(n=1284)

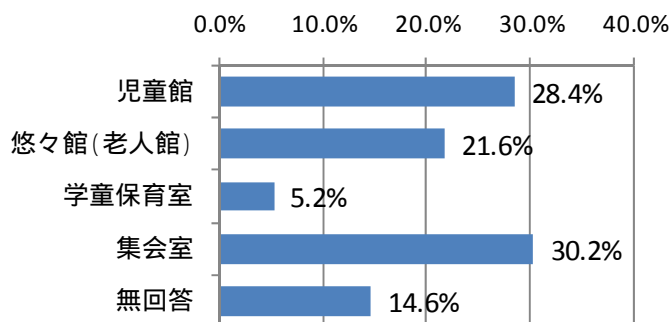
		件数	割合
1	よく利用する	98	7.6%
2	ときどき利用する	170	13.2%
3	あまり利用しない	265	20.6%
4	以前は利用したが、最近はほとんど利用しない	291	22.7%
5	利用したことがない	446	34.7%
	無回答	14	1.1%
	合計	1284	100.0%



（問 15 で「1 よく利用する」「2 ときどき利用する」とお答えの方に）

問 15 - 1 どの施設を主に利用しますか。（ は最も利用するもの1つだけ）(n=268)

		件数	割合
1	児童館	76	28.4%
2	悠々館（老人館）	58	21.6%
3	学童保育室	14	5.2%
4	集会室	81	30.2%
	無回答	39	14.6%
	合計	268	100.0%

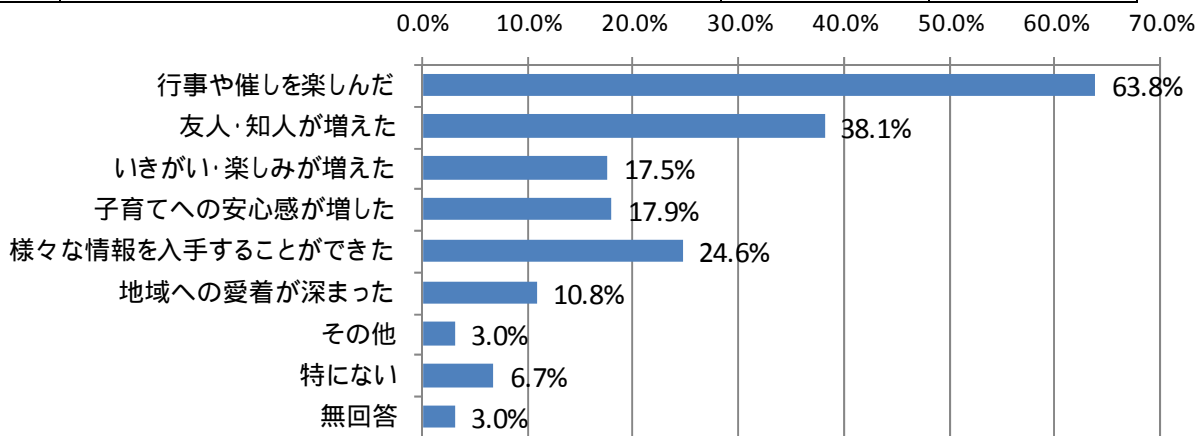


(問15で「1 よく利用する」「2 ときどき利用する」とお答えの方に)

問15-2 住区(コミュニティ)センターを利用して、どのような効果が得られましたか。

(は最大3つまで)(n=268)

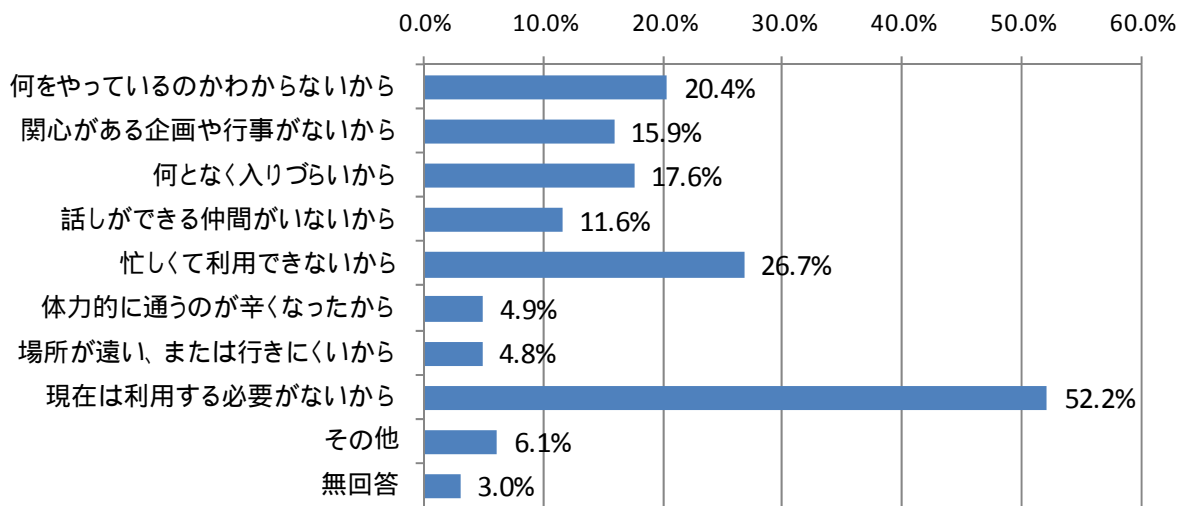
		件数	割合
1	行事や催しを楽しんだ	171	63.8%
2	友人・知人が増えた	102	38.1%
3	いきがい・楽しみが増えた	47	17.5%
4	子育てへの安心感が増した	48	17.9%
5	様々な情報を入手することができた	66	24.6%
6	地域への愛着が深まった	29	10.8%
7	その他	8	3.0%
8	特にない	18	6.7%
	無回答	8	3.0%
	合計	268	100.0%



(問15で「3 あまり利用しない」「4 以前は利用したが、最近はほとんど利用しない」「5 利用したことがない」とお答えの方に)

問15-3 利用頻度が少ない理由は何ですか。(は最大3つまで)(n=1002)

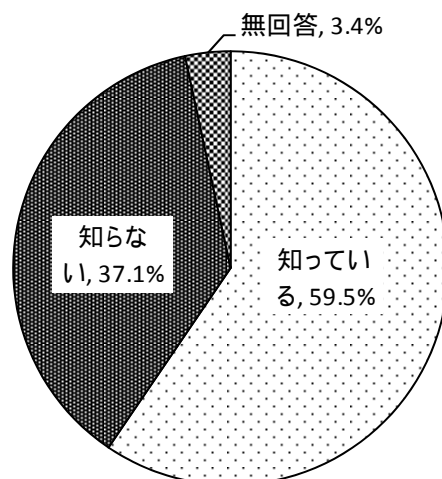
		件数	割合
1	何をやっているのかわからない	204	20.4%
2	関心がある企画や行事がない	159	15.9%
3	何となく入りづらい	176	17.6%
4	話しができる仲間がない	116	11.6%
5	忙しくて利用できない	268	26.7%
6	体力的に通うのが辛くなった	49	4.9%
7	場所が遠い、または行きにくい	48	4.8%
8	現在は利用する必要がない	523	52.2%
9	その他	61	6.1%
	無回答	30	3.0%
	合計	1002	100.0%



全員の方に

問 16 あなたは地域学習センターをご存知ですか。(は1つだけ)(n=1698)

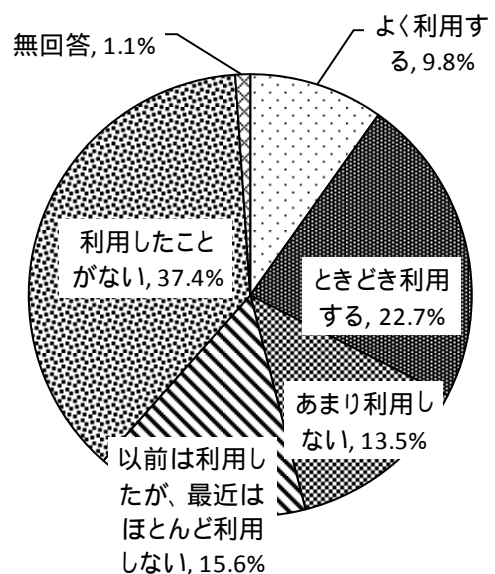
	件数	割合
1 知っている	1009	59.5%
2 知らない	630	37.1%
無回答	57	3.4%
合計	1696	100.0%



(問 16で「1 知っている」とお答えの方に)

問 17 あなたは地域学習センターを利用したことはありますか。(は1つだけ)(n=1009)

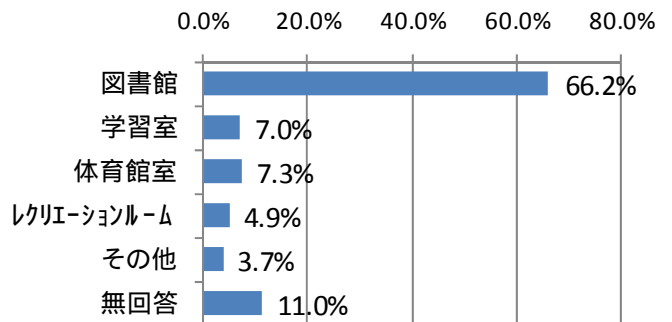
	件数	割合
1 よく利用する	99	9.8%
2 ときどき利用する	229	22.7%
3 あまり利用しない	136	13.5%
4 以前は利用したが、最近はほとんど利用しない	157	15.6%
5 利用したことがない	377	37.4%
無回答	11	1.1%
合計	1009	100.0%



(問17で「1 よく利用する」「2 ときどき利用する」とお答えの方に)

問17-1 どの施設を主に利用しますか。(は最も利用するもの1つだけ)(n=328)

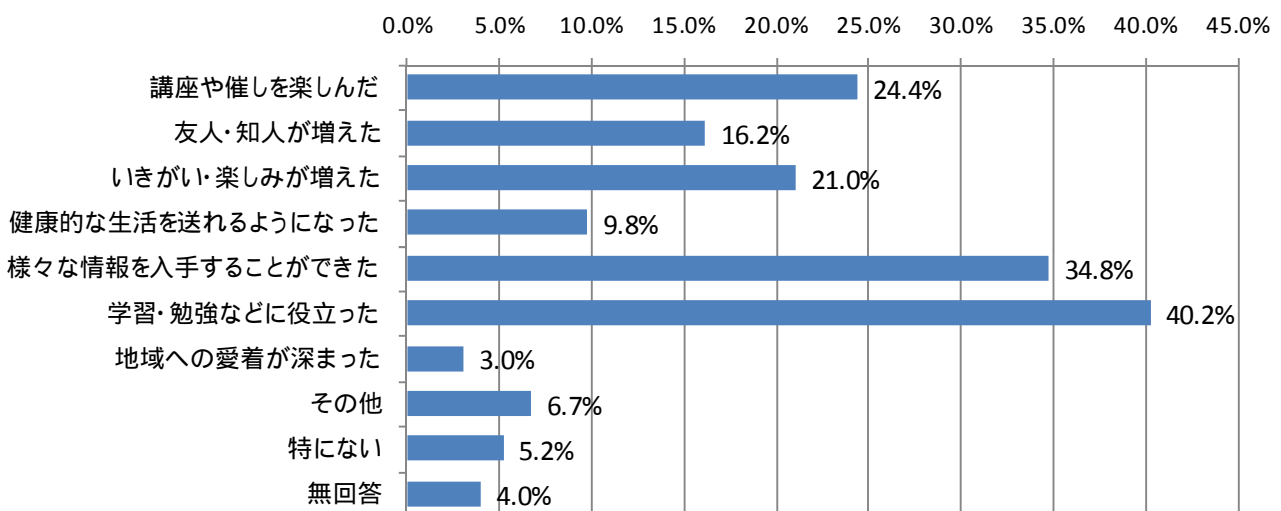
	件数	割合
1 図書館	217	66.2%
2 学習室	23	7.0%
3 体育館室	24	7.3%
4 レクリエーションルーム	16	4.9%
5 その他	12	3.7%
無回答	36	11.0%
合計	328	100.0%



(問17で「1 よく利用する」「2 ときどき利用する」とお答えの方に)

問17-2 地域学習センターを利用して、どのような効果が得られましたか。(は最大3つまで)
(n=328)

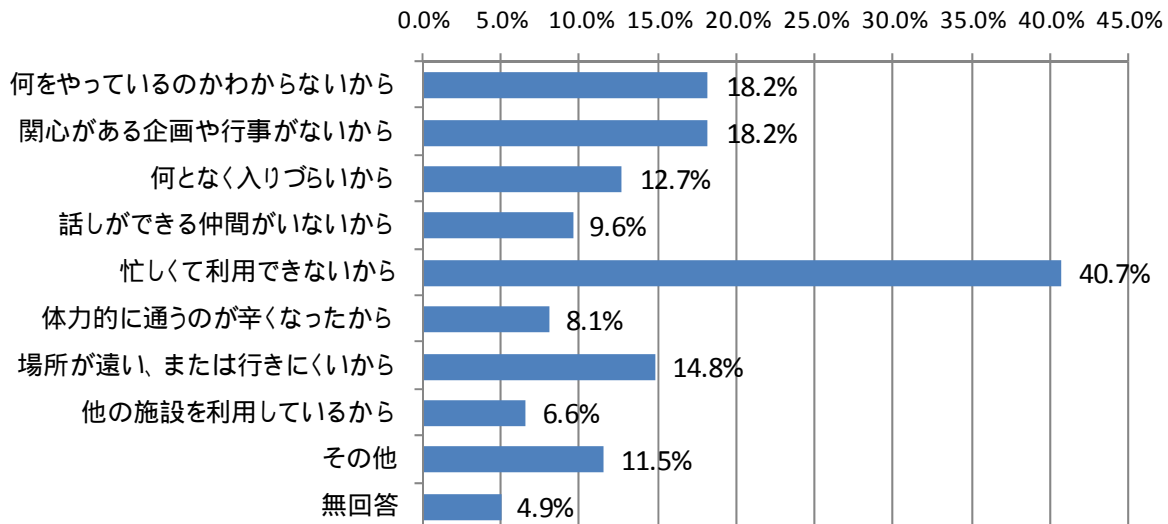
	件数	割合
1 講座や催しを楽しんだ	80	24.4%
2 友人・知人が増えた	53	16.2%
3 いきがい・楽しみが増えた	69	21.0%
4 健康的な生活を送れるようになった	32	9.8%
5 様々な情報を入手することができた	114	34.8%
6 学習・勉強などに役立った	132	40.2%
7 地域への愛着が深まった	10	3.0%
8 その他	22	6.7%
9 特にない	17	5.2%
無回答	13	4.0%
合計	328	100.0%



(問17で「3 あまり利用しない」「4 以前は利用したが、最近はほとんど利用しない」「5 利用したことがない」とお答えの方に)

問17-3 利用したことがない、または利用頻度が少ない理由は何ですか。(は最大3つまで)(n=670)

	件数	割合
1 何をやっているのかわからないから	122	18.2%
2 関心がある企画や行事がないから	122	18.2%
3 何となく入りづらいから	85	12.7%
4 話しができる仲間がないから	64	9.6%
5 忙しくて利用できないから	273	40.7%
6 体力的に通うのが辛くなったから	54	8.1%
7 場所が遠い、または行きにくいから	99	14.8%
8 他の施設を利用しているから	44	6.6%
9 その他	77	11.5%
無回答	33	4.9%
合計	670	100.0%

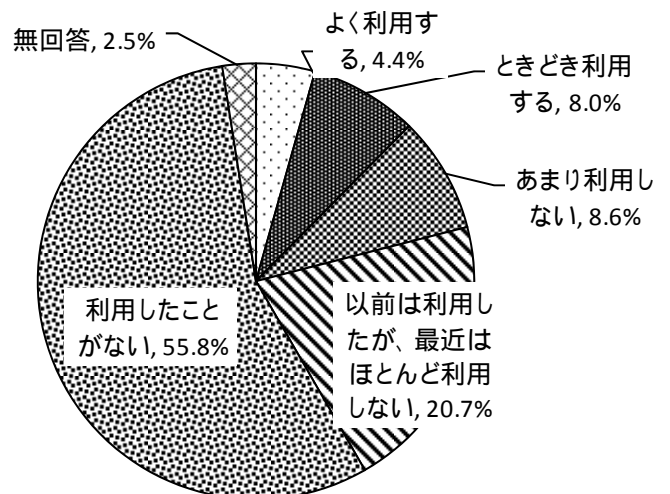


全員の方に

問18 あなたは、上記のようなスポーツ施設をどのくらいの頻度で利用しますか。(は1つだけ)

(n=1696)

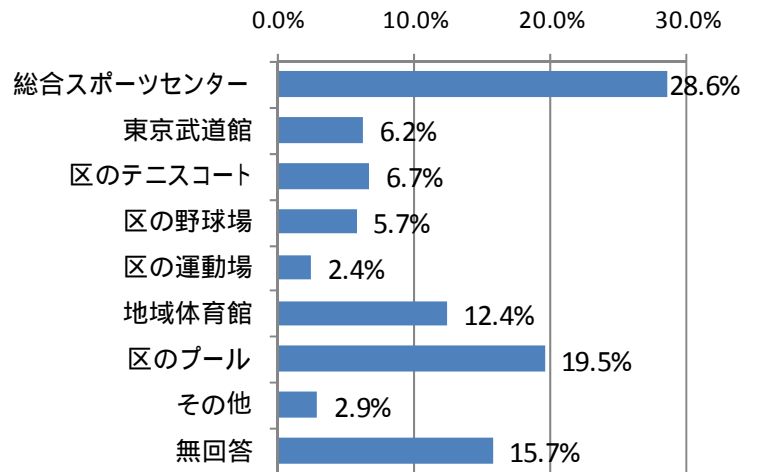
	件数	割合
1 よく利用する	74	4.4%
2 ときどき利用する	136	8.0%
3 あまり利用しない	146	8.6%
4 以前は利用したが、最近はほとんど利用しない	351	20.7%
5 利用したことがない	947	55.8%
無回答	42	2.5%
合計	1696	100.0%



(問18で「1 よく利用する」「2 ときどき利用する」とお答えの方に)

問18-1 どの施設を主に利用しますか。(は最も利用するもの1つだけ)(n=210)

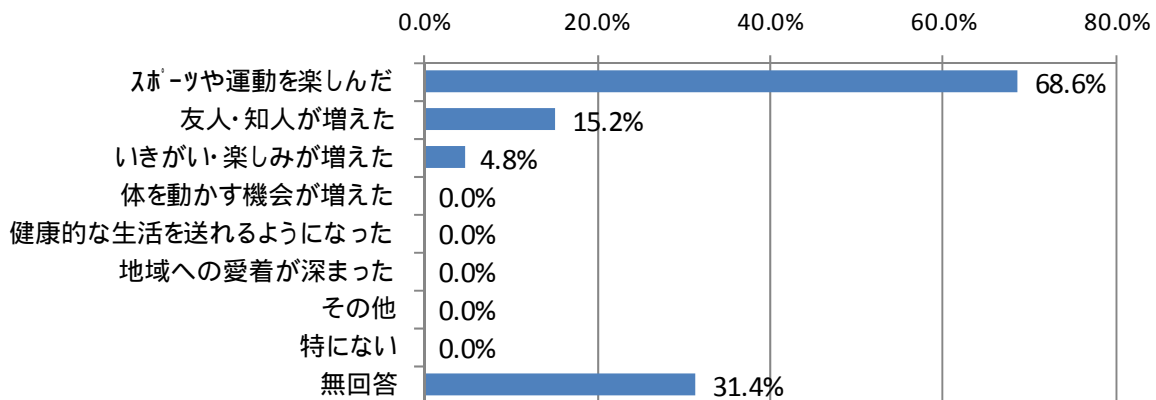
		件数	割合
1	総合スポーツセンター	60	28.6%
2	東京武道館	13	6.2%
3	区のテニスコート	14	6.7%
4	区の野球場	12	5.7%
5	区の運動場	5	2.4%
6	地域体育館	26	12.4%
7	区のプール	41	19.5%
8	その他	6	2.9%
	無回答	33	15.7%
	合計	210	100.0%



(問18で「1 よく利用する」「2 ときどき利用する」とお答えの方に)

問18-2 スポーツ施設を利用して、どのような効果が得られましたか。(は最大3つまで)(n=210)

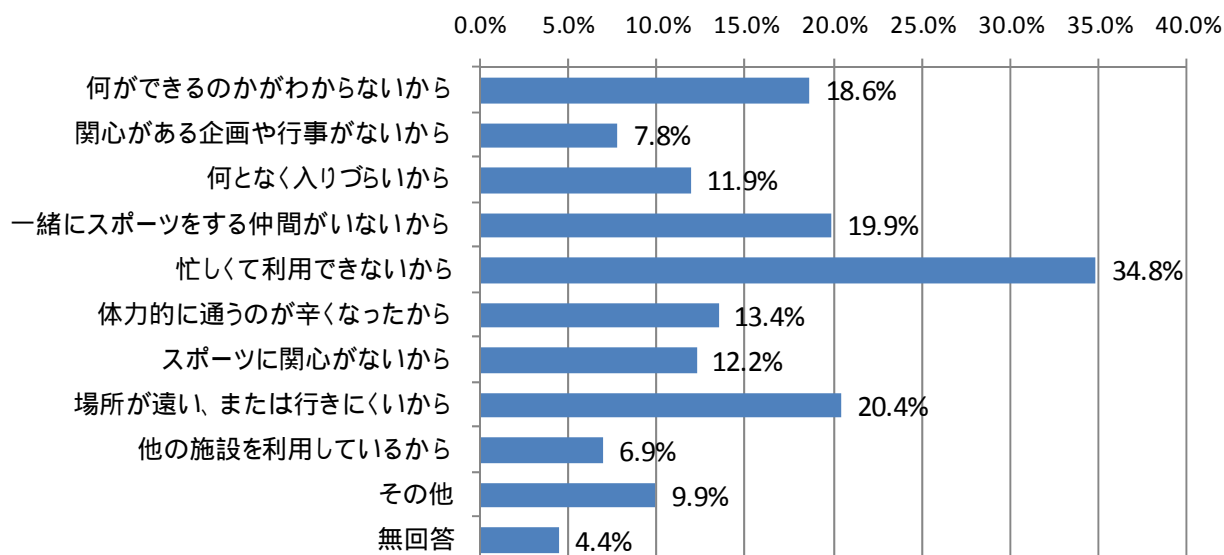
		件数	割合
1	スポーツや運動を楽しんだ	144	68.6%
2	友人・知人が増えた	32	15.2%
3	いきがい・楽しみが増えた	10	4.8%
4	体を動かす機会が増えた	0	0.0%
5	健康的な生活を送れるようになった	0	0.0%
6	地域への愛着が深まった	0	0.0%
7	その他	0	0.0%
8	特にない	0	0.0%
	無回答	66	31.4%
	合計	210	100.0%



(問18で「3 あまり利用しない」「4 以前は利用したが、最近はほとんど利用しない」「5 利用したことがない」とお答えの方に)

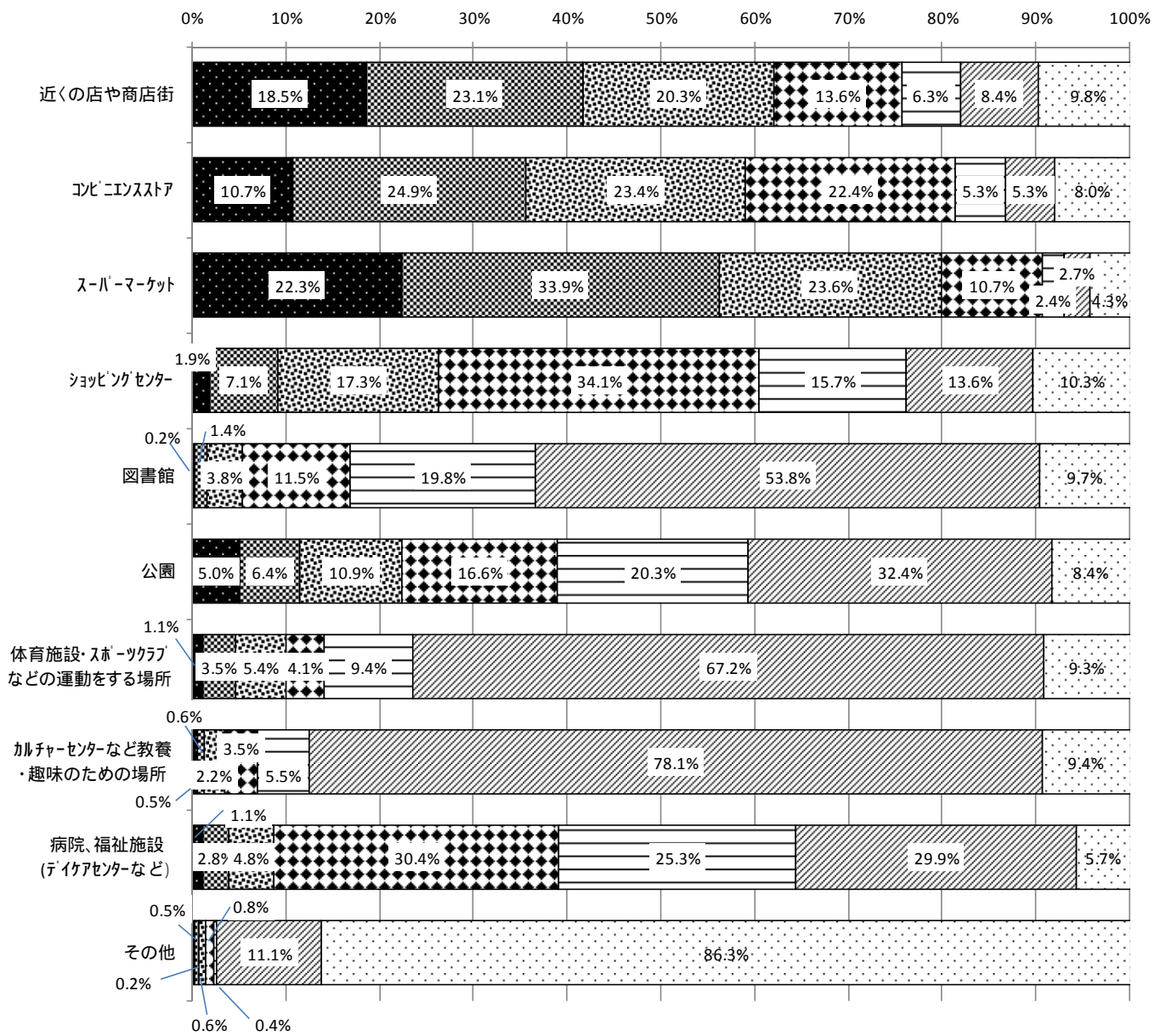
問18-3 利用頻度が少ない理由は何ですか。(はあてはまるものすべて)(n=1444)

	件数	割合
1 何ができるのかわからないから	269	18.6%
2 関心がある企画や行事がないから	112	7.8%
3 何となく入りづらいから	172	11.9%
4 一緒にスポーツをする仲間がないから	287	19.9%
5 忙しくて利用できないから	503	34.8%
6 体力的に通うのが辛くなったから	194	13.4%
7 スポーツに関心がないから	176	12.2%
8 場所が遠い、または行きにくいから	295	20.4%
9 他の施設を利用しているから	100	6.9%
10 その他	143	9.9%
無回答	64	4.4%
合計	1444	100.0%



問 19 あなたが区内でよく行く場所がありますか。以下の場所へ行く頻度をお答えください。(n=1696)

件数		ほぼ毎日	2～3日に1回程度	1週間に1回程度	月に1回～2回程度	年に1回～数回程度	ほとんど行かない・行ったことがない	無回答	合計
1	近くの店や商店街	314	392	345	231	106	142	166	1696
2	コンビニエンスストア	181	422	397	380	90	90	136	1696
3	スーパーマーケット	378	575	401	182	41	46	73	1696
4	ショッピングセンター	32	121	293	579	266	230	175	1696
5	図書館	3	23	64	195	335	912	164	1696
6	公園	85	109	185	281	345	549	142	1696
7	体育施設・スポーツクラブなどの運動をする場所	18	60	92	69	160	1140	157	1696
8	カルチャーセンターなど教養・趣味のための場所	9	11	38	60	93	1325	160	1696
9	病院、福祉施設（デイケアセンターなど）	18	47	82	516	429	507	97	1696
10	その他	3	9	11	14	7	189	1463	1696
割合		ほぼ毎日	2～3日に1回程度	1週間に1回程度	月に1回～2回程度	年に1回～数回程度	ほとんど行かない・行ったことがない	無回答	合計
1	近くの店や商店街	18.5%	23.1%	20.3%	13.6%	6.3%	8.4%	9.8%	100.0%
2	コンビニエンスストア	10.7%	24.9%	23.4%	22.4%	5.3%	5.3%	8.0%	100.0%
3	スーパーマーケット	22.3%	33.9%	23.6%	10.7%	2.4%	2.7%	4.3%	100.0%
4	ショッピングセンター	1.9%	7.1%	17.3%	34.1%	15.7%	13.6%	10.3%	100.0%
5	図書館	0.2%	1.4%	3.8%	11.5%	19.8%	53.8%	9.7%	100.0%
6	公園	5.0%	6.4%	10.9%	16.6%	20.3%	32.4%	8.4%	100.0%
7	体育施設・スポーツクラブなどの運動をする場所	1.1%	3.5%	5.4%	4.1%	9.4%	67.2%	9.3%	100.0%
8	カルチャーセンターなど教養・趣味のための場所	0.5%	0.6%	2.2%	3.5%	5.5%	78.1%	9.4%	100.0%
9	病院、福祉施設（デイケアセンターなど）	1.1%	2.8%	4.8%	30.4%	25.3%	29.9%	5.7%	100.0%
10	その他	0.2%	0.5%	0.6%	0.8%	0.4%	11.1%	86.3%	100.0%



- ほぼ毎日
- ▣ 1週間に1回程度
- ▤ 月に1回～2回程度
- ▥ 年に1回～数回程度
- 無回答
- ▧ 2～3日に1回程度
- ▨ ほとんど行かない・行ったことがない

問20 あなたのふだんの「過ごし方」について、おうかがいします。（ は各項目とも1つだけ）
 （n=1696）

件数		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答	合計
1	平日は、仕事、家事、育児などが忙しく、自由に過ごせる時間はほとんどない	542	438	244	315	157	1696
2	休日は、自由に過ごせる時間はかなりある	547	551	322	154	122	1696
3	休日は、外出することが多い	343	635	390	187	141	1696
割合		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	無回答	合計
1	平日は、仕事、家事、育児などが忙しく、自由に過ごせる時間はほとんどない	32.0%	25.8%	14.4%	18.6%	9.3%	100.0%
2	休日は、自由に過ごせる時間はかなりある	32.3%	32.5%	19.0%	9.1%	7.2%	100.0%
3	休日は、外出することが多い	20.2%	37.4%	23.0%	11.0%	8.3%	100.0%

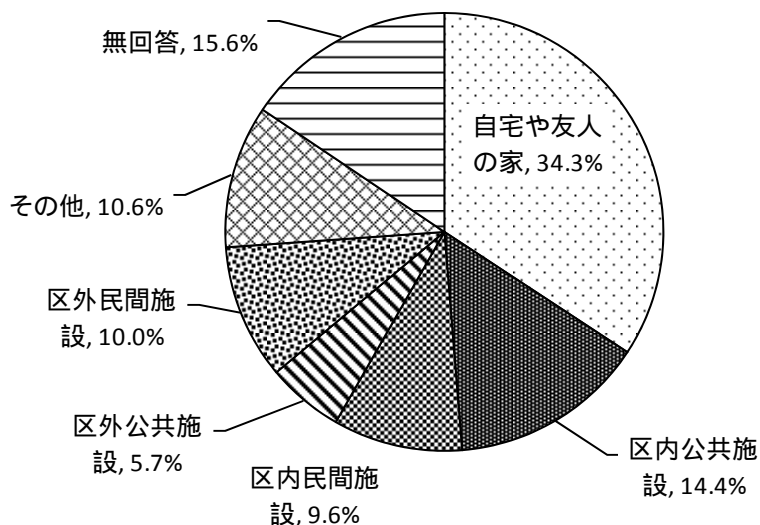


■あてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない □無回答

問21 最も時間を使っているスポーツや文化活動・趣味・娯楽の活動は、どこで行っていますか。

(は最もあてはまるもの1つ)(n=1696)

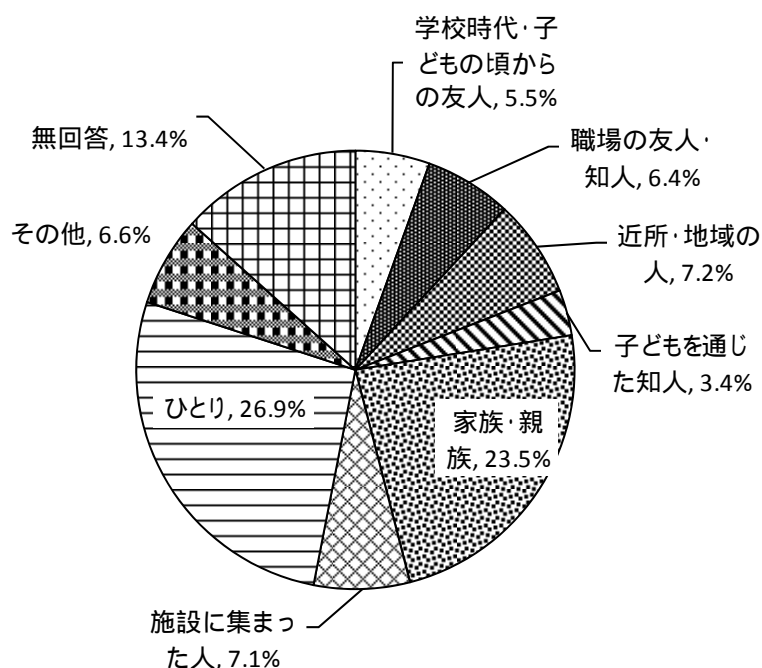
		件数	割合
1	自宅や友人の家	581	34.3%
2	区内公共施設	245	14.4%
3	区内民間施設	162	9.6%
4	区外公共施設	96	5.7%
5	区外民間施設	169	10.0%
6	その他	179	10.6%
	無回答	264	15.6%
	合計	1696	100.0%



問22 最も時間を使っているスポーツや文化活動・趣味・娯楽の活動は主に誰と一緒にしていますか。

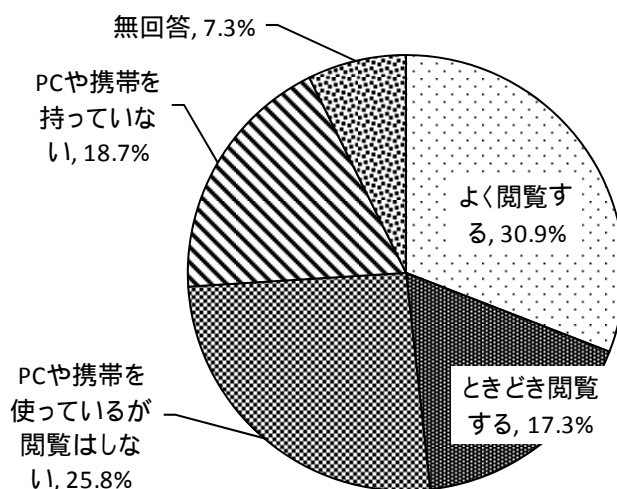
(は最もあてはまるもの1つ)(n=1696)

		件数	割合
1	学校時代・子どもの頃からの友人	93	5.5%
2	職場の友人・知人	109	6.4%
3	近所・地域の人	122	7.2%
4	子どもを通じた知人	57	3.4%
5	家族・親族	399	23.5%
6	施設に集まった人	120	7.1%
7	ひとり	457	26.9%
8	その他	112	6.6%
	無回答	227	13.4%
	合計	1696	100.0%



問 23 仕事や学業以外で、パソコンや携帯電話でホームページなどを閲覧することがありますか。
 (は1つだけ)(n=1696)

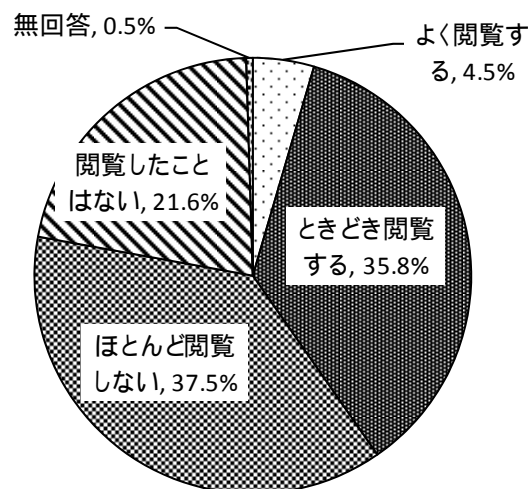
		件数	割合
1	よく閲覧する	524	30.9%
2	ときどき閲覧する	294	17.3%
3	PC や携帯を使っているが閲覧はしない	437	25.8%
4	PC や携帯を持っていない	317	18.7%
	無回答	124	7.3%
	合計	1696	100.0%



(問 23 で「1 よく閲覧する」「2 ときどき閲覧する」とお答えの方に)

問 24 パソコンや携帯電話で区のホームページを閲覧することがありますか。(は1つだけ)(n=818)

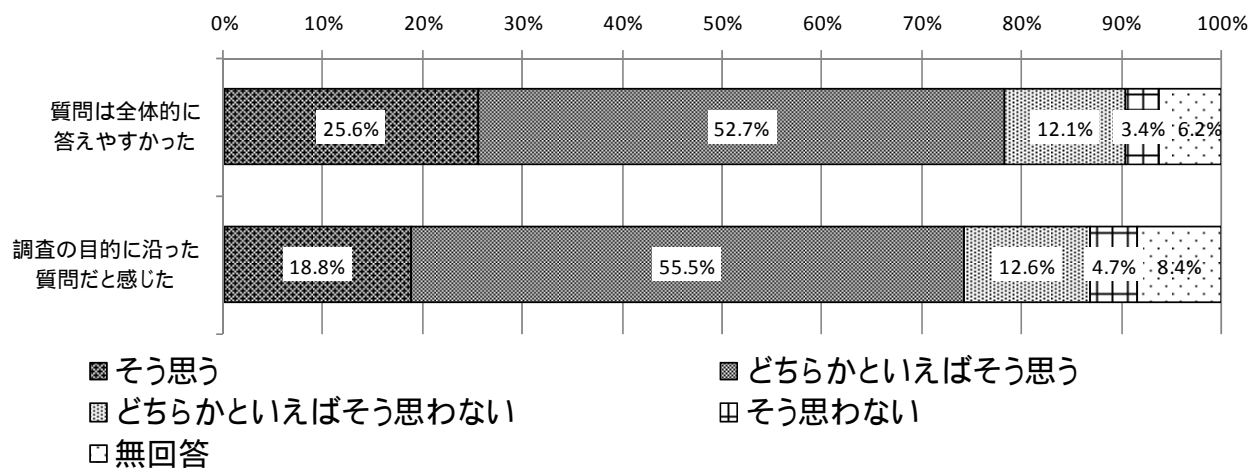
		件数	割合
1	よく閲覧する	37	4.5%
2	ときどき閲覧する	293	35.8%
3	ほとんど閲覧しない	307	37.5%
4	閲覧したことはない	177	21.6%
	無回答	4	0.5%
	合計	818	100.0%



(問 25 は自由回答欄)

問 26 多数の質問にお答えいただき、まことにありがとうございました。最後に申し訳ございませんが、今回のアンケート調査の質問全体に関してお答えください。(は各項目とも1つだけ)(n=1696)

件数		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	合計
1	質問は全体的に答えやすかった	434	894	206	57	105	1696
2	調査の目的に沿った質問だと感じた	318	941	214	80	143	1696
割合		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	合計
1	質問は全体的に答えやすかった	25.6%	52.7%	12.1%	3.4%	6.2%	100.0%
2	調査の目的に沿った質問だと感じた	18.8%	55.5%	12.6%	4.7%	8.4%	100.0%



グループ・インタビュー

1. グループ・インタビューの要件

調査対象

- ・アンケートにおいて参加希望があり出席が確認された足立区民（20名）：17名（当日出席者）

実施期間

- ・2012年3月24日～2012年3月25日

設問数・調査方法

<設問数：13>

縁や絆、地域や暮らしに関して思うことなどについて

- ・最近気になること、誰とのつながりを重視しているか、どのような時にその方とのつながりが大切だと感じるか、その方とのつながりを大切にしようとするのはなぜかなど

災害時のシミュレーション

- ・こんな時どうする（平日昼間に一人、震度6強地震発生、自宅から出られず携帯もつながらず）
- ・こんな時どうする（上記の次の場面、外に出たら周囲で火災が発生、近所が心配、余震も続く）
- ・こんな時どうする（上記の次の場面、避難所に到着、知らない人が多くしばらく自宅に帰れず）

地域活動や地域とのかかわり方などについて

- ・地域活動への参加状況、非参加理由、地域活動の情報をどこで入手しているか、地域活動への参加条件・そのためのアイデアなど

その他

- ・孤独死や虐待について、地域で見守るためのアイデアなど

<調査方法>

- ・世代別グループによるインタビュー

		実施日時	出席予定者	出席者
第1グループ	高齢者グループ (70代以上)	2012年3月24日 10時30分～12時	3	2
第2グループ	高齢者グループ (60代以上)	2012年3月24日 13時～14時30分	4	3
第3グループ	若い世代グループ (25～40代)	2012年3月25日 10時30分～12時	5	4
第4グループ	中高年世代グループ (40代～60代前半)	2012年3月25日 13時～14時30分	5	5
第5グループ	若い世代グループ (30代)	2012年3月25日 15時～16時30分	3	3
計			20	17

インタビュー会場

- ・足立区役所 中央館2階 区民の声相談課 資料室

2. グループインタビューの結果

< 結果概要 >

第1グループ（70代以上）

平成24年3月24日 10:30~12:00 於 区民の声相談課 会議室

ヒアリング対象者 1A:70代女性（自営業・事業主）

1B:70代女性（専業主婦）

当日1名欠席

出席者 区民の声相談課 川原井 エックス都市研究所 橋爪、麻生

最近気になること・関心ごと

（司会）

・最近、どんなことに関心を持っているか。気になっていることはどんなことか。

（1A）

・今住んでいる地域は、高齢者が多い地域である。そうした地域で、民生委員を務めている。

・下町で長屋の多い地域であるが、高齢者同士の交流が比較的多い地域である。

・最近に気になっていることとしては、孤独死の問題である。もう少し早く対処すれば何とかなる問題だと思う。

（1B）

・最近気になることは、マンションの中で老人会を立ち上げたが、今後どのようにしたら、マンションの住民が参加しやすくなるのかということである。

つながりを重視する相手について

（司会）

・どのような方とのつながりを大切にしているか。

（1B）

・家族とのつながりは大切にしている。現在、夫と二人で暮らしており、子供は都内の別の区に住んでいるが、孫を預かるなど、離れていても子どもとのつながりはある。

・また、現在、日本語ボランティアを行っており、足立区に住んでいる外国人のお世話をしている。このボランティアで知り合った主婦仲間との付き合いもある。

・マンションの中に65歳以上のグループがある。詩吟、囲碁、書道などのサークルがあり、活動を行っている。

・ご近所の縁は非常に大切だと感じながら、日々暮らしている。

（1A）

・地域に町会があり、男性は定年後加入される方が多いが、女性は、ほとんど加入していない。

・民生委員の集まりの時に話し合われることを、是非地域の高齢者や町会の方に聞いてほしいと思うこ

とはある。ただし、町会に行って意見を述べる機会がない。

(司会)

・なぜ、地域の方とのつながりを重視されているのか。

(1B)

・パーソナリティーによるところが大きい、人と話すのが好きというのが理由である。

・もともと別の場所に住んでいたが、子供が結婚し、夫婦二人暮らしになったので、マンションに住むことになった。

・現在のマンションに暮らし始めて、7~8年は特に近所との付き合いはなかった。そんなとき、今まで習っていた習字をもう一度習いたいと思うようになり、たまたまマンションの掲示板にサークルのお誘いのチラシが貼ってあったので、参加することにした。

・参加してみると、マンションの住民の方が集まっており、そうした方との会話の中で、地域の病院の評判などの情報やマンションの歴史などを耳にすることが多くなった。入ってよかったと思うようになった。

・ただ、そうした恩恵を受けているだけでは申し訳ないと思ったので、70歳以上の方のお宅を訪問するというボランティア活動に参加している。

・地域に町会があり、規模が大きい。マンションは、その町会の1支部である。ただし、町会とのつながりは希薄である。

(1A)

・せめて役員の方だけでも、高齢者二人住まいのお宅の様子などの情報をこちらに伝えてほしい。

・区からは、一人暮らしの高齢者を見守るように言われているが、高齢者二人住まいまでは見守るように指示されていない。

・民生委員になろうと思ったきっかけは、町会長に懇願されたことと、人のために役に立とうと思ったから。

災害が起きたときどうするか

(司会)

・災害が起きて、自宅から身動きが取れないとき、どのような行動に出るか。助けを求めても、隣近所から気付いてもらえるか。そうした近所づきあいをしているか。

(1A)

・3.11の時は、身動きがとれず、ただしゃがみこんでいた。

(1B)

・マンションであれば、声を上げたり、壁を叩いたりすると思う。

・3.11の時は、まずドアを開けて出入り口を確保した。隣近所の方もみな同じ行動をとっており、お互い、声を掛け合うなどした。

(1A)

・普段から会えばあいさつする関係ができています。地域の方のほとんどがそういうつきあいをしている。

(1B)

・助けを求めれば、助けてもらえる、気づいてもらえる近所づきあいはしている。ただ、マンションの

中で、体が悪い方のもとへ、誰がいつ安否を確認しに行くのか、組織的に何かが決まっているわけではない。

(1 A)

・おそらく、民生委員の方が、そうした情報を全部持っているはずである。

(1 B)

・町会で誰が民生委員なのか、よく分からない。

・私の住んでいるマンションでは、管理組合がしっかりしている。理事長が、地震の後、高齢者のお宅を訪問して、確認するなどの活動を行ったが、こうした活動は、規模の小さいマンションだからできることだと思う。

(1 A)

・確かに、区切りは小さい方はいいと思う。

・あるマンションでは、高齢者が無事な場合、黄色いリボンをベランダにかけるそうである。そうすると安否確認が誰でもできる。

(司会)

・マンションにお住まいの他の方は、平場の町会に加入されているのか。

(1 B)

・管理組合の総会で、マンションの管理費から、町会費を納めることになった。

(司会)

・マンション自治会に加入されている方が、平場の町会の地域活動に参加されるのか。

(1 B)

・ある。神社の祭礼のお手伝いなどに参加している。

・平場の町会で避難訓練を行っているようだが、マンションはマンションだけの避難訓練を実施している。

(司会)

・災害が起きたとき、隣近所の方を助けられるか。隣近所にどのような方がお住まいになっているか、わかっているか。そうした近所づきあいをしているか。

(1 A)

・近所に歩けない高齢者の方がいるので、その方を助けないといけない。

(1 B)

・消火訓練は行っているのですが、火災の大きさにもよるが、消火活動はするかも知れない。

(1 A)

・どこに避難するかは想定しているが、荒川の土手は危険かもしれない。

(司会)

・身近な避難場所を頭に思い浮かべられるか。

(1 B)

・3.11 の時、児童公園がすぐ近くにあるので、そこに逃げた。

・近くの学校が避難所になっているが、その学校よりさらに近い場所にある学校が最近改築された。そこに逃げたいが、地区が違うからということで、逃げられないかもしれないという不安はある。

- ・自分が動けないとした場合、自分ができることとしては、「ボランティア活動で担当しているマンションの5階から12階までの一人では歩けない」人の安否を確認してもらうよう、普段から仲間に言っておくことだと思う。

- ・一度、こうした訓練を行ったほうが良いとは思っている。

(1A)

- ・頭で考えるのと、実際に行動するのとでは大きく違うから、訓練は行った方がいい。

- ・電話がつながらなくても、メモさえ見られれば、それだけで安心すると思ったから、家の外に、ビニールの袋とメモを入れておいている。

(司会)

- ・避難所での生活が始まった時、町会の備蓄を町会以外の方にも配布することになった場合、それをどう思うか。

(1B)

- ・今住んでいるマンションが、町会を脱会してしまった場合、自分たちは物資をもらえないのではないかと心配になることはある。だから、そうした状況は容認すると思う。

町会に加入するメリットについて

(司会)

- ・町会に加入していて良かったと思うことはあるか。

(1A)

- ・町会に加入していると、回覧板で区からの情報を入手できる。

- ・仕事を抜きにしたつき合いができるということもメリットだと思う。

- ・同じ人が長年町会長を務めており、変化がなかったが、今は、サラリーマンを定年退職された方が町会に加入されて、随分と変わった。

地域活動について

(司会)

- ・地域活動に参加しているか。

(1A)

- ・民生委員という立場上、参加しなければならない。実際に参加すると、参加者が非常に少ない。

- ・防災士を各町会に1名配置できるようなことができるといいと思う。

(1B)

- ・町会の活動はほとんど参加しない。自分たちのやっている会で十分楽しんでいるし、十分活動している。

- ・地域学習センターの催しものには参加する。

(司会)

- ・地域の催しなどの情報は、どのような場所にあると効果的だと思うか。

(1A)

- ・住区センターでは、いろいろな催しをやっているようである。

・そのほか、地域の催しは、町会の掲示板や回覧板で知る。

(1 B)

・小学校と住区センターの催し物の案内は、マンションの掲示板に掲示されている。自分たちの活動の情報もマンションに掲示させてもらっている。

・ただし、地域学習センターの催し物の案内は、マンションに掲示されていない。町会の案内は一切ない。回覧板もない。

(司会)

・どうやったら地域活動への参加者を増やすことができるか。

(1 A)

・高齢の女性の参加者は多いが、男性が極めて少ない。地域包括センターで食事会をやっているが、9割は女性である。

(1 B)

・こちらでやっている活動では、男性の参加率が高い。女性は元気なら、一人でどこにでも行ってしまおうからだと思う。

・足腰が弱い高齢の女性をどうしたらイベントに参加してもらえるのが課題である。

(司会)

・男性を引き付けるには、または、女性を引き付けるには、どのようにしたらよいか。

(1 A)

・興味だけで引き付けるのは難しいと思う。人とのつながりを作ってからではないと、イベントには入りにくいのではないか。

(1 B)

・女性の高齢者は人見知りが多い。女性だけのイベントを打った方がいいのかもしれない。女子会をやってみたらいいのかもしれない。

孤独死・虐待について

(司会)

・孤独死や虐待を少しでも減らすには、地域でどのようなことをしていけばよいか。

(1 A)

・孤独死や虐待への対応は、いろいろなひとが気にかけていかないと出来ない。いろいろなところでそうした活動はしているものの、それを1つにまとめる姿が見えない。そこに不満がある。

・町会と民生委員とのつながりが無い。町会で話をする機会がない。

・民生委員として後期高齢者の名簿は持っているが、個人情報のため、管理を徹底するように言われている。

・民生委員として見回りに行くが、デイサービスを利用しているなど、訪問しても留守のケースは多々ある。

・民生委員をやっていて、高齢者の自殺を目の当たりにしたこともある。

・人に迷惑をかけてはいけないと考えている人もいれば、何でも人に頼りたい人もいる。

(1 B)

- ・基本的にボランティアでお宅を訪問する際は、玄関先でお話をする程度である。ただし、以前、指先が不自由な方で、コンセントにソケットを差し込めない方から、「手伝ってもらいたい」という要望があった。その時は、お宅の中に入って、お手伝いをさせていただいた。

(1 A)

- ・震災時に、ガスが自動的に止まったが、夫が近隣のお宅を訪問して、ガスを復旧させていった。近場で助け合うことは大切だと思う。

(1 B)

- ・マンションにおいては、そうした活動を管理組合にもう少し協力的にやってもらいたい、管理組合はハード面が対象なので、できないと断られることがある。もう少し、ソフト面でも協力的になってもらいたい。
- ・小さいことでもいいので、たとえば、エレベーターに乗ってきたらあいさつをする、声掛けをすればといった活動が重要なのではないかと思う。

(1 A)

- ・町会には子供会などがあるが、子供が卒業してしまうと、その母親は地域とのつながりが切れてしまう。本来であれば、そうした人たちが町会の婦人部に来てもらえればよいのだが、皆さん忙しいようである。

(1 B)

- ・町会の婦人部は敷居が高い気がする。

(1 A)

- ・だから入ろうとしないのだと思う。

(1 B)

- ・婦人部という言葉もよくないのではないかと思う。

(1 A)

- ・昔は、近所で不幸があると、婦人部の方が炊き出しをやっていた。その中で、婦人部を仕切る人が出てきていた。
- ・同じ組織がずっと続いていて、新陳代謝がない気がする。

第2グループ(60代以上)

平成24年3月24日 10:30~12:00 於 区民の声相談課 会議室

ヒアリング対象者

2A:60代女性(専業主婦)

2B:70代男性(無職 アンケート上は無職との回答)

2C:90代男性(無職)

当日1名欠席

出席者 区民の声相談課 川原井 エックス都市研究所 橋爪、麻生

最近気になること・関心ごと

(司会)

・最近、どんなことに関心を持っているか。気になっていることはどんなことか。

(2A)

・だんだん高齢化が進行し、要介護でも一人で住んでいる方が増えている状況である。自分も含め、今後どうなってしまうのだろうと気にかけている。

(2B)

・約600世帯ある築40年ほどの団地に住んでいるが、高齢化が進んでおり、若い人が流出した状況である。

・隣近所に頼れる人がいない。

・空き家も多く、東南アジアの人を居住させるようになってきた。そういった方は、あいさつすらしな

い。

(2C)

・災害時に備え、隣同士で話し合っていける場が必要なのではないかと常日頃思っている。

つながりを重視する相手について

(司会)

・どのような方とのつながりを大切にしているか。

(2C)

・人と話し合うことが何よりも大切だと考えている。外国の人が増えてきているという現状については、たとえば各国の言葉で「こんにちは」などの表現を紙に書いて見せてはどうか。そうしたらいずれは、コミュニケーションが取れるのではないかと考えている。

(2A)

・災害について、ご近所でも不安に思っていることはあるようだが、なかなか言い出せない雰囲気がある。

・何かきっかけがあると話ができるのかもしれないが、あまり各家庭に入り過ぎてはいけないということもあって、お互い不安を口にすることはない。

(司会)

・外国人の多い団地で、外国人の方とどのようなコミュニケーションをとったらよいと思うか。

(2 B)

・自治会があるが、自治会の役員がもう少し和をもつような会を作らないといけないと思う。

・平素から、何か集まって助け合うような会を作ることが大切になるのではないかと考えている。こうした会に、国籍は関係ないと思う。

(司会)

・町会や自治会に加入しているか。

(2 B)

・加入はしているが、あまり意味がないと感じている。

(2 C)

・老人会のようなものには、月に 1 回ある会合に参加している。

災害が起きたときどうするか

(司会)

・災害が起きて、自宅から身動きが取れないとき、どのような行動に出るか。助けを求めても、隣近所から気付いてもらえるか。そうした近所づきあいをしているか。

(2 B)

・団地の 1 1 階に住んでいるが、団地では、エレベーターがストップするだろうし、階段は下りられないと思う。屋上に逃げるしかない。

・隣近所は、高齢者一人暮らしばかりである。そのほか、外国人はいるが、あいさつなどは全くない。

・ただ、先日「あいさつをしなさい」と叱ったところ、あいさつはするようになった。

(2 A)

・3.11 の時も、家の外に出て、「大丈夫だったか」と声を掛け合った。

・30 年以上も住んでいるので、隣近所の方とのコミュニケーションはとれる。

・隣近所の方は、うるさい人が多い。面倒だと感じていたが、震災以降、そうも言ってはいられないと感じるようになった。

(2 C)

・隣近所との付き合いはある。災害時には、声をかけてもらえると思う。また、どこに逃げようかといった話もしている。

(司会)

・近所の方と、どの程度会話しているか。

(2 A)

・ご近所だから、あいさつぐらいはする。ただし、それ以上突っ込んだ会話をしたいとは思わない。

(2 C)

・近所の人と会えば、3.11 の話をよくするようになった。それまでは、近所の方とは、近所の別の方の悪口ばかり言っていた。

(司会)

・ご自身にとって、人との付き合いが多い地域が良いか、それとも、お互い干渉せず、わずらわしくな

い地域が良いか。

(2 B)

- ・団地は人の出入りが激しいうえ、現在、週数日は、会社に行っているので、近所の人との付き合いよりも、会社の人との付き合いが多い。

(司会)

- ・いずれリタイヤした場合、近所で会話をする場は大切だと思うか。

(2 B)

- ・住んでいる地域を大切にしたいと思うので、地域の人との会話の場は、大切だと思う。
- ・何か新しいサークルでもあれば、応援したいと思う。

(2 C)

- ・ゴミ当番などは、順番制なので、ゴミ箱などを次の当番の方のお宅に持っていくといったことはある。
- ・近くに要介護の方が住んでいるので、何かあった時は、助けてあげたいと思う。
- ・住区センターの催し物に参加している方は、和気あいあいと楽しんでいる様子である。

(司会)

- ・災害が起きたとき、隣近所の方を助けられるか。隣近所にどのような方がお住まいになっているか、わかっているか。そうした近所づきあいをしているか。

(2 A)

- ・できる限り、声をかけ、助けてあげたいと思う。
- ・避難場所は小学校だと分かっているので、みんなで小学校に逃げると思う。

(2 C)

- ・避難所はどこか分かっている。そこに逃げようと思う。

(2 B)

- ・災害が起きた時、逃げるとすれば、屋上しかない。

(司会)

- ・避難所での生活が始まった時、町会の備蓄を町会以外の方にも配布することになった場合、それをどう思うか。

(2 B)

- ・町会に入っているか入っていないかにかかわらず、全員に配るべきだと思う。

(2 A)

- ・誰が町会に入っているかわからないから、全員に配るべきだと思う。

(2 C)

- ・全員に配るべきだと思う。それ以前に、自分でしっかり備蓄しておくべきだと思う。

町会に加入するメリットについて

(司会)

・町会に加入していて良かったと思うことはあるか。

(2C)

・様々な情報が入ってくるだろうから、入っていないよりは、入っていた方良いと思う。若い世代は忙しいから難しいだろうが、高齢者は入ったほうがいい。

(2A)

・今住んでいる地区の町会長は、一生懸命活動を行っている。区と交渉して、高齢者の方のために横断歩道を作ったり、資材置き場を自転車置き場にしたりと、町会がなければやっていけないところはある。

(2B)

・自治会費は月300円だが、メリットがないため、脱会している人が増えている。ゴミについても、公団がすべてやるので、自治会があえてやる必要がない。そこが、戸建住宅地との違いではないか。

(司会)

・どういことをすれば、町会・自治会にメリットを感じるか。

(2B)

・自治会の幹事はボランティアなので、あまり協力的ではない。

・また現状、自治会加入のメリットが目に見えない。

・いざというときの連絡手段を考えてもらいたい。現在、足立区の緊急通報システムに月800円支払って加入しているが、こうしたものが無料にならないかと思う。

(2A)

・新たに開発された住宅に居住された方々へ、町会加入促進をしたことがある。「人数がいる分、班長の順番もそう多く回ってこないから」といって、説得に回った。皆さん気持ちよく加入してくれた。

・そういった方々は、町会のお祭りなどに参加されているようである。

(2C)

・今住んでいる地域は、人の出入りがあまりない。

孤独死・虐待について

(司会)

・孤独死や虐待を少しでも減らすには、地域でどのようなことをしていけばよいか。

(2A)

・近くに都営住宅があり、そこで子供の泣き声が聞こえた。周りの人は「ちょっと様子がおかしいのではないか」と感じていたようである。そんな折、都営住宅の方が、その祖母に声をかけたようである。

・そんなことがあって、みんなその祖母と孫を気にかけているようである。

・その祖母も、周りの目を気にし始めているのではないかと思う。

(2C)

・虐待をする母親は、近所との付き合いもないことから、ストレスなどたまったものを吐き出せないのではないかと思う。それを子供に吐き出してしまわないかと思う。

- ・それを解決するには、話し合いをすることなのではないかと思う。
- ・孤独死の場合も同様に、人と付き合わないこと、話し合わないことが孤独死発生の大きな要因だと思う。
- ・会話の中で、お互い認め合うということが大切ではないかと思う。

(2 B)

- ・ひとり暮らしのうえ、大病も患った身であるので、体が続くまで働かないと、全く会話がなくなってしまう。
- ・ただ、息子や孫が頻繁に連絡をくれるので、助かっている。
- ・教育環境が悪化していることが、虐待などにもつながっているのではないか。道徳教育が必要だと思う。

(2 A)

- ・今は親と同居しない時代である。逆に親が放っておかれる時代である。定期的に親に連絡することを義務だと思ってやっていかなければならないのではないかと思う。

第3グループ(20代~40代前半)

平成24年3月25日 10:30~12:00 於 区民の声相談課 会議室

ヒアリング対象者 3A:40代男性(役員・管理職)

3B:30代男性(専門技術職)

3C:20代女性(専業主婦)

当日2名欠席

出席者 区民の声相談課 林 エックス都市研究所 田中、麻生

最近気になること・関心ごと

(司会)

・最近、どんなことに関心を持っているか。気になっていることはどんなことか。

(3A)

・まさに「地域のちから」が気になっている。

(3B)

・税と社会保障の一体改革が気になっている。

・地域については、就職以来、朝から晩まで働いているので、家には週末ぐらいしかいない。

・同世代の方々が、縁や絆についてどうお考えなのかを知りたくて、参加させていただいた。

(3C)

・団地に居住している。引越の際に、下の階の方にあいさつしに行ったが、あいさつできずじまいである。子供がまだ小さいので、物音が気になるが、その物音をどう感じているのか、どんな人が下の階に住んでいるのかがすごく気になる。

つながりを重視する相手について

(司会)

・どのような方とのつながりを大切にしているか。

(3A)

・家族とのつながりを重視している。また、会社の人との縁も大切にしている。

・地域については、同じような境遇(40代で子供がいる)の方とのつながりを大切にしたいと思っている。

・まちのお肉屋や歯医者などとのつながりがあり、友達になっている。舎人公園も近いので、バーベキューをやったりもしている。

・子供の小学校のつながりによる母親同士のつながりや、子供会での付き合いなどを通じてできたつながりによって、父親同士もつながるようになった。

(3B)

・一番のつきあいがあるのは、職場である。2つ目は、学生時代の友人であり、3つ目は、家族である。

・地域とのつながりは、週末ぐらいしか家にいないので、かかりつけの歯医者、喫茶店、クリーニング屋のおばさんと、客としての会話をする程度である。

(3 C)

- ・子供がいて、外に出る機会が少ないので、家族とのつながりは大切である。夫や両親が助けてくれる。
- ・最近、少し余裕が出てきたので、以前勤めていた会社の友人と遊んだり、その友人に子供ができたりして、子連れで遊ぶことはある。
- ・近所については、引っ越して間もないこともあり、家にいることも多いので、あまり関わりがない。
- ・ただし、児童館で乳児向けのクラスがあるので、そういったものには参加している。そこで、連絡先を交換するような友人もできてきている。

災害が起きたときどうするか

(司会)

- ・災害が起きて、自宅から身動きが取れないとき、どのような行動に出るか。助けを求めても、隣近所から気付いてもらえるか。そうした近所づきあいをしているか。

(3 A)

- ・マンションに居住しているが、お隣に助けを求めることになると思う。
- ・マンションの規模もそれほど大きくないので、どんな方が住んでいるかは分かっている。
- ・おすそ分けをしたりされたりする間柄である。

(3 B)

- ・となりにどんな方が住んでいるかはわからない。ただ、災害が起きてしまって、身動きが取れない状況であれば、近くの方に助けてもらうしかない。
- ・住んでいる地域が商業地域なので、誰かに気付いてもらえるのではないかと思う。
- ・自分が引っ越してきた時はあいさつしたが、新築のマンションなので、引っ越してこられる方が多い。ただし、今のところ、引越のあいさつをしに来られる方はいない。
- ・現在住んでいるマンションには、同じような世代の方が住んでいらっしゃる。

(3 C)

- ・団地の 11 階に住んでいる。片側の部屋には、誰も住んでいない。もう片方の部屋には、共働きの若い夫婦が住んでいるが、昼間はほとんどいない。
- ・上の階の方に助けを求めることになるが、上の階の方は、以前あいさつに行ったとき、あいさつを拒絶されてしまった。
- ・子供が小さいので、自分が守らなければいけないと強く思う。

(司会)

- ・携帯電話がつながったらどうするか。

(3 B)

- ・まずは家族に無事を伝えると思う。

(司会)

- ・災害が起きたとき、隣近所の方を助けられるか。隣近所にどのような方がお住まいになっているか、わかっているか。そうした近所づきあいをしているか。

(3 A)

- ・その時冷静であるという前提のもとで話をすると、おそらく遠くの家族より近くの方の安否確認をす

と思う。

(3B)

- ・火災が一人ぐらいで消せるようなものであれば、何とか対処したい。それが難しければ、なんとか人を集めてみんなで消そうと思う。
- ・町屋で一昨年火災があり、周りを歩いている人たちが、協力し合って火を消していた。皆さん自然と役割分担して行動していた。

(3C)

- ・自分の身を確保するのが最優先だと思う。避難所に行って冷静になった時に、もう一步踏み出せるのかなと思う。
- ・正直、人のことを考えている余裕が持てるのかどうかわからない。

(3A)

- ・小学校や保育園でしっかり子どもの身を守ってもらえていると分かって初めて人のことを考えられると思う。

町会・自治会について

(司会)

- ・町会や自治会に入会しているか。または、ご自身が住まわれている地域に町会や自治会が存在していることをご存じか。

(3B)

- ・まちなかで町会の掲示板をよく目にするので、町会があることは知っている。ただ、加入の勧めのようなものはどこにもないので、加入もしていないのが現状である。
- ・そもそも平日いないことも、加入していない理由かもしれない。

(3C)

- ・町会・自治会には加入していない。特に勧誘されなかった。ただ、掲示板には「町会・自治会に入りましょう」というチラシは目にする。
- ・具体的にお金を払ってまで入るメリットが分からない。
- ・子供ができる前までは、夫婦共働きだったので、忙しくて活動に参加することはできないし、子供ができると育児で、活動に参加することはできない。

(3A)

- ・少し前まで入っていなかったが、お声掛けがあり、マンション自体で町会に加入することになった。
- ・子供つながりで、町会の活動に担ぎ出されることは多い。町会では若いお父さんを探しているようである。
- ・ボランティアのような形で協力してくれないかということで、運動会などのイベントの手伝いをしている。
- ・役員をやってくれと言われても、仕事もしているのでできないと思う。

町会に加入するメリットについて

(司会)

- ・どんなメリットがあれば、町会に加入してもよいと思うか。

(3C)

- ・小さい子供を持つ親はたくさんいるし、子供を育ててきた人たちもたくさんいるので、子育ての先輩から話を聞いたり、相談したりする機会があれば町会活動に参加する意義はあると思う。
- ・ただし、すでに出来上がっている組織の中に、一人で入るのは抵抗があるので、これから入ろうとしている同じぐらいの子供を持つ親同士が「一回集まってみましょう」というような機会があって、その次のステップとして、子育ての先輩に話を聞く機会を町会で設けてもらえれば、町会に参加しようと思う。
- ・実家のほうでは、強制的に入っているが、いざ自分が町会に入るとなると、何をやっているのかわからないし、どういう人たちがいるのかもわからないので、不安であるし、敬遠してしまう。

(3B)

- ・町会・自治会にどういう人たちがいるのかが分からないと、二の足を踏んでしまうと思う。
- ・こういうメリットがあればというが、メリットを町会・自治会が提供してくれるというのは難しいのではないかと思ってしまう。
- ・同じ境遇や同じ世代の方がいらっしゃれば、参加してみようかなという思いにはなる。
- ・今日の座談会の出席も、最初は、行くのをやめようかなと思っていたが、同じ世代の人が来るのであれば、行ってみようかなと思って、参加することにした。
- ・同じ環境、同じ境遇でないと、話が合わないのではないかと思う。

地域活動について

(司会)

- ・地域活動について、参加したことがあるか。

(3C)

- ・団地の中で盆踊りがあるので、参加した。それ以外は特にない。
- ・同じような子供連れの方もいらっしゃったが、その方々は、保育園のつながり同士で集まっているようで、その中に入っていくのは難しいと感じた。

(3B)

- ・夜まわりをしているのを目にすることはあるが、自分が参加することはない。
- ・地域活動は面白そうだとは思いますが、夜まわりにしろ、祭りのみこし担ぎにしろ、日頃から練習を重ねてできるものなので、そこまで関与はできないと思ってしまう。ある程度、活動にコミットメントしないといけないのではないかと思ってしまう。

(3A)

- ・地域活動に参加したきっかけは、声をかけてもらって誘ってもらったことだと思う。
- ・もっと気軽に、町会・自治会がお誘いすることが大切なのではないかなと思う。

(3B)

- ・どのような地域活動をしているのか、その情報があるといい。

- ・相手を知らないけれども、メリットがあるから、活動に参加するというのは、取引の世界のような気がする。町会は、そういった取引の世界とは違う気がする。

(司会)

- ・地域活動をどこでお知りになるのか。

(3C)

- ・区の広報紙には目を通してている。どんなイベントがやっているのかチェックしている。休日の当番医が載っていたりするの、それを見つつ、他にどんなイベントがやっているのかをチェックしている。

(3B)

- ・広報紙や公共施設の掲示板で見る。
- ・中央図書館が近くにあるので、そこで目にするが、頻度としては、広報紙が多い。

(3A)

- ・日頃活動自体に参加していると、「よく見る顔の人がいるな」ということに気付いたり、小学校や中学校でスポーツなどを行っているのをみると、「何か地域でやっているな」ということに気付く。

(司会)

- ・ちなみに、今お住まいになっているところにこれからも住むつもりはあるか。

(3B)

- ・今は独身だが、家族ができれば、引越するつもりである。

(3C)

- ・長く住むところではないなとは思っている。

(3A)

- ・生まれも育ちも足立区だということもあるので、「この街に根付くんだらうな」という思いはある。
- ・どうせ根付くのであれば、皆さんのことを知っておくことは大切だと思っている。

孤独死・虐待について

(司会)

- ・孤独死や虐待を少しでも減らすには、地域でどのようなことをしていけばよいか。

(3A)

- ・高齢者でひとり暮らしされているような方が、どこにいらっしゃるのかを知ることが重要だと思う。
- ・知る手段を教えてくれれば、実行に移せるのではないかなと思う。

(3B)

- ・孤独死にしても虐待にしても、地縁、血縁などが切れていると起こりやすい。
- ・孤独死や虐待だけを取り上げてみると、訪問や介入という手段が取られるようだが、介入はものすごくハードルが高い。
- ・「知っている」ことが孤独死や虐待を防ぐ直接的な手段にはならないが、「知らない」と何もできないと思う。

(3C)

- ・部屋が常に暗いのに、チラシが入っていたりして、住んでいるかどうかわからない部屋がある。

- ・マンションの掲示板には、そういったお宅を見たら通報してほしいとの張り紙があるが、通報してよいかどうか迷ってしまう。どうしても見て見ぬふりをしてしまう。
- ・「知る」といっても、どうやって知ったらいいか難しいところである。以前、テレビで、小さな旗を立てて安否確認する小さなまちが紹介されていた。旗が立っていないければ、声をかけるというものであったが、もしそれを足立区でやろうとすると、犯罪につながる可能性がある。
- ・かといって、マンションの管理会社に尋ねても教えてくれないと思われる。こちらからひとり暮らしの方に声掛けするわけにもいかないので、一人になっている本人に前に出てきてもらうしかない。
- ・一人になっている本人が前に出てきやすい街づくりをしていかないといけないと感じる。

(司会)

- ・放置によって乳幼児が亡くなった事件が起きたマンションでは、これ以上悲劇を起こさないためにも、マンションの住人たちが顔見知りになるコミュニティを作ったそうである。もし、こうしたコミュニティがあった場合、参加したいと思うか。

(3C)

- ・参加したいと思う。地域との関わりを保つためにも、児童館に行っている。
- ・半ば強制的に集まらせてくれるのであれば、すごく参加しやすい。

(3B)

- ・興味は持っても、足を運ぶことは難しい。だから、呼びかけ側が頑張ってもらわなければならない。
- ・入口は、広く低くして、なるべく「重たそう」「面倒そう」と思われたい緩さがあると良いのかもしれない。

(3A)

- ・きっかけがあれば、参加可能である。
- ・気軽に参加できる場を提供してもらえると、肩肘張らずに参加できるのではないかと思う。

(司会)

- ・ちなみに住区センターを利用されたことはあるか。

(3C)

- ・よく利用する。

(3A)

- ・話を聞いていて、住区センターをもっとよく利用すべきだと感じた。もっと機能を持たせて、若い人たちが集まれるような場所にしてはどうか。たとえば、カフェのようにしてはどうか。

(3C)

- ・今日、座談会に参加して「実は自分をもっと地域に関わりたいんだ」ということを認識させられた。
- ・今までは、そんなこと考えていなかった。「地域に関わりたいんだけど、関わられていなかっただけなんだ」と思った。
- ・これからは一歩踏み出してみようと思った。住区センターに行く回数を増やして、友達を増やしていてもいいなと思った。

(3B)

- ・お年寄りの方は、地域で集まることそれ自体が生活の一部であり、楽しみの一部であると思うが、若い人は、地域で集まること以外に、やらなければならないことがいっぱいある。

- ・ 20代30代は、NPOやボランティアが存在感を出してきたころに、学生時代や社会人としてすごしてきているので、地域活動などに関心はあるのではないかと思う。

第4グループ(40代～60代前半)

平成24年3月25日 13:00～14:50 於 区民の声相談課 会議室

ヒアリング対象者 4A:40代女性(専業主婦)

4B:50代男性(専門技術職)

4C:40代女性(専業主婦)

4D:60代女性(自営業)

当日1名欠席

出席者 区民の声相談課 川原井 エックス都市研究所 田中、麻生

最近気になること・関心ごと

(司会)

・最近、どんなことに関心を持っているか。気になっていることはどんなことか。

(4A)

・1歳10カ月の子どもがいる。育児に追われ、世間の情報がつかめていない。育児のことで悩むこともあるので、育児に関する情報をインターネットや子育て支援センターなどで収集している。

(4B)

・最近足立区に引っ越してきた。

・大震災を機に、地域の防災や防犯に興味を持っている。

・定年を機に地域に関わることができればと思い、座談会に参加した。

(4C)

・もっとも気になるのは、夫の両親の介護である。これからどうやって介護していくべきかに関心がある。そうした介護について、行政がどうバックアップを行ってくれるのか、情報を収集している。

・また、子供が高校2年生になり、大学受験のサポートをどのようにしていったらよいか、情報を集めている。

(4D)

・長年足立区に住んでいる。自営業を営んでいる。

・仕事柄、多くの人から「絆」という言葉を聞くが、「絆」とはそう簡単にできるものではないと感じている。

・何度も人と話をして、その人のことをよく理解しなければ、絆はできないのではないかと感じている。

・一方、地域には、古くから住んでいる方がいるが、その方々だけのために、お互い活動しているようなところがあり、マンションやアパートまで地域の情報が入り込んでいないことが問題であると思っている。

・地域の活動など、マンションやアパートに居住されている方々に伝わらなければならないと思うが、全く伝わってこない。もう少し、情報が行き渡るようにしなければダメなのではないかと感じている。

つながりを重視する相手について

(司会)

- ・どのような方とのつながりを大切にしているか。

(4A)

- ・以前は仕事をしていたが、子供ができて以降は、接する方といえば、子供をもった方である。
- ・散歩している時には、おじいさんやおばあさんに声をかけていただくことはある。
- ・普段は、子供とマンションにいるだけなので、イライラすることも多いが、公園で見ず知らずの人に声をかけてもらえるだけでも、意外とせいせいすることがある。
- ・マンションは比較的小規模なので、3分の1ぐらいの方は、どんな方が住んでいるかはわかる。
- ・マンションだと、上の階、下の階など、うるさい場合苦情が入ったりするので、そういった中で、顔見知りになることはある。

(4B)

- ・家族とのつながりは非常に大切だと考えている。そのほか、会社関係のつながりも大切であるが、退職を機に、近所との付き合い、つながりが今後ウェイトを占めてくるのではないかと考えている。
- ・以前住んでいたところは、隣近所の家族構成などよく分かっていたが、今は新しい大型マンションに住んでおり、隣近所がよく分からない。
- ・何かあった時に、お互い助け合うような関係を築きたいと思い、常日頃から、隣近所と信頼関係を築ければと考えている。
- ・そのためには、まず会って話すしかないと考えているが、個人情報保護法の壁もあり、どこに誰が住んでいるのか分からない。個人情報保護法が、人間関係を築く妨げになっている。

(4C)

- ・今の場所に引っ越して十数年経つが、引っ越してきた当時と、今住まわれている方が随分と異なる。つくばエクスプレスの開通で、家が建ち始める一方で、流出する方も増えている。子供が幼稚園の頃から仲よくしていた方々が、遠くに引っ越してしまい、知らない方が近くにいる状況になっている。
- ・周りの一戸建てに住んでいる方々とはよく話はするが、新しく入って引っ越しされてきた方々がどんな人なのか、よく分からない。
- ・今住んでいる地域には、町会があり、かつては町会に力があつたが、人が流出してしまっていて、町会自体の力が弱まってきている。
- ・新しく引っ越しされてきた方々が、町会に加入しない。新しく引っ越しされてきた方はあいさつにも来ないので、どんな方がいらっしゃるかわからない。ただ、犬の散歩などを通じて、「犬友」になる方はいらっしゃる。そこから交流するようにはなっている。
- ・学校の選択制もあり、昔からよく知っていた子供とその親とは会わなくなってしまうことも多々ある。

(4D)

- ・子供を育てていたころは、人のことなど考えている余裕はなかったことを思い出した。ただ、時間が経つてみると、「その時が一番楽しかったんだ」と思える。
- ・縁や絆を作るには、やはり地域なのではないかと思う。親戚も、遠くにいたら何の役にも立たない。一番大切なのは、家族、その次に地域なのではないかと思う。
- ・個人情報保護法など昔はなかったから、誰がどこに住んでいるのかはわかったが、今はそうではない。

状況に応じて、個人情報保護の規制を緩和してもよいのではないかと思う。

- ・ 実は、近所づきあいはほとんどない。だからこそ、地域との関係性が重要だと感じる。
- ・ なるべくマンション内で会う人には挨拶するようにはしている。

災害が起きたときどうするか

(司会)

- ・ 災害が起きて、自宅から身動きが取れないとき、どのような行動に出るか。助けを求めても、隣近所から気付いてもらえるか。そうした近所づきあいをしているか。

(4 A)

- ・ 3.11 の時、偶然外出しており、周りにも人がいた。一人じゃないというのは本当に心強いものだと感じた。
- ・ 同じマンションに1～2人程度は、自分のことを知っていて助けてくれる人はいるのではないかとと思う。
- ・ 3.11 の日に、マンションにいた方々は、いろいろと情報交換されていたそうで、あとになって、「当日は、いらっしやらなかったのですか」といって声をかけてもらった。

(4 B)

- ・ 声が届く範囲の人にしか、助けを求められないと思う。ただ、常にLEDのペンライトや笛などを携帯し、声が出せないときでも、自分がここにいるという情報発信ができるようにはしている。
- ・ 災害が起きた時、隣の方ぐらいは、声をかけてもらえるのではないかと考えている。なるべく、普段からエレベーターの中などで、あいさつはするようにはしている。
- ・ マンション全体でなくてもいいから、何かきっかけをつくって、災害のためのイベントなどを行い、向こう三軒両隣の関係性を築いていきたいと考えている。

(4 C)

- ・ もし家にいるとしたら、左隣の方は働いているので、助けを求めるのは不可能である。その隣の方は、地主で、老夫婦が住んでいるので、その方々に助けを求めることはできる。
- ・ 右隣には会社があり、会社の方とは顔見知りなので、なんとかなるのではないかと考えている。
- ・ 町会に加入されている方々は、町会でどこに逃げるのか、どこに物資があるのか分かっているはずである。新しく引っ越しされてきた方は、そういったことが全く分からないと思う。

(4 D)

- ・ 同じマンションに、子供がいるので、子供が駆けつけてくれることだけは確かである。
- ・ 子供とは、どこに逃げるのかは決めてある。

(司会)

- ・ 災害が起きたとき、隣近所の方を助けられるか。隣近所にどのような方がお住まいになっているか、わかっているか。そうした近所づきあいをしているか。

(4 D)

- ・ 3.11 の時も、お客さんを連れて神社に逃げた。心に余裕があれば、隣近所の方を助けると思う。

(4 C)

- ・ 3.11 の時は、たまたま家にいた。となりの会社の人から声をかけられたほか、友人からはメールが多

く届いていた。

- ・新しく引っ越しされてきた方は、家の外に出て茫然自失としていた。そういった方々に、いざとなった時の逃げ場はどこなのかを説明した。その後の余震の時は、みんなで小学校に逃げた。

(4D)

- ・そういうことを考えると、避難訓練は大切だと思う。

(4C)

- ・以前、防災パトロール隊というのがあり、小学校の子どもをもった保護者が地域を見回っていた。それで誰がどこに住んでいるのかといったマップを作成した。
- ・その際、特に高齢者の方などのお宅へお伺いし、緊急の連絡先を聞いて回ったり、会社の方々には、何かあった時に手助けしてもらえるかという交渉を行った。
- ・その当時住まわれていた方は、こうした取り組みをよく理解しているが、新しく引っ越しされてきた方は、よく分からないと思う。
- ・小学校の校長先生も代わり、町会も弱まっているので、こうした取組が今できているのかわからない。こうした活動を継続していくには、区の力が必要なのではないかと思う。

(4B)

- ・せっかくできたシステムが、メンテナンスができないために活用できないのはもったいないと思う。
- ・いろいろシステムを作っても、それを使う環境が変わっていくので、それに合わせてシステムを改良していかなければならない。
- ・昨日、マンションで防災訓練を行ったが、消防署の方からは、まずは「自助」、その次に「共助」、そのあとは「公助」と言われた。
- ・日頃からの準備と、訓練や練習が必要であり、訓練や練習はイベントを通じて行うことで、地域の多くの方が集まってくるという記事があった。
- ・携帯電話がつかない可能性があるのも、公衆電話のある場所を知っておくことも必要だと思う。

地域活動について

(司会)

- ・地域活動に参加したことがあるか。

(4A)

- ・子供が生まれてからは、住区センターで開かれる0歳児向けのイベントには参加している。
- ・こうしたイベント情報は、家にチラシが入ってくるわけではないので、住区センターなどに掲示してあるチラシを自分で取得しなければならない。
- ・児童館でのイベントは、図書館などの公共施設に行った時に、チラシを見て、チラシを持ちかえって、イベントの日程などを確認している。
- ・地元が静岡なので、子供のころは防災訓練をかなり多く経験したが、大人になってから防災訓練はやっていない。参加できる防災訓練が少ない気がする。こじんまりできる防災訓練があれば、参加したい。

(4D)

- ・あまり参加したことはない。平日に行われると、仕事しているので、参加できない。

・地域で「地域活動を本当にやる」ということが分かれば参加したいが、チラシを見ただけでは参加しようとは思わない。

(4B)

・昨日行った防災訓練の人数を数えたところ、2000人ぐらい住んでいるうちの150人~200人程度である。1割程度しか参加していない。本当に参加率が悪い。

(4D)

・知っている地域の人が「防災訓練があるので、参加しましょう」と誘ってもらえれば、参加しやすいが、チラシだけで「やりますよ」と言われても、参加しづらい。

(4C)

・町会で年に3回防災訓練を行うが、町会に加入している人が対象である。町会に加入していない人には、開催の打診をしてくれない。

(4D)

・町会に加入していない人でも、同じ地域に住んでいる人だから、情報をしっかり発信すべきである。

(4C)

・町会があるというPRすら、行っていないようである。

(司会)

・町会が衰退した理由はなにか。

(4C)

・町会の会費の不透明性に原因があるのではないかと思う。会員が不信感を持ってしまった。

(4B)

・本来ならば、防災のために地域でまとまるうなどという同じ目的があるのが町会なのだから、利益を目的にしてはいけないと思う。

(4D)

・運営の透明性をしっかり保たねばならないのではないかと思う。

(司会)

・町会に加入しているか。

(4C)

・以前加入していたが、退会した。

(4D)

・加入していない。地域の掲示板などを見て、町会があって、何らかの活動をしているのかを知る程度である。

(4B)

・町会活動をPRしなければならぬことを分かっている人たち、最初にシステムを作り上げた人たちが地域に勧誘の声掛けをするなどして動かないといけないと思う。また、そのシステムを維持するために、どうしたらよいかを考えながら行動しなければいけないのではないかと思う。

(4D)

・そもそも町会長が誰だかよく分からない。

・神社でお祭りがあるが、何か協力しても、町会に加入していないし、顔を知っている人もいないので、

顔見知りの人に比べると、待遇が冷たい。そういった祭りに参加しようという気持ちがなくなる。

(4C)

・町会は、町会の外にいる人に対してとても冷たく感じる。

(4D)

・田舎で生活している人は、いくら距離が離れていても、1日に人と会わない日はない。ところが、都会の人は、自分ひとりである。人の温かさがない。

(4A)

・自分が町会に加入しているのかわからない。ひょっとしたら管理費から町会費が差し引かれている可能性もある。

・町会のイベントなどの情報が回覧板で回ってくることもない。マンションの掲示板にたまに情報が載る程度である。

(4C)

・実際、町会のイベントは少ない。外にアピールしている活動は、草刈り、廃品回収、盆踊り、地域の運動会程度である。あとは、町会員の中で行うイベントで、慰安旅行や食事会など外にアピールするようなイベントではない。

(4A)

・そういうことであれば、マンションの掲示板に貼ってある。町会員なのかもしれない。

孤独死・虐待について

(司会)

・孤独死や虐待を少しでも減らすには、地域でどのようなことをしていけばよいか。

(4C)

・主人の実家のほうでは、地域とのかかわりが非常に薄い。自分たちが訪問しなければ、孤独死してしまう環境にある。

・両親たちが出たがらないのもあるが、何のお知らせも来ない。町会や自治会が存在していないようである。

・両親は、マンションに住んでいるが、マンションでは、決まった人しか見かけない。マンション内に自治会がないようである。

(4B)

・自分にとって、それが価値あるものかどうかで、町会・自治会に加入するかどうかを決めているのではないか。

・町会・自治会側は、どれだけ価値あるものかを訴えていかなければならない。

・孤独死ということであれば、民生委員の方が動いていらっしゃるようである。民生委員の方の受け持つ数は相当数に及ぶと聞いた。地域で人を増やして見守り、支え合うことは必要だと思う。

・こうしたことも、ある程度人間関係ができた地域で小さな草の根的なつながりがあって、初めて動くものなのではないかと思う。当然こうしたつながりは、災害時にも役に立つし、孤独死にも機能すると思う。

(4 C)

- ・子育てしている人たちにとっては、足立区は少しずつ良くなっているのではないかと思う。ただ、高齢者に対しては、まだ不十分なのではないかと思う。
- ・高齢者の方々は、プライドを持って生きていらっしゃる方が多い。こういった方々を理解して、係わりを持てるような人たちを増やしてほしいと思う。
- ・こういった方々は、ケアマネージャーが土足で自分たちの中に入ってくることを嫌う。

(4 D)

- ・精神面で、お年寄りの方々が納得してもらえそうな人を行政のほうで増やしてほしい。また、もっとわかりやすい言葉で接してほしい。

(4 B)

- ・弱者の心を土足で踏みにじるようなことのないように配慮しながら、その人たちのニーズに応じて対応することが大切である。
- ・そういった精神的なケアができる人が必要なものであり、若い方には無理なのかもしれない。

(4 C)

- ・外に出られればいいが、外に出られない人もいる。その方々のケアのほうがか大切である。

(4 D)

- ・子ども手当など、子供に対しての政策は行われているが、高齢者への対応・配慮がないのではないかと感じる。

第5グループ(30代)

平成24年3月25日 15:00~16:30 於 区民の声相談課 会議室

ヒアリング対象者 5A:30代女性(専業主婦)

5B:30代女性(事務職)

5C:30代女性(事務職)

出席者 区民の声相談課 川原井 エックス都市研究所 田中、麻生

最近気になること・関心ごと

(司会)

・最近、どんなことに関心を持っているか。気になっていることはどんなことか。

(5A)

・震災以来、子供への放射能の影響が一番の関心ごとである。

・子供がこの春に、入学するので、その対応に追われている。

(5B)

・近所の学校が小中一貫校になったが、それが果たして成功するのかが気になる。

(5C)

・生まれてからずっと足立区に住んでいる。最近、K-POPにはまっている。

つながりを重視する相手について

(司会)

・どのような方とのつながりを大切にしているか。

(5A)

・やはり家族とのつながりが一番大切である。その次に、友人である。

・本当は、地域とのつながりを持ちたいとは考えているが、なかなか近所づきあいが無い。

・社宅に住んでいるが、社宅内のつきあいはない。あいさつを交わす以上のつきあいはない。

(5B)

・家族、職場の人との絆はある。

・近所の方は、全く知らない方ばかりである。もう少し近所の方とは仲良くしたいと思う。

(5C)

・親と同居しているので、家族とのつながりは大切である。また、職場の人とのつながりも大切である。

・生まれてからずっと足立区なので、友達との付き合いもある。幼馴染との付き合いもまだある。

(司会)

・趣味やスポーツなどの目的で集まった方々とのつながりはあるか。

(5B)

・ジャズをやっているので、その仲間との付き合いはある。

(5A)

・足立区の風の子カルチャーには参加し、サークル参加者とはいろいろと話をしたが、サークルの外で

会うことはない。

(5C)

・山に登ることはあるが、その時に、友達の友達と知り合いになることはある。

(司会)

・家族以外に会話が深い人たちはだれか。また、インターネットなどで会話する人たちはいるか。

(5A)

・以前、ミクシーに登録したことがあるが、登録したての頃は、物珍しさから、ミクシー内のサークルに登録していたが、忙しくなると、リアルに付き合いのある方以外のつきあいは疎遠になりがちである。

・ツイッターなり、フェイスブックなりは、登録はしているが、あまり使ってはいない。結局直接付き合いのある方との付き合いが優先される。

(5B)

・ネット上で異業種交流会のようなものは行っている。そのあと、一度実際にお会いしたことはあるが、忙しいので、なかなか継続してできない。

(司会)

・ネット上の知り合いと縁や絆を感じるか。

(5B)

・縁としては感じるが、絆ではないと思う。

災害が起きたときどうするか

(司会)

・災害が起きて、自宅から身動きが取れないとき、どのような行動に出るか。助けを求めても、隣近所から気付いてもらえるか。そうした近所づきあいをしているか。

(5C)

・周りに存在は知られていると思う。

(5A)

・隣にどんな家族が住んでいるかぐらいはわかるが、震災時に、「あの人大丈夫だろうか」と思い合えるかどうかは疑問である。

(5B)

・そういった存在はいないと思う。

・分譲マンションに住んでおり、自治会にも入ってはいるが、あまりお互いを干渉したりすることがない。

(司会)

・災害が起きたとき、隣近所の方を助けられるか。隣近所にどのような方がお住まいになっているか、わかっているか。そうした近所づきあいをしているか。

(5A)

・社宅の中であれば、おぼろげに誰がどこに住んでいるのかはわかると思う。社宅の外に出てしまうと、わからない。

(5 B)

- ・近所にどんな方が住んでいるか、よく分からない。住んでいる地域は、若い方が非常に多い地域であり、出入りが激しい地域なので、今誰がどこに住んでいるのかはわからない。

町会・自治会について

(司会)

- ・お住まいの地域に、町会・自治会があるのをご存じか。

(5 C)

- ・ずっと足立区に住んでいるので、町会があるのも知っているし、加入もしている。ただ、親が町会活動を行っているのであり、自分自身は活動の中身までよく分かっていない。
- ・小さい頃は、ドッジボール大会や廃品回収などイベントがあって、子供たち同士が仲良くなり、親同士も仲良くなったが、最近は、住んでいる地域でそうしたイベントをやっているかどうか分からない。小さい子供が減っているので、そういったイベントがなくなっている可能性もある。
- ・今現在、そうしたイベントなどに参加することはない。
- ・子供が減っていることに加え、近年建ち始めているマンションの居住者は、マンションの自治会に加入してしまうことなどにより、イベントの規模が小さくなっているように感じる。

(5 A)

- ・社宅には自治会はない。社宅のある地域の町会と社宅の関係がどうなっているのかもよく知らない。
- ・お祭りなどの情報は、まちの掲示板に貼られていたり、実際にお祭りをやっているのを目にして、「やっているんだ」と認識はしている。

(5 B)

- ・自治会にお金を払っているだけで、お祭りなどのイベントをやっているかどうかわからない。

地域活動について

(司会)

- ・地域活動に参加する条件は何か。

(5 A)

- ・地域活動に参加したいとは思いますが、情報がないので、参加できていない状態である。情報があれば、参加したいと思う。

(5 C)

- ・あまり今必要性を感じていない。
- ・結婚をして、子供ができれば、参加したいと思うのかもしれないが、今は、自分から参加しようとは思わない。

(5 B)

- ・情報があれば、やりたいとは思う。
- ・地域では何かやっているのかもしれないが、分譲マンションの居住者には、何も知らされていない状況である。結局、参加してはいけないのではないかとってしまう。
- ・回覧板なども回ってこない。

(司会)

・地域ともっとかかわっていきたいのか、それとも、あまり干渉されたくないのか、どちらか。

(5A)

・もっと地域とかかわっていきたいと思う。それは、今仕事をしていなくて、忙しくないからかもしれない。仕事をされている人は、休みの日は休みたいと思う。そういった人たちの代わりに、私たち専業主婦が地域のためにもっとできることがあるのではないかと思う。

(5C)

・地域の中に入り込んでいる気ではいる。ただ、あまり地域の人と話す機会もないし、会っても立ち話することもないので、希薄にはなってきているとは感じている。

(5B)

・関われば関わりたい。

(5C)

・かつて父親は野球を、現在では、母親は町会のカラオケサークルに参加しているが、私たちの世代が参加するような活動がない。

(司会)

・地域活動に参加するために必要なことはなにか。

(5A)

・参加してみて、自分に合わないと感じた時に、簡単に抜け出せないような気がする。

(5C)

・軽い気持ちで参加できるといいと思う。

(5A)

・気軽に参加できて、気軽に休むことができるようなものであれば、いいと思う。

(司会)

・「こんなイベントがあれば、参加するのに」というようなものはあるか。

(5B)

・お祭りのボランティアなどがあれば参加する。

・会社が地域活動の一環で、社員何名かを地域の大きなお祭りに参加させることがある。実際に参加してみてすごく楽しかった。

(5C)

・足立区で地区対抗の運動会をやったら楽しいのではないか。小さい子供やお年寄りが参加する競技を設ければ、地域に声掛けをすることができるのではないかと思う。地区の連帯感も生まれるのではないかと思う。

(5B)

・たとえば、小学校で演奏会があるので、それに参加する人を募るといったことも考えられる。

(5A)

・地域の児童館で様々なイベントをやっているようであるが、自分で調べて、イベントがやっていることが分かれば参加するが、わからないこともある。

(司会)

・住区センターや地域学習センター、中央図書館などの施設を利用したことはあるか。

(5C)

・小さい頃は、児童館に遊びに行っていたが、今は図書館ぐらいしか利用しない。

(5B)

・引っ越ししてきた当初は、よく図書館に行っていたが、最近は行っていない。

(5A)

・児童館や図書館、住区センターにはよく行く。また、子供を連れて、親が習い事できるイベントもあるので、そういったものにも参加する。

・住区センターで知り合って友人になる人もいる。

(5C)

・児童館に遊びに行く時に、親同士が仲良くなる姿は見たことはない。

(5B)

・書類などを受け取る時に、住区センターにいったことはある程度である。

(司会)

・地域活動がおこなわれていることをどうやって知るか。

(5A)

・広報で見ることが多い。その場で見て、参加しようと思っても、しばらく先のイベントだと忘れてしまうことが多い。

(5C)

・足立ケーブルテレビで、イベントの情報を目にするにはある。

(5B)

・広報は読む。

(司会)

・町会の掲示板や区の掲示板を立ち止まって見ることはあるか。

(5A)

・見ることはほとんどない。

(5B)

・同じく、見ることはほとんどない。

(5C)

・同じく、見ることはほとんどない。

(司会)

・地域のイベントなどが、区のホームページで見られる場合、見るか。

(5A)

・見ないと思う。広報紙でイベントを見て、その広報紙を捨ててしまった場合、どんなイベントがあったかなと確認するぐらいでしか区のホームページは見ないと思う。

・何も無い状態から、区のホームページにアクセスして地域情報を観ようとは思わない。

(司会)

・実際に、足立区のホームページを見たことはあるか。

(5 B)

・ないと思う。

(5 C)

・1回ぐらいしか見たことがない。

(司会)

・よく見るサイトは、どんなサイトか。

(5 C)

・家にパソコンがないので、携帯で調べ物をするぐらいである。あまりインターネットにアクセスしない。テレビで情報を得ることのほうが多い。

(5 A)

・よくパソコンを使う。ネット通販やオークション、趣味のサイトなどをよく閲覧する。調べたいことがあれば、「まずパソコン」を使うようになっている。

(5 B)

・新聞の電子版程度しか見ない。

(5 C)

・足立区内の病院を調べたりはする。区で検診を行っているが、そういった情報を得たりはしている。知らないと思えることが結構あると思った。

(5 A)

・区の情報は、携帯でも見られるのか。

(区職員)

・見ることはできる。

(5 A)

・育児をしている方々は、インターネットは携帯でしかしないので、携帯で区の情報が得られるのであれば、いいのではないかと思った。

(5 B)

・各地区の情報を見られるようになっているのか。

(区職員)

・地区の情報まではまだ見られない。

(5 C)

・お年寄りなどもいるので、やはり、紙の情報源はあったほうがいい。

孤独死・虐待について

(司会)

・孤独死や虐待を少しでも減らすには、地域でどのようなことをしていけばよいか。地域でコミュニティを作る試みもあるようだが、そういったコミュニティに入ろうと思うか。

(5 C)

- ・用事もないのに、高齢者のお宅を訪問すると「何なんだろう」と思われてしまうような気がする。
- ・回覧板などをもっていくなど、そこに行かなければならない用事があればいくが、ない場合は、相手も「何しに来たんだろう」と思うかもしれない。
- ・最近、回覧板を直接手渡しするのではなく、家の前におくことが多い。

(5 A)

- ・地域の見守り活動で、こちらに訪問してもらうのは構わないが、来られた方が、本当に近所の方なのかどうか分からないと怖い。
- ・顔見知りであればいいが、そもそも顔見知りになるにはどうすればいいのかという問題がある。

(司会)

- ・どういうことがあれば、皆さんで集まる機会ができるか。

(5 A)

- ・町会・自治会などで集まる機会があれば、どなたがご近所の人かわかると思う。

(司会)

- ・分譲マンションで、強制的に集まる機会を作られた場合、それに参加するか。

(5 B)

- ・参加しない。強制的ではなく、「顔見知りになる機会を作りませんか」と言ってもらえれば、参加するかもしれない。

(5 A)

- ・全員でなくても、参加できる人だけでも参加すれば、参加した人の中に、参加していない人の知り合いがいて、情報が伝わっていくのかもしれない。
- ・参加できる人だけでも、参加できるような仕組みが必要なのではないかと思う。

(5 B)

- ・マンションの自治会で、会議に参加できなかった人用に、議事録をネット上に載せている。意見があれば、メールを送れるようなシステムになっている。それは気楽でいいとおっしゃっている方がいる。

(司会)

- ・直接会話したり、電話したりするよりも、メールなどのほうが、意見が言いやすいか。

(5 C)

- ・言いやすいと思う。

(司会)

- ・例えば、防災訓練など、目的がはっきりしているようなものであれば、参加しやすいか。

(5 A)

- ・楽しいイベントよりも、楽しくはないが地域になくてはならないイベントのほうが、参加しやすいといったことはあるかもしれない。
- ・町会・自治会で放射線量を図るということであれば、参加すると思う。

(5 C)

- ・放射線の機械を町会・自治会が貸してくれるということであれば、そういうことをきっかけに地域の人と知り合いになることは大いにあると思う。

(司会)

・町内会・自治会活動といわれても、何をやっているのかピンとこないものか。

(5C)

・何かおじいちゃんたちがやっているものというイメージ。

(5A)

・時々、公園の横にテントを立てて何かをやっているというイメージ。

・若い世代の人たちが、かかわっていないイメージである。

・社宅と地域の距離が離れている気がする。せっかく社宅には若い世代などもいるにもかかわらず、社宅にいる若い世代と地域とがうまくコンタクトをとれていないように思う。

(5C)

・町会・自治会は、もともとその地域に住んでいる方々がやっているもので、マンションに新しく引っ越してこられた方は参加しづらいのだと思う。

(5A)

・掲示板にしても、広報にしても、事実を「さらっ」と書いてあるだけであり、地域活動の雰囲気伝わってこない。「行ってもいい」、「行ってみたい」という思える雰囲気があるといい。

・紙ベースの情報発信も大切だが、若い世代が情報をキャッチできるようにすることも大切なのではないかと思う。

(司会)

・今住んでいる場所に長くお住まいになっていけば、町会活動にすんなりと入っていけるのではないか。

(5C)

・このまま足立区に住み続けるのであれば、親が行っている町会活動を引き継いでいくのかもしれない。

(5B)

・土日以外は休めないで、土日に子供たちの見回りなどを行うことぐらいしか、自治会活動にかかわれないと思う。

(司会)

・町会・自治会からは、若い方にイベントを手伝ってもらいたいといった意見も出ているが、ネットなどでそういった募集をかければ、参加してくれる人は出てくるか。

(5A)

・時間があれば、参加したいと思う。

(5C)

・マンションの自治会で言うお祭りなどで、屋台を出すなどしたら面白いかもしれない。

(5A)

・人によって、地域に関わりたいと思う温度差が違うと思う。

(5C)

・足立区ではリサイクル活動を盛んにやっているように思うが、ペットボトル回収機などを小学校において、子供たちだけでなく、ご近所の方も持って行ってもらうようなことがあれば、顔見知りになる機会が増えるのではないかと思う。

(5A)

・学校行事の一環として、子供たちに地域活動に関わらせる機会を設けることはいいことだと思う。

(5 C)

・最近バザーはやっているのか。

(5 A)

・学校でバザーをやっているという張り紙を見たことがあるので、やっているのだと思う。

(5 C)

・子供がいなくて情報を得ることができないので、参加する機会もないと思う。

(司会)

・若い世代の方が、自分たちの力を地域で発揮し、地域とのかかわりを持てるようにするためには、どうしたらよいか。

(5 C)

・農園などに最近興味を持っている方はいらっしゃるのではないかと思います。農園を通じて、となりの畑の方と知り合いになったりするのではないかと思います。

・小さい子に何かを教えることもよいことだと思う。習い事として何かを始めると、お金がかかるが、入門編として、子供がいろいろなことに興味を持てるように、ボランティアを募集して、教えてあげる機会があるといいと思う。

・情報について、インターネットよりは、ケーブルテレビのほうが、見る方が多いように思う。

・最近気になることがあるが、それは、赤いジャンパーを着た方々が、駅前でゴミ拾いをしている。これは何の活動なのか。

(区職員)

・ビューティフルウィンドウズ運動というもので、各駅周辺で、ゴミ拾いなどを行っている。

(5 C)

・結構若い方がいらっしゃる。

(5 A)

・そういった活動を、駅前だけでなく、各地域で行えるといいと思う。

(5 C)

・通勤途中に見かけたので、気になったが、昼間に行われる活動だと目にする機会がない。

・関係団体等へのアンケート調査

－ 1 . 町会・自治会アンケート調査

1 . アンケート調査の要件

調査対象

- ・ 足立区内で活動する町会・自治会

調査地域

- ・ 足立区全域

調査期間

- ・ 2011年12月19日～2012年1月9日

標本数

- ・ 送付数 435 町会・自治会、有効回答数 330 票（回収率 75.9%）

調査票（調査票は別紙参照）

- ・ 設問数 40 問（内フェイスシート 1 問）

調査方法

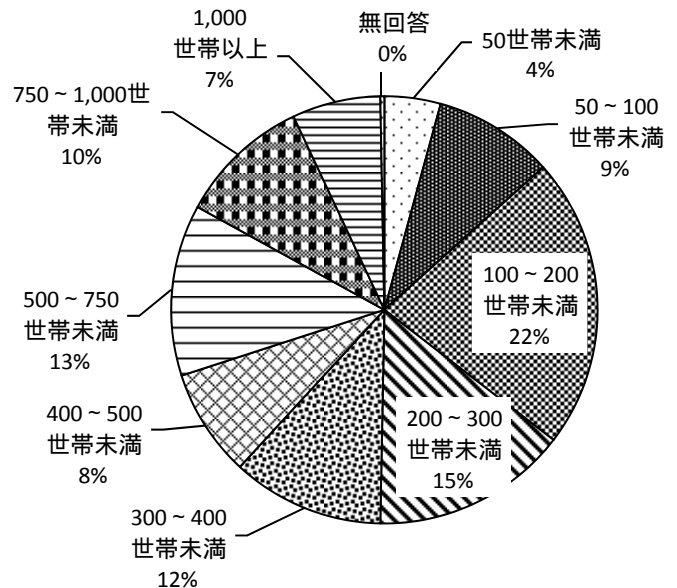
- ・ 郵送による配付、郵送による回収

2. アンケート調査の結果

< 単純集計結果 >

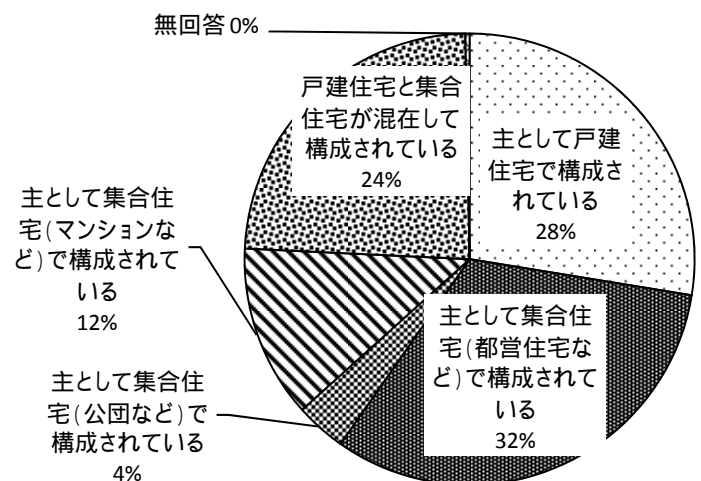
問1 貴町会・自治会の加入世帯数はどのくらいですか。(は1つだけ)(n=330)

		件数	割合
1	50世帯未満	14	4.2%
2	50～100世帯未満	30	9.1%
3	100～200世帯未満	73	22.1%
4	200～300世帯未満	49	14.8%
5	300～400世帯未満	38	11.5%
6	400～500世帯未満	27	8.2%
7	500～750世帯未満	43	13.0%
8	750～1,000世帯未満	33	10.0%
9	1,000世帯以上	22	6.7%
	無回答	1	0.3%
	合計	330	100.0%



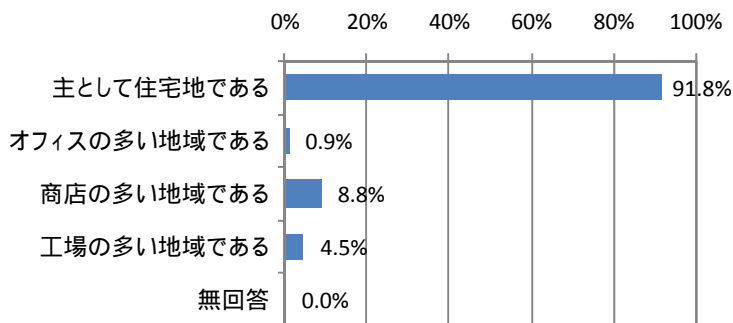
問2 貴町会・自治会はどのような世帯で構成されていますか。(は1つだけ)(n=330)

		件数	割合
1	主として戸建住宅で構成されている	91	27.6%
2	主として集合住宅(都営住宅など)で構成されている	106	32.1%
3	主として集合住宅(公団など)で構成されている	12	3.6%
4	主として集合住宅(マンションなど)で構成されている	41	12.4%
5	戸建住宅と集合住宅が混在して構成されている	79	23.9%
	無回答	1	0.3%
	合計	330	100.0%



問3 貴町会・自治会のある地域は、どのような地域ですか。(はあてはまるものすべて)(n=330)

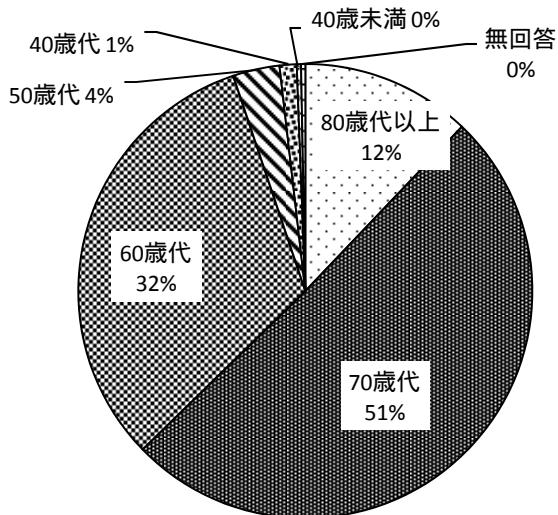
		件数	割合
1	主として住宅地である	303	91.8%
2	オフィスの多い地域である	3	0.9%
3	商店の多い地域である	29	8.8%
4	工場の多い地域である	15	4.5%
	合計	330	100.0%



問4 貴町会・自治会の会長についてそれぞれの質問にお答えください。(n=330)

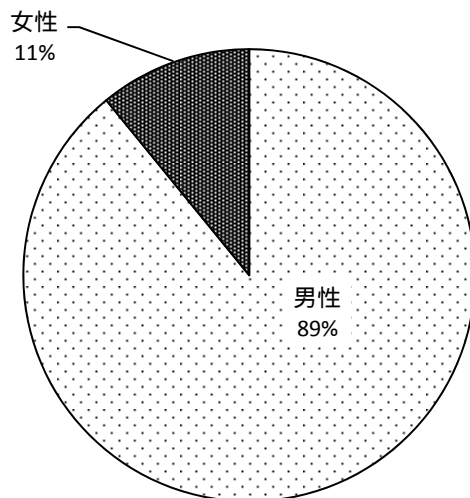
問4-1 年齢は何歳ですか。(は1つだけ)

		件数	割合
1	80歳代以上	40	12.1%
2	70歳代	167	50.6%
3	60歳代	106	32.1%
4	50歳代	11	3.3%
5	40歳代	4	1.2%
6	40歳未満	1	0.3%
	無回答	1	0.3%
	合計	330	100.0%



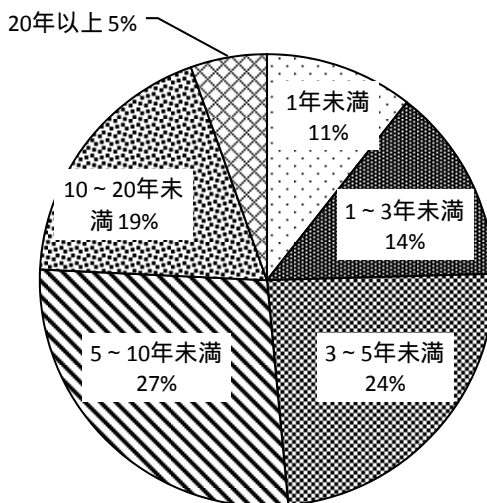
問4-2 性別はどちらですか。(は1つだけ)

		件数	割合
1	男性	294	89.1%
2	女性	36	10.9%
	無回答	0	0.0%
	合計	330	100.0%



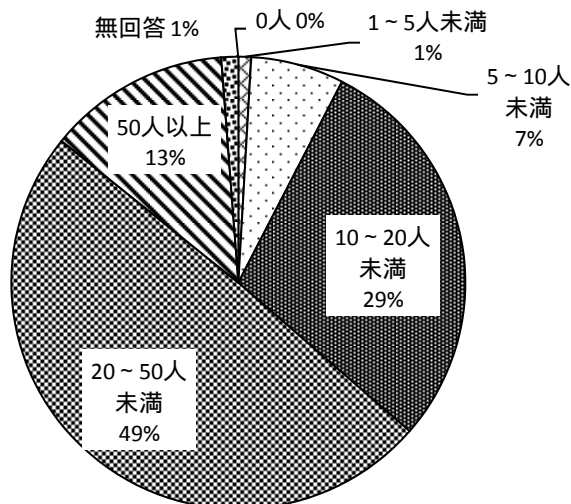
問4 - 3 会長としての在任年数は通算して何年ですか。(は1つだけ)(n=330)

		件数	割合
1	1年未満	35	10.6%
2	1~3年未満	46	13.9%
3	3~5年未満	79	23.9%
4	5~10年未満	90	27.3%
5	10~20年未満	62	18.8%
6	20年以上	18	5.5%
	無回答	0	0.0%
	合計	330	100.0%



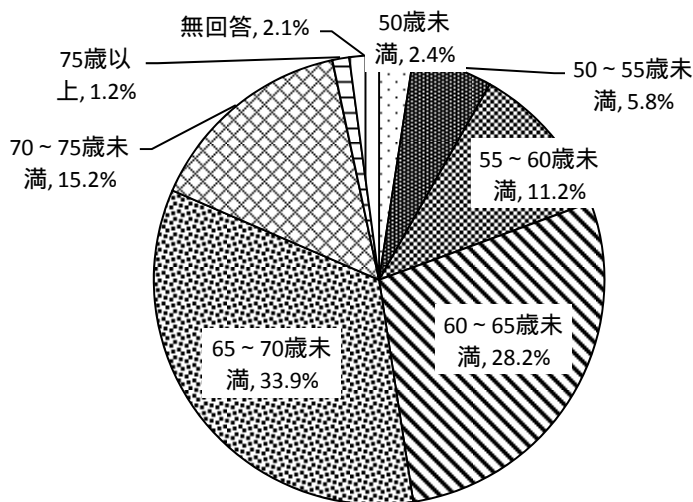
問5 貴町会・自治会の実質的な運営を担う役員の人数と男女別の内訳をお答えください。(n=330)

		件数	割合
1	0人	0	0.0%
2	1~5人未満	3	0.9%
3	5~10人未満	22	6.7%
4	10~20人未満	95	28.8%
5	20~50人未満	163	49.4%
6	50人以上	43	13.0%
	無回答	4	1.2%
	合計	330	100.0%



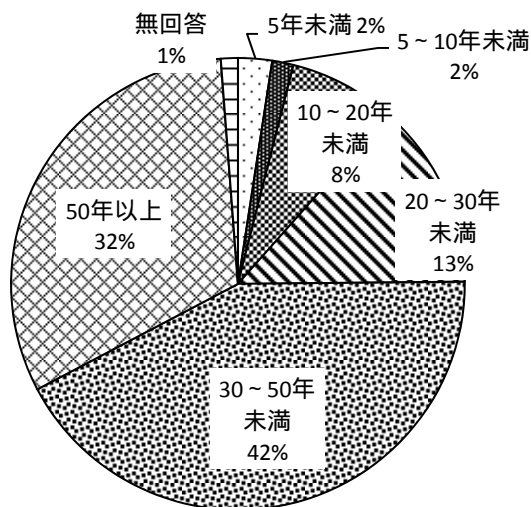
問6 貴町会・自治会の実質的な運営メンバーの平均年齢はおよそ何歳ですか。(n=330)

		件数	割合
1	50歳未満	8	2.4%
2	50~55歳未満	19	5.8%
3	55~60歳未満	37	11.2%
4	60~65歳未満	93	28.2%
5	65~70歳未満	112	33.9%
6	70~75歳未満	50	15.2%
7	75歳以上	4	1.2%
	無回答	7	2.1%
	合計	330	100.0%



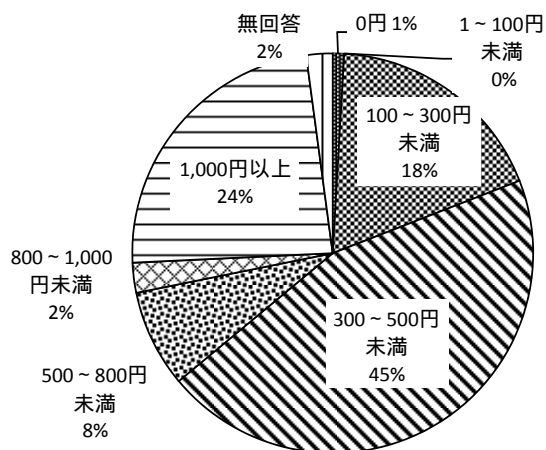
問7 貴町会・自治会は設立してどの程度経過していますか。(は1つだけ)(n=330)

		件数	割合
1	5年未満	8	2.4%
2	5～10年未満	5	1.5%
3	10～20年未満	25	7.6%
4	20～30年未満	44	13.3%
5	30～50年未満	140	42.4%
6	50年以上	104	31.5%
	無回答	4	1.2%
	合計	330	100.0%



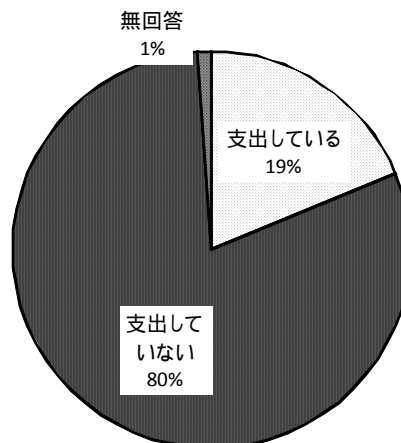
問8 現在の町会費・自治会費(月額)を教えてください。(n=330)

		件数	割合
1	0円	3	0.9%
2	1～100円未満	0	0.0%
3	100～300円未満	60	18.2%
4	300～500円未満	148	44.8%
5	500～800円未満	26	7.9%
6	800～1,000円未満	8	2.4%
7	1,000円以上	78	23.6%
	無回答	7	2.1%
	合計	330	100.0%



問9 町会・自治会の役員に対して定額の報酬や謝礼などを支出していますか。(は1つだけ)(n=330)

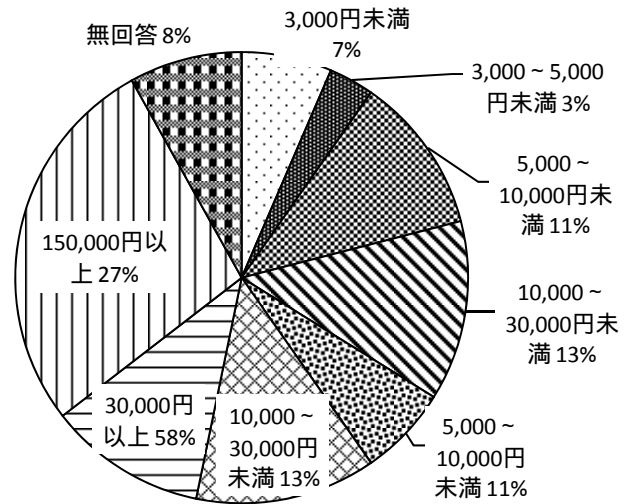
		件数	割合
1	支出している	62	18.8%
2	支出していない	264	80.0%
	無回答	4	1.2%
	合計	330	100.0%



(問9で「1 支出している」とお答えの方に)

問9 - 1 主な役員に対する定額の報酬や謝礼などの年額をご記入ください。(n=62)

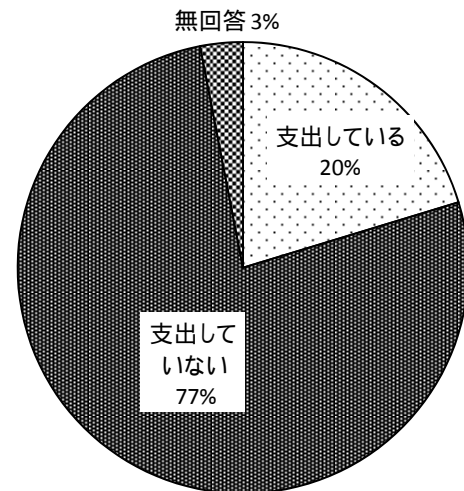
		件数	割合
1	3,000 円未満	4	6.5%
2	3,000 ~ 5,000 円未満	2	3.2%
3	5,000 ~ 10,000 円未満	7	11.3%
4	10,000 ~ 30,000 円未満	8	12.9%
5	30,000 ~ 50,000 円未満	4	6.5%
6	50,000 ~ 100,000 円未満	8	12.9%
7	100,000 ~ 150,000 円未満	7	11.3%
8	150,000 円以上	17	27.4%
	無回答	5	8.1%
	合計	62	100.0%



(全員の方に)

問10 役員や会員が町会・自治会の行事などに従事した場合は、謝礼などを支出していますか。(は1つだけ)(n=330)

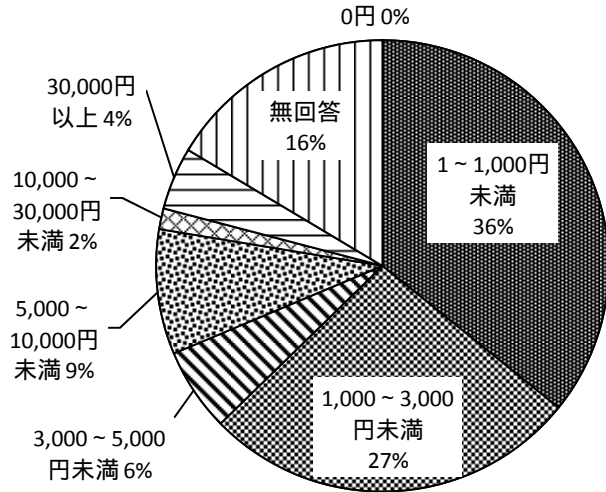
		件数	割合
1	支出している	67	20.3%
2	支出していない	253	76.7%
	無回答	10	3.0%
	合計	330	100.0%



(問10で「1 支出している」とお答えの方に)

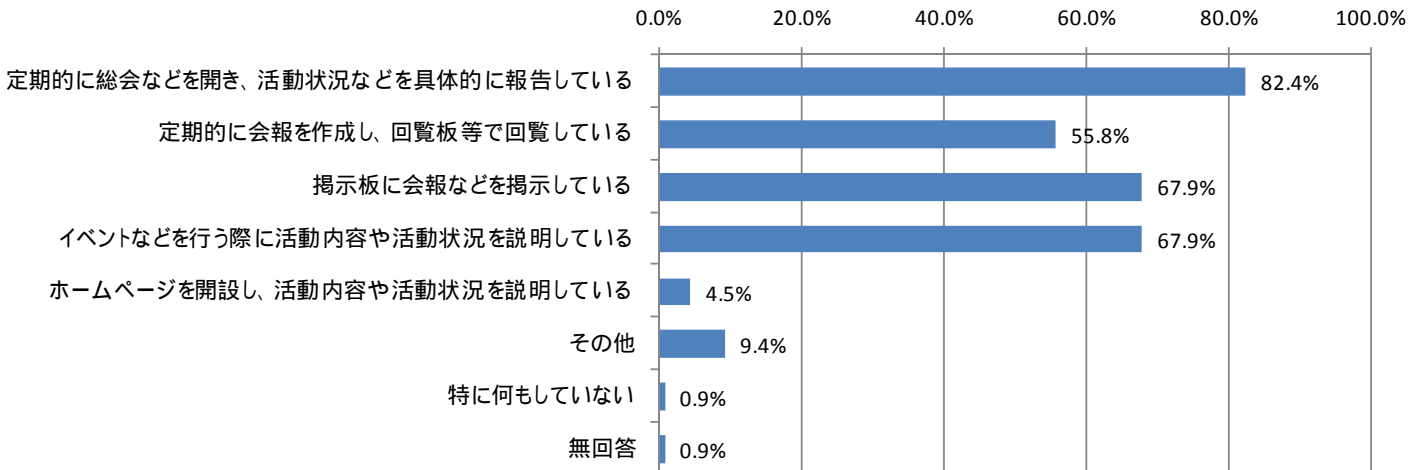
問10-1 どのような場合にどの程度の謝礼(金額)を支出しているかをご記入ください。(n=67)

		件数	割合
1	0円	0	0.0%
2	1~1,000円未満	24	35.8%
3	1,000~3,000円未満	18	26.9%
4	3,000~5,000円未満	4	6.0%
5	5,000~10,000円未満	6	9.0%
6	10,000~30,000円未満	1	1.5%
7	30,000円以上	3	4.5%
	無回答	11	16.4%
	合計	67	100.0%



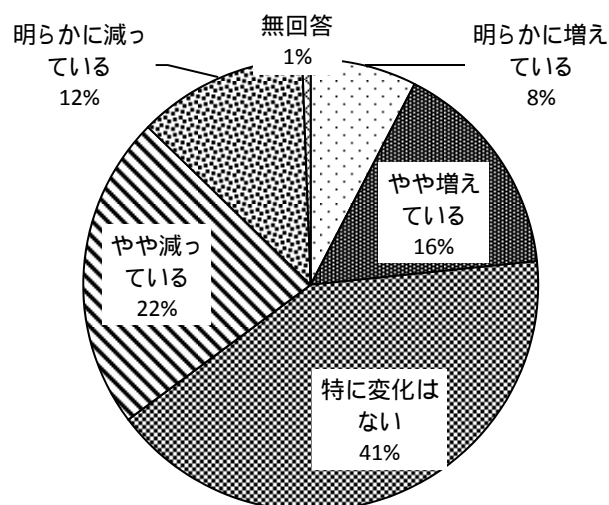
問11 貴町会・自治会では、会員向けにどのように町会・自治会の活動に関する情報を提供していますか。(はあてはまるものすべて)(n=330)

		件数	割合
1	定期的に総会などを開き、活動状況などを具体的に報告している	272	82.4%
2	定期的に会報を作成し、回覧板等で回覧している	184	55.8%
3	掲示板に会報などを掲示している	224	67.9%
4	イベントなどを行う際に活動内容や活動状況を説明している	224	67.9%
5	ホームページを開設し、活動内容や活動状況を説明している	15	4.5%
6	その他	31	9.4%
7	特に何もしていない	3	0.9%
	無回答	3	0.9%
	合計	330	100.0%



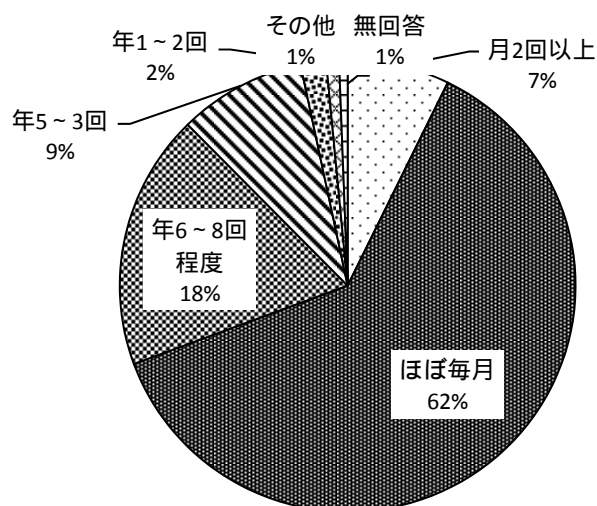
問 12 貴町会・自治会の世帯の加入数は10年前と比べてどのように変化していますか。(は1つだけ)
(n=330)

		件数	割合
1	明らかに増えている	25	7.6%
2	やや増えている	52	15.8%
3	特に変化はない	137	41.5%
4	やや減っている	74	22.4%
5	明らかに減っている	40	12.1%
	無回答	2	0.6%
	合計	330	100.0%



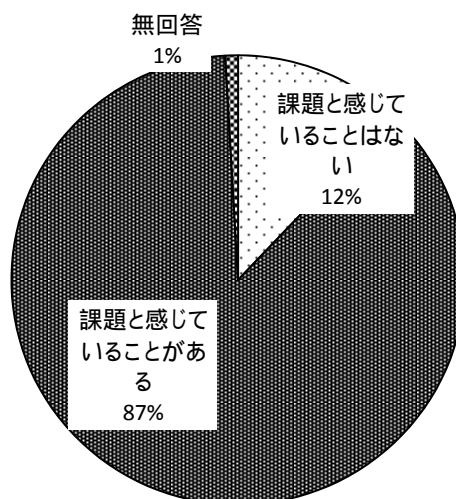
問 13 町会・自治会の役員会の開催状況はどのようになっていますか。(は1つだけ)(n=330)

		件数	割合
1	月2回以上	24	7.3%
2	ほぼ毎月	205	62.1%
3	年6~8回程度	60	18.2%
4	年5~3回	30	9.1%
5	年1~2回	6	1.8%
6	その他	3	0.9%
	無回答	2	0.6%
	合計	330	100.0%



問 14 貴町会・自治会では会の運営上、課題と感じていることはありますか。(は1つだけ)(n=330)

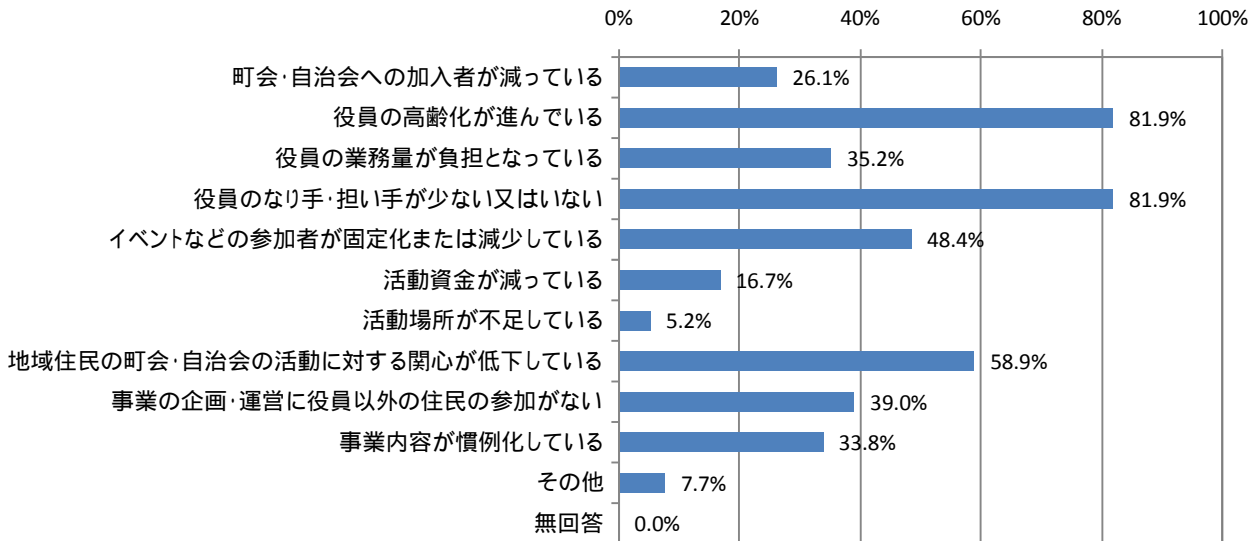
		件数	割合
1	課題と感じていることはない	40	12.1%
2	課題と感じていることがある	287	87.0%
	無回答	3	0.9%
	合計	330	100.0%



(問 14 で「2 課題と感じていることがある」とお答えの方に)

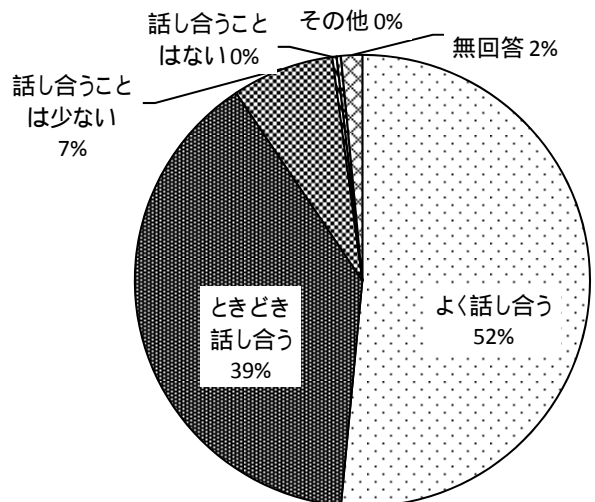
問 14 - 1 貴町会・自治会では、会の運営上、どのようなことが課題と感じていますか。(はあてはまるものすべて)(n=287)

	件数	割合
1 町会・自治会への加入者が減っている	75	26.1%
2 役員の高齢化が進んでいる	235	81.9%
3 役員の業務量が負担となっている	101	35.2%
4 役員のなり手・担い手が少ない又はいない	235	81.9%
5 イベントなどの参加者が固定化または減少している	139	48.4%
6 活動資金が減っている	48	16.7%
7 活動場所が不足している	15	5.2%
8 地域住民の町会・自治会の活動に対する関心が低下している	169	58.9%
9 事業の企画・運営に役員以外の住民の参加がない	112	39.0%
10 事業内容が慣例化している	97	33.8%
11 その他	22	7.7%
無回答	0	0%
合計	287	100.0%



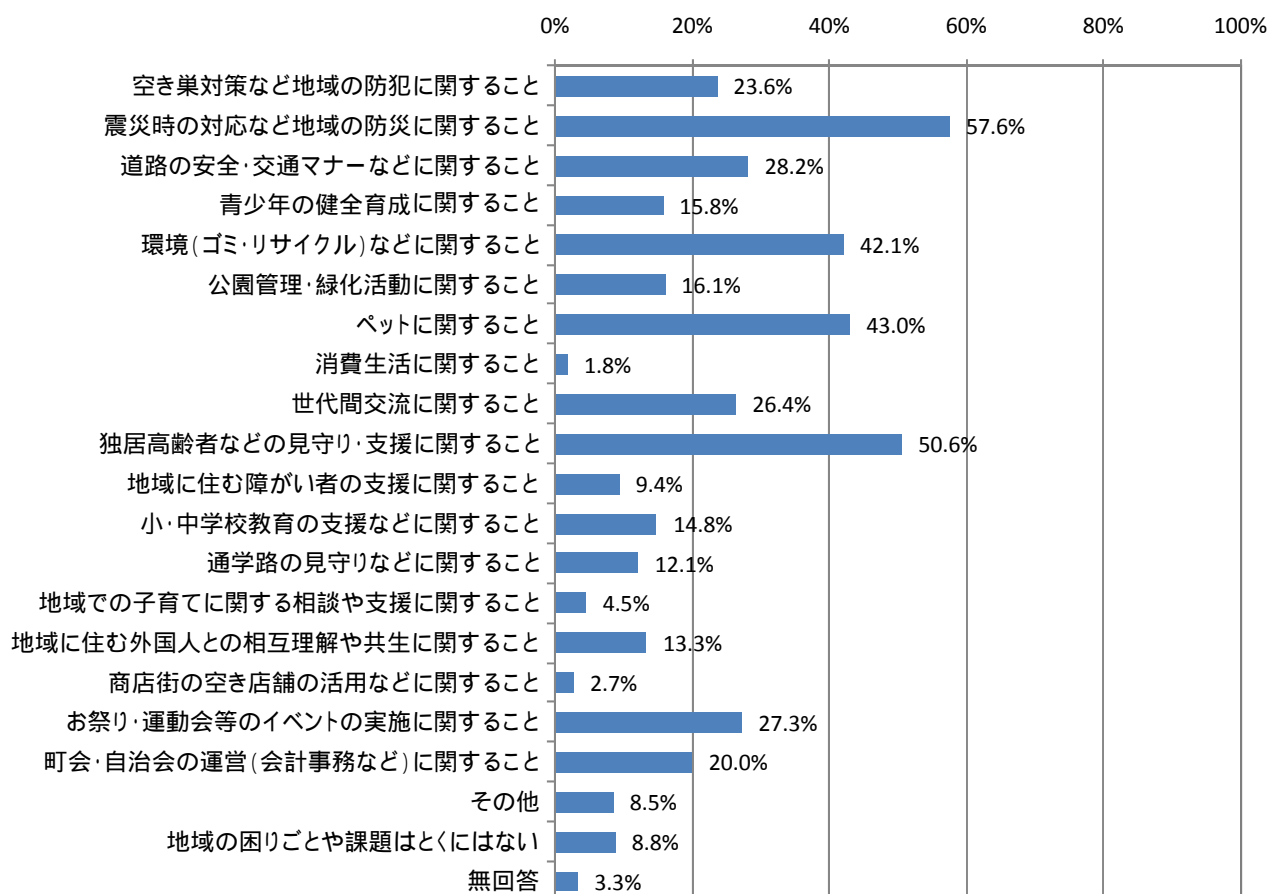
問 15 役員会または役員の間で、地域の困りごとや課題などを話し合うことがありますか。(は1つだけ)(n=330)

	件数	割合
1 よく話し合う	170	51.5%
2 ときどき話し合う	129	39.1%
3 話し合うことは少ない	24	7.3%
4 話し合うことはない	1	0.3%
5 その他	1	0.3%
無回答	5	1.5%
合計	330	100.0%



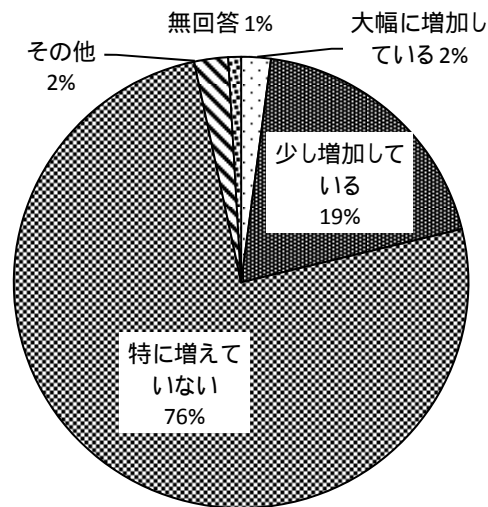
問 16 現在、貴町会・自治会の地域で困っていることまたは課題となっていることはありますか。(はあてはまるものすべて)(n=330)

	件数	割合
1	空き巣対策など地域の防犯に関すること	78 23.6%
2	震災時の対応など地域の防災に関すること	190 57.6%
3	道路の安全・交通マナーなどに関すること	93 28.2%
4	青少年の健全育成に関すること	52 15.8%
5	環境(ゴミ・リサイクル)などに関すること	139 42.1%
6	公園管理・緑化活動に関すること	53 16.1%
7	ペットに関すること	142 43.0%
8	消費生活に関すること	6 1.8%
9	世代間交流に関すること	87 26.4%
10	独居高齢者などの見守り・支援に関すること	167 50.6%
11	地域に住む障がい者の支援に関すること	31 9.4%
12	小・中学校教育の支援などに関すること	49 14.8%
13	通学路の見守りなどに関すること	40 12.1%
14	地域での子育てに関する相談や支援に関すること	15 4.5%
15	地域に住む外国人との相互理解や共生に関すること	44 13.3%
16	商店街の空き店舗の活用などに関すること	9 2.7%
17	お祭り・運動会等のイベントの実施に関すること	90 27.3%
18	町会・自治会の運営(会計事務など)に関すること	66 20.0%
19	その他	28 8.5%
20	課題等はとくにない	29 8.8%
	無回答	11 3.3%
	合計	330 100.0%



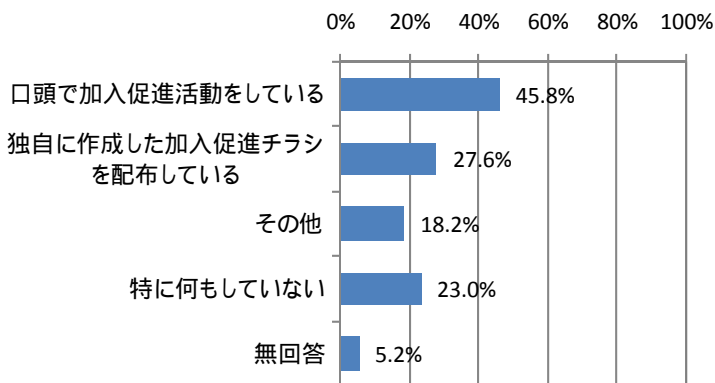
問 17 いわゆる団塊の世代や定年退職者の貴町会・自治会の役員への参加は増えていますか。(は1つだけ)(n=330)

		件数	割合
1	大幅に増加している	7	2.1%
2	少し増加している	63	19.1%
3	特に増えていない	249	75.5%
4	その他	8	2.4%
	無回答	3	0.9%
	合計	330	100.0%



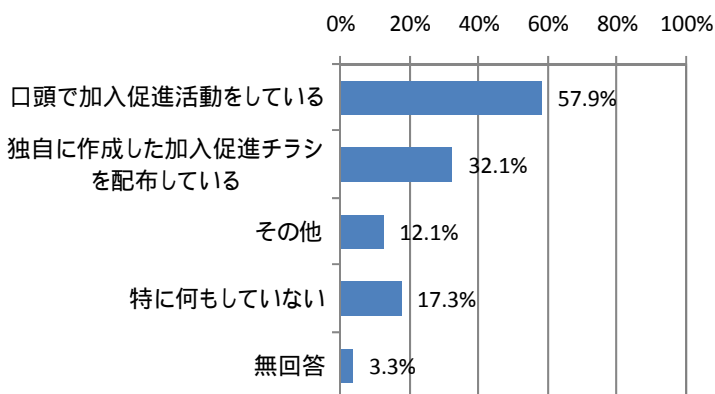
問 18 貴町会・自治会では未加入世帯に対して、何らかの加入促進活動をしていますか。(はあてはまるものすべて)

		件数	割合
1	口頭で加入促進活動をしている	151	45.8%
2	独自に作成した加入促進チラシを配布している	91	27.6%
3	その他	60	18.2%
4	特に何もしていない	76	23.0%
	無回答	17	5.2%
	合計	330	100.0%



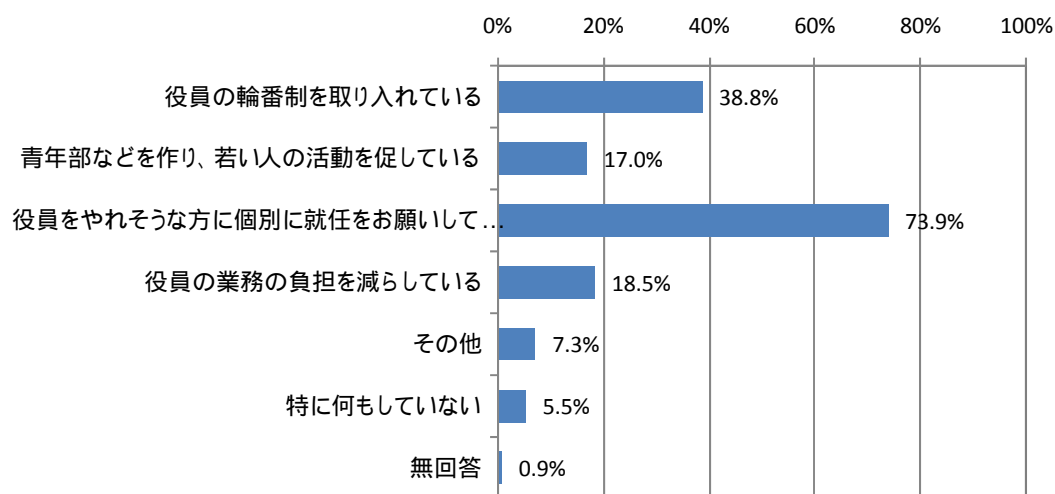
問 19 貴町会・自治会では地域に転入者があった場合、何らかの加入促進活動をしていますか。(はあてはまるものすべて)

		件数	割合
1	口頭で加入促進活動をしている	191	57.9%
2	独自に作成した加入促進チラシを配布している	106	32.1%
3	その他	40	12.1%
4	特に何もしていない	57	17.3%
	無回答	11	3.3%
	合計	330	100.0%



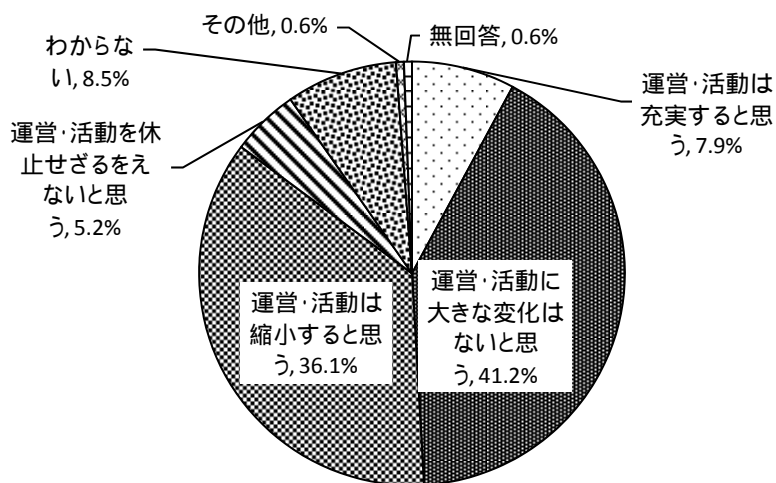
問 20 貴町会・自治会では役員の高齢化や役員のなり手が少ない又はいない問題に対して、何らかの対策を行っていますか。(はあてはまるものすべて)(n=330)

		件数	割合
1	役員の輪番制を取り入れている	128	38.8%
2	青年部などを作り、若い人の活動を促している	56	17.0%
3	役員をやれそうな方に個別に就任をお願いしている	244	73.9%
4	役員の業務の負担を減らしている	61	18.5%
5	その他	24	7.3%
6	特に何もしていない	18	5.5%
	無回答	3	0.9%
	合計	330	100.0%



問 21 貴町会・自治会の運営・活動の将来 (10 年後) をどのように見えていますか。(は 1 つだけ) (n=330)

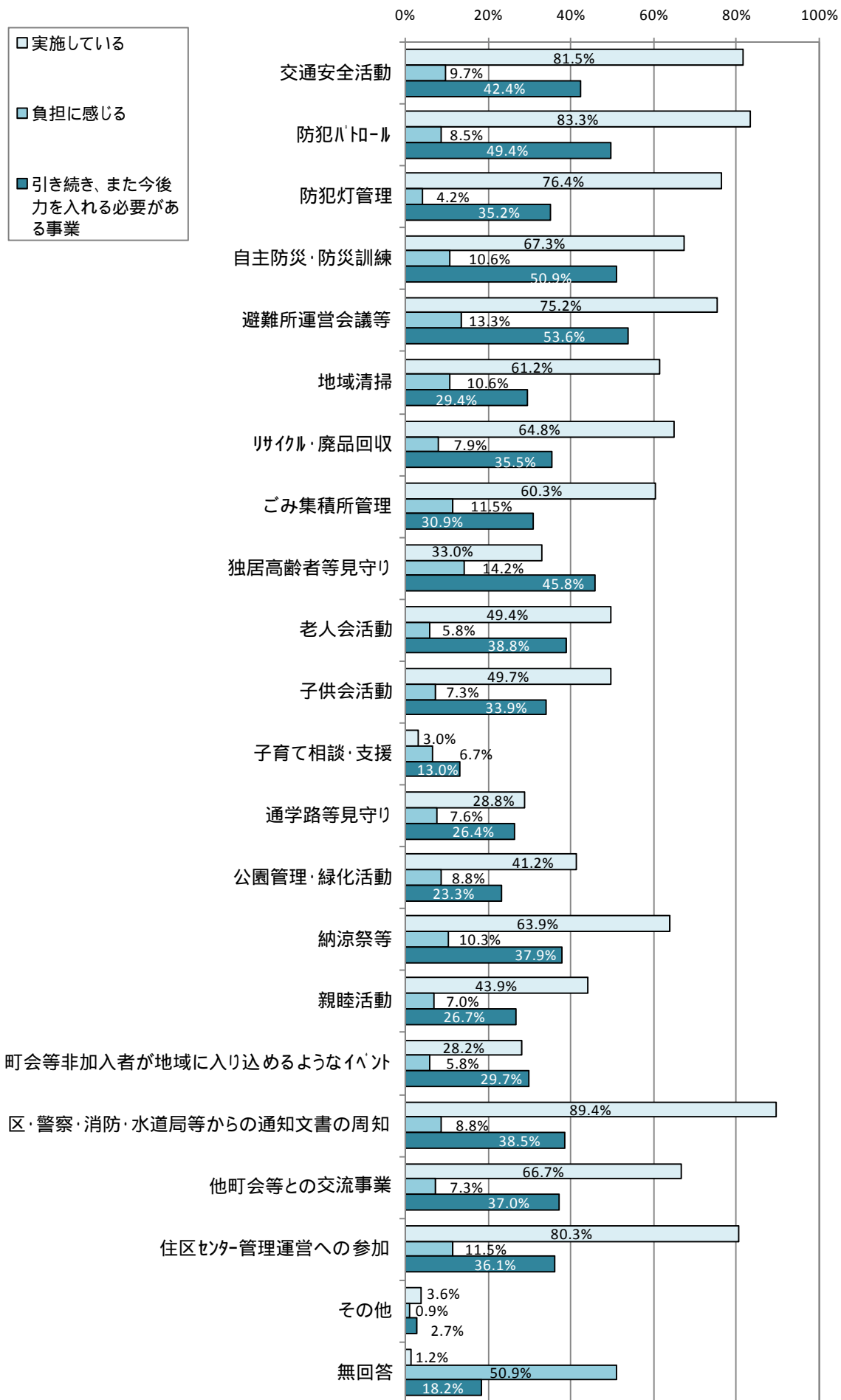
		件数	割合
1	運営・活動は充実すると思う	26	7.9%
2	運営・活動に大きな変化はないと思う	136	41.2%
3	運営・活動は縮小すると思う	119	36.1%
4	運営・活動を休止せざるをえないと思う	17	5.2%
5	わからない	28	8.5%
6	その他	2	0.6%
	無回答	2	0.6%
	合計	330	100.0%



(問 22 は自由回答欄)

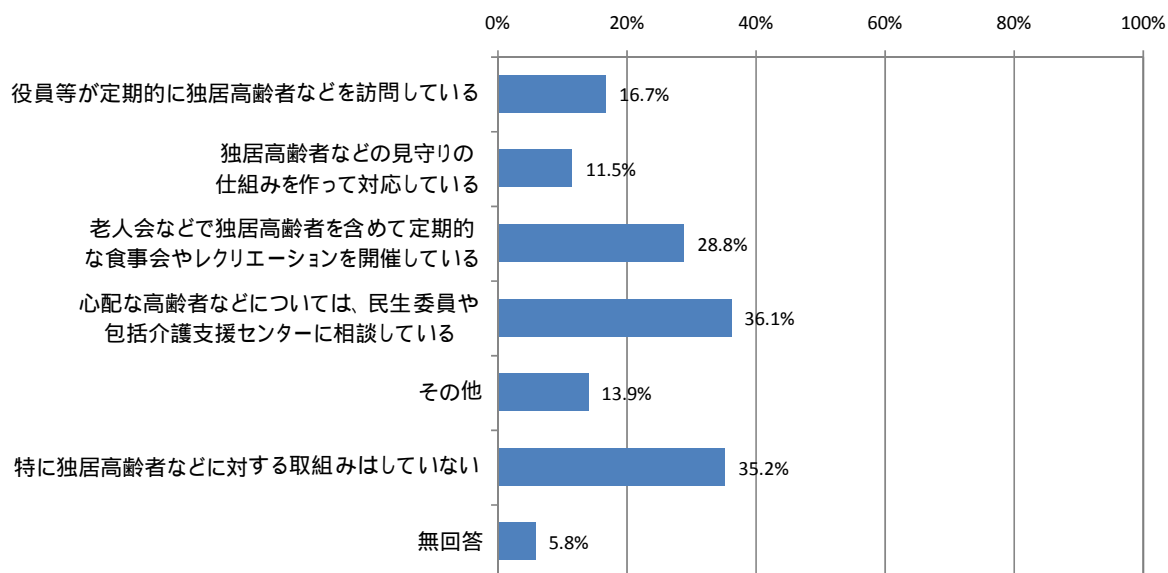
問 23 貴町会・自治会の実施している事業の実施状況、負担を感じる事業、引き続き、また今後力を入れる必要がある事業についてお答えください。(はあてはまるものすべて)(n=330)

		実施している事業		負担を感じる事業		引き続き、また、今後力を入れる必要がある事業	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
1	交通安全活動	269	81.5%	32	9.7%	140	42.4%
2	防犯パトロール	275	83.3%	28	8.5%	163	49.4%
3	防犯灯管理	252	76.4%	14	4.2%	116	35.2%
4	自主防災・防災訓練	222	67.3%	35	10.6%	168	50.9%
5	避難所運営会議等	248	75.2%	44	13.3%	177	53.6%
6	地域清掃	202	61.2%	35	10.6%	97	29.4%
7	リサイクル・廃品回収	214	64.8%	26	7.9%	117	35.5%
8	ごみ集積所管理	199	60.3%	38	11.5%	102	30.9%
9	独居高齢者等見守り	109	33.0%	47	14.2%	151	45.8%
10	老人会活動	163	49.4%	19	5.8%	128	38.8%
11	子供会活動	164	49.7%	24	7.3%	112	33.9%
12	子育て相談・支援	10	3.0%	22	6.7%	43	13.0%
13	通学路等見守り	95	28.8%	25	7.6%	87	26.4%
14	公園管理・緑化活動	136	41.2%	29	8.8%	77	23.3%
15	納涼祭等	211	63.9%	34	10.3%	125	37.9%
16	親睦活動	145	43.9%	23	7.0%	88	26.7%
17	町会等非加入者が地域に入り込めるようなイベント	93	28.2%	19	5.8%	98	29.7%
18	区・警察・消防・水道局等からの通知文書の周知	295	89.4%	29	8.8%	127	38.5%
19	他町会等との交流事業	220	66.7%	24	7.3%	122	37.0%
20	住区センター管理運営への参加	265	80.3%	38	11.5%	119	36.1%
21	その他	12	3.6%	3	0.9%	9	2.7%
-	無回答	4	1.2%	168	50.9%	60	18.2%



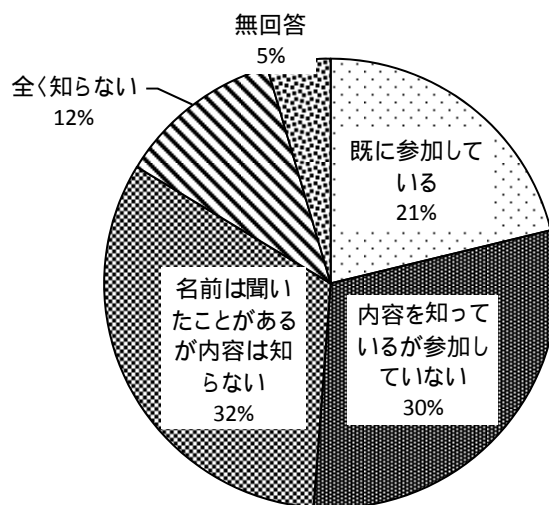
問 24 少子高齢化が進むなかで、独居高齢者の孤立や孤独死などの問題が発生しています。貴町会・自治会では独居高齢者などに対してどのような取組みを行っていますか。(はあてはまるものすべて)
(n=330)

	件数	割合
1 役員等が定期的に独居高齢者などを訪問している	55	16.7%
2 独居高齢者などの見守りの仕組みを作って対応している	38	11.5%
3 老人会などで独居高齢者を含めて定期的な食事会やレクリエーションを開催している	95	28.8%
4 心配な高齢者などについては、民生委員や包括介護支援センターに相談している	119	36.1%
5 その他	46	13.9%
6 特に独居高齢者などに対する取組みはしていない	116	35.2%
無回答	19	5.8%
合計	330	100.0%



問 25 区では独居高齢者などの見守りを行うために、「足立あんしんネットワーク」を組織していますが、「あんしんネットワーク」を知っていますか。(は1つだけ)(n=330)

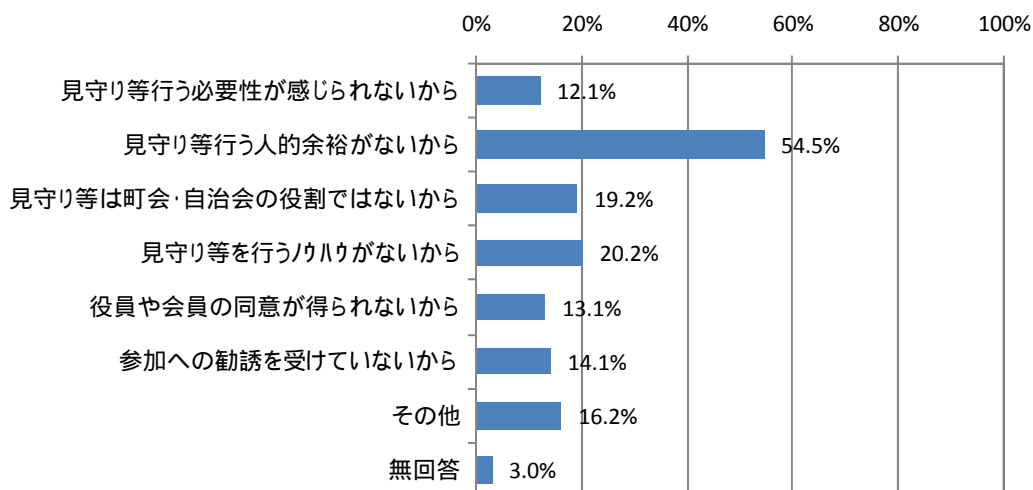
		件数	割合
1	既に参加している	70	21.2%
2	内容を知っているが参加していない	99	30.0%
3	名前は聞いたことがあるが内容は知らない	107	32.4%
4	全く知らない	39	11.8%
	無回答	15	4.5%
	合計	330	100.0%



(問 25 で「2 「あんしんネットワーク」の内容を知っているが、参加していない」とお答えの方に)

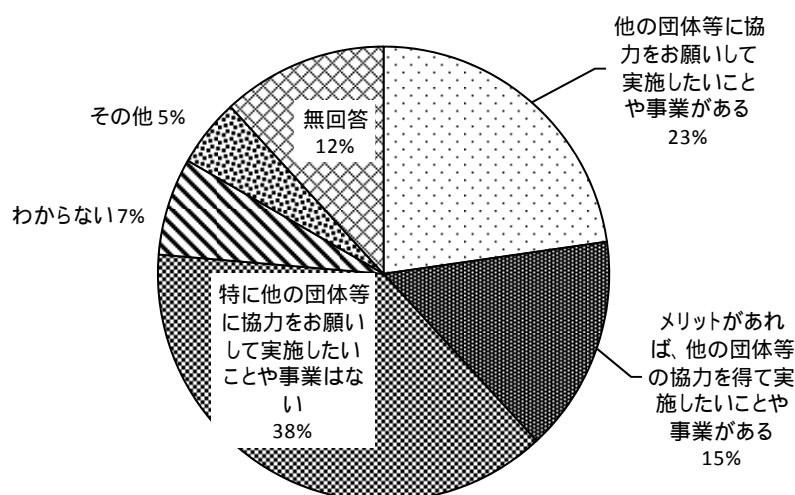
問 25-1 「あんしんネットワーク」に参加しない理由は何ですか。(は最大3つまで)(n=99)

		件数	割合
1	見守り等行う必要性が感じられないから	12	12.1%
2	見守り等行う人的余裕がないから	54	54.5%
3	見守り等は町会・自治会の役割ではないから	19	19.2%
4	見守り等を行うノウハウがないから	20	20.2%
5	役員や会員の同意が得られないから	13	13.1%
6	参加への勧誘を受けていないから	14	14.1%
7	その他	16	16.2%
	無回答	3	3.0%
	合計	99	100.0%



問 26 貴町会・自治会では、地域の困りごとや課題の解決、町会・自治会の運営を強化するために、他の団体等（他の町会・自治会、区、社会福祉協議会、NPO、ボランティアなど）に協力を求めたいことや協力を求めたい事業などがありますか。（ は1つだけ）(n=330)

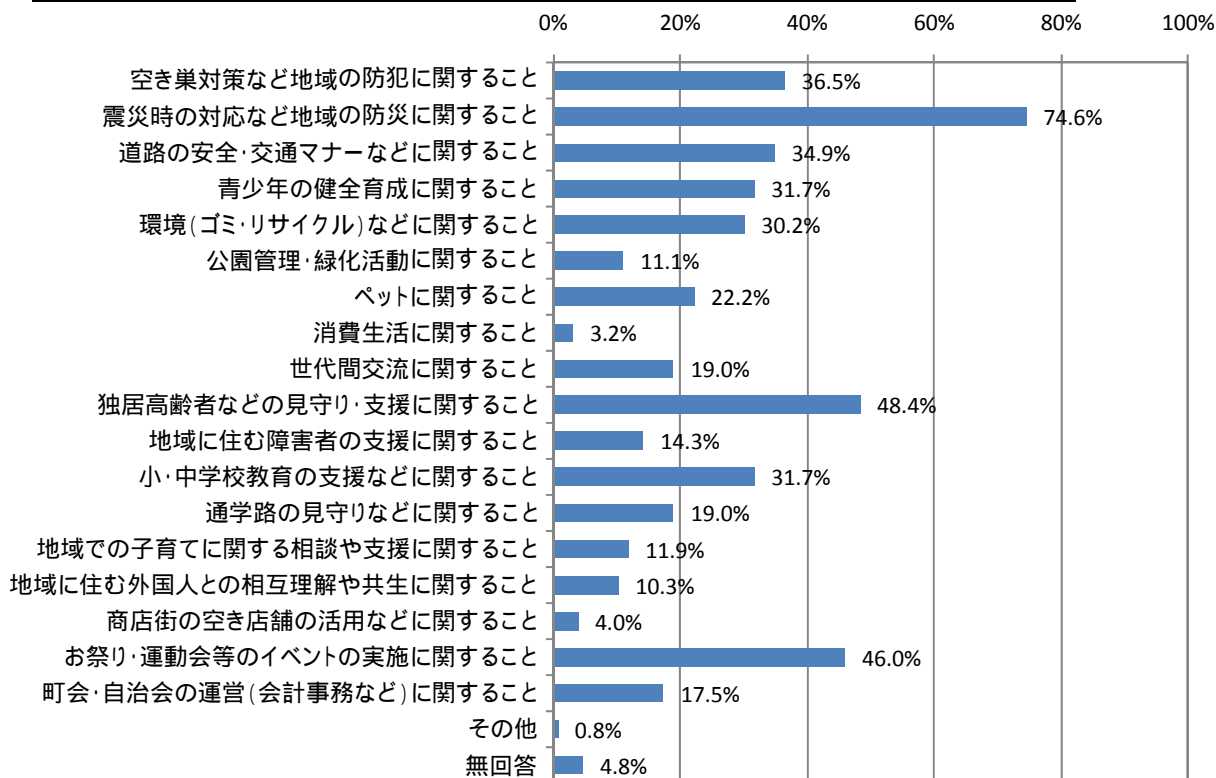
		件数	割合
1	他の団体等に協力をお願いして実施したいことや事業がある	75	22.7%
2	メリットがあれば、他の団体等の協力を得て実施したいことや事業がある	51	15.5%
3	特に他の団体等に協力をお願いして実施したいことや事業はない	126	38.2%
4	わからない	23	7.0%
5	その他	16	4.8%
	無回答	39	11.8%
	合計	330	100.0%



(問26で「1 他の団体等に協力をお願いして実施したいことや事業がある」「2 メリットがあれば、他の団体等の協力を得て実施したいことや事業がある」とお答えの方に)

問26-1 どのようなことや事業で他の団体等の協力を得られたらいいと考えますか。(はあてはまるものすべて)(n=126)

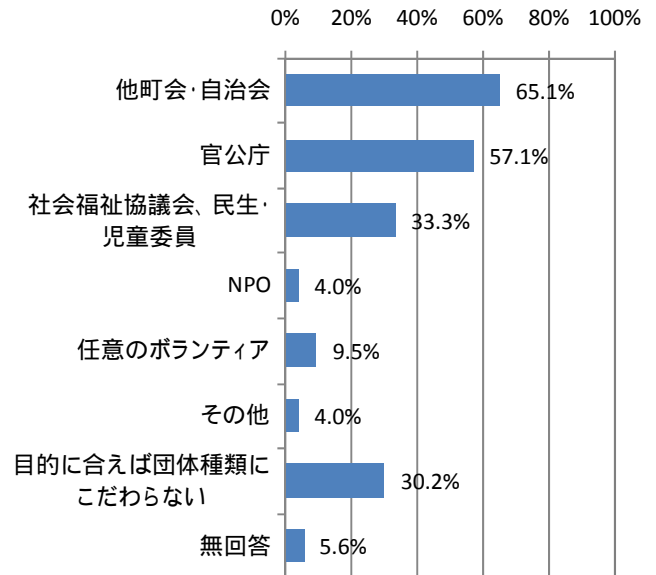
		件数	割合
1	空き巣対策など地域の防犯に関する事	46	36.5%
2	震災時の対応など地域の防災に関する事	94	74.6%
3	道路の安全・交通マナーなどに関する事	44	34.9%
4	青少年の健全育成に関する事	40	31.7%
5	環境(ゴミ・リサイクル)などに関する事	38	30.2%
6	公園管理・緑化活動に関する事	14	11.1%
7	ペットに関する事	28	22.2%
8	消費生活に関する事	4	3.2%
9	世代間交流に関する事	24	19.0%
10	独居高齢者などの見守り・支援に関する事	61	48.4%
11	地域に住む障害者の支援に関する事	18	14.3%
12	小・中学校教育の支援などに関する事	40	31.7%
13	通学路の見守りなどに関する事	24	19.0%
14	地域での子育てに関する相談や支援に関する事	15	11.9%
15	地域に住む外国人との相互理解や共生に関する事	13	10.3%
16	商店街の空き店舗の活用などに関する事	5	4.0%
17	お祭り・運動会等のイベントの実施に関する事	58	46.0%
18	町会・自治会の運営(会計事務など)に関する事	22	17.5%
19	その他	1	0.8%
	無回答	6	4.8%
	合計	126	100.0%



(問 26 で「 1 他の団体等に協力をお願いして実施したいことや事業がある」、「 2 メリットがあれば、他の団体等の協力を得て実施したいことや事業がある」とお答えの方に)

問 26 - 2 どのような団体と協力したいと思いますか。(はあてはまるものすべて)(n=126)

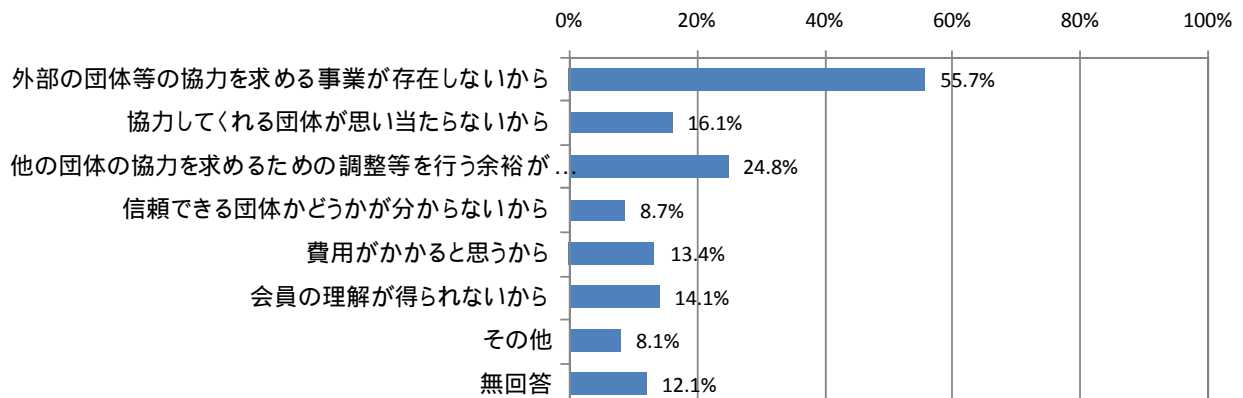
	件数	割合
1 他町会・自治会	82	65.1%
2 官公庁	72	57.1%
3 社会福祉協議会、民生・児童委員	42	33.3%
4 NPO	5	4.0%
5 任意のボランティア	12	9.5%
6 その他	5	4.0%
7 目的に合えば団体種類にこだわらない	38	30.2%
無回答	7	5.6%
合計	126	100.0%



(問 26 で「 3 特に他の団体等に協力をお願いして実施したいことや事業はない」、「 4 わからない」とお答えの方に)

問 26 - 3 そう思われた理由は何ですか。(はあてはまるものすべて)(n=149)

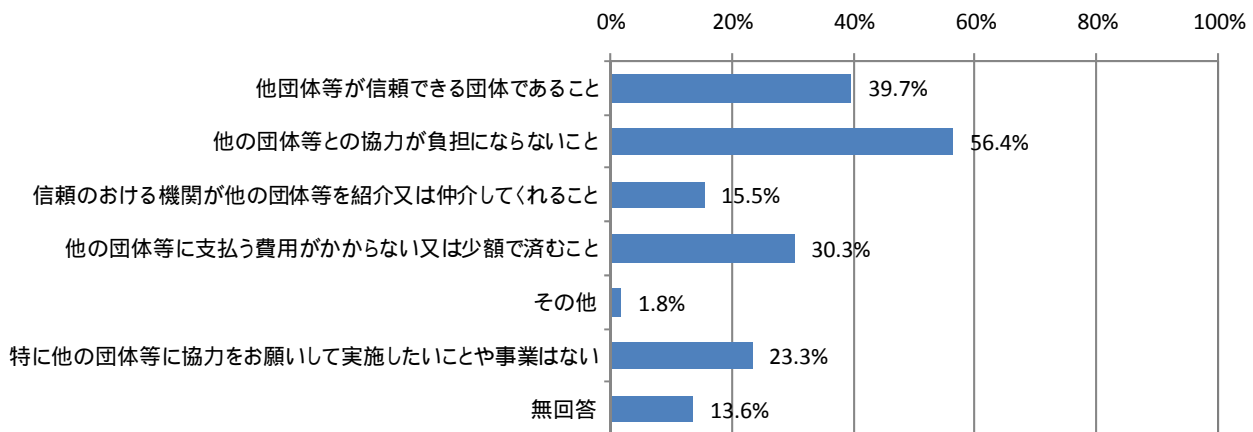
	件数	割合
1 外部の団体等の協力を求める事業が存在しないから	83	55.7%
2 協力してくれる団体が思い当たらないから	24	16.1%
3 他の団体の協力を求めるための調整等を行う余裕がないから	37	24.8%
4 信頼できる団体かどうか分からないから	13	8.7%
5 費用がかかると思うから	20	13.4%
6 会員の理解が得られないから	21	14.1%
7 その他	12	8.1%
無回答	18	12.1%
合計	149	100.0%



(全員の方向)

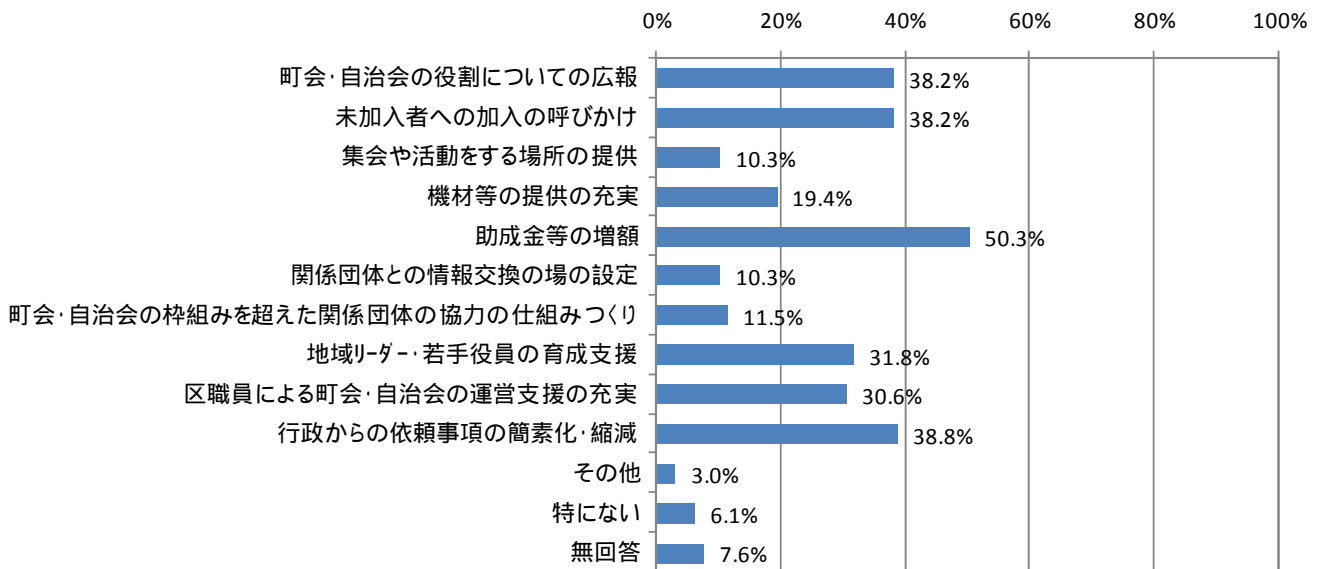
問 27 今後、他の団体などと協力して、何らかの活動を実施していくためには、どんなことが必要だと思われますか。(はあてはまるものすべて)(n=330)

		件数	割合
1	他団体等が信頼できる団体であること	131	39.7%
2	他の団体等との協力が負担にならないこと	186	56.4%
3	信頼のおける機関が他の団体等を紹介又は仲介してくれること	51	15.5%
4	他の団体等に支払う費用がかからない又は少額で済むこと	100	30.3%
5	その他	6	1.8%
6	特に他の団体等に協力をお願いして実施したいことや事業はない	77	23.3%
	無回答	45	13.6%
	合計	330	100.0%



問 28 貴町会・自治会が必要と思う区の支援策は何ですか。(はあてはまるものすべて)(n=330)

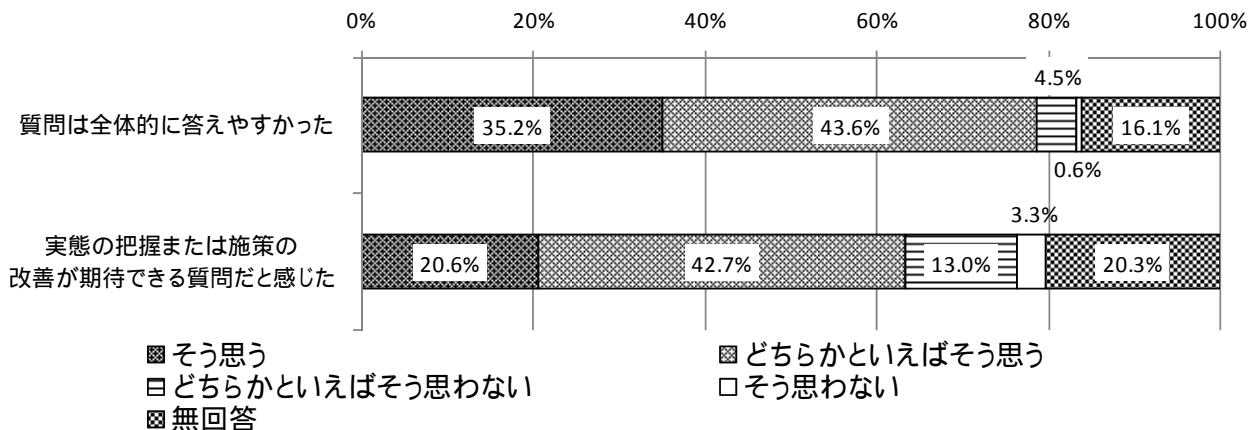
		件数	割合
1	町会・自治会の役割についての広報	126	38.2%
2	未加入者への加入の呼びかけ	126	38.2%
3	集会や活動をする場所の提供	34	10.3%
4	機材等の提供の充実	64	19.4%
5	助成金等の増額	166	50.3%
6	関係団体との情報交換の場の設定	34	10.3%
7	町会・自治会の枠組みを超えた関係団体の協力の仕組みづくり	38	11.5%
8	地域リーダー・若手役員の育成支援	105	31.8%
9	区職員による町会・自治会の運営支援の充実	101	30.6%
10	行政からの依頼事項の簡素化・縮減	128	38.8%
11	その他	10	3.0%
12	特にない	20	6.1%
	無回答	25	7.6%
	合計	330	100.0%



(問 29 は自由回答欄)

問 30 多数の質問にお答えいただき、まことにありがとうございました。最後に申し訳ございませんが、今回のアンケート調査の質問全体に関してお答えください。(は各項目とも1つだけ)

件数		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	合計
1	質問は全体的に答えやすかった	116	144	15	2	53	116
2	調査の目的に沿った質問だと感じた	68	141	43	11	67	116
割合		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	合計
1	質問は全体的に答えやすかった	35.2%	43.6%	4.5%	0.6%	16.1%	100.0%
2	調査の目的に沿った質問だと感じた	20.6%	42.7%	13.0%	3.3%	20.3%	100.0%



ー 2 . N P O ・任意団体等アンケート調査

1 . アンケート調査の要件

調査対象

- ・ 足立区内で活動する N P O 及び任意団体等

調査地域

- ・ 足立区全域

調査期間

- ・ 2011 年 12 月 19 日 ~ 2012 年 1 月 9 日

標本数

- ・ 送付数 230 団体、有効回答数 92 票（回収率 40.0%）

調査票（調査票は別紙参照）

- ・ 設問数 29 問（内フェイスシート 1 問）

調査方法

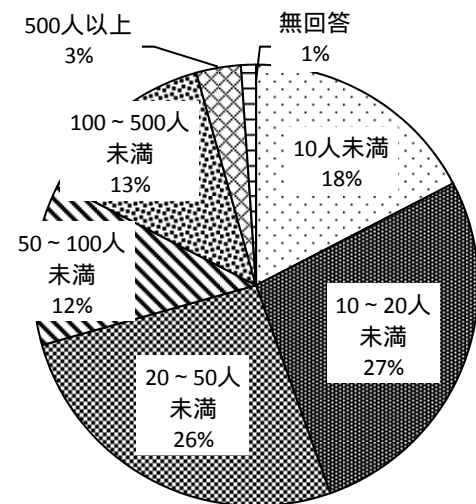
- ・ 郵送による配付、郵送による回収

2. アンケート調査の結果

< 単純集計結果 >

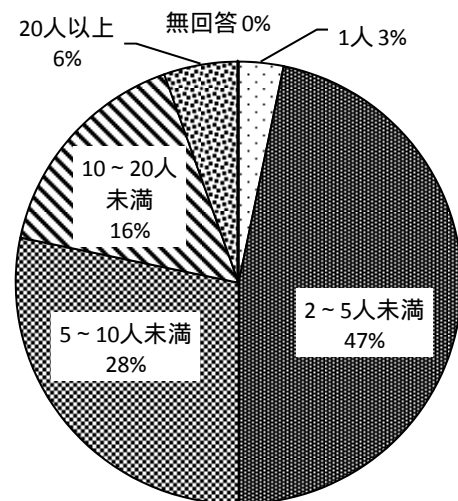
問1 貴団体の会員数はどのくらいですか。(は1つだけ)(n=92)

		件数	割合
1	10人未満	16	17.4%
2	10~20人未満	25	27.2%
3	20~50人未満	24	26.1%
4	50~100人未満	11	12.0%
5	100~500人未満	12	13.0%
6	500人以上	3	3.3%
	無回答	1	1.1%
	合計	92	100.0%



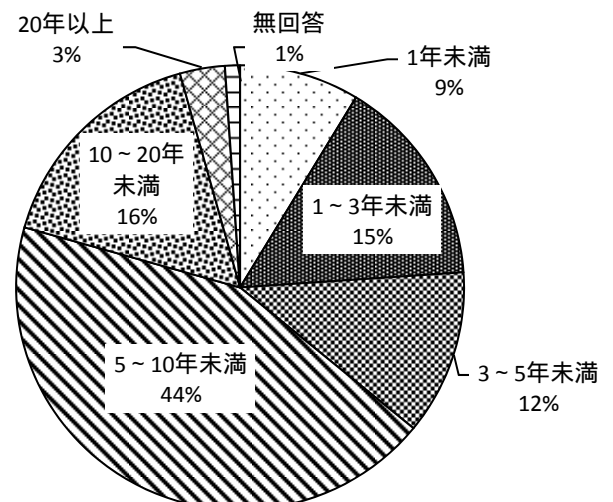
問2 貴団体の役員(実質的な運営メンバーを含む)はどのくらいいますか。(は1つだけ)(n=92)

		件数	割合
1	1人	3	3.3%
2	2~5人未満	43	46.7%
3	5~10人未満	26	28.3%
4	10~20人未満	15	16.3%
5	20人以上	5	5.4%
	無回答	0	0.0%
	合計	92	100.0%



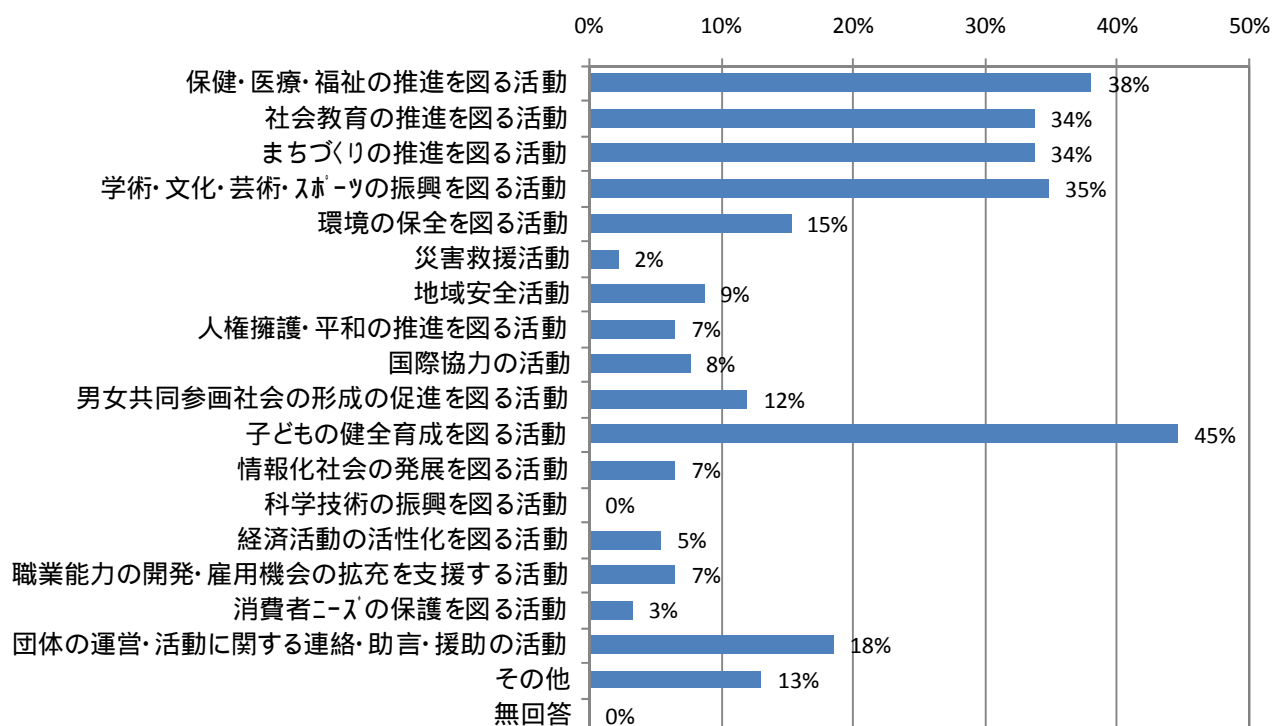
問3 貴団体は設立してどの程度経過していますか。(は1つだけ)(n=92)

		件数	割合
1	1年未満	8	8.7%
2	1~3年未満	14	15.2%
3	3~5年未満	11	12.0%
4	5~10年未満	40	43.5%
5	10~20年未満	15	16.3%
6	20年以上	3	3.3%
	無回答	1	1.1%
	合計	92	100.0%



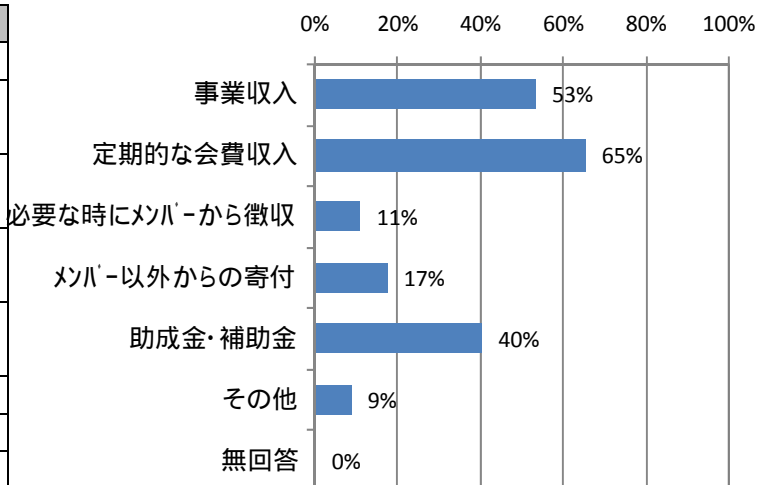
問4 貴団体の活動分野はどれですか。(はあてはまるものすべて)(n=92)

		件数	割合
1	保健・医療・福祉の推進を図る活動	35	38.0%
2	社会教育の推進を図る活動	31	33.7%
3	まちづくりの推進を図る活動	31	33.7%
4	学術・文化・芸術・スポーツの振興を図る活動	32	34.8%
5	環境の保全を図る活動	14	15.2%
6	災害救援活動	2	2.2%
7	地域安全活動	8	8.7%
8	人権擁護・平和の推進を図る活動	6	6.5%
9	国際協力の活動	7	7.6%
10	男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	11	12.0%
11	子どもの健全育成を図る活動	41	44.6%
12	情報化社会の発展を図る活動	6	6.5%
13	科学技術の振興を図る活動	0	0.0%
14	経済活動の活性化を図る活動	5	5.4%
15	職業能力の開発・雇用機会の拡充を支援する活動	6	6.5%
16	消費者ニーズの保護を図る活動	3	3.3%
17	団体の運営・活動に関する連絡・助言・援助の活動	17	18.5%
18	その他	12	13.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	92	100.0%



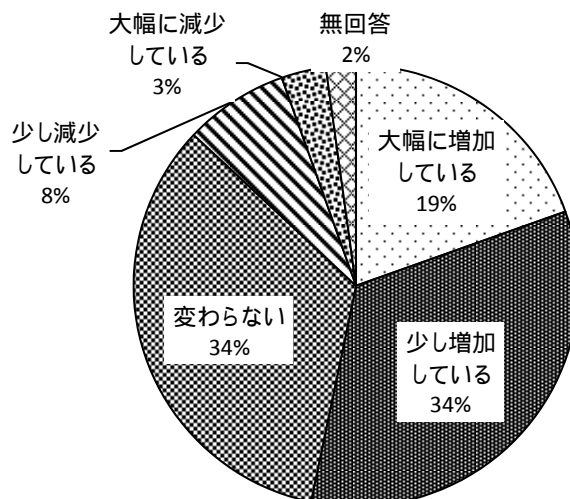
問5 貴団体ではどのように活動経費を調達していますか。(はあてはまるものすべて)(n=92)

		件数	割合
1	事業収入	49	53.3%
2	定期的な会費収入	60	65.2%
3	必要な時にメンバーから徴収	10	10.9%
4	メンバー以外からの寄付	16	17.4%
5	助成金・補助金	37	40.2%
6	その他	8	8.7%
-	無回答	0	0.0%
	合計	92	100.0%



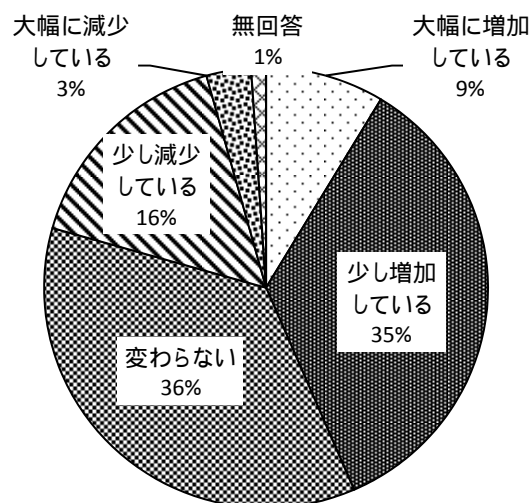
問6 貴団体の実質的な活動量は1年前と比べてどのようになっていますか。(は1つだけ)(n=92)

		件数	割合
1	大幅に増加している	18	19.6%
2	少し増加している	31	33.7%
3	変わらない	31	33.7%
4	少し減少している	7	7.6%
5	大幅に減少している	3	3.3%
	無回答	2	2.2%
	合計	92	100.0%



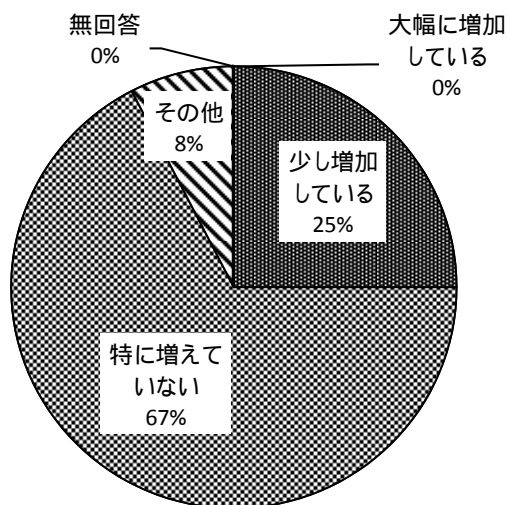
問7 貴団体の実質的な活動メンバーの数は1年前と比べてどのようになっていますか。(は1つだけ)(n=92)

		件数	割合
1	大幅に増加している	8	8.7%
2	少し増加している	32	34.8%
3	変わらない	33	35.9%
4	少し減少している	15	16.3%
5	大幅に減少している	3	3.3%
	無回答	1	1.1%
	合計	92	100.0%



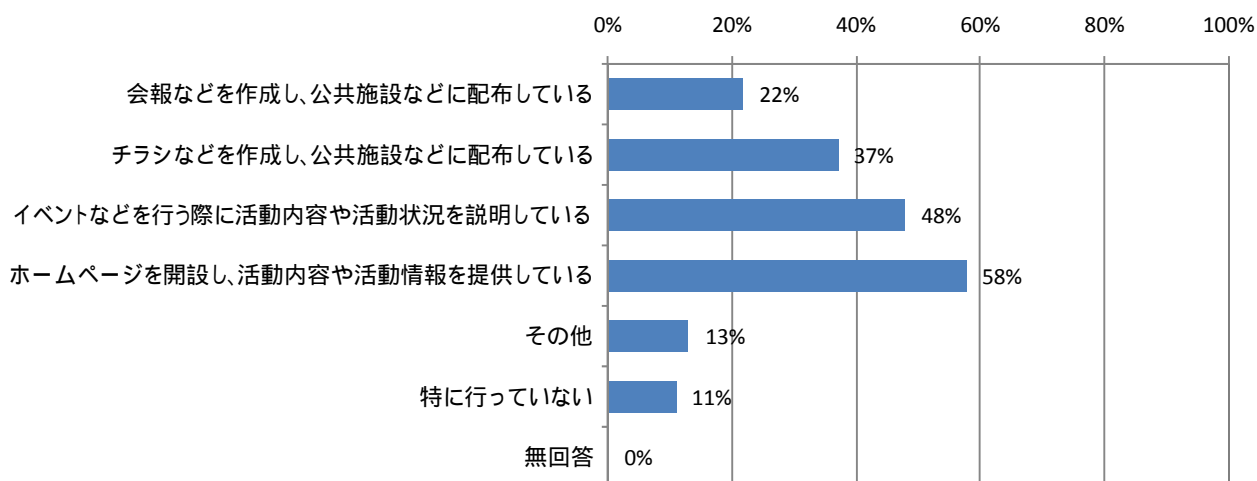
問 8 いわゆる団塊の世代や定年退職者の貴団体への参加は増えていますか。(は1つだけ)(n=92)

		件数	割合
1	大幅に増加している	0	0.0%
2	少し増加している	23	25.0%
3	特に増えていない	62	67.4%
4	その他	7	7.6%
	無回答	0	0.0%
	合計	92	100.0%



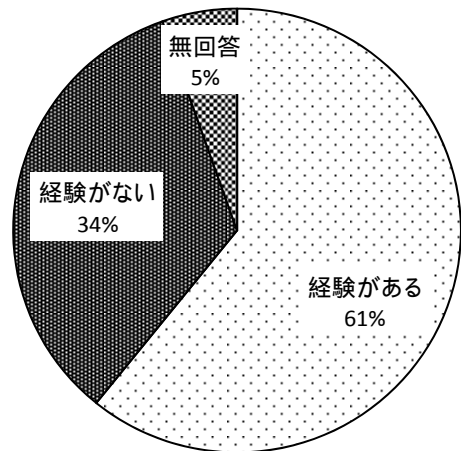
問 9 貴団体の活動内容などをどのようにアピールしていますか。(はあてはまるものすべて)(n=92)

		件数	割合
1	会報などを作成し、公共施設などに配布している	20	21.7%
2	チラシなどを作成し、公共施設などに配布している	34	37.0%
3	イベントなどを行う際に活動内容や活動状況を説明している	44	47.8%
4	ホームページを開設し、活動内容や活動情報を提供している	53	57.6%
5	その他	12	13.0%
6	特に行っていない	10	10.9%
	無回答	0	0.0%
	合計	92	100.0%



問 10 貴団体では、他の団体と協力し合って何らかの活動を実施した経験がありますか。(は1つだけ)
 (n=92)

		件数	割合
1	経験がある	56	60.9%
2	経験がない	31	33.7%
	無回答	5	5.4%
	合計	92	100.0%



(問10で「1 経験がある」とお答えの方に)

問10-1 どのような団体とどのような分野で協力しましたか。回答例に従って〔あてはまる団体の番号に を付けるとともに、団体ごとに 協力し合った分野 の番号を協力分野の欄に最大3つまで記入してください。(はあてはまるものすべて)(n=56)

上段：件数 下段：割合		保健・医療・福祉の推進を図る活動	社会教育の推進を図る活動	まちづくりの推進を図る活動	学術・文化・芸術・スポーツの振興を図る活動	環境の保全を図る活動	災害救援活動	地域安全活動
1	町会・自治会	8	3	10	7	1	1	0
		14.3%	5.4%	17.9%	12.5%	1.8%	1.8%	0.0%
2	老人会・婦人会	1	1	2	2	0	0	0
		1.8%	1.8%	3.6%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%
3	こども会・青少年団体	0	1	2	3	0	0	0
		0.0%	1.8%	3.6%	5.4%	0.0%	0.0%	0.0%
4	小・中学校・PTA	1	1	1	5	0	0	0
		1.8%	1.8%	1.8%	8.9%	0.0%	0.0%	0.0%
5	高校・大学	3	2	2	1	0	0	0
		5.4%	3.6%	3.6%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
6	障がい者団体	6	1	2	4	1	0	0
		10.7%	1.8%	3.6%	7.1%	1.8%	0.0%	0.0%
7	福祉施設・介護施設・地域包括支援センター	6	1	1	4	1	0	0
		10.7%	1.8%	1.8%	7.1%	1.8%	0.0%	0.0%
8	社会福祉協議会	6	1	1	0	0	0	0
		10.7%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9	文化・趣味教養・娯楽・レクリエーション団体	3	2	2	4	0	0	0
		5.4%	3.6%	3.6%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%
10	スポーツ団体・体育協会	2	1	0	2	1	0	0
		3.6%	1.8%	0.0%	3.6%	1.8%	0.0%	0.0%
11	環境団体	0	0	1	0	1	0	0
		0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
12	交通安全協会・防犯協会	1	0	1	0	0	0	1
		1.8%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%
13	民生委員・保護司団体	5	1	0	1	0	0	1
		8.9%	1.8%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	1.8%
14	商店街・商店街連合会	2	3	5	4	1	0	0
		3.6%	5.4%	8.9%	7.1%	1.8%	0.0%	0.0%
15	工場・工業連合会	0	1	1	1	0	0	0
		0.0%	1.8%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
16	企業(中小企業)	1	0	0	1	1	0	0
		1.8%	0.0%	0.0%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%
17	企業(大手企業)	1	0	1	1	1	0	0
		1.8%	0.0%	1.8%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%
18	NPO法人・NPO	9	6	6	4	2	0	0
		16.1%	10.7%	10.7%	7.1%	3.6%	0.0%	0.0%
19	ボランティア団体	3	1	6	6	2	3	0
		5.4%	1.8%	10.7%	10.7%	3.6%	5.4%	0.0%
20	行政	6	5	7	7	1	0	0
		10.7%	8.9%	12.5%	12.5%	1.8%	0.0%	0.0%
21	その他	2	1	0	0	0	0	0
		3.6%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

上段：件数 下段：割合		人権擁護・平和の推進を図る活動	国際協力の活動	男女共同参画の形成を促進する活動	子どもの健全育成を図る活動	情報化の発展を促進する活動	科学技術の振興を図る活動
1	町会・自治会	1	1	1	3	0	0
		1.8%	1.8%	1.8%	5.4%	0.0%	0.0%
2	老人会・婦人会	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3	こども会・青少年団体	0	0	0	5	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	8.9%	0.0%	0.0%
4	小・中学校・PTA	0	0	0	12	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	21.4%	0.0%	0.0%
5	高校・大学	1	0	0	4	0	0
		1.8%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%
6	障がい者団体	0	1	1	4	0	0
		0.0%	1.8%	1.8%	7.1%	0.0%	0.0%
7	福祉施設・介護施設・地域包括支援センター	1	0	0	2	0	0
		1.8%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%
8	社会福祉協議会	1	0	0	1	0	0
		1.8%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
9	文化・趣味教養・娯楽・レクリエーション団体	0	3	0	3	0	0
		0.0%	5.4%	0.0%	5.4%	0.0%	0.0%
10	スポーツ団体・体育協会	0	0	0	1	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
11	環境団体	0	0	0	1	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
12	交通安全協会・防犯協会	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
13	民生委員・保護司団体	0	0	0	1	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
14	商店街・商店街連合会	0	0	0	3	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	5.4%	0.0%	0.0%
15	工場・工業連合会	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
16	企業（中小企業）	1	0	1	1	0	0
		1.8%	0.0%	1.8%	1.8%	0.0%	0.0%
17	企業（大手企業）	0	0	0	2	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%
18	NPO法人・NPO	2	1	1	2	1	0
		3.6%	1.8%	1.8%	3.6%	1.8%	0.0%
19	ボランティア団体	1	0	0	5	1	0
		1.8%	0.0%	0.0%	8.9%	1.8%	0.0%
20	行政	2	0	1	9	0	0
		3.6%	0.0%	1.8%	16.1%	0.0%	0.0%
21	その他	1	0	0	3	1	0
		1.8%	0.0%	0.0%	5.4%	1.8%	0.0%

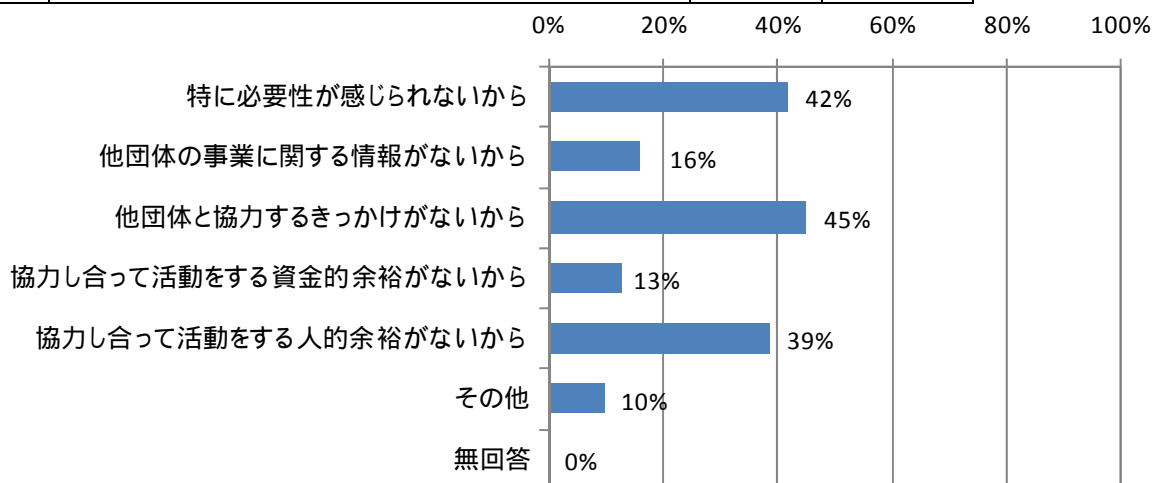
上段：件数 下段：割合		経済活動の活性化を図る活動	職業能力の開発・雇用機会の拡充を支援する活動	消費者の保護を図る活動	団体の運営・活動に関する連絡・助言・援助の活動	その他	活動内容不明	合計
1	町会・自治会	0	0	0	1	1	0	38
		0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.8%	0.0%	67.9%
2	老人会・婦人会	0	0	0	1	2	1	10
		0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	3.6%	1.8%	17.9%
3	こども会・青少年団体	0	0	0	0	0	0	11
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	19.6%
4	小・中学校・PTA	0	0	0	2	0	1	23
		0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	1.8%	41.1%
5	高校・大学	0	0	0	1	0	0	14
		0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	25.0%
6	障がい者団体	0	0	0	2	1	1	24
		0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	1.8%	1.8%	42.9%
7	福祉施設・介護施設・地域包括支援センター	0	0	0	2	2	1	21
		0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	3.6%	1.8%	37.5%
8	社会福祉協議会	0	0	0	1	1	3	15
		0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.8%	5.4%	26.8%
9	文化・趣味教養・娯楽・レクリエーション団体	0	0	0	0	0	2	19
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	33.9%
10	スポーツ団体・体育協会	0	0	0	0	0	0	7
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%
11	環境団体	0	0	0	0	0	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.4%
12	交通安全協会・防犯協会	0	0	0	1	0	0	4
		0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	7.1%
13	民生委員・保護司団体	0	1	0	2	0	0	12
		0.0%	1.8%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	21.4%
14	商店街・商店街連合会	0	0	0	1	0	0	19
		0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	33.9%
15	工場・工業連合会	0	0	0	0	0	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.4%
16	企業（中小企業）	0	0	2	0	0	0	8
		0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%
17	企業（大手企業）	0	0	0	0	0	0	6
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.7%
18	NPO法人・NPO	1	2	1	4	0	1	43
		1.8%	3.6%	1.8%	7.1%	0.0%	1.8%	76.8%
19	ボランティア団体	0	0	0	2	1	2	33
		0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	1.8%	3.6%	58.9%
20	行政	0	2	0	4	0	1	45
		0.0%	3.6%	0.0%	7.1%	0.0%	1.8%	80.4%
21	その他	1	0	0	1	2	0	12
		1.8%	0.0%	0.0%	1.8%	3.6%	0.0%	21.4%

(問 10-2 は自由回答欄)

(問 10 で「2 経験がない」とお答えの方に)

問 10-3 他の団体と協力し合って何らかの活動を実施した経験がないのはなぜですか。(は最大3つまで)(n=31)

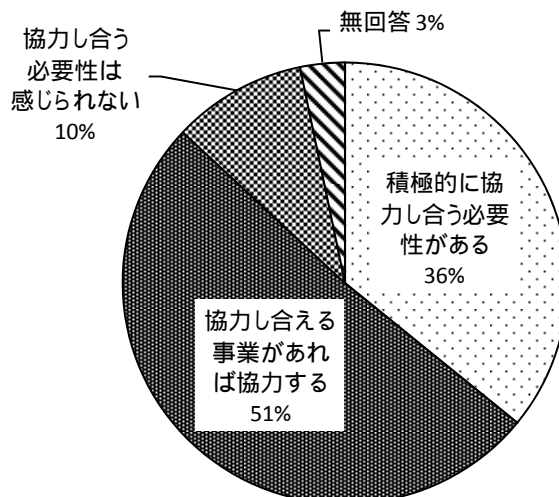
	件数	割合
1 特に必要性を感じられないから	13	41.9%
2 他団体の事業に関する情報がないから	5	16.1%
3 他団体と協力するきっかけがないから	14	45.2%
4 協力し合って活動をする資金的余裕がないから	4	12.9%
5 協力し合って活動をする人的余裕がないから	12	38.7%
6 その他	3	9.7%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%



(全員の方に)

問 10-4 今後、他の団体と協力し合って事業を実施する必要性はありますか。(は1つだけ)(n=92)

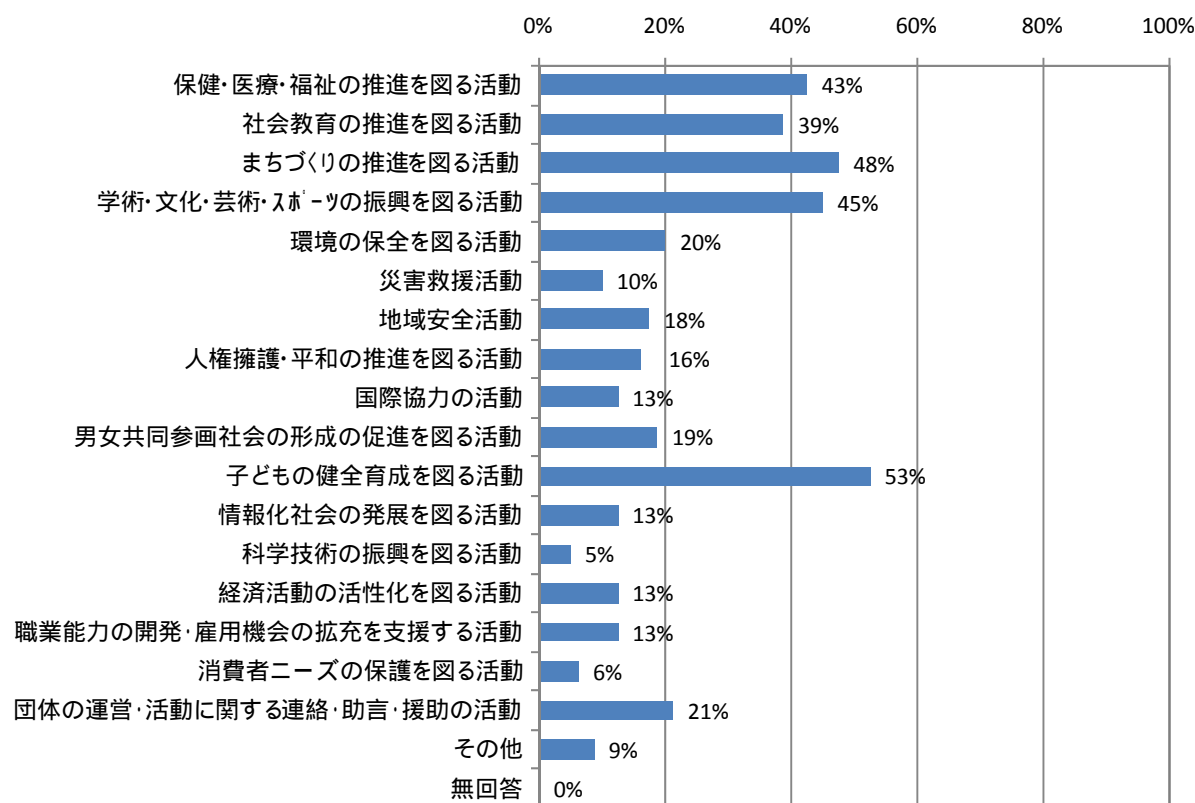
	件数	割合
1 積極的に協力し合って事業を実施していく必要がある	33	35.9%
2 協力し合える事業があれば協力して実施する	47	51.1%
3 特に協力し合って事業を実施する必要性は感じられない	9	9.8%
無回答	3	3.3%
合計	92	100.0%



問 10-4 で「1 積極的に協力し合って事業を実施していく必要性がある」「協力し合える事業があれば協力して実施する」とお答えの方に)

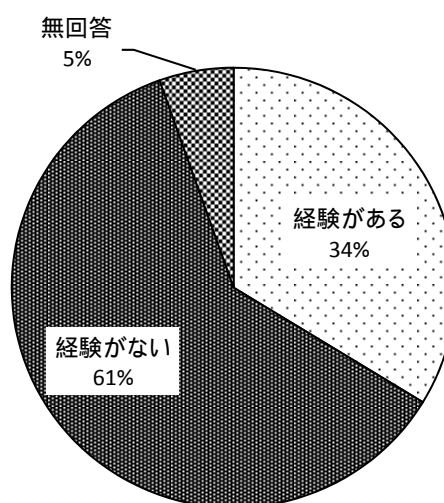
問 10-4-1 どのような分野の団体と協力できると思いますか。(はあてはまるものすべて)(n=80)

	件数	割合	
1	保健・医療・福祉の推進を図る活動	34	42.5%
2	社会教育の推進を図る活動	31	38.8%
3	まちづくりの推進を図る活動	38	47.5%
4	学術・文化・芸術・スポーツの振興を図る活動	36	45.0%
5	環境の保全を図る活動	16	20.0%
6	災害救援活動	8	10.0%
7	地域安全活動	14	17.5%
8	人権擁護・平和の推進を図る活動	13	16.3%
9	国際協力の活動	10	12.5%
10	男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	15	18.8%
11	子どもの健全育成を図る活動	42	52.5%
12	情報化社会の発展を図る活動	10	12.5%
13	科学技術の振興を図る活動	4	5.0%
14	経済活動の活性化を図る活動	10	12.5%
15	職業能力の開発・雇用機会の拡充を支援する活動	10	12.5%
16	消費者ニーズの保護を図る活動	5	6.3%
17	団体の運営・活動に関する連絡・助言・援助の活動	17	21.3%
18	その他	7	8.8%
	無回答	0	0.0%
	合計	80	100.0%



問 11 これまで、町会・自治会、老人会・婦人会、子ども会、民生委員・児童委員などの地域で活動する団体に協力して何らかの活動を行った経験がありますか。(は1つだけ)(n=92)

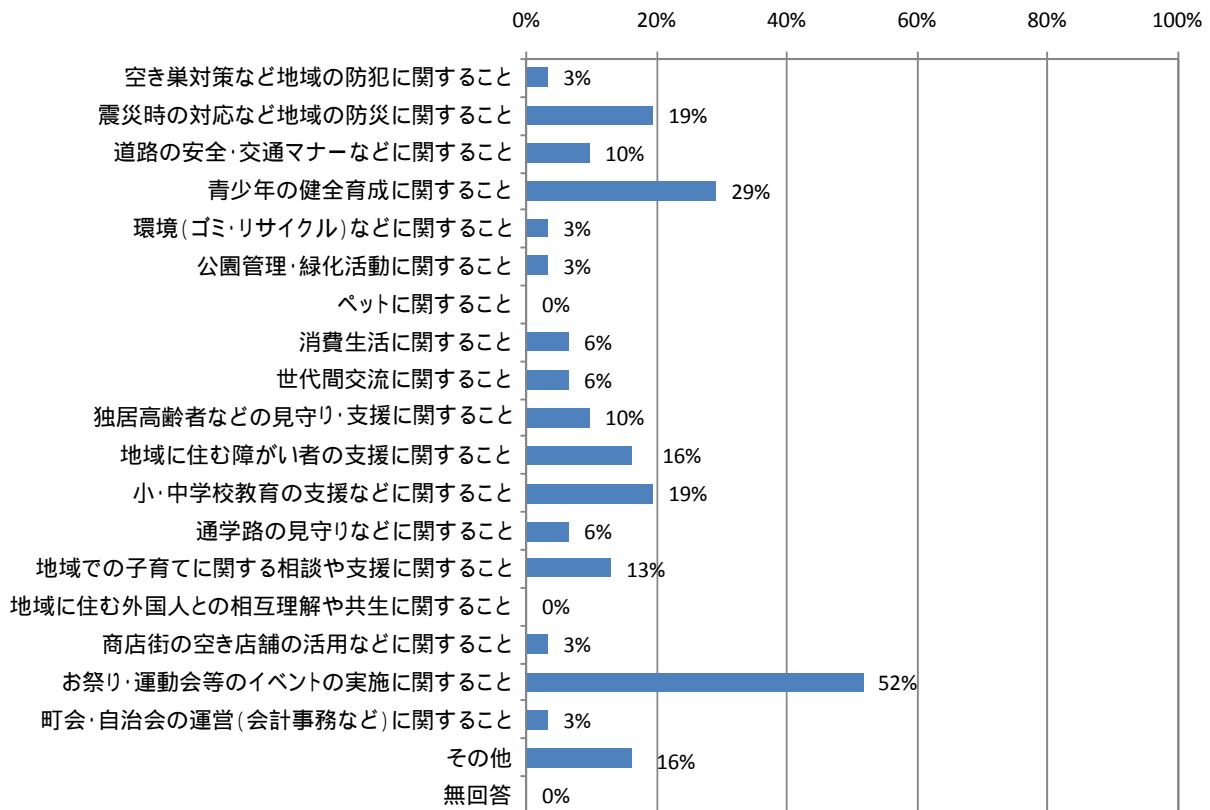
		件数	割合
1	経験がある	31	33.7%
2	経験がない	56	60.9%
	無回答	5	5.4%
	合計	92	100.0%



問 11 で「1 経験がある」とお答えの方に)

問 11- 1 どのような活動で協力を実施しましたか。(はあてはまるものすべて)(n=31)

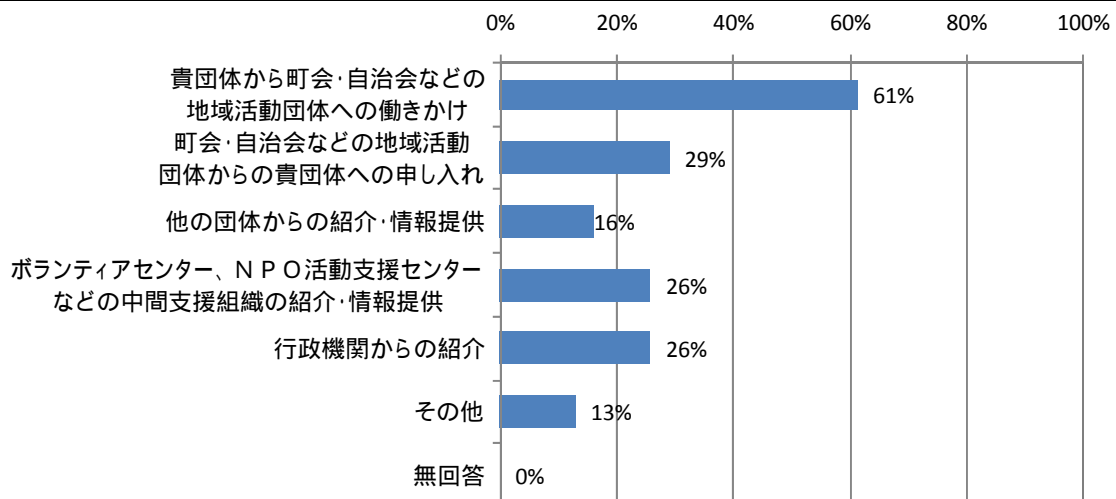
		件数	割合
1	空き巣対策など地域の防犯に関すること	1	3.2%
2	震災時の対応など地域の防災に関すること	6	19.4%
3	道路の安全・交通マナーなどに関すること	3	9.7%
4	青少年の健全育成に関すること	9	29.0%
5	環境(ゴミ・リサイクル)などに関すること	1	3.2%
6	公園管理・緑化活動に関すること	1	3.2%
7	ペットに関すること	0	0.0%
8	消費生活に関すること	2	6.5%
9	世代間交流に関すること	2	6.5%
10	独居高齢者などの見守り・支援に関すること	3	9.7%
11	地域に住む障がい者の支援に関すること	5	16.1%
12	小・中学校教育の支援などに関すること	6	19.4%
13	通学路の見守りなどに関すること	2	6.5%
14	地域での子育てに関する相談や支援に関すること	4	12.9%
15	地域に住む外国人との相互理解や共生に関すること	0	0.0%
16	商店街の空き店舗の活用などに関すること	1	3.2%
17	お祭り・運動会等のイベントの実施に関すること	16	51.6%
18	町会・自治会の運営(会計事務など)に関すること	1	3.2%
19	その他	5	16.1%
	無回答	0	0.0%
	合計	31	100.0%



問 11 で「 1 経験がある」とお答えの方に)

問 11- 2 実施したきっかけは何ですか。(はあてはまるものすべて)(n=31)

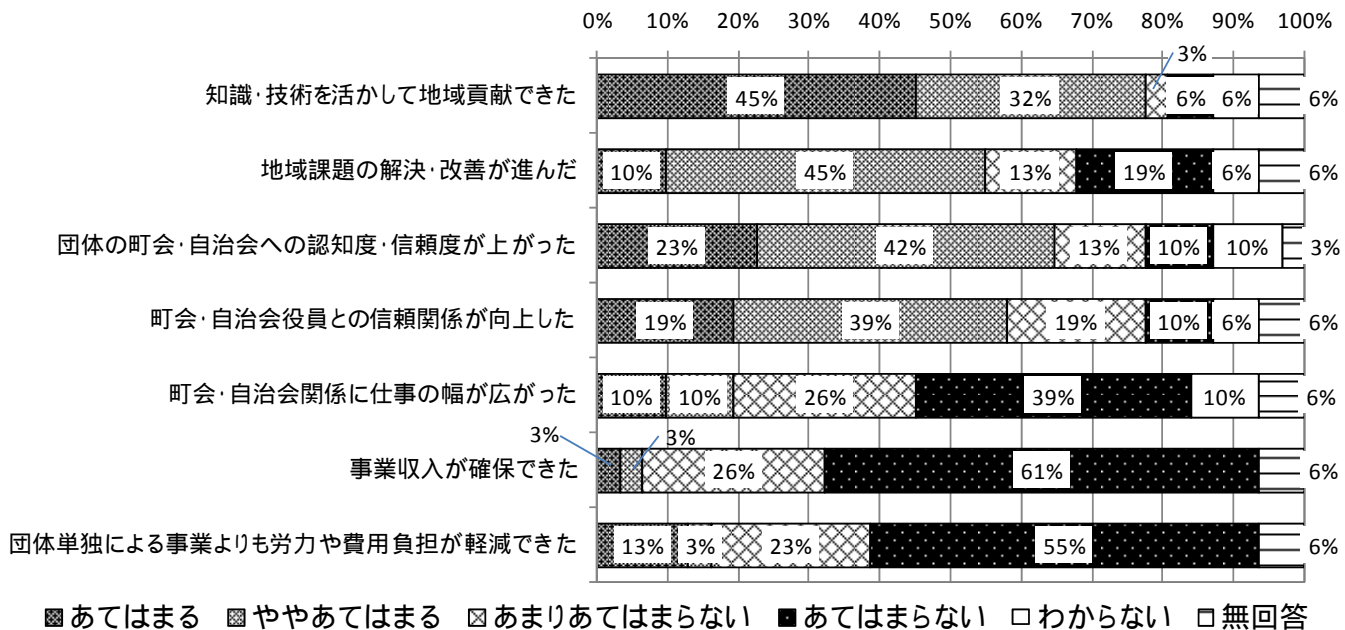
	件数	割合
1 貴団体から町会・自治会などの地域活動団体への働きかけ	19	61.3%
2 町会・自治会などの地域活動団体からの貴団体への申し入れ	9	29.0%
3 他の団体からの紹介・情報提供	5	16.1%
4 ボランティアセンター、NPO活動支援センターなどの中間支援組織の紹介・情報提供	8	25.8%
5 行政機関からの紹介	8	25.8%
6 その他	4	12.9%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%



問 12 協力して実施した結果をどう評価していますか。すべての項目にお答えください。

(は各項目とも1つだけ)(n=31)

件数		あてはまる	ややあまる	あまりあまる	りはない	あてはまらない	わからない	無回答	合計
1	自分たちの知識や技術を活かして地域貢献できた	14	10	1	2	2	2	2	31
2	地域の課題の解決・改善が進んだ	3	14	4	6	2	2	2	31
3	団体の町会・自治会への認知度・信頼度が上がった	7	13	4	3	3	1	31	
4	町会・自治会役員との信頼関係が向上した	6	12	6	3	2	2	31	
5	町会・自治会関係に仕事の幅が広がった	3	3	8	12	3	2	31	
6	事業収入が確保できた	1	1	8	19	0	2	31	
7	団体単独による事業よりも労力や費用負担が軽減できた	4	1	7	17	0	2	31	
割合		あてはまる	ややあまる	あまりあまる	りはない	あてはまらない	わからない	無回答	合計
1	自分たちの知識や技術を活かして地域貢献できた	45.2%	32.3%	3.2%	6.5%	6.5%	6.5%	100.0%	
2	地域の課題の解決・改善が進んだ	9.7%	45.2%	12.9%	19.4%	6.5%	6.5%	100.0%	
3	団体の町会・自治会への認知度・信頼度が上がった	22.6%	41.9%	12.9%	9.7%	9.7%	3.2%	100.0%	
4	町会・自治会役員との信頼関係が向上した	19.4%	38.7%	19.4%	9.7%	6.5%	6.5%	100.0%	
5	町会・自治会関係に仕事の幅が広がった	9.7%	9.7%	25.8%	38.7%	9.7%	6.5%	100.0%	
6	事業収入が確保できた	3.2%	3.2%	25.8%	61.3%	0.0%	6.5%	100.0%	
7	団体単独による事業よりも労力や費用負担が軽減できた	12.9%	3.2%	22.6%	54.8%	0.0%	6.5%	100.0%	

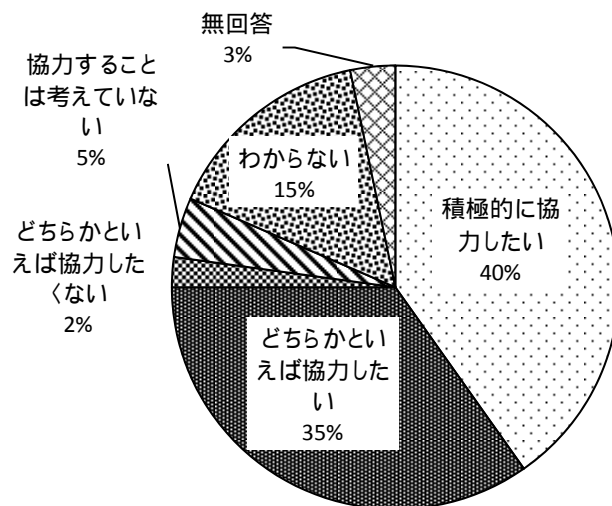


(問 13 は自由回答欄)

(全員の方に)

問 14 今後、町会・自治会などの地域団体から地域の悩みや課題等の解決・改善に協力を求められたら、協力できますか。(は1つだけ)

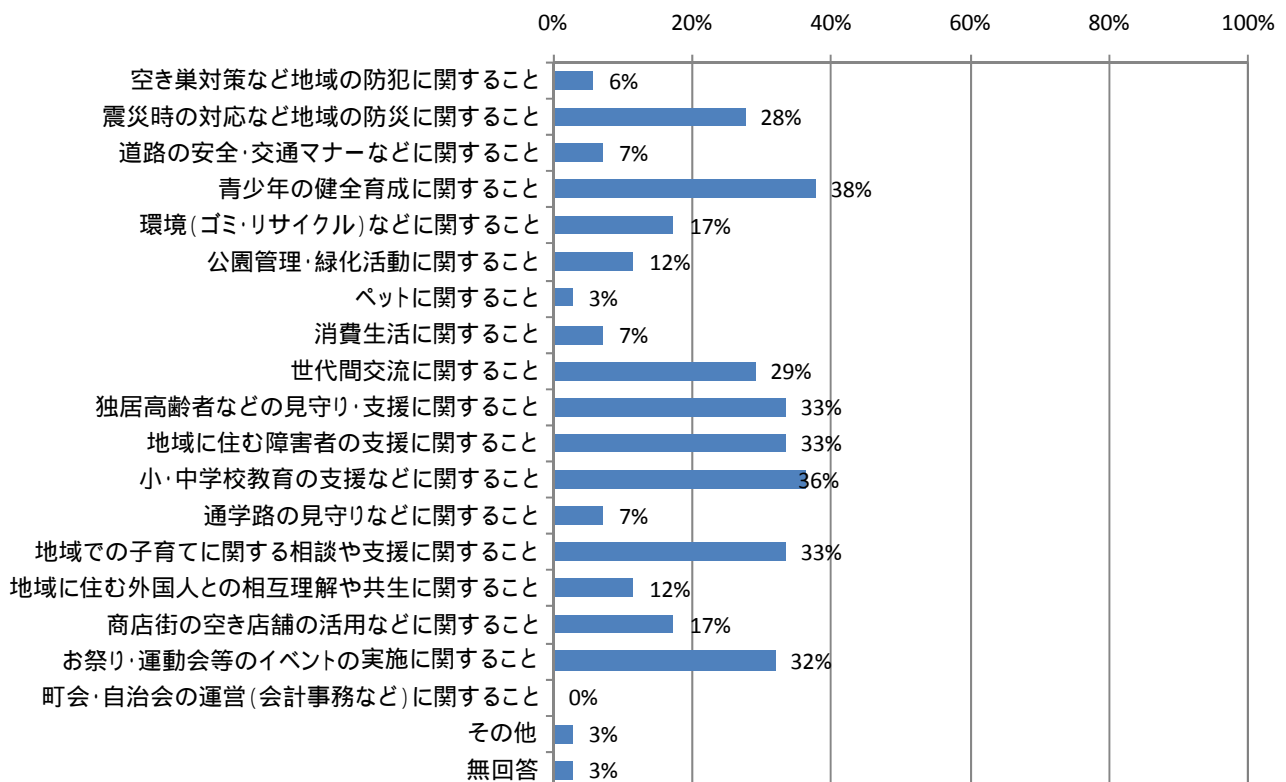
	件数	割合
1 積極的に協力したい	37	40.2%
2 どちらかといえば協力したい	32	34.8%
3 どちらかといえば協力したくない	2	2.2%
4 協力することは考えていない	4	4.3%
5 わからない	14	15.2%
- 無回答	3	3.3%
合計	92	100.0%



(問 14 で「1 積極的に協力したい」「2 どちらかといえば協力したい」とお答えの方に)

問 14 - 1 どのような活動で協力ができると思いますか。(はあてはまるものすべて)(n=69)

	件数	割合	
1	空き巣対策など地域の防犯に関する事	4	5.8%
2	震災時の対応など地域の防災に関する事	19	27.5%
3	道路の安全・交通マナーなどに関する事	5	7.2%
4	青少年の健全育成に関する事	26	37.7%
5	環境(ゴミ・リサイクル)などに関する事	12	17.4%
6	公園管理・緑化活動に関する事	8	11.6%
7	ペットに関する事	2	2.9%
8	消費生活に関する事	5	7.2%
9	世代間交流に関する事	20	29.0%
10	独居高齢者などの見守り・支援に関する事	23	33.3%
11	地域に住む障害者の支援に関する事	23	33.3%
12	小・中学校教育の支援などに関する事	25	36.2%
13	通学路の見守りなどに関する事	5	7.2%
14	地域での子育てに関する相談や支援に関する事	23	33.3%
15	地域に住む外国人との相互理解や共生に関する事	8	11.6%
16	商店街の空き店舗の活用などに関する事	12	17.4%
17	お祭り・運動会等のイベントの実施に関する事	22	31.9%
18	町会・自治会の運営(会計事務など)に関する事	0	0.0%
19	その他	2	2.9%
-	無回答	2	2.9%
	合計	69	100.0%

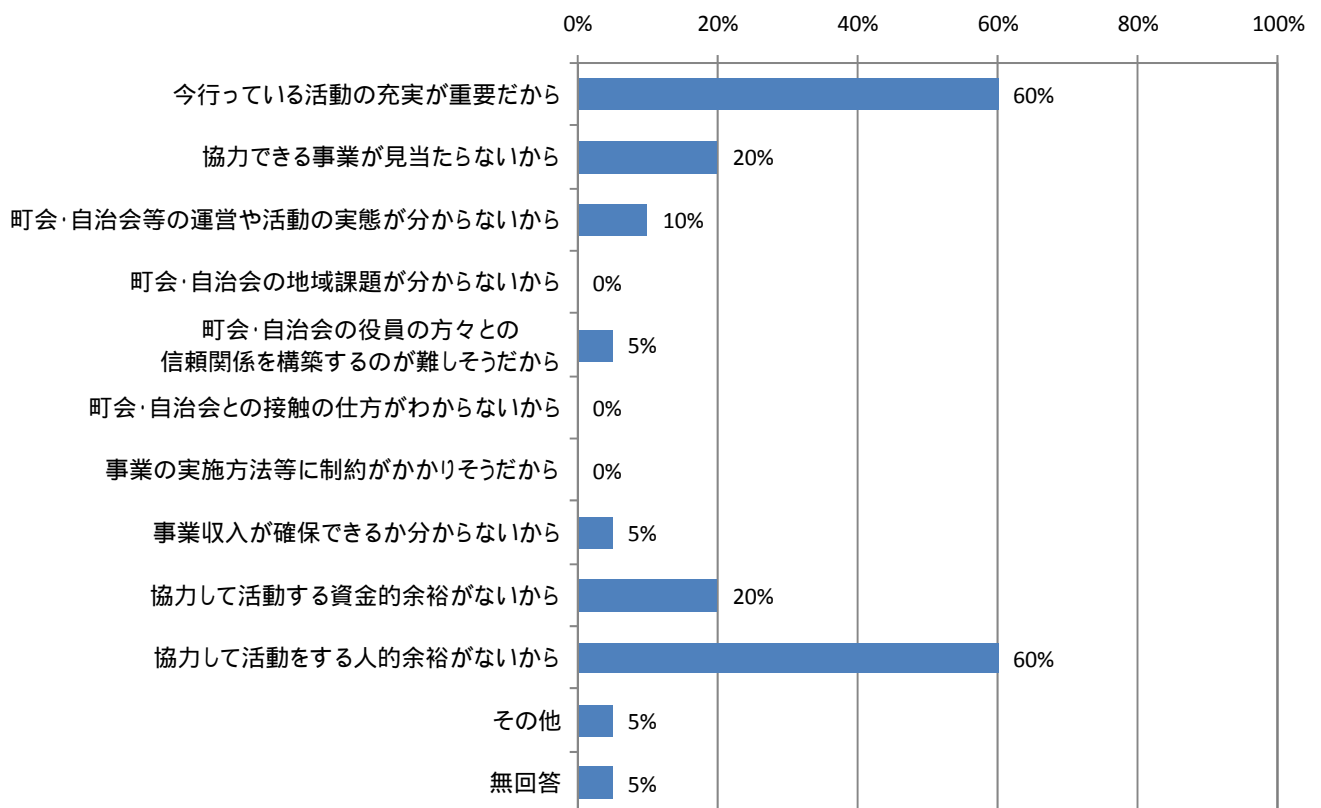


(問 14-2 は自由回答欄)

(問 14 で「3 どちらかといえば協力したくない」「4 協力することは考えてない」「5 わからない」とお答えの方に)

問 14 - 3 その理由は何ですか。(はあてはまるものすべて)(n=20)

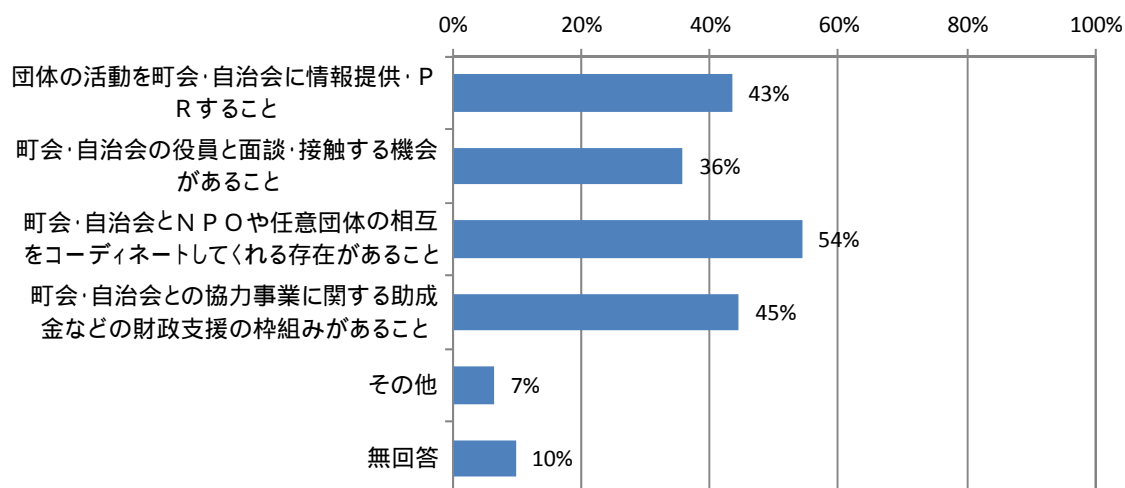
	件数	割合
1 今行っている活動の充実が重要だから	12	60.0%
2 協力できる事業が見当たらないから	4	20.0%
3 町会・自治会等の運営や活動の実態が分からないから	2	10.0%
4 町会・自治会の地域課題が分からないから	0	0.0%
5 町会・自治会の役員の方々との信頼関係を構築するのが難しそうだから	1	5.0%
6 町会・自治会との接触の仕方が分からないから	0	0.0%
7 事業の実施方法等に制約がかかりそうだから	0	0.0%
8 事業収入が確保できるか分からないから	1	5.0%
9 協力して活動する資金的余裕がないから	4	20.0%
10 協力して活動をする人的余裕がないから	12	60.0%
11 その他	1	5.0%
- 無回答	1	5.0%
合計	20	100.0%



(全員の方に)

問 15 今後、町会・自治会と協力して、何らかの活動を実施していくためには、どんなことが必要になりますか。(はあてはまるものすべて)(n=92)

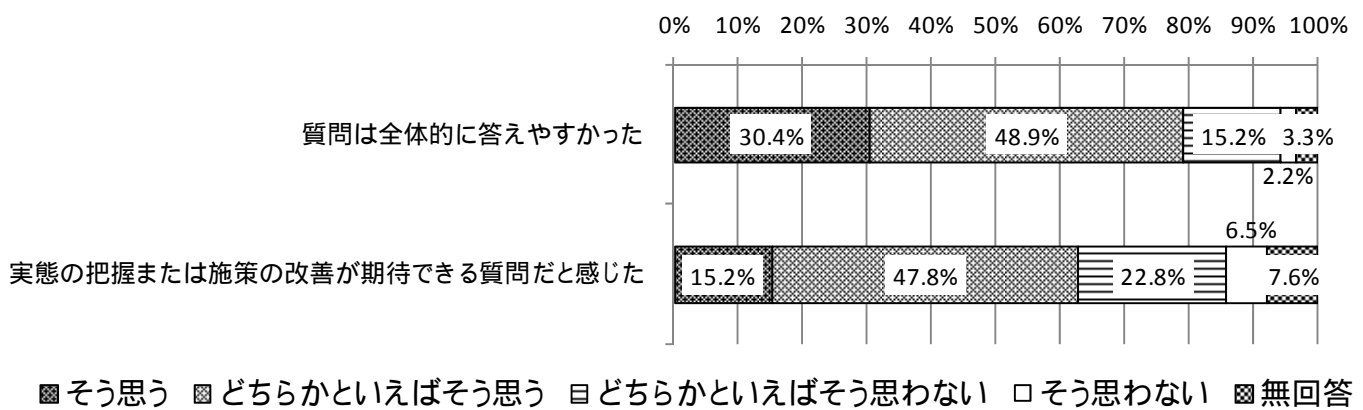
		件数	割合
1	団体の活動を町会・自治会に情報提供・PRすること	40	43.5%
2	町会・自治会の役員と面談・接触する機会があること	33	35.9%
3	町会・自治会とNPOや任意団体の相互をコーディネートしてくれる存在があること	50	54.3%
4	町会・自治会との協力事業に関する助成金などの財政支援の枠組みがあること	41	44.6%
5	その他	6	6.5%
-	無回答	9	9.8%
	合計	92	100.0%



(問 16、問 17 は自由回答欄)

問 18 多数の質問にお答えいただき、まことにありがとうございました。最後に申し訳ございませんが、今回のアンケート調査の質問全体に関してお答えください。(は各項目とも1つだけ)(n=92)

件数		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	合計
1	質問は全体的に答えやす かった	28	45	14	2	3	92
2	調査の目的に沿った質問 だと感じた	14	44	21	6	7	92
割合		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	合計
1	質問は全体的に答えやす かった	30.4%	48.9%	15.2%	2.2%	3.3%	100.0%
2	調査の目的に沿った質問 だと感じた	15.2%	47.8%	22.8%	6.5%	7.6%	100.0%



．関係団体等へのヒアリング調査

1. ヒアリングの要件

ヒアリング対象

- ・ アンケート調査結果及び区のデータなどから選定した町会・自治会及びNPO等の団体役員
- ・ 区内及び近隣の市区町村において先進的な取り組みをしている町会・自治会及びNPO等の団体

実施期間

- ・ 調査期間：2012年3月6日～2012年3月19日

ヒアリング対象

	団体名	実施日	アンケート回答等からの選定理由
町会・自治会	興野町会	3月6日	役員基準見直し、班・組役員負担軽減、地域内他団体との連携強化、活動成果確認等の組織改善など
	グリーンコーポ千寿自治会	3月6日	現役世代、若手女性会員、退職団塊世代の役員を支えるバックアップ体制等の組織運営改善など
	URパークタウン東綾瀬自治会	3月8日	子育て世代対応の活動充実、加入促進活動等、子供を通じたつながりから将来を見据えた組織運営など
	保木間第四アパート自治会	3月16日	高齢者世帯が多い都営住宅における交流の場づくりや見守り等の活動充実など
	綾瀬東町会	3月16日	地域内ハザードマップ作成（避難場所、避難用品備蓄、非常時連絡方法、町会行事紹介等）等の活動充実など
先進的取り組みをしている町会・自治会及びNPO等	足立ほがらかネットワーク（NPO）	3月6日	退職後の団塊世代の地域貢献活動、区や町会などが取り組みにくい活動への支援など
	“がきんちょ”ファミリー（NPO）	3月8日	青少年の地域の居場所づくり事業、青少年活動の町会連携等、行政や他組織との連携活動の取り組みなど
	大泉北泉町会（練馬区）	3月19日	高齢者見守りの先進的な取り組み、防災訓練や避難訓練の新しい取り組みなど

ヒアリング内容

- ・ 団体が抱える課題について
- ・ 今後力を入れていきたい活動について
- ・ 現在負担を感じている活動について
- ・ 今後必要と思われる支援策について
- ・ 会長・役員、代表の選任について
- ・ 加入促進について
- ・ 他の団体と協力して、何らかの活動を実施することについて
- ・ その他

2. ヒアリング調査の結果

< 結果一覧表 >

団体名	町会・自治会			
	興野町会	綾瀬東町会	大泉北泉町会	グリーンコーポ千寿自治会
日程	3月6日	3月16日	3月19日	3月6日
抱えている課題・負担となっていること	<ul style="list-style-type: none"> これまで町会運営が不透明だったが、改革を行い、2年で幹部が入れ替わるような仕組みにした。 役員は、50～60歳代で、時間的に余裕がある人が行っている。 資源回収が大変である。 	<ul style="list-style-type: none"> 町会長の引き受け手がおらず、懇願されて引き受けることにした。(町会長のなり手不足) 区から委託されていた公園の管理が大変で、3月いっぱいまで辞めることにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 後任の町会長が決まらない。 役員のなり手不足(役員になりたがらない人が多い)。 安否確認のタオル活動のPRをもう少しすべきだと感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 若い方に、活動支援してもらえない状況である。 団塊世代の取り込みが課題(サロンなどができないか検討)。 高齢者などの安否確認も課題 高齢者同士のつながりをどうすべきかを検討しないといけない。
力を入れている活動	<ul style="list-style-type: none"> 公民館町内会館を建てるための資金を集めるため、資源回収を行っている。 イベントでは、人を呼ぶための工夫(お菓子や粗品を用意するなど)を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災倉庫の増床と防災冊子の作成に力を入れている。 防災冊子は、非会員にも配っており、冊子の中には、町会の入会案内も入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々の安否確認に力を入れている。 横浜元町で、安否確認のため、各戸の玄関先にパンダナを巻くという事例を見て、自分たちでもやってみようと考えた。 都の補助金(地域の底力)を使って、安否確認のタオル活動を行っている。 前年度は、都の補助金を活用してサバイバルウォークを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 祭などのイベントを行っているほか、今後、学生をうまく取り込んでいきたい。 マンションには、いろいろな人材いるので、自らの能力を自治会活動などに発揮してもらおうと「活動協力員」制度を検討中。
必要な支援策	<ul style="list-style-type: none"> 支援は必要ないと考えている。自分たちのできる範囲で、活動を行ったほうが良いと考えている。 防災拠点や公民館などの設置費用の負担があればいい。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災倉庫用の土地があるといい。町会独自の倉庫が欲しいと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 町会会館を建てたいと考えている。そういった部分の支援があるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会活動の維持・活性化を図っていくための検討をしている。アイデアが欲しい。
他団体との協働の可能性について	<ul style="list-style-type: none"> 地域学習センターから出されている地域情報誌に町会長の情報が掲載されている。 他の町会と防災訓練や祭りを行うことはある。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の町会と連携しながら、盆踊りや祭りなどを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難拠点運営連絡会など他町会との連携がある。 学校とは、防災訓練で関係性が構築できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の自治会(閑屋地区のマンション自治会)と連携し、閑屋の環境を守る協議会を設立し、活動を行っている。 現在、リバーサイドに建つ4つの大きなマンションが集まって、地域課題について話し合おうとしているところ。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 会長自らが身銭を切って、何らかの活動を行うことはある。 近くの工場跡地に墓地ができる計画があり、この問題がきっかけで、地域がまとまった。 高齢者支援については、なんとかかしたいと考えているが、まだ手をつけられていない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> できる限り、楽しく活動することを心がけている。そのため、ノミネーションを行ったり、青少年部などが動いて、様々な活動を行っている。 町会会館があるわけではないので、神社の社務所で会議を行っている。 町会は、地元の盟主が支えてきたところはある。 	<ul style="list-style-type: none"> 取組を実施する上で、区の危機管理室などには、相談をしている。 練馬区の景観まちなみ協定に加入している。 	<ul style="list-style-type: none"> 当自治会は、99%の加入率である。 個人情報保護法が厄介である。高齢者の安否確認活動の妨げになる。(管理人の情報を踏まえながら、できるだけ高齢者の動向を把握)

団体名	町会・自治会		NPO・任意団体	
	URパークタウン東綾瀬自治会	保木間第四アパート自治会	“がきんちょ”ファミリー	足立ほがらかネットワーク
日程	3月8日	3月16日	3月8日	3月6日
抱えている課題・負担となっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・会員・非会員のメリット享受の差がなくなってきた。 ・役員の高齢化が課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・団地の高齢化が進んでいることもあり、自治会活動は、十分にできているとはいえない。 ・外国人が増えており、生活習慣の違いから、近所トラブルが発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの減少による会の運営・会の存続をどうするかが課題である。 ・当会と地域や学校とのつながりが築けないことが課題である。 ・地域において、活動に理解してくれる人を増やすそのPRが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人は、忙しく、なかなか活動を担ってもらえない。
力を入れている活動	<ul style="list-style-type: none"> ・若い居住者が増えたため、子供会を復活させるべく、準備会を立ち上げた。 ・高齢者の見守り対策として、全居住者に安否確認カードを配布し、何かあった時に連絡が取り合えるよう名簿を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者がものすごく多く、孤独死が発生したこともあり、自治会の内部組織として、高齢者対策部を設置した。 ・また、ボランティアグループを作り、毎月1回お困りごとの相談などを受けている。 ・要介護者がどれほどいるのかを把握するために、各戸にアンケートを実施し、情報を把握している。 ・高齢者等がなるべく外に出られるように、食事会を行ったり、趣味サークルを開いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生の居場所を作ってあげたいと思い、教育委員会のモデル事業として、「青少年の居場所づくり」を始めた。 ・保塚の地域学習センターにおいて、誰でも出入りのできる交流スペースを作ることとした。 ・特に何か催しを行うのではなく、子供たちが好きなことを好き勝手にやらせてもらうことにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人を助けている方の困りごとを手助けてしてあげる活動」を行うことを目標に、安心サポート事業、コミュニケーション事業、ネットワーク形成事業の3本柱で活動している。 ・これまでの活動を通じて、「となりの人に助けられたくない」「遠くの知らない人に少しのお金を払ってもらって助けてもらった方が、気が楽だ」と感じている方が多くいることがわかった。
必要な支援策	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金がもらえるのであれば、もらいたいが、自分たちでできる範囲の活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭的なものは特に必要ない。現在もらっている額で十分である。 ・自治会活動などについて、総合的に相談できる窓口の一本化が必要。 ・できれば60歳以上の高齢者の情報を区から提供してもらいたい。 ・また、様々な話し合いができる場が欲しい。 ・志をもったリーダーがいなくて自治会活動はできないので、組織のリーダー育成のための出前講座を行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政にやってもらいたいことはない。放っておいてほしい。 ・新たな施策を考えるよりは、今ある施策をしっかりと完結してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政として、ほがらかネットワークの地域における位置づけを考えてほしい。
他団体との協働の可能性について	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の目的を持っている他のUR団地の自治会への活動協力はある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事会の前に、講座を開いているほか、NPOなどに協力を仰ぎ、コーラスを披露してもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かつては、町会からの要請で、子供に活動の手伝いを行わせていた。 ・町会から地域課題解決のために協力を求められたら、「課題解消できるのであれば」協力したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・団地の自治会から、地デジの工事の際に、うまくいかないで協力してもらいたいという依頼は受けた。(ただし実施には至らなかった。)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・団地建替え問題を機に、専門知識を持った若い方に自治会の事務局長を打診した。 ・行事の際に自治会加入を行っているが、なかなか難しい。やはり、各戸を回って勧誘しなければ難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、自治会活動が難しくなるのではないかと想定されることから、自治会活動自体をNPOやシルバー人材に委託してしまうという手も十分にある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・区内には防災格差があるなど、地域によって特性が異なるので、区一律の施策では駄目である。

< 結果概要 >

興野町会

平成 24 年 3 月 6 日 13:30~15:00 於 興野町会 中村会長宅

ヒアリング対象者 興野町会 会長 中村眞大氏

出席者 区民の声相談課 川原井 エックス都市研究所 橋爪、麻生

町会長に就任した経緯など

- ・町会エリアにあったネジ工場が売却され、その跡地に墓地が作られる計画が立った。その墓地問題に積極的にかかわっていたこともあり、会長を引き受けることとした。
- ・以前は、町会自体、金銭的にルーズで、公私混同があったため、これからの町会は、そうあってはならないと思い、会長職に任期をつけるなどの組織改革をした。

力を入れている活動について

- ・資源回収に力を入れている。公民館(町内会館)を建てるために、資源回収で集めたお金を積み立てている。
- ・年に 1 度豆まきも行っている。この豆まきには、多くの方が参加してくれる。町会の会員以外の方にも広く参加していただいている。こうしたイベントを、町会の役員が一生懸命やっている。
- ・大きい町会だからこそ、様々なイベントができると思っている。
- ・近年は、新しくマンションも建ち始めているが、そうしたマンション住民と、古くから住んでいる住民とは、うまくつきあっている。
- ・マンションが建つ段階から、町会長がマンション事業者と話し合いをしてきたことが成功要因かと思う。
- ・町会に入っていない新住人の子どもにも、祭りなどで使える菓子券などを配るなどしているが、その結果、新住人の方々は、「町会に加入しなくてもよい」、「町会費を払わなくてもよい」と思うようになっている。
- ・公民館において、警察署の方を呼んで、運転者講習会を実施している。100 名程度集まる。100 円程度の粗品やお茶を用意していることが、100 名集まる大きな要因ではないかと思う。
- ・こうした活動は、すべて町会の予算の範囲内で行っている。粗品や景品なども安く手に入る所で仕入れるなどの工夫を行っている。
- ・どうしても足りない場合は、会長自ら身銭を切ることもある。

町会の運営について

- ・町会の幹部会が月に1回、役員が月に1回ある。会合は、住区センターで行っている。
- ・興野町会では、総務部がしっかり機能している。総務には、50～60代の方が多い。こういった方々は、もともと町会の運営には携わっていなかったが、墓地問題で一緒に関わる中で、町会の運営にもかかわってもらうようになった。
- ・幹部が2年に1回、役員が毎年、輪番制で変わることになっている。その際、選考委員会を開いて、誰に役員などを担ってもらうかを定めることとしている。
- ・会長職は5期10年を限度とした任期制にしており、会則にも定めている。
- ・興野町会の加入率は、65%程度である。加入の勧誘は、住宅ができると同時に、町会長や班長とともに、説明に伺う形で行っている。

負担になっている活動について

- ・今後も継続していきたいと思うが、資源回収は、負担になっている。特に、回収した資源の運搬は負担である。
- ・そこで、資源回収の手伝いを、たとえば、公園で何か活動している方などに声掛けをして手伝ってもらっている。
- ・高齢者の見守りについては、まだ手をつけられていない。ただ、今後やっていかなければならないと考えている。

他団体との協働について

- ・Okimoto Walker という地域情報誌を、興本地域学習センターが発刊しており、そこに、町会長や地域の情報が掲載されている。
- ・この情報誌は、回覧板で町会内に回し、会員の方に見てもらっている。(会員全員に配布はしていない。)
- ・地域学習センターを通じて、仲良くなる人はおり、そうした人にちょっとした活動支援をしてもらうことはある。
- ・防災訓練などは、他の町会と一緒にやっている。
- ・興野神社のお祭りでは、興野北町会と一緒に、囃子などを行うことはある。

求める支援策について

- ・公民館建設に、区から補助をいただいたので、ありがたいと思っている。公民館建設だけでなく、防災関連の施設整備等に補助を出してもらえるとありがたい。
- ・それ以外は、特に区からの支援を求めることはない。支援を求めるよりは、町会でできることをしっかりやっていくことが大切だと考えている。

綾瀬東町会

平成 24 年 3 月 16 日 13:30~15:00 於 和田税理士事務所

ヒアリング対象者 綾瀬東町会 会長 和田政雄氏

出席者 区民の声相談課 川原井 エックス都市研究所 橋爪、麻生

町会の設立経緯や町会長就任の経緯について

- ・以前足立区の教育長になった方が設立された町会で、昭和 28 年設立の歴史ある町会である。
- ・平成 15 年には、50 周年の記念式典を行った。
- ・前会長の下、副会長を務めていたが、誰も後任を引き受けず、前会長が困っていたのを見たので、引き受けることにした。引き受けるからには、しっかりやっていきたいと思っている。

力を入れている活動について

- ・防災倉庫の増床と防災冊子の作成に力を入れている。
- ・防災冊子は、区ハザードマップではわからない細かい地域の細かい地図を作成しているほか、災害が起きる前にどんな準備をしなければならないのか、110 番の連絡はどうすればよいのかといったものを冊子としてまとめたものである。このほか、町会の行事などの写真を載せており、地域の便利帳として使ってもらいたいと考えている。
- ・この冊子の中に、町会の加入案内を入れて、全世帯に配ろうと考えている。新たにこの地域に引っ越してこられた方に、町会に加入してほしいためである。したがって、この冊子の発行費は、ある種の「町会 PR 費」であると考えている。
- ・盆踊りやもちつき大会をやるが、近隣から多くの方がやってくる。町会費を払う・払わないに関わらず、子供たちには、お菓子を配るなどしている。
- ・こうしたことができるのは、これまで地域のために活動してこられた役員の方々などの寄付によるところが大きい。寄付は、60 年前の町会発足当初から築き上げられ、域内居住者に根付いた佳き慣習であると慶んでいる。
- ・盆踊りの費用は、町会の会費として集めたものを使っているのではなく、寄付で賄っている。
- ・親睦を兼ねて、以前行っていた町会の旅行を復活させたい。また、公式の会議だけではなく、できるだけ飲んだり食べたりしながら話をするので、いいアイデアが出てくるので、そうしたノミネーションも大切にしている。
- ・青少年部は、非常に活発に活動している。ラジオ体操、昔の子供たちが遊んだ遊びを今の子供たちに伝えるコーナーなど、様々な活動を行っている。
- ・青少年部の部長は、50 代の方であり、部員の方々は、30~40 代のお父さん、お母さんである。部員の方々は、子供を通じて集まってきている。
- ・12 月末に、子供パトロールを実施している。地域内の各所にお菓子を配る神酒所のような場所を設置し、楽しんでもらっている。

負担になっている活動

- ・区から委託を受けている公園の清掃は、公園清掃担当者が、毎週どこにも出かけられず、また、秋になると枯葉がたくさん発生し、作業が大変なため、3 月いっぱいまで辞めることとした。

他団体との協働について

- ・近隣の町会には、盆踊りの時に、いっしょに踊りに参加してもらったりするくらいである。もちろんこちらの町会から近隣の町会へ手伝いに行くこともある。
- ・今のところ、他団体から協力を仰ぐことはないと思う。町会内でできることをやることしか考えていない。

町会の加入について

- ・ゴミ出しの時に、今まで見たことのない人がいると、班長が、声をかけ、町会への加入を促している。
- ・ただ、マンションは、加入促進してもなかなか加入してもらえない。
- ・「確かに任意組織だが、いざ災害が起きた時に入っていて安心である」、「こんなメリットがある」といったことを会長自らが説明し、加入の説得にあたることもある。

求める支援策について

- ・もし可能であれば、防災倉庫を作る場所が欲しい。
- ・会計の担当者は、もう少し区からの補助金を増額してほしいと言っていた。

その他

- ・町会会館があるわけではないので、神社の社務所で会議を行っている。
- ・総務部長は、様々な活動を精力的に行っているが、時間的に余裕のある人である。こうした地元の盟主が町会を支えているところはある。

大泉北泉町会

平成 24 年 3 月 19 日 14:00~15:30 於 反田康二郎会長宅

ヒアリング対象者 大泉北泉町会 会長 反田康二郎氏

出席者 区民の声相談課 川原井 エックス都市研究所 橋爪、麻生

抱えている課題について

- ・会長自身が高齢のため、なかなか歩きまわって見守りすることができない。
- ・会長職を譲ろうと考えた時もあったが、後顧の憂いを払しょくする人事ができなかった。

力を入れている活動について（安否確認のタオル活動）

- ・当町会の役員は 18 名であり、35 名の要援護者がいる。いざというとき役員だけでは見回ることはできないので、隣近所の方にまずは安否を確認してもらうということが必要だと考えていた。
- ・そんなとき、横浜元町において、バンダナを使った安否確認活動を行っているテレビを見て、こうした活動を実践したいと思ったことが活動開始のきっかけである。
- ・ちなみに練馬区では、要援護者の名簿は、民生委員だけでなく、町会長にも届くことになっている。
- ・活動開始にあたっては、横浜元町の現地に行って、何度か話を聞いてきた。
- ・当初は、自宅の見えやすいところにバンダナを掲げてもらって安否確認を行おうと考えていたが、外から見えにくいことがわかり、タオルに変更した。
- ・見えやすいように色の検討を行ったほか、タオルにホックをつけ、どこにでもひっかけられるようにした。
- ・2011 年 11 月 1 日に、町会内で一斉にタオルを掲げてもらうことにしたが、結果、8 割程度の家庭でタオルを掲げていただいた。これ以降、月に 1 度掲げてもらうようにしている。
- ・ただ、1 月 2 月を過ぎたころから、掲げる割合が少なくなってきた。町会の方に話を聞いてみると、「忘れていた」とおっしゃる方が多かった。もっと PR しないといけないと感じた。
- ・タオルは、町会会員のみに配布している。
- ・この活動は、東京都の地域の底力再生事業助成を使って行っている。実は、前年度、サバイバルウォークという活動を実施しており、そのときにもこの助成を使っている。安否確認のタオル活動は、今年度もこの助成を使って何かしようと考えたことも理由としてはある。
- ・ちなみに、このサバイバルウォークを発案したのは、役員の方であり、その方が、早稲田大学の先生を連れてきて、実現した活動である。
- ・この助成の申請書を出す前に、区危機管理室などとは何度か打ち合わせはしている。
- ・練馬区の協働事業提案制度を活用し、防災に関するパンフレットを作成した。町会会員のほか、町会連合会・支部や地域集会所の集まりなどでも配布はしている。
- ・パンフレットの中身は、区の防災課と相談しながら作成している。
- ・そのほか毎年、町会の防災費用から防災機材を購入するなど、防災面の活動にも力を入れている。

その他活動について

- ・子供縁日や盆踊りなどを行っており、有志の会員が運営に携わっている。
- ・学校の空き教室（1 階）を防災倉庫として活用している。他の町会だと、倉庫が 2 階や 3 階にあって大変だという話を聞いている。

求める支援策

- ・「大江戸線の延伸計画」により、鉄道の計画路線上に「補助230号線」が計画されている。この補助230号線は、町内約20～30軒が立ち退きの対象となっており、町会運営の危機に立たされる可能性がある。そこで、区に「町会の基地棟」を作っていただきたいと要望を行っている。区からは「丁寧に対処する」との回答があり、希望を持って待機している状態である。

他団体との協働について

- ・「大江戸線延伸促進期成同盟」があり、計画路線周辺の町会長が幹事となって活動を行っている。
- ・練馬区では、災害時の避難拠点に小中学校98校が指定されているが、当町会も近くの小学校が指定されており、周辺の3町会が合同で「避難拠点運営連絡会」を運営している。
- ・年間行事として「備蓄品の点検」「防災機器の点検・試運転訓練」を行い、区職員・学校職員・PTA、町会運営連絡会員が交流を深めている。
- ・「町会連合会」組織があり、練馬区内の出張所単位で運営されている。行政の通達事項等を中心に会合を行っている。
- ・昨年、区や消防署の協力の下、中学校で防災訓練を行ったが、校長先生が熱心な方で、防災訓練を今後学校の行事化としてくれることになった。

景観まちなみ協定について

- ・区の制度である「景観まちなみ協定」を締結した。協定締結にあたっては、練馬まちづくりセンターと打ち合わせを重ねた。

グリーンコーポ千寿自治会

平成 24 年 3 月 6 日 18 : 00 ~ 19 : 30 於 グリーンコーポ千寿自治会管理事務所

ヒアリング対象者 グリーンコーポ千寿自治会 会長 大沢栄一氏

出席者 区民の声相談課 川原井 エックス都市研究所 橋爪、麻生

自治会設立の経緯

- ・昭和 54 年に最初の 1 棟が、55 年にもう 1 棟でき、その頃に管理組合を作った。その当時は、関屋町会に加入させてもらっていた。
- ・当初、マンション独自の自治会を設立するつもりはなかったが、管理組合設立の 4 年後には自治会を設立していた。
- ・ただし、管理組合を設立した時には、もうすでに自治会の基盤は確立されていた。
- ・夏祭りなどは、自治会設立以前から行っており、マンション居住者以外の方も多くやってきた。現在、祭の模擬店は、自治会の役員がすべてやっている。
- ・かつて暴走族が徘徊する問題があり、一般の人にも夜警に参加してもらったこともある。現在も、土曜日の夜に一般の人にも夜警に参加してもらっている。

管理組合と自治会について

- ・かつて、賃貸居住者はいなかったが、最近は賃貸居住者も増えてきている。そういった方々については、発言権はないが、管理組合の行事には参加してもよいといった「準組合員」制度を設けている。
- ・自治会については、99%の加入率を誇っている。
- ・管理組合はハードを、自治会はソフトを司るものとする。そういう意味では、当マンションは、管理組合と自治会がうまくかみ合っていると思う。ちなみに、このマンションは各フロア 1 人を、管理組合の理事、自治会の幹事に選出している。
- ・ちなみにこのマンションは、毎年各フロアから 1 人ずつ理事を選任しているが、マンションの管理は、「自主管理でやっていこう」ということで、100%管理会社に任せないようにしている。
- ・居住者が、自治会に加入する明確なメリットはないと考えている。ただ、ここに居住することで人とのつながりが持てることは、大切だと考えている。
- ・自治会予算では、防災などの他に、お祭りなどのイベントに多く使われている。

抱えている課題について

- ・自治会の業務が大変である。少数の役員で何とかやっている。若い人は忙しいようで、役員として継続して何かお願いしようとしてもなかなかできない。
- ・ただ、居住者の方がそのあたりの事情を察してくれて、活動をバックアップしてくれる。
- ・次の役員候補、後継者を育成していかなければならないと思う。
- ・また、団塊の世代の取り込みが課題である。団塊の世代の方は、地域が煩わしい、拘束されるといったイメージを持っていらっしゃるようである。そういったことを払しょくできるよう、広報を行って、サロンなどができないかと模索している。そのほか、育児をしている方が、育児相談できるような場などがあれば、地域のつながりができ、自治会の維持・継続につながっていくのではないかと考えている。
- ・個人情報保護法が厄介である。高齢者の安否確認活動の妨げになっている。ただ、管理人が、どういった方々がどういう行動しているのかを概ね把握しているので、管理人の情報を踏まえながら、高齢者の動向はできるだけ把握しているところである。

- ・高齢者同士のつながりをどのようにしていくかも課題である。

力を入れている活動について

- ・3.11の地震発生直後、避難所に逃げてこられた方の大半は、実はマンション居住者であった。そこで、マンション独自の防災組織を見直すとともに、災害時に居住者がどう行動すべきかを検討し、それをマニュアル化した。マニュアルは、全戸に配布する予定である。
- ・足立区には新しく大学ができることもあり、学生を引き寄せることも重要だと考えている。学生の中にも、地域コミュニティに関心を持っている人たちも多くおり、そういった学生をうまく取り込んでいきたいと考えている。たとえば、自治会活動に協力した学生を空き家に住ませるなどの方法も考えられる。
- ・その他検討していることとして、「活動協力員」制度がある。マンションには、いろいろな人材がいるので、自らの能力を自治会活動などに発揮してもらおうべく、本人の同意をとって、協力員に登録していただくようなものを考えている。

他団体との協働について

- ・周辺の町会・自治会と一緒に「閑屋の環境を守る協議会」を立ち上げ、地域の環境問題について話し合いをするなどの活動を行っている。
- ・リバーサイドに建つ4つの大きなマンションの自治会が集まって、大規模マンションの課題について話し合っているところである。
- ・そのほか、地域包括支援センターと連携をとって、高齢化に対応するため、健康講座等を実施している。

求める支援策

- ・居住者の高齢化をむかえ、自治会活動の維持・活性化を図っていくために様々な検討をしているが、そういった活動・イベントのアイデアが欲しいと思う。

URパークタウン東綾瀬自治会

平成 24 年 3 月 8 日 13:00~14:00 於 URパークタウン東綾瀬自治会管理事務所

ヒアリング対象者 URパークタウン東綾瀬自治会 会長 上遠野幸子氏

事務局長 江国智洋氏

出席者 区民の声相談課 川原井 エックス都市研究所 橋爪、麻生

自治会の歴史・発展の経緯

- ・かつて、団地ができたとき、駅から団地までは何もなく、「陸の孤島」であった。そうした状況の中、住環境を改善すべく、様々な自治会活動を実施してきた。
- ・かつては、子供の数も多く、子供会活動も活発に行われてきたが、現在では、子供会活動は休止している。
- ・団地の建て替えを機に、若い世代も入居し始め、入居者の半分程度が戻り入居、残り半分が新規に入居されたという構成になった。

力を入れている活動

- ・若い世代の入居も増えたこともあり、子供会を復活させるべく、子供会設立のための準備会を立ち上げたところである。
- ・自治会全体としての行事では、餅つきや団地祭りがある。団地祭りは、団地ができたころからやっており、外部の夜店も呼んで盛大にやるため、外部の人もたくさん訪れる。
- ・秋にはオータムフェスタを実施し、フリーマーケットや模擬店、展示会等を行い、住民との親睦を図っている。
- ・楽しい行事を通して、なるべく新規に入居された方に自治会に加入してもらいたいと考えている。
- ・加入の促進活動については、年に1回、役員が各戸に回って勧誘をしている。勧誘すれば、比較的加入していただけている。
- ・行事でも、自治会加入の案内は行っているが、それだけではなかなか難しいので、やはり各戸に勧誘しに行かねばならないと感じている。

抱えている課題

- ・戻り入居の方は比較的高齢者が多く、フローア委員の当番が回ってくると、「辞めたい」とおっしゃる方が数名いらっしゃいます。また、「加入しているメリットがない」と言って、退会される方もいらっしゃいます。
- ・本来ならば、自治会に加入するメリットはあるが、会員と非会員の差がなくなっているところに問題があるのかもしれない。
- ・UR から団地の共益費の内訳が出されるが、それを見て、「共益費が高すぎるのではないか」、「安全を見て集め過ぎているのではないか」と思えたので、UR に交渉したところ、共益費が500円下がった。そういったことは、一人ではできない。自治会があるからこそできることである。
- ・この500円下がったことのメリットは、会員だけが受けられるのではなくて、非会員の方も受けられる。
- ・役員の高齢化も課題である。緩やかな世代交代をしていかなければならないとは思っている。
- ・事務局長は、40代前後であるが、事務局長が自治会活動に積極的にかかわってもらえるようになったのは、団地建替え問題がきっかけである。
- ・事務局長は建築関連の業務についていることもあり、団地建て替えの住民案などの作成にも携わった。このことがきっかけで、自治会から事務局長就任の打診を行った。

高齢者の見守りについて

- ・民生委員と連絡を取り合いながら、見守り活動は行っている。ただ、URの管理事務所では、どこにどのような方がお住まいになっているか知っているものの、その情報を自治会には教えてもらえない。
- ・そこで、2年前に、全居住者に安否確認カードを作成し、自己申告してもらった。何かあった時には、連絡を取り合えるよう、カードをもとに名簿を作成した。この安否確認のカードは、会員にのみ配布した。
- ・3.11の際は、自己申告していただいた方全員のところを訪問して、安否を確認した。
- ・高齢者という視点でいえば、以前は、敬老会を実施していたが、どこに65歳以上の方がどれだけ住んでいるかわからなくなってしまったので、敬老会を実施することを辞めてしまった。

他団体との協働について

- ・自治会でできる範囲のことをやっているの、特に外の団体と協力関係を築くといったものはない。
- ・他のURの団地の自治会とは、家賃の値上げ反対などの共通の目的があるので、他のURの団地の自治会の活動に協力することはある。
- ・ある団地では、高齢者が増えてきたので、高齢者のコミュニティを作ったらどうかという話になり、自治会のメンバーが中心となってNPOを設立し、高齢者を対象に有料で食事を出す機会を作ったという話を聞いたことがある。

求める支援策

- ・助成金をいただけるならいただきたいと思うが、自分たちのできる範囲で活動は進めていっている。
- ・東京都からは、公団住宅の自治会に対して、高齢者対策を行うための助成金が出た。

その他情報提供について

- ・掲示板や回覧板などで情報提供を行っているほか、自治会を宣伝する意味で、自治会新聞を出している。

保木間第四アパート自治会

平成 24 年 3 月 16 日 10:30~12:00 於 保木間第四アパート自治会管理事務所

ヒアリング対象者 保木間第四アパート自治会会長 会長 波多野怜子氏

出席者 区民の声相談課 川原井 エックス都市研究所 橋爪、麻生

抱えている課題

- ・高齢者がものすごく多い。60歳以上の方が82%以上いる。
- ・東京都の方針なのかどうか分からないが、エレベーターが付いているということで、高齢者及び障がい者の入居が多い。
- ・自治会活動も、役員として選ばれる方が高齢者なので、十分な活動ができにくくなる。
- ・公園の清掃活動に出られなくなっている方が増えている。
- ・中国や韓国、フィリピンの方が多くなってきている。生活習慣などの違いから、なじみにくいようである。夜遅くまで集まって大声でしゃべっているのが、近所トラブルになることが多い。
- ・住区センターでも様々なイベントを行っているが、住区センターのイベントも、自治会のイベントも参加しない人たちをどうするかが課題である。

力を入れている活動

- ・孤独死が立て続けに起きて、なんとかしないといけないと思い、自治会活動に参加することとした。
- ・当時、自治会には、様々な部署があったため、集約して、新たに高齢者対策部を設立した。
- ・近所で高齢者を見守る意識を高めていきたいと思い、高齢者対策部の中からボランティアグループを作った。現在、26名が活動している。毎月1回全世帯を見回ったり、困りごとの相談を受けている。
- ・高齢者対策部やボランティアグループを立ち上げていくのに、3年かかった。
- ・つい先日もボランティアがいない棟で孤独死が発生してしまった。できるだけ、全棟にボランティアを置きたい。
- ・定期的に回覧板などで、ボランティアの勧誘を行っている。
- ・足立区のアんしんネットワークには、すぐる思いで加入した。地域包括支援センターの方と毎日連携しながら、高齢者の見守りを行っている。
- ・民生委員が高齢者の情報をこちらに流していただくことはない。そういった情報をできる限り話し合う場があんしんネットワークの会合であると考えているが、そういった議論にはならない。もう少し突っ込んだ話し合いをしたいとは思っている。
- ・足立区は、緊急時に自治会の責任者に要援護者の情報を流すとしているが、その前に頂きたい。緊急時に情報をいただいても、どうしようもない。
- ・従って、現在、3階以上に住む方にアンケートを実施し、手助けが必要かどうか確認している。
- ・そのほか力を入れている活動として、お気楽サロンという食事会を1人300円の会費を集めて実施している。外国人の方や高齢者、認知症の方などが参加している。30~40名参加しており、そこで集まった人同士で、仲間が増えているようである。また、閉じこもりがちな高齢者も欠かさず参加してくれるようになった。
- ・この食事会は、近隣にもチラシを配布しているが、あまり団地外からやってくる方はいない。
- ・また、趣味の会も開いており、将棋やフラダンスを行っている。
- ・自治会予算は、防災関連で15万円、防犯関連で7万円、文化関連で10万円となっている。この予算の範囲内でうまくやりくりをしている。

- ・ 5つの町会合同で、防災訓練を行っており、当団地の参加者は80人程度である。また、団地独自の防災訓練には、120人くらいの住人が参加している。

他団体との協働について

- ・ 食事会の前に、様々な講座を開いている。認知症に関する講座や楽器の演奏などをNPOにお願いしたり、近くのボランティアの方に演奏してもらったりしている。
- ・ 5年に1度団地祭りを行っているが、今回は、東日本大震災の支援バザーを実施する予定である。住区に所属する町会などにも相談しているところである。
- ・ 他の組織から、「防災や高齢者対策についての取組についてお話しいただきたい」といった講演依頼があったが、これは、あんしんネットワークの総会で、以前防災や高齢者対策などについて話したことがあり、他の自治体会長からの依頼であった。あんしんネットワークは、人と人をつなぐ役目もあるのかもしれない。

求める支援策

- ・ 区よりも社会福祉協議会やボランティアセンターとの連携がうまくいくといいのではないかなと思う。
- ・ 今後、自治会活動が難しくなる可能性があるので、その時に例えば、活動のすべてをNPOに委託したり、活動の一部をシルバー人材センターに委託してしまうというのも選択肢の一つではないかなと思う。
- ・ 区からの支援としては、情報の提供を行ってほしい。特に60歳以上の情報が欲しい。
- ・ 自治会活動を行っていく上で、福祉、防災など総合的に相談できる場所が欲しい。相談できる窓口の一本化を図ってほしいと思う。
- ・ 自治会活動は、志をもったリーダーがいないと続かないと思う。組織のリーダーを育てることもやってもらいたい。その際、この集会所を使ってやってもらえると、若い人を周辺の町会から集められるが、区のほうで一堂に会してやるとなると、参加率は極めて低くなると思うので、できれば、出前講座としてやってもらいたい。
- ・ 補助金は、今いただいているもので十分である。

自治会のメリットを感じるために必要なことについて

- ・ 自治会の活動は、防災や防犯の活動がどのように行われているのか、目に見えてわかることが大切だと思う。
- ・ また、魅力的なイベントを行ったほうがいいと思う。みんなが集まって何か出来るイベントをやったほうがいいと思う。
- ・ バザーなども日常的にもっとやるべきだと思う。

“ がきんちょ ” ファミリー

平成 24 年 3 月 8 日 15:00~16:00 於 大山代表宅

ヒアリング対象者 “ がきんちょ ” ファミリー 代表 大山光子氏

出席者 区民の声相談課 川原井 エックス都市研究所 橋爪、麻生

会設立の経緯について

- ・長年の地域子ども会や地区少年団体協議会の関わりの中で足立区教育委員会と足立区少年団体連合協議会主催、各地区少年団体協議会運営の小学校 4 年生からの対象のジュニアリーダー研修会修了生が中学生になると何もやることができなくなってしまふ。そこで、平成 14 年から準備にかかり、何らかの形で子供たちのつながりとリーダー育成の体験活動を継続してあげたいと地域有志で「子ども応援団」をつくり、同時に地域ジュニアクラブ“ がきんちょ ” が平成 15 年に設立できたことがはじまりのきっかけ。
- ・当時でさえ、地域ジュニアクラブのメンバーには、町会加入していない世帯の子供のほうが多かった。
- ・設立後、行っていた活動を知った地域の方から、子供たちに様々な活動を手伝ってほしいと要請があり、地域の活動に子供たちが運営の手伝いをしたり参加者として町会や健全育成団体の行事を応援することとなった。
- ・ところが、事情の読めない地域の方々からは「あの子どもたちは誰だ」といった歓迎されていないような雰囲気を受けたため、しっかり認められた団体である必要性を感じ、NPO の任意団体に登録をし、また子供たちが「ボランティアをやってみよう」と言ったので、ボランティア団体としても登録しての活動になった。

抱える課題について

- ・当然子供たちは学校を卒業し、社会人になっていく。また地区少年団体協議会の運営形態が変わり、ジュニアリーダー研修の修了生が激減。当然、地域ジュニアクラブへ活動移行する子供たちもいなくなって、今後は今までとは違う運営で会を動かしていくしかないと考えている。
- ・いつ解散させてもよいとは思いつつ、せっきやく子供たちの居場所・拠点を作り上げたのだから続けていくべきだと思いなやむことがある。
- ・教育委員会から「青少年の居場所づくり」の委託を受けて事業を進めてきたが、結局当会と学校や地域とはつながらない状況である。
- ・予算・お金が必要なのではなく、活動を理解してくれる人が増えることが重要である。保塚には、地域を支える様々な組織があるが、“ がきんちょ ”ファミリーという NPO もあり、「誰でも遊びに行ける場所なんだ」ということを認識してもらえれば、もっとスムーズに会の運営が進むと思う。
- ・ただし、“ がきんちょ ”ファミリーだけで、こうした活動内容を PR することには限界がある。どう PR をしていくのが課題である。
- ・PR をしてたくさんの方に認知してもらうことは重要であるが、あまりにも多くの人が集まってきてしまうのも問題である。子供たちに情報が伝わるのは遅い。大人の方々の居場所はすぐできる。ともすれば、子供たちや青年たちの居場所がなくなってしまう可能性もある。

活動内容について

- ・中高生が住区センターから追い出されてしまったため、そうした中高生の居場所を作ってあげたいと思い、教育委員会のモデル事業として、「青少年の居場所づくり」を始めた。
- ・保塚の地域学習センターが、たまたま日曜日に空いていたので、第 1 と第 3 日曜日の午後に、誰でも出入りのできる交流スペースを作ることとした。

- ・特に何か催しを行うのではなく、子供たちがやりたいことを自分の判断や発言、そして自分の責任で好き勝手にやってもらうこと
- ・こうした活動を行ってきた効果は、まだ見えてきていない。ただし、あと2～3年して、社会に巣立っていく子供たちが、自分たちの地域を見て、地域にどういうことを要求するのか、また、自分たちの子どもに地域のことをどう伝えていくのか、そんな地元ふるさと意識を持つきっかけに、この活動がつながっているのではないかと感じている。

他団体との協働について

- ・自分たちから町会に提案するというよりは、町会から依頼されることが多い。NPO側から「こういうことをやるので手伝ってもらえますか」といっても、聞いてもらえないと思う。
- ・町会から、地域課題解決のために“がきんちょ”ファミリーに協力してもらいたいということであれば、そしてまた、地域課題を解消できるのであれば、協力したいと思う。

求める支援策について

- ・行政にやってもらいたいことは特にない。放っておいてほしいとさえ思う。まずは、地域の既存団体とのつながりを考えたい。
- ・子供(乳幼児～小学生)を大切にしようとする施策を区では打っているようだが、青年たちはどうする。現場サイドに今の子育て支援の施策が降りてくるまでには、まだまだ時間がかかるかもしれない。
- ・末端に届いていないものがまだまだたくさんあるので、新たな施策を考えるより、今の施策をしっかりと完結させることのほうが大切である。
- ・NPO 活動支援センターから、“がきんちょ”ファミリーの取組を紹介するリーフレットを、補助金を使って作ったらどうかといったアドバイスをもらったが、地元の認知度が薄いのにも、そういったものを出してしまうと、地元で恥をかかせたり、違和感を覚えさせてしまうのではないかと考えている。

その他

- ・千住では楽しいイベントなどを行っているが、そうした動きが六町、南花畑まで届かない。千住にできることなら六町にもできるように動きたい。
- ・講師と連携して何かをやりたいと考えても、どんな講師をどう呼べばいいかわからない。

足立ほがらかネットワーク

平成 24 年 3 月 6 日 15:30~17:00 於 足立区役所 1 1 階会議室

ヒアリング対象者 足立ほがらかネットワーク 代表 添田善雄氏

出席者 区民の声相談課 川原井 エックス都市研究所 橋爪、麻生

会の設立経緯について

- ・足立区団塊世代地域回帰講座に参加したことがきっかけで、様々な出会いがあった。
- ・できれば、「地域貢献をしたい」、「足立区内で支え合うネットワークを作りたい」という思いから、知り合った仲間と「足立ほがらかネットワーク」を立ち上げた。
- ・設立して3年目を迎え、23年度は、年間1000時間を超える活動が見込まれるに至った。会員は出入りはあるが、少しずつ増えている。
- ・社会福祉協議会や民生委員など様々な組織・団体があるが、それぞれ制約があって、対応できない活動が存在する。ただし、できないからと言って、しないわけにはいかない。そうした「スキマ」を埋めてあげることが目標に活動を行っている。そして、介護・介助など「人を助けている方の手助けになる活動」ができればと心掛けている。

活動内容について

- ・当団体は、安心サポート事業、コミュニケーション事業、ネットワーク形成事業の3本柱で活動している。
- ・たとえば、足立コンシェルジュ養成講座があるが、これは、自分たち自身が地域を知るというコンセプトの下行った事業で、講座やシンポジウム、バスによる視察を行った。
- ・この4月にNPO法人化するつもりである。その記念パーティを行う予定であるが、その際に多くの人に呼びかけて、様々な人の出会いの場を提供するつもりである。
- ・これまでの活動を通じて、「となりの人に助けられたくない」、「遠くの知らない人に少しのお金を払ってもらって助けてもらった方が、気が楽だ」と感じている方が多くいることがわかった。
- ・従って、同じ地域だからとか、同じ職業だからということで縁を結びつけるのは、都市生活者としての足立区民には、もう無理なのではないかと感じている。
- ・同じ課題やミッションをもっている人たちが、同じ目的で結びつくような活動でないとうまくいかないのかもしれない。

抱える課題

- ・会員を増やすために説明会を重ね、「こうした活動を行いたい」という気持ちのある方が大勢いることがわかったが、職業としては成立しがたい事業であり、若い人は生活に忙しくてなかなか活動を担ってもらえないといった状況がある。

地域のちからのあり方について

- ・利益誘導型の行政、補助ありきの行政では何も変わらないと考えている。そんな折、地域のちから推進部というものができるということを聞いて、疑問に感じた。そもそも地域のちからとは、区政自体の課題、区政本来の地方自治力のことではないのだろうか。
- ・職員は地域に居住している方ばかりではないので、施策が実情に即していないと感じる。地域にはさまざまな自治組織のタイプがある。たとえば、集合住宅は、管理組合の設立が法的に規定されているが、平場の住宅地では、町会・自治会が、自分たちの町を守ることを法的に規定されているわけではない。また、足立区

には、密集市街地もあれば、区画整理されたところもあるなど、防災格差が歴然としている。

- ・従って、地域のちからを向上させるために、行政による画一的な施策を行っていきは駄目なのではないかと感じる。多様性に対する柔軟な対応が必要なのではないか。
- ・地域のちからは、住民自身が、自分たちの地域をどれだけ知っているのかが重要であるが、それが十分関心を持ってとらえられていない。まずは、地域の実情を知った上で、行政との連携を模索し、行政力が発揮されるべきである。
- ・安心安全な街をつくっていくという地域住民のニーズをしっかりと結び付けていくことは重要なことである。地域を守る情報は、しっかりと区が責任を持って伝えなければならない。町会を通した広報はその役割を果たしているだろうか。そういう意味で、現行の個人対象の安心ネット情報はありがたい試みだが、受信端末への配慮がほしい。たとえば、地域 FM 放送を開設し、並行して発信してみたら面白いのではないか。

他団体との協働について

- ・団地の自治会から、地デジの工事の際に、うまくいかないで協力してもらいたいという依頼は受けた。ただこの依頼は、国から補助が出て、事業者にやってもらうことになったので、結局は実施しなかった。
- ・高齢者が多い団地では、草刈りなどの負担に耐えられない方から依頼が来たことがある。
- ・専門性の高いサポート依頼については、ふさわしい機関や業者を積極的に紹介している。

町会・自治会について

- ・町会が「担い手がない」などと言っているのは嘘だと思う。町会イコール自治会ではない。町会では責任を負えない事がある。全体を代表しようとするから無理がある。
- ・漫然とした町会は、自治組織とはいえないのではないかと。極端な話、目的ごとに3人寄れば自治会は成立するのではないかと。イベントごとの自治会があっていいと思う。町会・自治会は「こういうもの」と従来のイメージで思い込んでいるところがないか。
- ・今までの町会・自治会は、どれだけ行政からモノを持ってこられるかが重要であったし、力の見せ所であったのかもしれない。そういう発想は、これからの時代は違うと思う。

求める支援策

- ・様々な専門の既存団体があるが、規制が強く、対応できないことも多い。そういった団体同士がもっと有機的に連携できればよいと思っている。そのために、足立ほがらかネットワークはNPOとしてパワーアップしていくので、NPOを地域でどう位置付けるべきなのか、どのような協働が可能なのか、行政として考えてもらえるとありがたい。

調査結果の分析

1. 区民への調査結果の分析

調査からわかったこと・課題・方向性

把握したいこと	わかったこと	課題・方向性（概略）
<p>どのような人とのつながりがあるのか？</p>	<p>「家族と一緒によく食事をしたり、出掛ける」「自分が病気等の時、家族や親戚が世話をしてくれる」といった家族との付き合いが多く、「近所・地域の知人は多い」「相談、日用品の貸借等ができる近所・地域の知人がいる」といった近所・地域に知人が多い傾向にある。（家族縁の重視）</p> <p>ただし、20代男性および70代以上の男女高齢者は、家族との付き合いが薄い。</p> <p>家族や職場・学校のクラスの人などとの会話は、「ほぼ毎日」が多い一方で、近所の人との会話は、「月に1～2回程度」、「年に1回～数回程度」が多く、困った時に近所の人へ支援を求める割合は2割弱にとどまった。</p> <p>ライフステージ別にみると、家族成長小学校期、家族成長中学校期、高齢者（ひとり暮らし以外）で、近所づきあいが比較的多い。独身は、家族とのつきあい、近所とのつきあいがやや希薄である。</p> <p>地域別にみると、保塚・六町や鹿浜地域で、比較的近所との付き合いが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族とのつながりすら希薄な独身層、近所とのつながりが希薄な一人暮らしの高齢者に対して、どのように、人や地域とのつながりを形成していくかが課題。
<p>区民が地域とのつながりをどのように捉えているのか？</p>	<p>暮らしの中で、地域とのつながりの必要性を感じている人は、9割近くもあり、特に、70歳以上の男性は、つながりの必要性を感じている。</p> <p>若年層（20代・30代）でも、地域とのつながりを重視したいと思っている人は多い。ただ、実際、地域とのつながりが持てない状況にある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動のPRなど、地域情報の提供の仕方が課題。 ・20～30代や家族形成期の人が、気軽に参加でき、しかも、同じ境遇・環境・共通項のある人たちが集まれるような仕掛け（地域に入るきっかけ、ひと押し）を図ることが必要。 ・人によっては、地域と一定の距離を置きたいと考えている人もおり、そうした人たちに何かあった時、区や地域では対処することのできない「隙間」を埋めてくれるような存在が必要。
<p>地域活動への参加状況は？</p>	<p>何らかの地域活動が大切だと感じている人（大切な地域活動が特にないと回答した人以外の人）は、9割以上いるが、一方で、地域活動に協力・参加ともにしていない人が半数以上いる。特に、20代～40代の男性及び20～30代の女性は地域活動への参加率が低い。ライフステージ別にみると、独身期、家族形成期の参加率が低い。</p> <p>大切だと感じている地域活動で多く挙げられていたのが、「防火・防犯のための見回り活動」「避難訓練、災害時の避難所設営・運営」「独居高齢者等の見守り活動」である。</p> <p>非参加理由として、仕事などが忙しいほか、PRが足りない、地域活動に関心がないなどの理由が挙げられている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動のPRなど、地域情報の提供の仕方が課題。 ・20～30代や家族形成期の人が、気軽に参加でき、しかも、同じ境遇・環境・共通項のある人たちが集まれるような仕掛け（地域に入るきっかけ、ひと押し）を図ることが必要。 ・人によっては、地域と一定の距離を置きたいと考えている人もおり、そうした人たちに何かあった時、区や地域では対処することのできない「隙間」を埋めてくれるような存在が必要。

地域活動への参加状況は？

子育て世代は、地域で行われている活動（特に子育てに関するイベント）には、関心もあり、参加している。
地域活動に参加している人の中には、「地域活動への参加のきっかけは、声をかけて誘ってもらったこと」といった意見も挙げられていた。
一方で、ある程度コミットメントしないと地域活動には参加しにくいといった意見も挙げられた。

町会・自治会への加入状況は？

町会・自治会への加入率は、64.8%であるが、20～30代、家族形成期の加入率が低い。
地域別にみると、興野・本木地域、舎人地域で、比較的加入率が高い。一方、綾瀬、竹の塚地域では、比較的加入率が低い。
町会・自治会へは加入しているものの、地域活動に参加・協力していない人が4割弱いる。
加入していない理由としては、「町会・自治会が何をしているのか分からない」「忙しくて活動に参加できない」「加入方法が分からない・勧誘されていない」といった理由が多く挙げられた。
そもそも自身が町会・自治会に加入しているかどうかすら知らない人もいる。
町会長など役員への不信感から、町会を退会する人もいる。

孤独死や高齢者の見守りについて、どのような意識を持っているのか？

6割以上の方が孤独死を身近に感じており、特に、都営住宅や区営住宅等に住む方は非常に身近に感じている。
孤独死を身近に感じる理由として、「ご近所との付き合いが少ないから」が最も多く挙げられていた。（一人暮らしの高齢者からは、「ひとり暮らしだから」という理由が最も多かった。）
高齢者の見守りの担い手については、民生委員、町会・自治会、区役所などが担うべきとの声が多かった。
何かあった時のために、区の緊急通報システムに加入しているといった意見があった。（NPOへのヒアリングでは、高齢者は、身近にいる人に世話をかけたくないという意見もあった。）
高齢者はプライドを持って生きていらっしゃる方が多いので、そうした方々を理解した上で、かわりを持てるような人を増やす施策を考えてほしいといった意見も挙げられた。

把握したいこと	わかったこと	課題・方向性（概略）
<p>地域とのつながり・かわりを深めるためには、何が必要か？</p>	<p>暮らしの中で、地域とのつながりの必要性を感じている人は、9割近くもおり、特に、70歳以上の男性は、つながりの必要性を感じている。（再掲） 若年層（20代・30代）でも、地域とのつながりを重視したいと思っている人は多い。ただ、実際、地域とのつながりが持てない状況にある。（再掲）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動のPRなど、地域情報の提供の仕方が課題。 ・20～30代や家族形成期の人が、気軽に参加でき、しかも、同じ境遇・環境・共通項のある人たちが集まれるような仕掛け（地域に入るきっかけ、ひと押し）を図ることが必要。
<p>地域活動へ参加するための条件とは？</p>	<p>「活動について情報が得られること」、「気軽に参加できる活動があること」、「時間や期間にあまり縛られないこと」が、地域活動に参加する条件として挙げられている。特に、20代からは、「活動について情報が得られること」、「友人等といっしょに参加できる」ことが参加条件として挙げられている。 コンクリート造りの賃貸マンション・アパート居住者は、「活動について情報が得られること」、「町会・自治会に加入しなくとも活動できる」ことが他の居住形態に比べると参加条件として挙げられている率が高い。 事務職、専門・技術職、役員に就いている人は、そうでない人に比べ、「活動について情報が得られること」を参加条件として挙げる割合が高い。 ライフステージ別にみると、家族形成期の人は、「活動について情報が得られること」を参加条件として挙げる割合が高い。 経済的な余裕があることも、地域活動やボランティア活動への参加に少なからず影響を与えている。 若い方から、同じ境遇、環境、共通項のある方が参加しているならば参加したいといった意見や、地域活動に興味はあるが、自分からなかなか積極的に参加できないので、半強制的にでも、参加できる仕組みがあると参加しやすいなどの意見があった。 子育て世代の方からは、住区センターの催し物に参加したいと思い、比較的情報収集を行っているといった意見が挙がったほか、区の広報は、休日の当番医の情報が載っていて、よく見るが、そこに催し物の情報も載っており、参考にしているといった意見も挙がった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人によっては、地域と一定の距離を置きたいと考えている人もおり、そうした人たちに何かあった時、区や地域では対処することのできない「隙間」を埋めてくれるような存在が必要。
<p>人と地域とのつながり拠点（＝地域との接点）となり得る場所はどこか？</p>	<p>人と人とのつながり、地域とのつながりの拠点になりうる住区センターや地域学習センターの認知度は高いものの、利用率・利用頻度はさほど高くない。ただし、住区センターを利用することで、友人・知人が増えるなどの効果を感じている人は多い。 普段の生活の中でよく行く場所として、商業施設（近くの店や商店街、コンビニ、スーパー）が多く挙げられているが、ライフステージ別にみると、高齢期の人は、近くの店や商店街へ、独身期の人は、コンビニへ行く頻度が高い。</p>	

把握したいこと

わかったこと

課題・方向性（概略）

人と地域との
つながり拠点
（＝地域との
接点）となり得
る場所はどこ
か？

ヒアリングでは、育児をしている若い女性から、住区センターの催し物などのチラシをみて、できるだけ催し物に参加しているが、住区センターに行かないと分からないので、街の掲示板、マンションの掲示板に情報があると参加しやすいといった意見があった。

また、ヒアリングでは、比較的マンションの掲示板は見ており、その掲示板で紹介されていたイベントで、コミュニティが広がったといった意見や、実際に何かやっているのを目にして、はじめてそんな活動をしているのかと知ったなどの意見もあった。

：アンケート結果からわかったこと

：ヒアリングからわかったこと

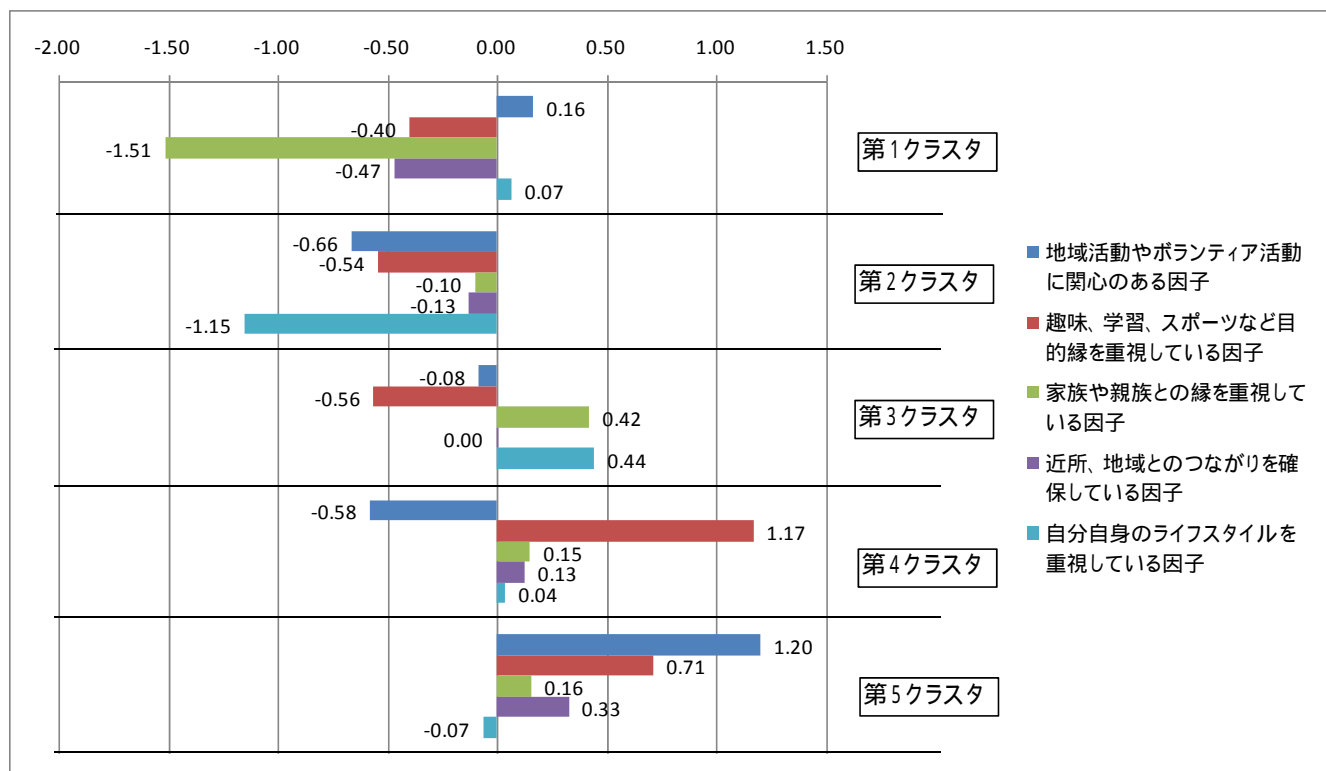
クラスタ分析

- ・孤立せず、地域社会とうまく付き合い、いきいきと暮らしてゆくために必要な社会の仕組みを検討するにあたっては、区民それぞれで、地域社会との付き合い方が異なることを踏まえる必要がある。
- ・そこで、人とのつながり方、地域活動やボランティアへの意識、普段の過ごし方をもとに、区民をいくつかのタイプ（クラスタ）に分類し、各クラスタに響く効果的な施策の方向性を検討する。
- ・そこで、まず、人とのつながり方、地域活動やボランティアへの意識、普段の過ごし方に対する設問から、区民の中に潜在的に共通して存在する因子を抽出するために、因子分析を行う。
- ・因子分析は、測定された複数の変数（ここでは設問）の相関関係に基づいて、直接測定できない潜在因子を見出す手法である。
- ・因子分析の結果、5つの因子を抽出した。

	1	2	3	4	5
問13(5)今後も継続して、あるいはこれから地域活動に参加したい	0.863	0.183	0.073	0.052	0.161
問13(1)地域活動またはボランティア活動に関心がある	0.678	0.156	0.030	0.066	0.143
問13(2)最近1年間で、地域活動に参加したことがある	0.602	0.200	0.074	0.155	0.025
問13(3)よく寄付や募金をする	0.485	0.086	0.104	0.137	0.090
問1(7)趣味、学習、スポーツなどのサークルやイベントによく参加している	0.259	0.862	0.105	0.149	0.044
問1(8)趣味、学習、スポーツなどを通じて知り合った仲間と、そのこと以外のことでも親しくつき合っている	0.243	0.753	0.117	0.257	0.031
問1(6)趣味、学習、スポーツなどを楽しんでいる	0.183	0.689	0.236	0.149	0.164
問1(2)自分が病気やケガのときには、家族や親戚が世話をしてくれる	0.082	0.130	0.803	0.126	0.087
問1(1)家族と一緒によく食事をしたり、出掛けたりしている	0.054	0.111	0.679	0.131	0.247
問1(3)親戚同士で家を訪問し合うことがある	0.142	0.159	0.538	0.321	0.067
問1(4)近所の人や地域の知人との知り合いは多い	0.174	0.231	0.241	0.749	0.011
問1(5)相談、頼みごと、日用品の貸し借りなどができる近所の人や地域の知人がいる	0.185	0.204	0.209	0.723	0.030
問20(1)平日は、忙しく、自由に過ごせる時間はほとんどない	0.129	-0.037	0.137	0.000	0.645
問20(3)休日は、外出することが多い	0.154	0.203	0.131	0.038	0.584

- ・第1因子は、地域活動やボランティア活動に関心のある因子
- ・第2因子は、趣味、学習、スポーツなど目的縁を重視している因子
- ・第3因子は、家族や親族との縁を重視している因子
- ・第4因子は、近所、地域とのつながりを確保している因子
- ・第5因子は、自分自身のライフスタイルを重視している因子

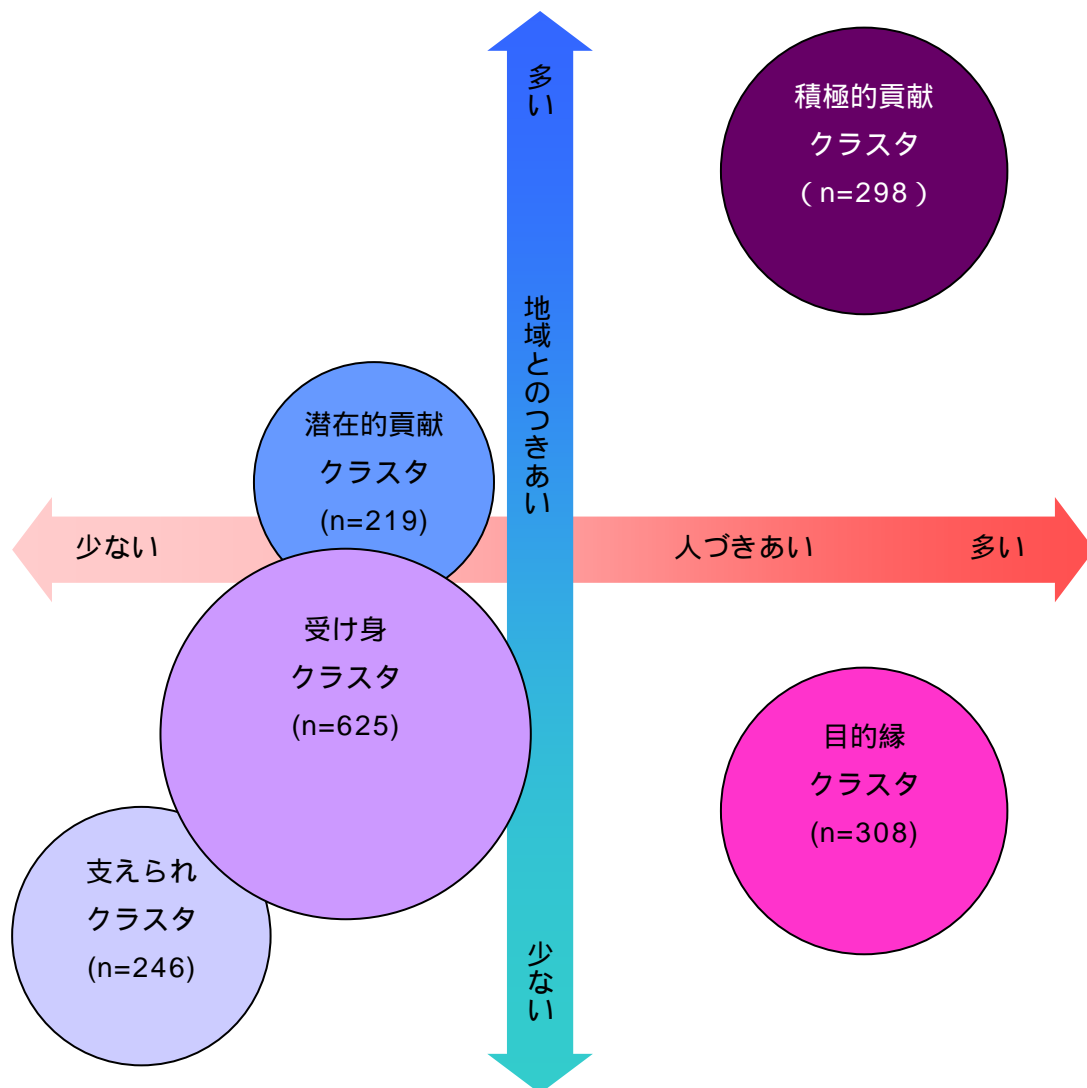
- ・ 5つの因子をもとに、クラスタ分析を実施した。その結果、5つのクラスタを抽出した。
- ・ 5つのクラスタについては、抽出された5つの因子の因子得点の平均点の高低を分析することで、その特徴を把握した。



- ・ 第1クラスタは、地域活動・ボランティア活動に関心のある因子及び自分自身のライフスタイルを重視している因子はプラスだが、それ以外の因子はマイナスであり、特に家族・親族との関わりが薄いクラスタである。
- ・ 第2クラスタは、すべての因子がマイナスである。地域活動やボランティア活動への関心が低いばかりか、目的縁のつながりも希薄で、人づきあいが薄いクラスタである。
- ・ 第3クラスタは、普段、仕事などで忙しくしているが、家族・親族との付き合いを大切にしているクラスタである。
- ・ 第4クラスタは、地域との関係を重視するよりは、趣味や学習、スポーツ活動などを通じて形成される目的縁を重視するクラスタである。
- ・ 第5クラスタは、地域活動やボランティア活動に関心を持ち、近所づきあいも大切にするが、趣味や学習、スポーツ活動にも積極的に参加するクラスタである。

クラスタのポジショニングマップ

・抽出した5つのクラスタを「地域とのつきあいの多さ」と「人づきあいの多さ」を軸にして分類すると、以下のようにポジショニングさせることができる。



第1クラスタ(潜在的貢献クラスタ)

- ・集合住宅(賃貸)に住んでおり、区外で働く人が多く、一人暮らし、独身が多い。
- ・家族・親族、近所の人とのコミュニケーションがやや希薄であり、職場や学校のクラスの人との会話が多く、気の合った人とだけつき合いたい傾向が強い
- ・地域活動やボランティア活動への関心は多少あるものの、実際に協力・参加はあまりしていない。
- ・協力・参加していない理由として、仕事・育児などで忙しいことのほか、他のクラスタと比べ、協力・参加する気持ちはあるが、勧誘されていない、地域のイベントが実施されることを知らないなどの理由が挙げられている。
- ・協力・参加するためには、活動についての情報が得られること、気軽に参加できる活動があること、時間や期間にあまり縛られないことが重要になる。
- ・他のクラスタと比べると、やや町会への加入率が低い。
- ・住区センターや地域学習センターの認知度が低く、利用率もさほど高くない。その理由として、現在利用する必要がない、忙しくて利用できないとの答えが多い。
- ・近くの店や商店街にはあまり行かないが、コンビニやスーパーは良く行くほうである。
- ・自宅で、趣味・スポーツ等の活動を一人で行うことが多い。
- ・インターネットの閲覧も4割強で、そのうち3割弱が区のホームページを閲覧する。
ひとり暮らし・独身で、家族・親族とのコミュニケーションが薄く、近所づきあいも薄いタイプで、地域活動やボランティア活動への関心は多少あるものの、実際には、協力・参加していないタイプ
住区センターや地域学習センターの認知度・利用度も高くなく、自宅で趣味・スポーツ等を一人で行うことが多いタイプ

第2クラス(支えられクラス)

- ・足立区在住年数が20年以上と古くから住んでおり、70代・80代が比較的多く、一戸建て持家または、公団・都営住宅に居住している人が多い。
- ・家族と住んでいる高齢者、高齢者二人夫婦が多く、他のクラスと比べると、家族や親族、近所の人との付き合いがやや希薄である。
- ・趣味や学習、スポーツなどの活動を楽しむ割合は少なく、他の人との会話が少ない。ただし、かかりつけの医師等とは月に1～2回程度会話する機会がある。
- ・大切と思う地域活動は、防火・防犯のための見回り活動や独居高齢者などの見守り活動であるが、特にないと回答も多かった。
- ・体力的につらい、病気がちになったなどの理由から地域活動への参加状況は高くなく、今後、どんな条件がそろうても地域活動には参加しない人が多い。
- ・ただし、比較的町会の加入率は高く、8割近くの人が地域とのつながりを重要と考えている。
- ・住区センターや地域学習センターの利用率はさほど高くない。その理由として、現在利用する必要がない、体力的に通うのがつらくなったとの答えが多い。
- ・病院や福祉施設へ行くことが多い以外、外出頻度は低い。
- ・平日は比較的時間があり、休日にも自由に過ごせる時間はかなりある。
- ・インターネットなどを使うことがあまりない。
古くから足立区に在住している、70代～80代の高齢者で、人とのコミュニケーションがやや少なく、地域活動への参加意欲も低いタイプ

第3クラス(受け身クラス)

- ・20代～30代の層が中心で、一戸建て持家、分譲マンションに住んでおり、家族形成期の人が多い。
- ・家族とのつながり・コミュニケーション及び職場・学校のクラスの人とのコミュニケーションは強いが、近所づきあいがそれほどあるわけではない。
- ・仕事が忙しい、家族とのプライベートの時間を大切にしたいなどの理由で、地域活動への参加状況は高くない。
- ・協力・参加するためには、活動についての情報が得られること、気軽に参加できる活動があること、時間や期間にあまり縛られないことが重要と考えている。
- ・町会・自治会が何をしているのかよく分からない、忙しくて活動に参加できない、加入方法が分からない・勧誘されていないといった理由から、町会への加入率はそれほど高くはないが、9割以上の人々が、地域とのつながりの必要性を感じている。
- ・地域活動やボランティア活動への関心はさほど高くはなく、楽しく気軽に参加できるようなイベントであれば、参加する傾向にある。(地域をよくしたいとか、近所づきあいをよくしたいといった理由ではなく)
- ・住区センターについて、よく認知しており、利用状況はそれほど高くはないが、利用する場合、児童館をよく利用する。その結果、子育てへの安心感が増したとの効果を感じている人が多い。
- ・地域学習センターでは、よく図書室を利用しており、学習・勉強などに役立ったとの効果を感じている人が多い。
- ・他のクラスに比べ、スーパーマーケットを利用する人が多い。
- ・平日は忙しく、自由に過ごせる時間があまりない人が多く、休日になると外出することが多い。
- ・インターネットをよく利用するものの、区のホームページはそれほど閲覧しない。
20代～30代にかけてのファミリー層で、平日は仕事、休日は家族と外出で、地域活動や自分の趣味・学習・スポーツなどに時間をかけることのないタイプ

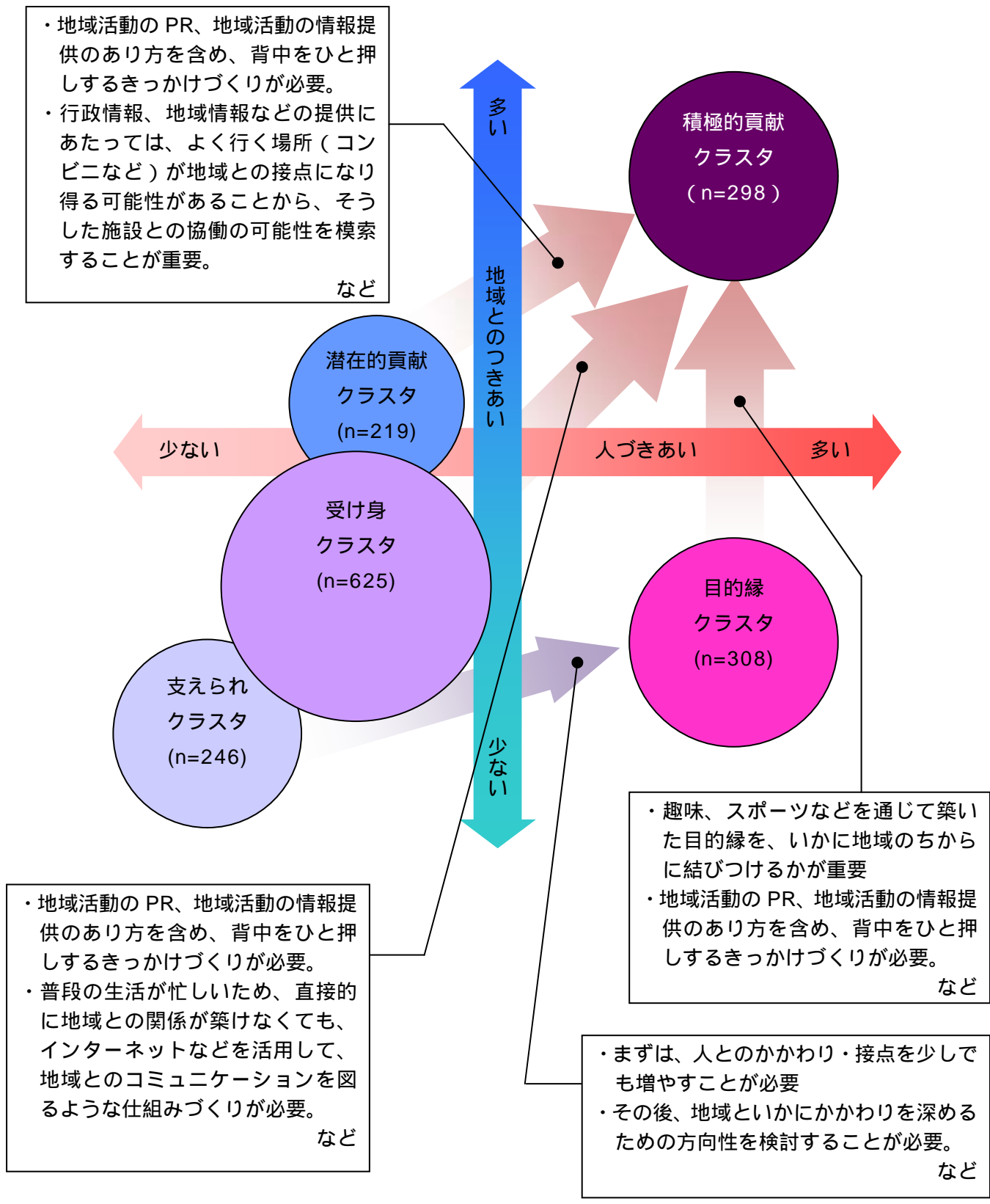
第4クラス(目的縁クラス)

- ・足立区在住年数は比較的長く、一戸建て持家、分譲マンションなどに住んでいる人が多い。
- ・家族・親族との付き合いは比較的あり、近所との付き合いも他のクラスに比べるとあるが、それよりも、趣味、学習、スポーツなどのサークルやイベントによく参加し、そこで知り合った仲間とのつながりが比較的強い。
- ・趣味・学習・スポーツ等で出会った仲間も多く、気の合った仲間との付き合いを重視する傾向にある。
- ・仕事などが忙しい、自分の趣味や家族とのプライベートの時間を大切にしたいなどの理由から、地域活動への参加状況は高くない。
- ・協力・参加するためには、活動についての情報が得られること、気軽に参加できる活動があること、時間や期間にあまり縛られないことが重要と考えている。
- ・町会へは、7割近くが加入しており、非加入理由としては、忙しくて活動に参加できないことを挙げている人が多い。
- ・9割弱の人が、地域とのつながりの必要性を感じている。
- ・地域活動やボランティア活動への関心はそれほど高くはなく、今後もあまり地域活動やボランティア活動に参加したいという意向もない。
- ・住区センターや地域学習センターの認知度及び利用率は、他のクラスに比べるとやや高い。住区センター利用者であれば、集会室をよく利用し、行事や催し物を楽しむだけでなく、友人知人が増えたなどの効果も挙げる人も多い。
- ・他のクラスに比べると、スポーツ施設の利用頻度はやや高く、特に総合スポーツセンターをよく利用している。
- ・普段からよく近くの店や商店街、コンビニエンスストア、スーパーマーケット、運動施設などに行く傾向にある。
- ・平日は比較的忙しく、休日は外出することが多い。
- ・区内の公共施設をよく利用して、施設に集まった人たちと趣味や学習、スポーツ活動などを行っている。
- ・インターネットをよく利用するものの、区のホームページはそれほど閲覧しない。
人づきあいが比較的多く、特に趣味・学習・スポーツなどの目的でつながっている人たちとの付き合いが多いタイプ(ただし、地域活動への関心がそれほど高いわけではない。)

第5クラス(積極的貢献クラス)

- ・60代を中心に、一戸建て持家に多く住んでおり、足立区居住年数も20年以上と長く住んでいる人が多い。
- ・家族成熟期と高齢者夫婦二人暮らしが多いことから、子育てが一段落し、セカンドライフに突入する人たちが多い。
- ・家族や親族との付き合いも多く、近所づきあいも多い。その一方で、趣味や学習、スポーツなどを楽しんでいる人も多く、アクティブな人が多い。
- ・困った時の相談相手も、家族・親族のほか、趣味・学習・スポーツ等と出会った仲間も多い。
- ・地域活動には積極的に参加しており、参加したい活動として、防火・防犯のための見回り活動や、避難所訓練、災害時の避難所の設営・運営などのほか、公園や道路の清掃美化活動、一人暮らしの高齢者などの見守り活動、子供会や地域の青少年の健全育成のための活動など多岐にわたる。
- ・活動への参加条件として、時間や期間にあまりしぼられないこと、活動について情報が得られること、気軽に参加できる活動があることのほか、友人等といっしょに参加できることが他のクラスに比べ高い。
- ・町会への加入率は高い。
- ・近所にひとり暮らしの高齢者がいるなどの理由から、孤独死を身近に感じる割合が多い。
- ・住みよい地域は、顔見知りの人や人づきあいの多い地域であると考える人が多く、98%の人が地域とのつながりが必要だと感じている。
- ・住区センターをよく知っており、また他のクラスに比べ、利用頻度も高い。利用時は集会室をよく利用し、行事や催しを楽しむだけでなく、友人・知人が増えたなどの効果を感じる人が多い。
- ・近くの店や商店街、公園、体育施設などの運動施設、教養や趣味を行うための場所などによく訪れるなど、外出頻度は高い。
- ・平日は忙しく、自由に過ごせる時間はあまりないが、休日は自由に過ごせる時間が多くあり、外出することが多い。自宅や友人宅、区内の公共施設をよく利用して、様々な人と趣味・学習・スポーツなどを行っている。
60代を中心に、子育てが一段落し、セカンドライフを楽しもうとするタイプで、趣味やスポーツなどに積極的に参加するだけでなく、地域活動にも積極的に参加するアクティブシニア
外出頻度も高く、地域のこともよく考えているタイプ

クラスタごとの課題・方向性



- ・地域活動のPR、地域活動の情報提供のあり方を含め、背中をひと押しするきっかけづくりが必要。
- ・行政情報、地域情報などの提供にあたっては、よく行く場所（コンビニなど）が地域との接点になり得る可能性があることから、そうした施設との協働の可能性を模索することが重要。

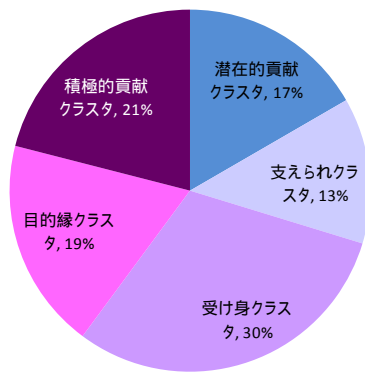
- ・地域活動のPR、地域活動の情報提供のあり方を含め、背中をひと押しするきっかけづくりが必要。
- ・普段の生活が忙しいため、直接的に地域との関係が築けなくても、インターネットなどを活用して、地域とのコミュニケーションを図るような仕組みづくりが必要。

- ・趣味、スポーツなどを通じて築いた目的縁を、いかに地域のちからに結びつけるかが重要
- ・地域活動のPR、地域活動の情報提供のあり方を含め、背中をひと押しするきっかけづくりが必要。

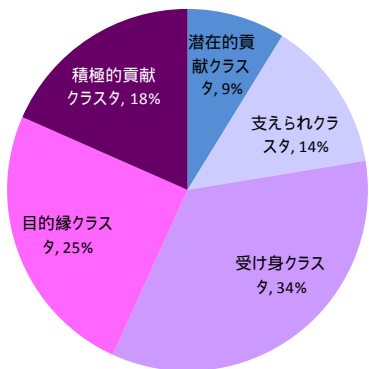
- ・まずは、人とのかかわり・接点を少しでも増やすことが必要
- ・その後、地域といかにかかわりを深めるための方向性を検討することが必要。

<参考> 地域別クラスタ分布

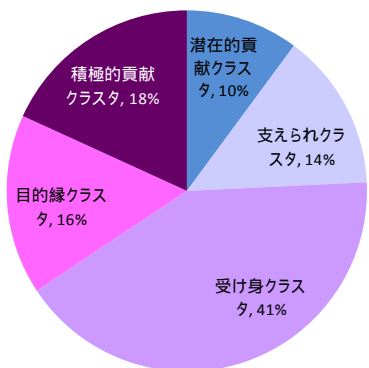
竹の塚地域



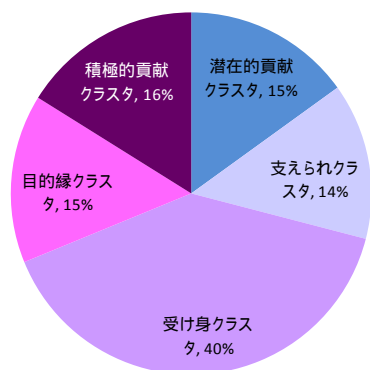
舎人地域



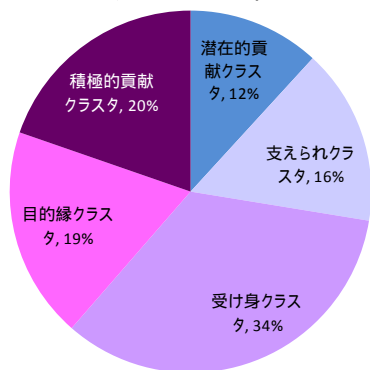
鹿浜地域



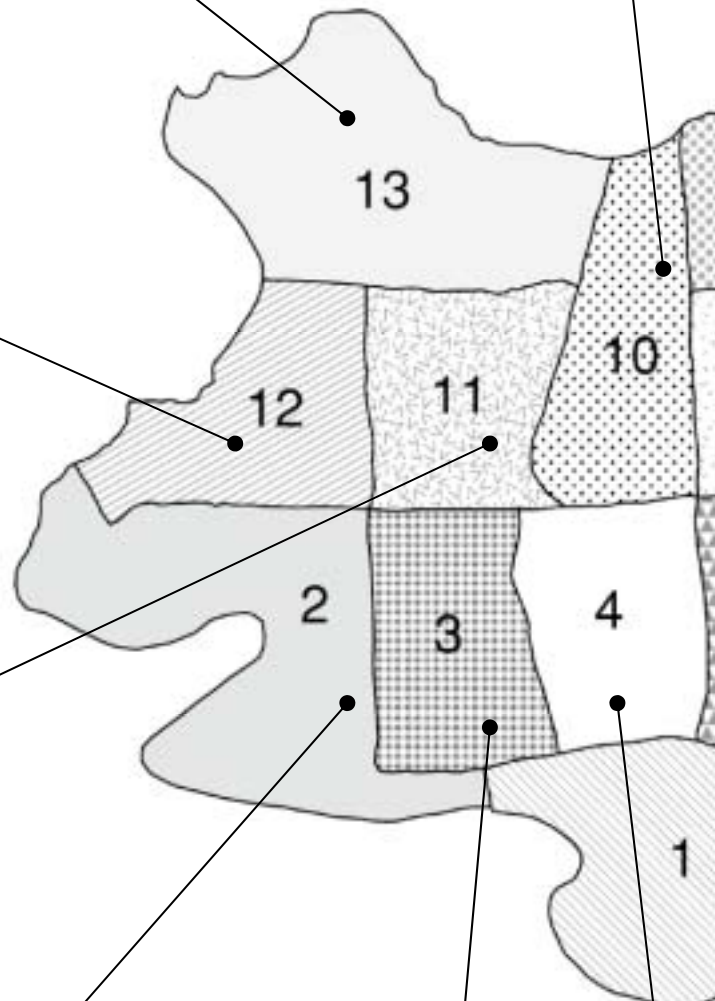
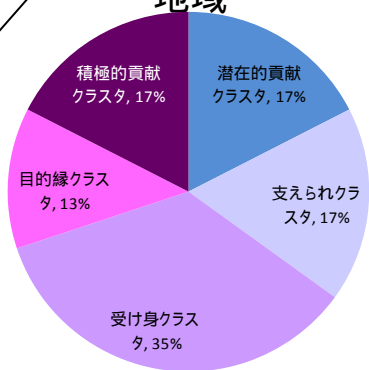
伊興・西新井地域



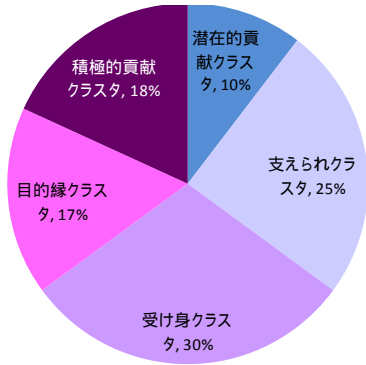
江北地域



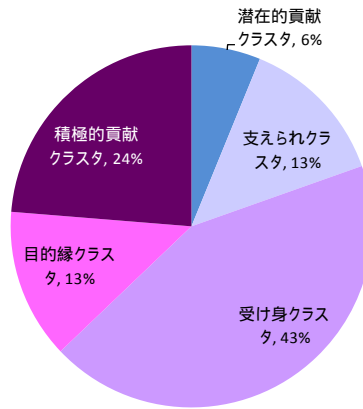
興野・本木地域



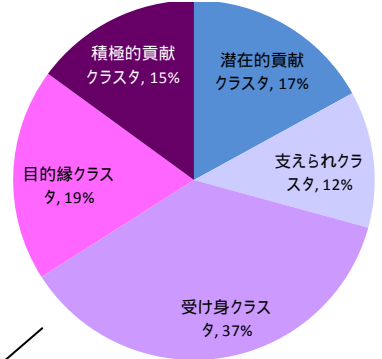
花畑・保木間地域



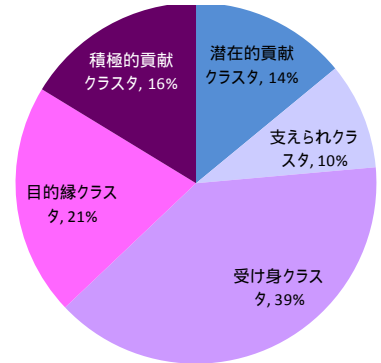
保塚・六町地域



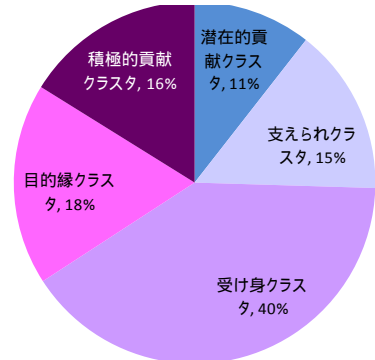
佐野地域



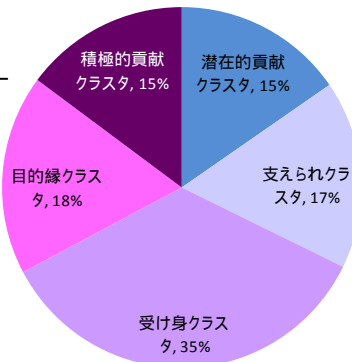
綾瀬地域



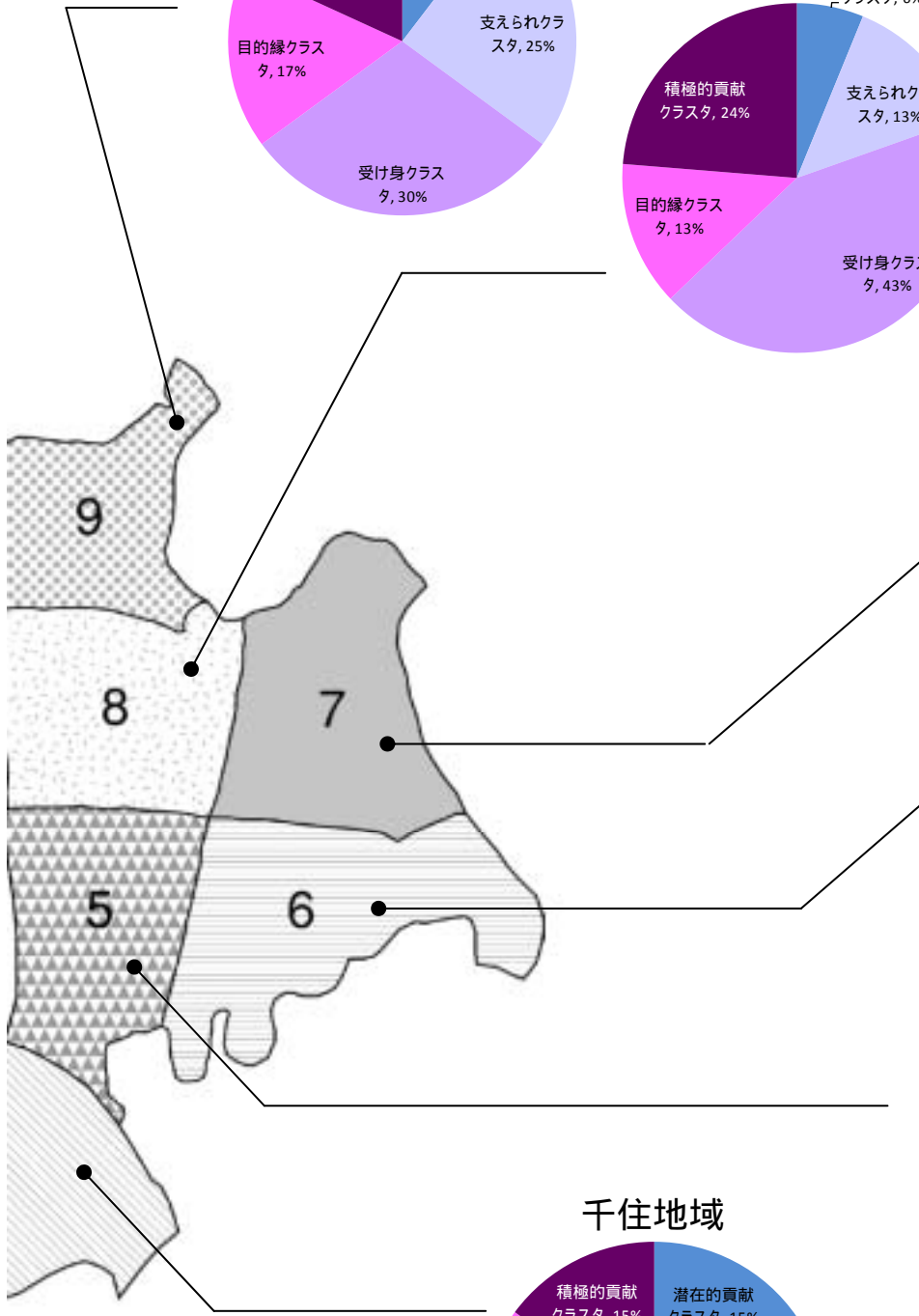
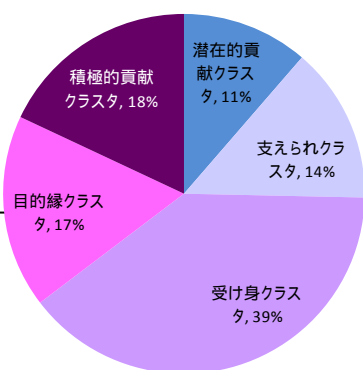
中央本町地域



千住地域



梅田地域



2. 関係団体等への調査結果の分析

(1) 町会・自治会への調査

調査からわかったこと・課題・方向性

把握したいこと	わかったこと	課題・方向性
町会・自治会でどのような課題を抱えているのか？	<p>課題として、役員の高齢化、役員のなり手が少ないまたはいない、地域住民の関心の低下などがあげられる。</p> <p>後任の町会長が決まらない、役員の成り手がいない、会員・非会員との間で加入するメリットに差がなくなってきたなどの声が聞かれた。</p> <p>団地の建て替え問題、墓地の建設計画の問題など、地域で大きな問題・課題が噴出した時に、地域でまとまりができてやすい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員世代交代を円滑に進める仕組みづくり ・ 地域住民の関心を引き付けるイベントなど
町会・自治会の大きさや構成される世帯の特徴に応じて、抱えている課題に違いがあるのか？	<p>大規模な町会で、加入者減少が会の運営上の課題となっている。</p> <p>また、震災時の対応など地域の防災に関することが地域の課題となっている。</p> <p>主な加入世帯が戸建住宅の町会及び戸建集合混在エリアの町会では、加入者の減少が大きな課題となっている。</p> <p>集合住宅では、地域の課題として、独居高齢者などの見守り・支援に関することが挙げられている。</p> <p>特に、都営住宅では、外国人が増えており、生活習慣の違いから、近所トラブルが発生している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町会・自治会の規模、加入している世帯の種類などによって、抱える課題が異なるため、町会・自治会の類型に応じた施策の検討など
町会・自治会でどのような活動に力を入れようとしているのか？	<p>引き続き、または、今後力を入れていきたい活動として最も多かったのは、避難所運営会議であり、自主防災・防災訓練も多かった。</p> <p>高齢者の見守りについての活動に力を入れている町会・自治会が多い。災害時のタオルで安否確認を行う活動や自治会内の高齢者対策部を設置し、高齢者見守りを行うなどの活動を行っている町会・自治会がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独居高齢者等の見守り活動、防災関連の活動に対する支援の強化など ・ 要援護者などの個人情報の提供について
町会・自治会でどんな活動に負担を感じているのか？	<p>負担に感じる活動として最も多く挙げられていたのが、独居高齢者等の見守り活動であり、次いで、避難所運営会議等、住区センター管理運営への参加、ごみ集積所管理、自主防災・防災訓練、地域清掃など。</p>	
特に防災関連の活動に力を入れていきたいと感じている町会・自治会が求めている支援策は何か？	<p>助成金の増額が最も多いが、それ以外に、町会・自治会の役割についての広報、未加入者への呼びかけ、地域リーダー・若手役員の育成支援などの支援策を求める声も多かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時などに、町会・自治会が果たす役割を、未加入者を中心に周知 ・ 災害時に地域を取りまとめることのできる若手リーダーの育成など

: アンケート結果からわかったこと

: ヒアリングからわかったこと

把握したいこと

わかったこと

課題・方向性

特に独居高齢者等の見守り活動に力を入れていきたいと感じている町会・自治会が求めている支援策は何か？

助成金の増額が最も多いが、それ以外に、町会・自治会の役割についての広報、地域リーダー・若手役員の育成支援などの支援策を求める声も多かった。また、独居高齢者等の見守り活動に力を入れていきたいと回答していない町会と比べると、町会・自治会の枠組みを超えた関係団体の協力の仕組みづくりを求める声が強い。

他の団体などと協力して、何らかの活動を実施していくために必要なこととして、他の団体等との協力が負担にならないことを挙げている町会・自治会が多い。

自分たちができる範囲での活動を行っていききたいと考えているため、特に助成金を増額してほしいとは思っていない。

防災倉庫の設置費用、設置場所など、防災に関連する支援を求める町会が多い。

自治会活動について総合的に相談できる窓口が欲しいといった意見や、組織のリーダー育成のための出前講座などを行ってほしいといった意見も見受けられた。

- ・独居高齢者等の見守り活動を、他の団体と連携しながら進めていく仕組みづくり（連携にあたって負担にならないようにする配慮が必要）

あんしんネットワークについての認知度、参加状況、非参加理由、参加条件はどのようなものか？

町会・自治会における認知度（参加している、内容を知っているが参加はしていない）は、半数強にとどまっている。

ただし、独居高齢者等の見守りに力を入れていきたい町会・自治会では、そうでない町会・自治会と比べ、あんしんネットワークの認知度は高い

あんしんネットワークに参加しない理由として最も多かったのは、見守りなどを行う人的余裕がないである。

あんしんネットワークの会合で、もう少し、どんな方が見守りを必要としているのかといった議論をしてもらいたい。

- ・あんしんネットワークがどういったものかのPRを強化（あんしんネットワークが町会・自治会に負担を与えるものということを払拭することが必要）
- ・高齢者や要援護者などの個人情報提供について

地域の団体が他の団体に協力してほしいと思う活動・協力してほしい団体は何か？

震災時の対応など地域の防災に関することや独居高齢者などの見守り・支援に関する事、お祭り・運動会等のイベントの実施に関する事、他の団体の協力を得たいという回答が多かった。

協力を得たい団体として、他の自治会・町会、行政が圧倒的に多く挙げられており、NPOはきわめて低い結果となった。

他町会とイベントで協働するパターンや、近隣のマンション自治会が集まり、地域の課題解決に向けた意見交換会を行うパターンやイベント時にはNPOに協力を求めるようなパターンと様々である。

ただし、基本的には自分たちでできる範囲の活動を行うことを重視している。

- ・町会・自治会が他の団体の協力を得て、地域課題の解決を進めていく仕組みづくり

(2) NPO・任意団体等への調査

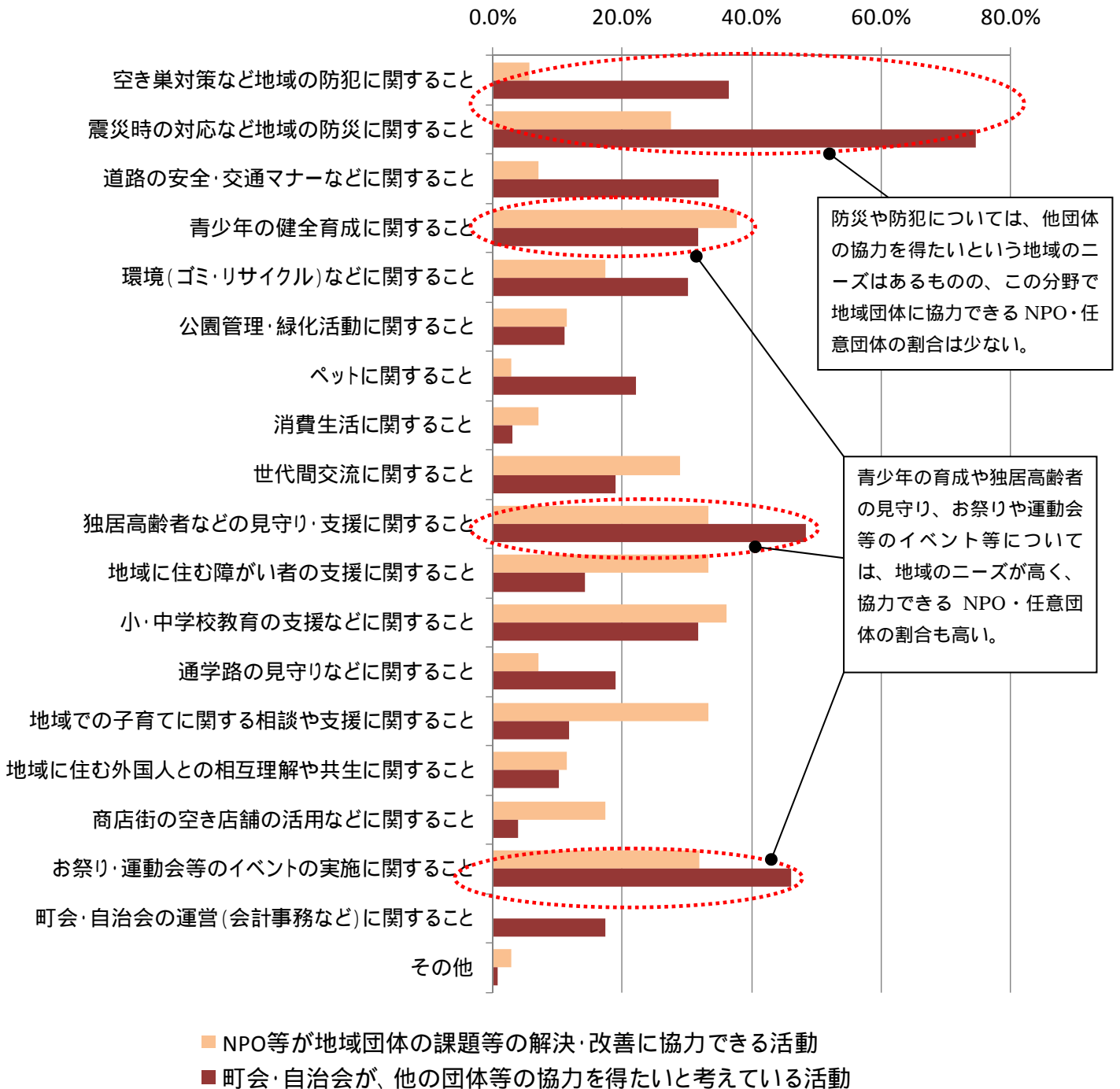
調査からわかったこと・課題・方向性

把握したいこと	わかったこと	課題・方向性
町会・自治会などと協力して何らかの活動を行ってきたのか？	実際に町会・自治会等と協力しあって活動した経験があるのは、34%にとどまっている。町会・自治会等と協力しあって活動したきっかけは、NPO 自ら町会等への働きかけによるものが圧倒的。	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO・任意団体と町会・自治会等のマッチング（NPO・任意団体と地域とが関わるきっかけづくり） ・または、コーディネート機能の強化 ・NPO・任意団体と町会・自治会等とが協力し合って事業を進めていく際の、労力や費用負担、役割の明確化など ・NPO とはどのような組織団体なのかといった、NPO の意義の周知
どんな活動を行ってきたのか？	祭・イベント、青少年育成分野が多い。	
活動を実施した効果はどうだったのか？	知識や技術を活かして地域貢献できた、地域の課題の解決・改善が進んだといった効果を感じている団体が多い一方、事業収入が確保できた、労力や費用負担が軽減できたといった効果を感じている団体は少ない。	
町会・自治会が抱える課題の解決・改善への協力意向があるか？	町会・自治会が抱える課題の解決・改善への協力意向は 75% 近くある。	
どんな活動であれば、協力できるのか？	青少年健全育成関連、小・中学校教育支援関連、地域での子育て相談・支援関連、独居高齢者等見守り・支援関連、イベント実施関連が多い。概ね、町会が協力を得たい分野 NPO が協力できる分野となった。（ただし、防災関連で協力できる団体が少ないといったギャップはある） 次ページ参照	
協力できないのは、どんな理由か？	今行っている活動が重要、協力して活動する人的余裕がない、が多い。	
町会・自治会等と協力していくために必要なことは何か？	町会・自治会団体相互をコーディネートしてくれる存在が必要との回答が多い。既存の団体（社協や民生委員）では制約があってできないことを手助けする存在なので、地域での当団体の位置づけを行政として理解してほしい。地域において、当活動を理解してくれる人を増やしていくことが重要。	

(3)ギャップ分析

～ NPO・任意団体が地域団体の課題等の解決・改善に協力できる活動分野と町会・自治会が、他の団体等の協力を得たいと考えている活動分野との比較

活動の分野・種類によっては、1つのNPO・任意団体が地域団体に協力できる範囲に違いがあるため、単純に比較することはできないが、NPO・任意団体が、地域団体の課題等の解決・改善に協力できる活動分野と町会・自治会が、他の団体等の協力を得たいと考えている活動分野を比較すると、以下の図のとおりとなる。



地域のちからの向上に向けた施策の方向性の提案

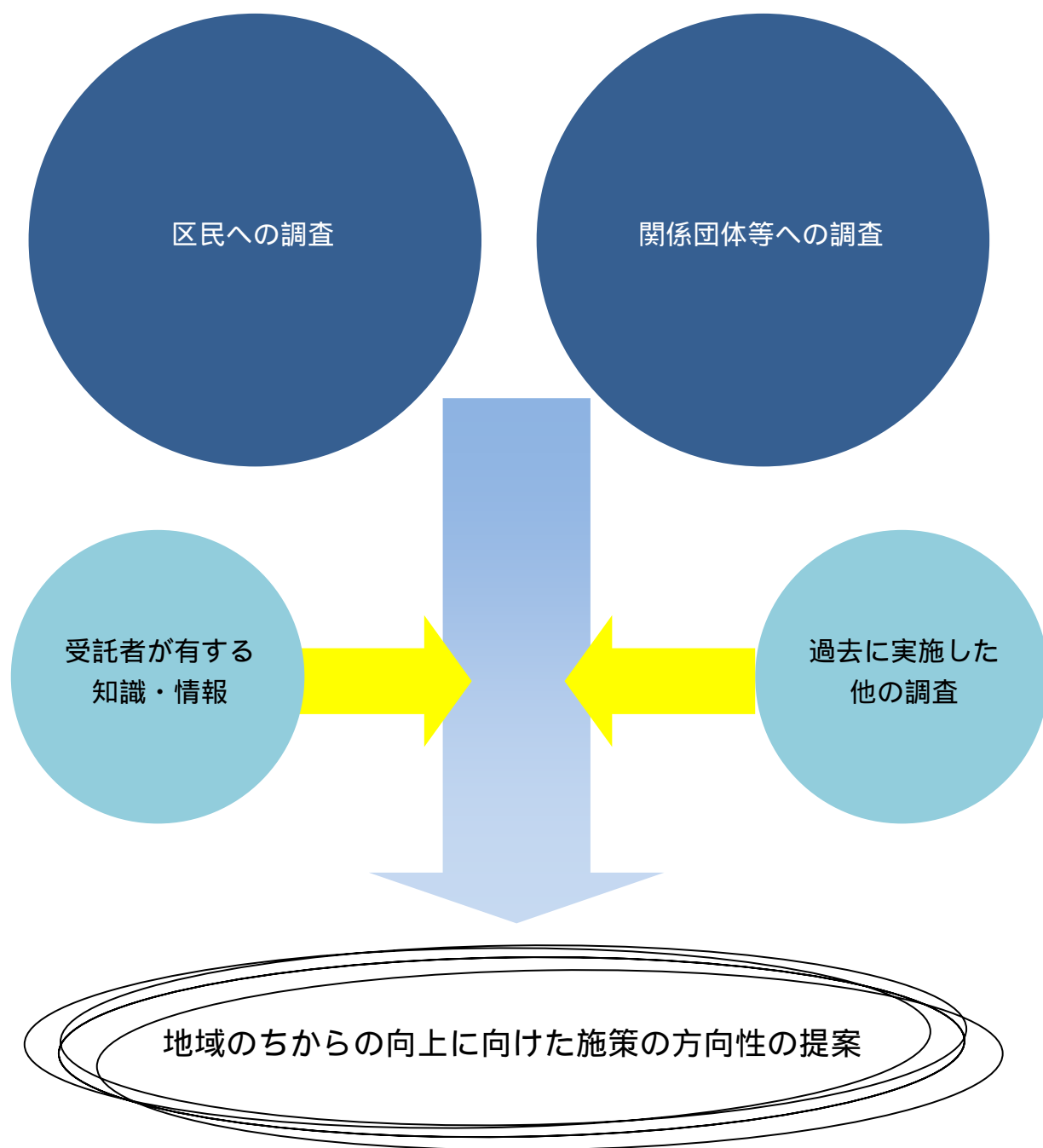
1. 提案の仕方

区民へのアンケート調査、グループ・インタビュー

関係団体等へのアンケート調査、ヒアリング調査

過去に実施した他の調査結果（区政に対する世論調査、若年層区民意識調査）

受託者が有する知識や情報をもとに足立区における地域のちからの向上に向けた施策の方向性を提案



2. 施策方向性の提案

	区民	町会・自治会	NPO・任意団体	関連調査
人や地域のつながりに関わる課題	<ul style="list-style-type: none"> 家族とのつながりすら希薄な独身層、近所とのつながりが希薄な一人暮らしの高齢者に対して、どのように、人や地域とのつながりを形成していくかが課題など 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時などに、町会・自治会が果たす役割を、未加入者を中心に周知 地域住民の関心を引き付けるイベントなど 	<ul style="list-style-type: none"> NPO とはどのような組織団体なのかといった、NPO の意義の周知など 	<ul style="list-style-type: none"> < 区政に対する世論調査 > ・77%の区民が定住意向をもっている。 ・足立区に愛着を持っている人は、65%いるが、誇りを持っている人、足立区を人に勧めたい人は、3割弱にとどまる。 ・町会活動への参加状況は、3割弱、NPO やボランティア活動への参加は4%にとどまる。 ・地域活動への参加意向も低い。 ・ビューティフル・ウィンドウズ運動を行い、5割弱の人がゴミやたばこのポイ捨てが減っているなどの効果を示している。 ・区が指定した避難場所がどこにあるのを知っている人は、54%
地域活動に関わる課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動の PR など、地域情報の提供の仕方が課題。 特に大切だと思う活動は、防火・防犯の見回り活動、避難訓練・災害時避難所運営、独居高齢者などの見守り活動 	<ul style="list-style-type: none"> 独居高齢者等の見守り活動、防災関連の活動に対する支援の強化など 要援護者などの個人情報の提供についてなど 	<ul style="list-style-type: none"> 町会・自治会への協力はイベント関連、青少年健全育成関連などがあるが少ないなど 	
活動促進に関わる課題	<ul style="list-style-type: none"> 協力・参加したい活動は、避難訓練・災害時避難所運営、防火・防犯の見回り活動、公園や道路の維持管理、独居高齢者などの見守り活動など 	<ul style="list-style-type: none"> 町会・自治会の規模、加入している世帯の種類などによって、抱える課題が異なるため、町会・自治会の類型に応じた施策の検討など 	<ul style="list-style-type: none"> NPO・任意団体と町会・自治会等とが協力し合って事業を進めていく際の、労力や費用負担、役割の明確化など 	
高齢者見守りに関わる課題	<ul style="list-style-type: none"> 最も身近に感じる課題、家族や親せきと離れて住む単身高齢者への対応が急務 孤独死を感じる理由はご近所との付き合いが少ないから 	<ul style="list-style-type: none"> 独居高齢者等の見守り活動を他の団体と連携しながら進める仕組みづくり(連携にあたって負担にならないようにする配慮が必要) 	<ul style="list-style-type: none"> 独居高齢者などの見守り活動の支援ができる組織は存在するが数は少ないなど 	
地域活動への参加や連携に関わる課題	<ul style="list-style-type: none"> 20～30代や家族形成期の人々が、気軽に参加でき、しかも、同じ境遇・環境・共通項のある人たちが集まれるような仕掛け(地域に入るきっかけ、ひと押し、半強制的など)を図ることが必要など 	<ul style="list-style-type: none"> 町会・自治会が他の団体の協力を得て地域課題の解決を進めていく仕組みづくり 役員世代交代を円滑に進める仕組みづくり 災害時に地域を取りまとめることのできる若手リーダーの育成など 	<ul style="list-style-type: none"> 町会・自治会からの依頼に協力できるNPO・任意団体は多く存在(75%)など 	
その他の地域のちから向上に関わる課題	<ul style="list-style-type: none"> クラスタの特性を踏まえた施策の検討が必要 人によっては、地域と一定の距離を置きたいと考えている人もおり、そうした人たちに何かあった時、区や地域では対処することのできない「隙間」を埋めてくれるような存在が必要など 	<ul style="list-style-type: none"> あんしんネットワークがどういったものかのPRを強化(あんしんネットワークが町会・自治会に負担を与えるものということが必要) 高齢者や要援護者などの個人情報の提供についてなど 	<ul style="list-style-type: none"> NPO・任意団体と町会・自治会等のマッチング(NPO・任意団体と地域と関わるきっかけづくり) または、コーディネート機能の強化を要望など 	<ul style="list-style-type: none"> < 若年層区民意識調査 > ・区のイメージ向上、子育て環境の充実、若者同士で集まれるような場所の整備が望まれている。

身近な地域情報発信の充実

- ・今回の調査では、地域活動の情報が入りづらい、活動のメリットが見えないなどという意見が多かったことから、自分が居住する地域の町会・自治会活動を、目に見える形でピンポイントに情報を提供し、未加入者や受け身の会員を中心に積極的にPRすることが考えられる。
- ・また、住区センターや地域学習センターなどの公共施設のイベント情報などが得られにくいとの指摘もあり、施設ごとではなく、利用者の立場に立った活動ベースで情報を提供していくことが考えられる。
(例：掲示板の活用・充実支援、よく立ち寄るコンビニとの連携、SNSの活用支援、統合型公共施設イベント情報冊子の作成・配布、統合型公共施設活動情報システムの構築など)

マッチングやコーディネート施策の充実

- ・今回の調査では、活動別に、支援を求める町会・自治会と支援をしたいNPO・任意団体の存在が明らかになり、マッチングの基礎情報が得られ、そのコーディネート機能の強化への要望も高いことから、今後はマッチングの実現に向けた施策の充実を図ることが考えられる。
- ・また、町会・自治会向けに、近くで協力が得られやすい地域ごとのNPO・任意団体の情報をPRし、身近な地域においてお互いに声を掛けやすくすることが考えられる。
(例：地域別NPO・任意団体PRサイト開設、地域連携協働の実績づくりとその効果のPR、サイト上の相談窓口の開設、行政窓口の充実など)

町会・自治会の地域としての連携施策の充実

- ・今回の調査では、集合住宅の自治会と平場の町会における活動のあり方が異なることが明らかになり、マンションの自治会は近隣のマンションの自治会と連携する協議組織を設立し、マンション固有の悩みや課題に対応していることなどから、地域特性を考慮した組織連携への支援を図ることが考えられる。
- ・また、地域のちからを結集して取り組むべき課題については、平場の町会や集合住宅の自治会の連携も必要であることから、地域としての組織活動への支援の充実も考えられる。
(例：地域が連携して取り組む活動への支援など)

高齢者見守りの支援施策の充実

- ・今回の調査では、高齢者見守りに関わる活動について、区民及び地域組織がともに強化を求めていることがわかった。先進的な取り組みなどから、元気であることの意志表示(リボンやタオル等)、ご近所に頼りたくない人へのNPOによる隙間を埋める見守り活動など、地域組織の枠内でできる新しい活動がみられる。
(例：モデル的な地域創意工夫見守り活動への支援、外に出たくなる楽しいモデル的な活動や会への支援など)

防災関連活動の支援施策の充実

- ・今回の調査では、防災関連活動について、区民及び地域組織がともに強化を求めていることがわかった。先進的な取り組みなどから、複数のマンション自治会が連携した防災活動、中学生が助ける側に回った避難・防災訓練など、地域組織の枠内で工夫している活動がみられる。
(例：地域協働や広域連携での防災訓練への支援など)

担い手育成の支援施策の充実

- ・今回の調査では、若い世代の参加やリーダーとしての育成が急務であることがわかった。先進的な取り組みなどから、若い人が参加しやすい活動の間口を広げる、特定の活動のみの協力員制度、子供たちの活動を中心に若い世代が自由に活動できる部会方式など、地域ごとに工夫している例がみられる。
(例：将来の担い手(子ども地域活動リーダー)育成活動への支援、ジュニアリーダーやそのOB・OGの活動参加支援、楽しく地域参加を学ぶ子供会活動への支援、地域と学生の連携活動への支援など)

積極的に地域貢献する区民を増やす施策の充実

- <潜在的貢献クラスター 積極的貢献クラスター>
- ・このクラスターは独身・単身者が多く、ボランティアなどの意欲はあるが個々の事情により地域貢献が難しい。友人やご近所からの声掛け、忙しい中で参加できる地域活動の情報提供など、単身でも何かのきっかけがあれば地域参加が期待される。(例：地域デビューのための情報提供や心構えを学ぶことへの支援等)
- <支えられクラスター 目的縁クラスター、積極的貢献クラスター>
- ・このクラスターは地域貢献が難しい。しかし、趣味や地域のために、できる範囲で少しでも人とつながれば、日々の暮らしの潤いや生きがいにも寄与するかもしれない。また、よく行く病院や福祉施設等との連携などもポイントであると考えられる。(例：病院・福祉施設(介護等)連携活動への支援等)
- <受け身クラスター 積極的貢献クラスター>
- ・このクラスターは現役世代で忙しく、地域貢献性がやや弱い。特に若い世代のワークライフバランスを踏まえ、一定期間の特定の活動のみへの参加や必要最小限の活動への参加などの配慮が考えられる。(公平性の観点もあるので地域ごとに地域に合った軽減を話し合うことが必要等)
- <目的縁クラスター 積極的貢献クラスター>
- ・このクラスターは人とつながりをもち活動家であるが、地域貢献性がやや弱い。目的縁で活動する地域での活動には仲間と一緒に参加する可能性がある。(例：文化・スポーツクラブ等地域貢献活動への支援等)

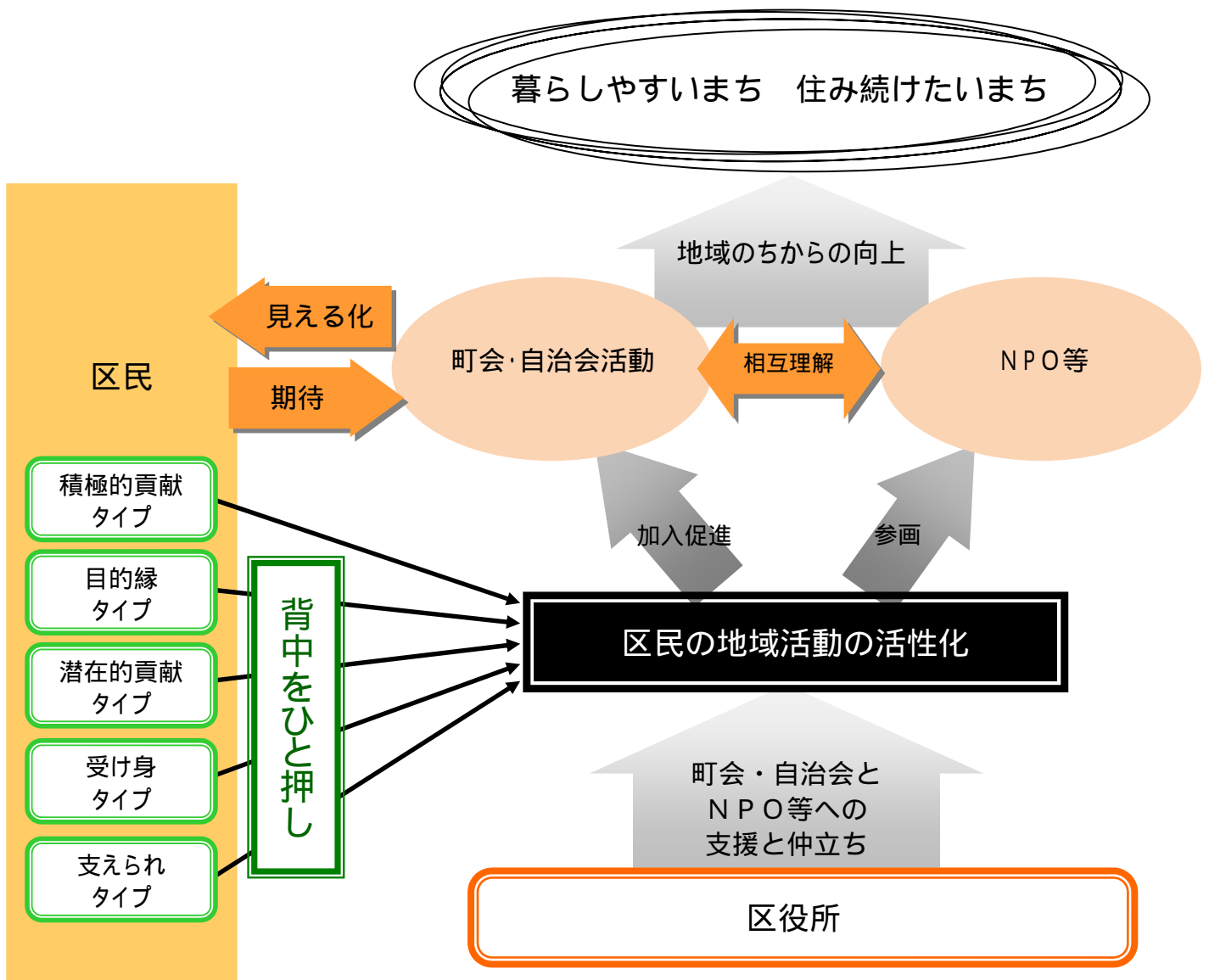
3.まとめ

調査の結果から、地域のちからの向上に向けて、区民は、「共助」や「地縁」の重要性を感じていることが明らかになるとともに、地域活動としては、「防災」と「高齢者見守り」の強化が求められていることがわかった。その意味で、区民は、町会・自治会に「期待」するところがあると思われる。

しかしその一方で、区民の地域活動への参加状況や意欲、地域組織間の連携状況などから、区民、町会・自治会、NPO・任意団体、行政のそれぞれに、「互いに距離感がある」ことが見えてきた。

これらの調査結果を踏まえ、前ページに提案された「地域のちからの向上に向けた施策」の実施を検討していくとともに、特に町会・自治会は、区民の期待に応えるべく自身の活動をしっかりとアピール（活動の見える化）を推し進めていく必要がある。その結果、町会・自治会への参加者が増え、活動の充実が期待される。また、地域には、NPOや任意団体等の組織が存在しており、町会・自治会と相互理解の下、地域活動を展開していくことで、より強固な地域のちからが形成されていくことが期待される。

区としては、町会・自治会が区民に対して行う活動（活動の見える化を含む）を支援するとともに、町会・自治会とNPO・任意団体等との相互理解の仲立ちを行うことで、地域のちからの向上を支えていくことが望まれる。



地域のちからの向上に向けた
区民の意識調査及び関係団体等に関する調査

平成24年6月

発行 足立区政策経営部
広報室区政情報課
足立区中央本町1-17-1
電話 03-3880-5830(直通)

実施 株式会社エックス都市研究所
豊島区高田2-17-22 目白中野ビル6階
電話 03-5956-7503(代表)
